宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書

── 第2分冊 ──

1996

東大阪市教育委員会
財団法人 東大阪市文化財協会

例　言

1. 本書は、財団法人東大阪市文化財協会が東大阪市建設局都市整備部と布施駅北口第一地区市街地再開発組合の委託を受け1992・1993年度に実施した、布施駅北口第一地区市街地再開発事業に伴う宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書の分冊2である。本書では層序、古環境、石器、骨角器、動物遺体、大型植物遺体、人骨について掲載した。
2. 現地調査は、1992年7月6日から1993年6月4日まで実施し、調査終了後から1995年9月30日まで整理作業を行った。
3. 1995年9月30日現在の事務局体制は以下のとおりである。

   理事長　　清水行雄（東大阪市長）
   常務理事　西脇　實
   事務局長　杉山浩三
   庶務部長　杉山浩三
   調査部長　芋本隆裕（東大阪市教育委員会文化財課主査）
   庶務副部長　才原金弘（東大阪市教育委員会文化財課主任）
   調査副部長　松田順一郎　中西克宏
   調査部　　上野節子
   庶務部　　朝田直美　大林　亨　村田周亮

4. 現地調査は下村晴文（東大阪市教育委員会文化財課主査）・芋本・木建正宏・別所秀高が担当した。
5. 本書の編集は別所が担当した。
6. 出土人骨については多賀谷　昭氏（長野県看護大学）から、磨製石器の岩石種および産地については奥田　尚氏（八尾市立曙川小学校）から、玉稿を賜わった。打製石器の分類・本文原稿作成は松田が担当した。遺跡の古環境については那須孝悌氏（大阪市立自然史博物館）・趙　哲済氏（財団法人大阪市文化財協会）に、植物遺体同定については那須氏に、動物遺体同定については故梶山彦太郎氏・樽野博幸氏（大阪市立自然史博物館）・松井　章氏（奈良国立文化財研究所）・安部みき子氏（大阪市立大学医学部）・宮崎泰史氏（大阪府立弥生文化博物館）・久保和士氏（財団法人大阪市文化財協会）の諸氏から御教示を賜わった。

   貝塚部分の柱状図作成は松田が、サンプリングについては松田・中切孝彦氏（株式会社毎日綜合広告）・別所が行った。これらの土壌サンプルの分析はパリノサーヴェイ株式会社に委託し、同社辻本裕也・伊藤良永・馬場健司氏から玉稿を賜わった。
7. 調査および本書にかかわる整理作業に従事した補助員は以下のとおりである。（五十音順）

   荒川晶子　井池由佳　一色幸子　大川美由紀　大西真由美　太田江利子　太田圭子　太田貴子　奥田直美　金本英二　河村　博　倉橋繁夫　小汐伸征　駒沢　忍　島田知乃　白沢千秋　高良　浩　武知千恵子　谷山亜紀子　田村真理　田村留津子　西川　潤　橋本多万美　馬場

雅美　堀田博隆　槇本義憲　桝屋有香　美並慶久　宮澤晴彦　宮本美好　森田雅枝　柳瀬久美子　渡部千洋　渡部まゆ子

8. 本調査で用いた標高は、東京湾平均海面(Tokyo Peil)を基準にした。
9. 調査における土色は農林水産省農林水産技術事務所監修・財団法人日本色彩研究所色 票監修「新版標準土色帖」を参照した。
10. 本書に掲載した出土遺物（石器・骨角器・動物遺体）のデータベースついては、今後、外部からの検索ができるよう努力したい。必要な場合は担当者までお問い合わせください。
11. 下記の方々ならびに東大阪市教育委員会文化財課・財団法人東大阪市文化財協会の各諸氏から多大な御教示を頂いた。記して感謝いたします。（五十音順，敬称略）

青木勘時（天理市教育委員会）　阿部博志（東北歴史資料館）　石野博信（徳島文理大学）　泉　拓良（奈良大学）　伊藤禎樹（名古屋歴史研究会）　江口誠一（大阪市立大学大学院）　遠藤七都子（岡山県古代吉備文化財センター）　金原正明（天理大学付属天理参考館）　岸崎浩実（国学院大学大学院）　塩見真康（山陽町教育委員会）　設楽博己（国立歴史民俗博物館）　高橋順之（伊吹町教育委員会）　巽　淳一郎（奈良国立文化財研究所）　田中充徳（吹田市教育委員会）　中村友博（山口大学）　西谷　大（国立歴史民俗博物館）　野島　稔（四條畷市教育委員会）　深沢芳樹（奈良国立文化財研究所）　福岡澄男（財団法人大阪府埋蔵文化財調査研究センター）　柳本照男（豊中市教育委員会）　家根祥多（立命館大学）　山内利秋（国学院大学大学院）　山田晃弘（東北歴史資料館）　山田哲也（財団法人元興寺文化財研究所）　山本典幸（国学院大学大学院）

fig. 1　宮ノ下遺跡第１次調査の調査風景。貝塚の調査では、市教育委員会文化財課の指導により検出したすべての貝を土のう袋に詰めて持ち帰った。現在市立縄手中学校内の文化財課専用倉庫で保管（？）している。

本文目次

I　調査経過（別所）……1

II　宮ノ下遺跡の立地環境と歴史的背景（別所）……3

III－1　層序および遺跡形成過程（別所）……7

－2　古環境（辻本・伊藤・馬場）……27

IV－1　打製石器（松田）……57

－2　磨性石器・礫器（別所）……123

－3　宮ノ下遺跡出土石器の石種とその採取地（奥田）……125

V　骨角器（別所）……151

VI　動物遺体（別所）……157

VII　大型植物遺体（別所）……339

VIII　宮ノ下遺跡出土の弥生人骨（多賀谷）……345

fig. 2　貝塚の平面分布（南より撮影）。開析谷の西岸から谷に生活残滓が投棄され、貝塚が形成された。縄文時代晩期末～弥生時代中期初頭。

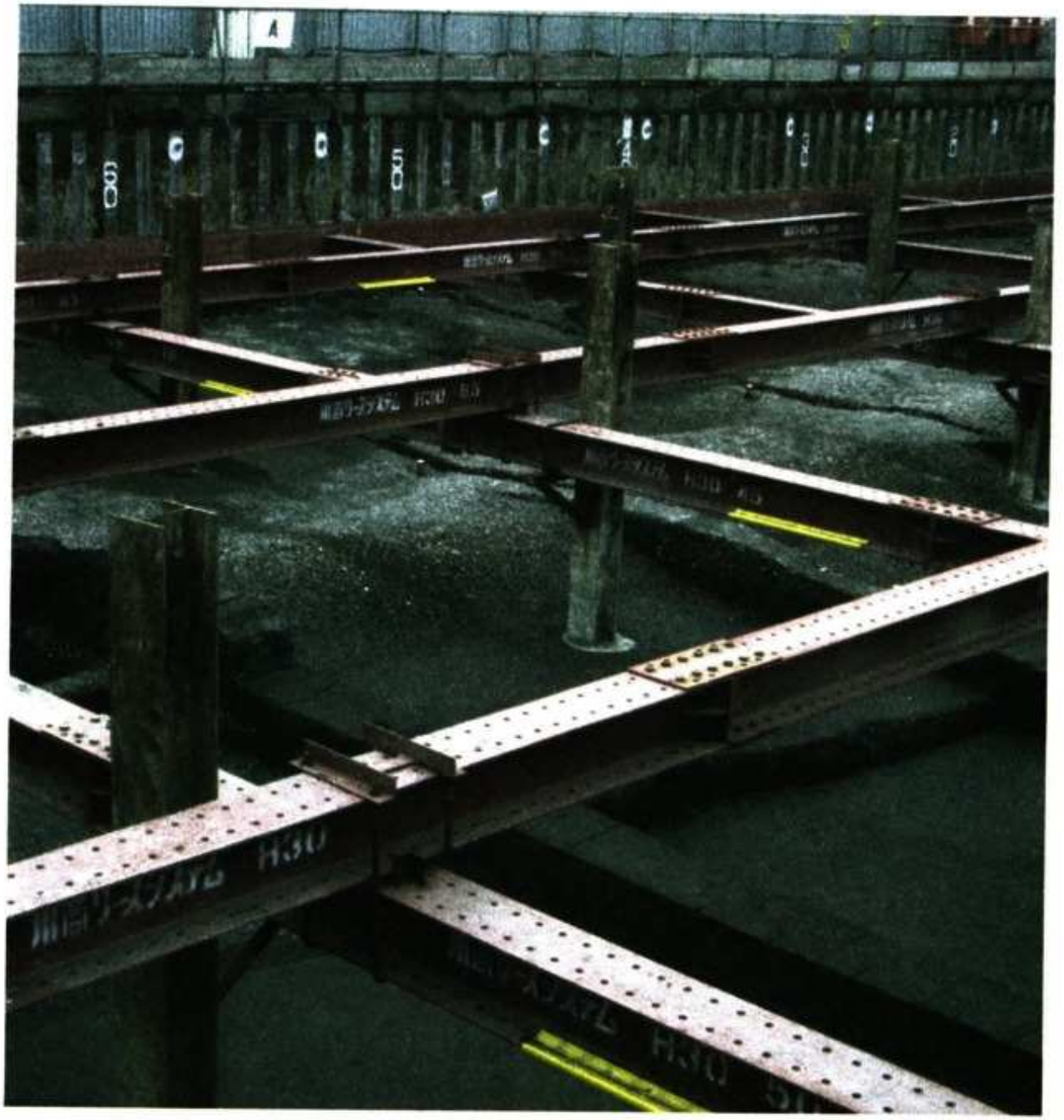


fig. 3　貝塚の平面分布（南東より撮影）。貝層が開析谷の西側谷壁斜面に広がっている様子がよくわかる。

fig. 4　貝塚の垂直断面（Jライン沿い）。貝層はマトリクスの違いから6枚の単層（S1～6）に区分できる。

fig. 5　開析谷の西側谷壁斜面と垂直断面（調査区南西隅付近）。貝塚から外れた開析谷内は泥質の堆積物で埋積されている。

I. 調査経過

東大阪市は河内平野の中央部に位置し、西は大阪市に、東は奈良県と隣接し、これらの地域を結ぶ交通の要所となっている。高度経済成長期以降、多くの道路・鉄道・ビル・工場・住宅が建設され、著しく変貌した。しかしながら、これらの開発に取り残された地区があり、近鉄布施駅北側一帯・若江岩田駅周辺・瓢箪山駅周辺などがそれにあたる。今回発掘調査を行った布施駅北口第一地区の再開発計画は、都市の充実をはかるため1972年以来準備が進められてきた。

fig. 6　着手直後の宮ノ下遺跡第1次調査区

1991年には工事計画が本格化し、東大阪市教育委員会が再開発予定地内で試掘調査を行ったところ、縄文時代晩期から弥生時代中期にかけて形成された貝塚が見つかり、関係機関との協議の結果、ビル建設工事と同時進行で発掘調査を行うことになった。この遺跡は周知の遺跡範囲外にあったため、当地の字名を冠して「宮ノ下遺跡」と命名された。

発掘調査対象は約7,000m²におよび、このうち貝塚が見つかったA地区とB-1地区は露天で調査を行い、他の調査区についてはビル本体の1階スラブ（床）部分の工事が終了したのち地下で発掘調査をおこなった（fig. 6・7）。これらの地区割りは本体工事の進捗に合わせて任意で設定したものである。遺物の取り上げや垂直断面図・平面図については、国土座標に基づく区割りを用いた。

この区割り方法は、まず宮ノ下遺跡を完全に覆い、かつX・Y軸ともに整数の座標値をもつ四点を囲んだ1km四方のメッシュ（長栄寺1丁目X=－148.000, Y=－39.000から大阪市生野区小路東3丁目X=－149.000, Y=－40.000）を抽出

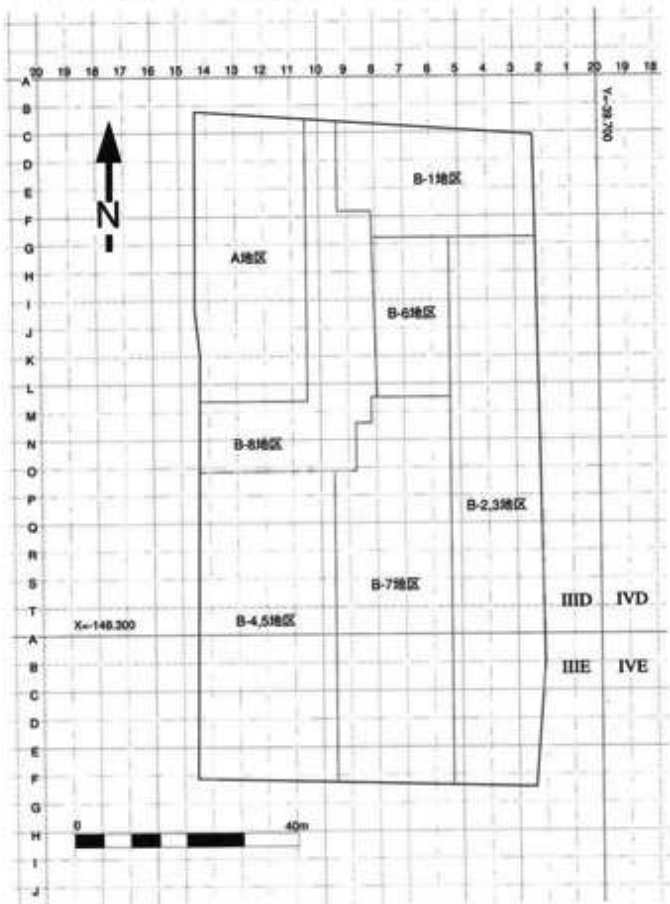


fig. 7　宮ノ下遺跡第1次調査地区割り

し、このメッシュ内の100m方角を大区画とし、さらに5m方角を小区画とした。大区画の南北ライン西から東へ向かってI（Y=－39.900），II（Y=－39.800）……X（Y=－39.000）、東西ラインは北から南へ向かってA（X=－148.000），B（X=－148.100）……J（X=－148.900）というようにそれぞれローマ数字の大文字とアルファベットの大文字を割り当て、100mメッシュの交点はそれぞれのライン名称の組み合わせによってその交点のより北西の100m区画の名称とした（fig. 8）。また、小区画の南北ラインは東から西へ向かって1，2，3……20、東西ラインは北から南へ向かってA，B，C……Tというように、アラビア数字とアルファベットの小文字を割り当てた。5m区画の名称は、大区画の場合と同様である（fig. 7）。

ところが調査終了後この区割り方法を検討すると、大区画の南北ラインの名称は起点であるX=－148.000，Y=－40.000の点から始まるのではなく、100m東のX=－148.000，Y=－39.900の点から東へ数字が昇順することがわかった。いっぽう、小区画の南北ラインの場合は100m区画の最も東の南北ラインを起点にして西へ向かっての昇順する。このような規則性に乏しい区割り方法は後の調査で混乱を起たすと考えられるため、今後宮ノ下遺跡やその近隣で大規模な調査が行われる場合は更めて区割り設定されることを促くしておく。

（別所秀高）

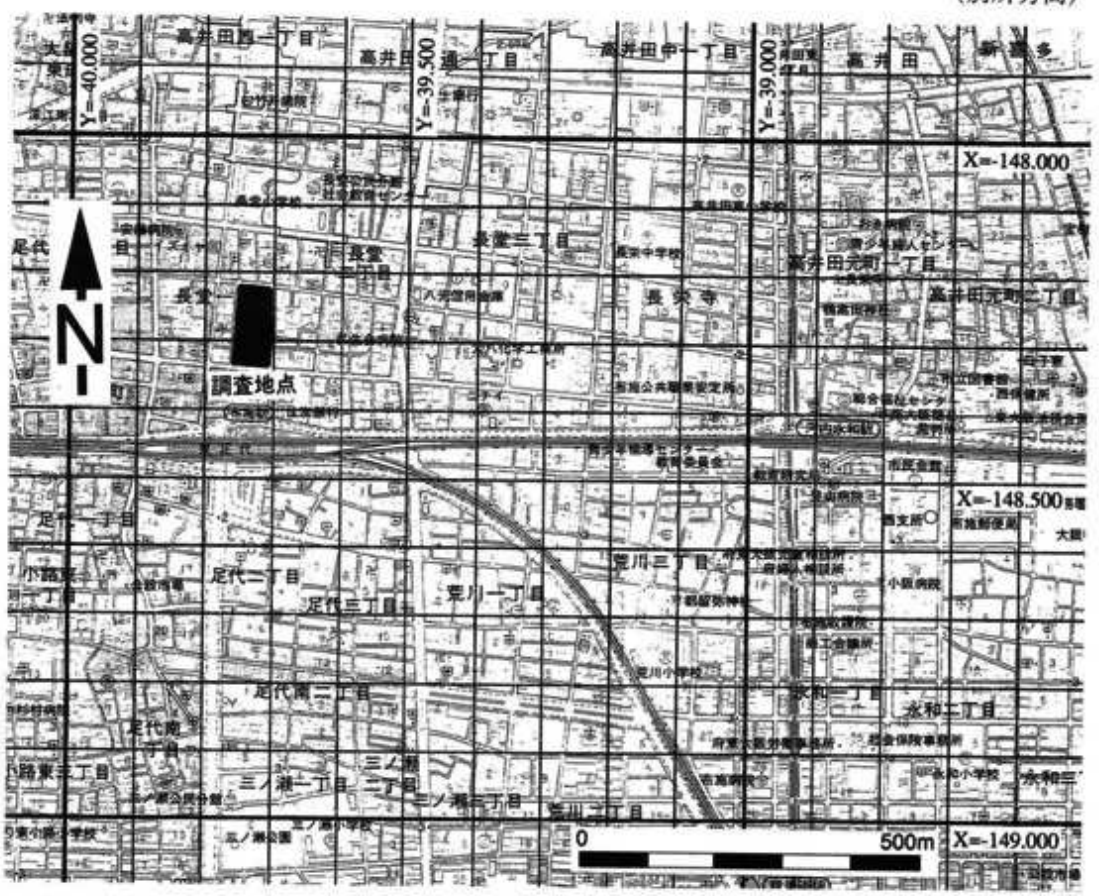


fig. 8　国土座標にもとづく宮ノ下遺跡周辺の区割り

II. 宮ノ下遺跡の立地環境と歴史的背景

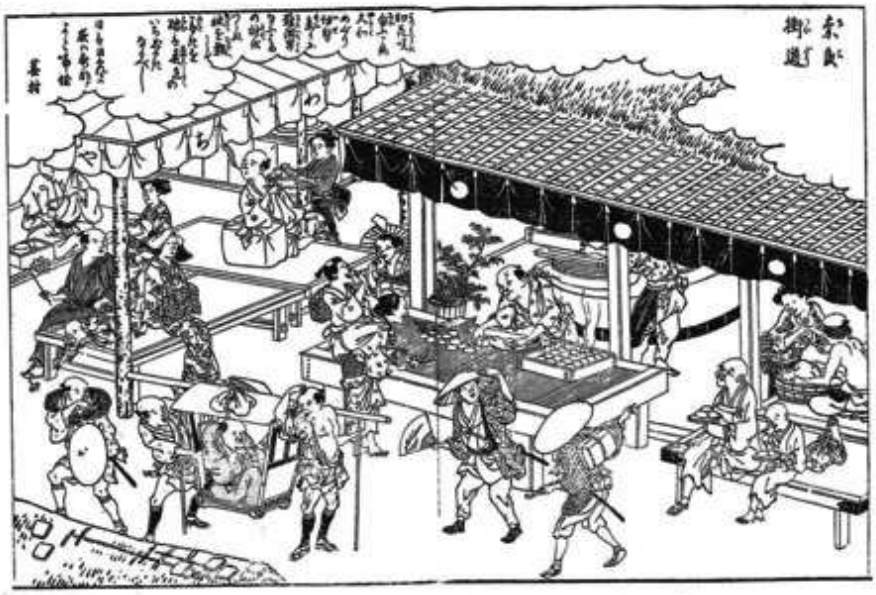


fig. 9　暗越奈良街道の足代付近（「河内名所図繪」より）

宮ノ下遺跡は東大阪市の西部、長堂・足代新町に位置し、近鉄布施駅の北側一帯に広がっている。この付近は軟弱地盤で地下水の汲み上げによって数メートル地盤が沈下したとされている。この軟弱地盤は、前期完新世に堆積した海成粘土層が主な要因である。ちなみにボーリングデータによれば、布施駅周辺では沖積基底礫層（天満層）はG.L.－30m付近で出現する。

いっぽう改新の詔によって制定された土地制度によれば、宮ノ下遺跡周辺は河内国渋川郡の「足代」と呼ばれていたようだ。「日本書記」や「四天王寺御手印縁起」によれば、6世紀中頃、衣摺（東大阪市衣摺）に館を構え渋川郡城を本拠にした物部守屋は蘇我一族との戦いに破れ、守屋滅亡を契機に推古天皇や聖徳太子らが四天王寺を建立した。そのさいに守屋の奴や宅が四天王寺建立に施入され、この中には「足代」の田荘が含まれていることが記されている（布施市史編纂委員会編1962，藤井1983）。宮ノ下遺跡が文献に記載されたのはこれが最も古いと考えられる。また、南北朝時代には「足代荘」が営まれ、このころまでには式内社である都留彌神社[1]や遺跡北辺を東西に横切る暗越奈良街道、遺跡中央を東西に横切る十三街道が整備されていたと考えられる。「河内名所図繪」には足代の奈良街道沿いに立ち並ぶ菅笠商や茶屋が描かれており（fig. 9）、これらの街道は近鉄奈良線・大阪線が開通した大正時代まで栄えたようだ。ところが、近鉄布施駅（足代駅）が設置される

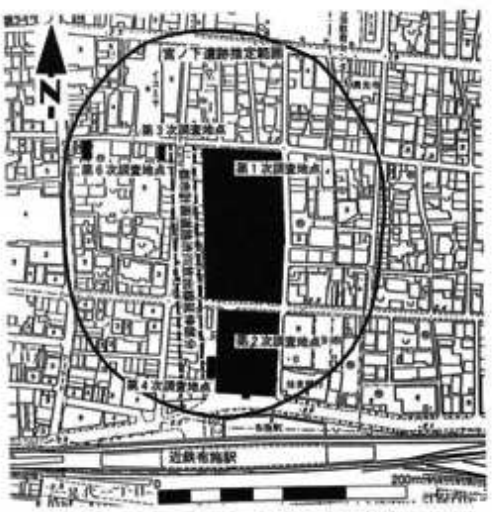


fig. 10　宮ノ下遺跡の既調査地

と街道沿いの商店は廃れ、駅を中心に多くの商店が営まれるようになり、布施町・布施市・東大阪市の中枢商業地域として現在に至っている。近鉄布施駅の南側地域は1970年代に再開発され、すでに一部で都市計画道路渋川放出線が開通している。今回の再開発事業にはこの都市計画道路の北進延長も計画されているため、道路部分や沿道のビル建設に伴う当遺跡の発掘調査が行われることが予想され、宮ノ下遺跡における過去の人間活動や古環境が克明に復元できることが期待されよう[2)]。

河内平野沖積低地上で人間活動が始まったのは、縄文時代後期頃と考えられる（fig. 11）。東大阪市新家遺跡や東大阪市と八尾市にまたがる池島・福万寺遺跡では、河内湾の海岸沿いに分布していたと思われる湿原が形成した泥炭層中から縄文時代後期の土器が産出する[3)]。ところ

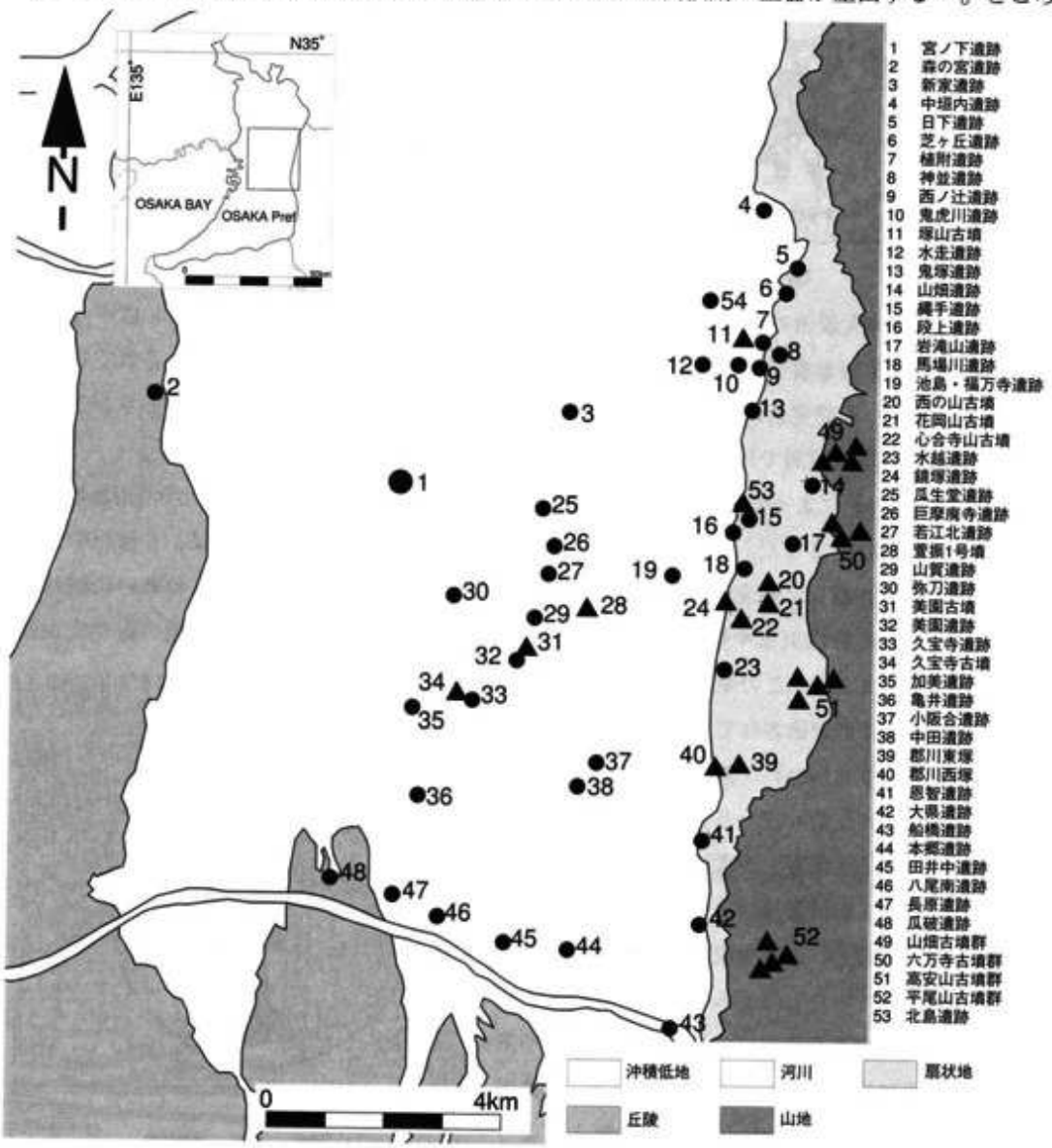


fig. 11　宮ノ下遺跡とその周辺の遺跡

が、これらの遺物には明瞭な遺構が伴っていないことや河内平野に湿原が広く分布していたことから、土地の人工改変を始めるのは縄文時代晩期以降と考えられる。縄文時代後期の遺物・遺構を伴う遺跡は大阪市森の宮遺跡や東大阪市日下遺跡、縄手遺跡、段上遺跡、馬場川遺跡、八尾市恩智遺跡、八尾南遺跡など河内平野縁辺の山麓・丘陵上に限られる。森ノ宮遺跡や日下遺跡からは、主に縄文時代後期の遺物を伴う貝塚が見つかっている。晩期になると河内平野縁辺部に限らず、沖積低地上でも生活が営まれたようである。山麓・台地上に分布する遺跡には、東大阪市芝ヶ丘遺跡、水走遺跡、鬼塚遺跡、八尾市恩智遺跡、八尾南遺跡、柏原市大県遺跡、船橋遺跡、大阪市長原遺跡があり、沖積低地上には八尾市久宝寺遺跡、美園遺跡、東大阪市山賀遺跡、巨摩廃寺遺跡、若江北遺跡、新家遺跡などが分布する。この時期に低地部へ人々が進出したのは、海水準の低下に伴う陸域の拡大や湿原を利用する稲作技術の伝播に起因するのだろう。鬼塚遺跡、久宝寺遺跡（寺川1987）、長原遺跡（松尾1988）には籾圧痕の残る晩期突帯文土器の出土例があり、稲作が行われていたことが示唆されるにもかかわらず、河内平野沖積低地上やその縁辺部では晩期の土器と水田遺構の供伴は確認されていない。宮ノ下遺跡の貝塚が形成され始めるのは、これらの諸遺跡と並行する縄文時代晩期船橋式期である。

弥生時代前期には宮ノ下遺跡や山賀遺跡、水走遺跡、鬼塚遺跡のように縄文時代晩期から営続する集落や、前期後半に新たに出現する大東市中垣内遺跡、八尾市美園遺跡、恩智遺跡などの集落が認められる。中期に出現する遺跡には、東大阪市瓜生堂遺跡、若江北遺跡、巨摩廃寺遺跡、鬼虎川遺跡、西ノ辻遺跡、植附遺跡、段上遺跡、八尾市水越遺跡、亀井遺跡、田井中遺跡、柏原市大県遺跡、大阪市瓜破遺跡、加美遺跡などがあげられる。これらの集落は集落を画する溝（いわゆる「環濠」）や墳墓、住居、水田を持つものがあり、河内平野一帯でも定住農耕社会が築かれていたことが伺える。ところが、弥生時代中期末にこれらの集落はいっせいに消滅する。中期から後期にかけて引き続き営まれる集落は西ノ辻遺跡と亀井遺跡の２遺跡のみである。この背景には、弥生社会的イデオロギーの変化と海水準上昇による土地の縮小＝物理的な生活領域の縮小が有機的に連動し、弥生時代の社会経済システムを崩壊させたことに要因がある。宮ノ下遺跡でも中期末を境に人間活動が途絶えた。

後期になって出現する集落には、東大阪市植附遺跡や鬼塚遺跡、山畑遺跡、岩滝山遺跡、馬場川遺跡など山麓緩斜面に築かれる集落や沖積低地上に立地する東大阪市若江北遺跡、八尾市久宝寺遺跡、柏原市本郷遺跡などの集落がある。これらの他にも、まだ見つかっていない後期の集落は多数あると思われる。これら後期の集落は、比較的規模が小さく、営続期間が短いという特徴がある。西ノ辻遺跡や亀井遺跡にいたっても後期中頃までには完全に消滅しており、後期を通じて集落の解体・再編成が繰り返されていたと考えられる。

古墳時代前期には、山麓緩斜面上や沖積低地上に墳丘墓が築かれるようになる。東大阪市猪の木塚古墳、八尾市萱振１号墳、久宝寺古墳、美園古墳、前方後円墳である八尾市西の山古墳や花岡山古墳などがあげられる。また、中期古墳には東大阪市塚山古墳、八尾市心合寺山古墳、鏡塚古墳、郡川東塚古墳、郡川西塚古墳などがあげられる。この頃に出現する集落には東大阪

市弥刀遺跡、鬼塚遺跡、八尾市中田遺跡、小阪合遺跡、久宝寺遺跡などの集落があり、中田遺跡は出土遺物量や土器のバリエーションから当時河内平野の中心的な集落であったと考えられている。後期になると山麓斜面に立地する東大阪市山畑古墳群や岩滝山古墳群、八尾市高安山古墳群、柏原市平尾山古墳群や丘陵上に立地する大阪市瓜破・長原遺跡など多数の群集墳が形成される。また、東大阪市植附遺跡・神並遺跡・鬼虎川遺跡・鬼塚遺跡・縄手遺跡・馬場川遺跡・瓜生堂遺跡などでも集落が営まれるようになる。

いっぽう、弥生時代後期から古墳時代後期にかけて宮ノ下遺跡周辺では再び湿原が広がっていたようだ[4]。この湿原が形成した泥炭層中および直下には明瞭な人間活動の痕跡は認められなかったが、古墳時代前期および中期の遺物はまれに出土した。遺構はまったく検出されなかった。弥生時代以降、宮ノ下遺跡周辺で土地の改変を伴うような人間活動が再開されるのは、おそらく文献資料に見られる6世紀末から7世紀初頭頃であろう。

今回行った第1次調査は、この遺跡が未周知であり、調査への早急な対応が要されたため、飛鳥時代以降の遺物・遺構帯は機械掘削により破壊せざるを得なかった。1次調査終了後に行われた2・4・6次調査では奈良・平安時代の建物跡や井戸などを含む遺物・遺構帯を検出しており、仮に1次調査で通常の発掘調査を行っていれば同時期の集落を復元できたのではないかと思う。

（別所秀高）

【注釈】

1）中河内郡役所編（1922）「中河内郡誌全」P408によれば、都留彌神社はもともと大字東足代字南丁にあったが、大正3年に布施村各大字にあった神社が合祀し、鹿島神社が鎮座していた現在の都留彌神社の地（東大阪市荒川）に遷座した。

2）すでに、宮ノ下遺跡第1次調査が終了してから2・3・4・6次の調査が行われている。これらの調査地をfig. 10に示す。

3）新家遺跡、池島・福万寺遺跡の調査を担当する財団法人大阪府文化財調査研究センターの職員諸氏の御教示による。

4）この湿原は縄文時代後・晩期に分布していた湿原と同様に河内湖湖岸沿いに分布していたようだ。おそらく閉塞された静水下で形成されたものだろう。弥生時代後期から古墳時代後期の遺物をまれに産出する泥炭層は、東大阪市池島遺跡や鬼虎川遺跡、水走遺跡、北島遺跡、若江北遺跡、新家遺跡などで確認されている。

【文献】

布施市史編纂委員会編（1962）「布施市史」第1巻

藤井直正（1983）「東大阪市の歴史」大阪・市史双書2，松籟社

寺川史郎（1987）第2節　縄文時代，「久宝寺北（その1～3）」近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書，財団法人大阪文化財センター，P 18-33

松尾信裕（1988）（1）縄文土器，「大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告書III」財団法人大阪市文化財協会，P 36-45

III-1．層序および遺跡形成過程

i．層序観察の手続き

宮ノ下遺跡第１次調査では、fig.12 に示したとおり計24地点で詳細な層序観察を行った。fig.12 の地形図略測は10層上面で検出した縄文時代晩期の地形を表す。観察した24地点のうち複数の地点で同一の累重および堆積相が認められ、記載内容が重複しないように複数地点のうち１地点のみを選択し、LOC.2［貝層（S5）が分布する開析谷内の堆積物を挟む地点］、LOC.9［貝層（S1～6）が分布する開析谷内の堆積物を挟む地点］、LOC.10［干潟の堆積物（11層）・海成粘土（12層）・河川砂（13層）を挟む地点］、LOC.11［海成粘土（12層）と13層上面に形成された tidal creek内の堆積物を挟む地点］、LOC.16［開析谷の外］、LOC.19［貝層がみられない開析谷内］の計６地点の観察結果について述べる。なお第１次調査終了後に行われた２・３・５次の調査成果も考慮した。

層序の観察は、土色、粒径組成、堆積構造、年代の指標となる考古遺物の有無、有機物の多寡、埋没後の擾乱などである。土色の観察はマンセル式の土色帖を用い、湿潤状態で行った。粒径についてはWentworth (1922)・Folk(1974)の区分を参考にした。柱状図記載内容のうち、「報告書内層名」は現地で遺物の取り上げに適用した層名を表し、本報告内の出土遺物の説明にはこの層名を用いている。「層名」は本章のみに用いる任意の層名である。「層名」は上層から下層にかけ昇順し、「S」は貝層部に限って用いた" Shell midden "の略称を表す。貝殻を含む層と含まない層との対応は、S1 ⇔ 6層、S3 ⇔ 7層、S4 ⇔ 8層、S5,6 ⇔ 9層であり、それぞれ指交し同時に堆積した層と考えられる。

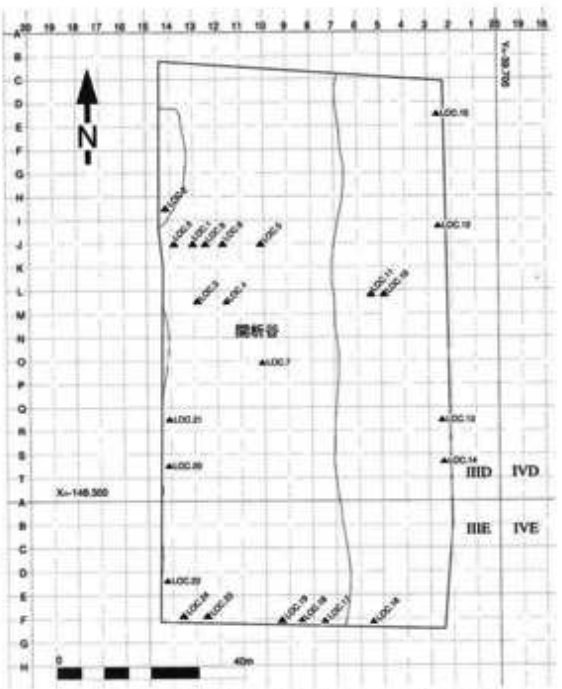


fig.12　宮ノ下遺跡第１次調査のサンプリング地点

fig.13　柱状図の凡例

ii．岩質層序と文化層序

本調査で確認した堆積相(Facies)と遺物・遺構帯(Ethnozone)[1] は以下のとおりである

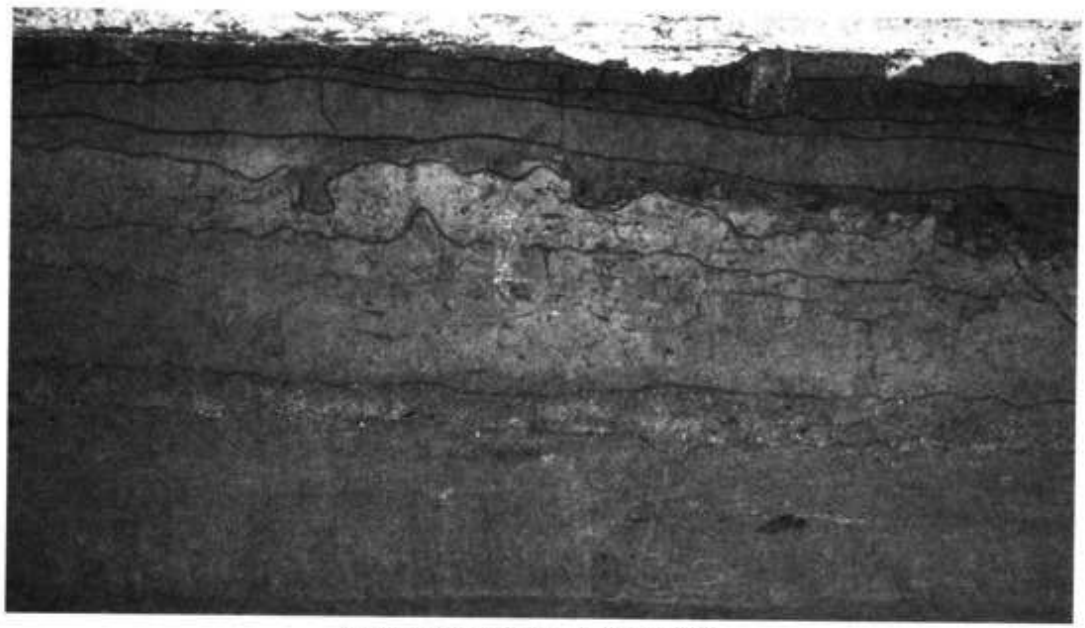


fig.14　調査区東壁断面。LOC.16に相当。

（岩質層序）

堆積相A：平行葉理をなすシルト質粘土あるいはわずかに砂がまじる粘土質シルト。土色、粒径組成によりいくつかの単層に区分できる。５・６層に対応する本相には地点によってわずかに未分解の植物遺体を含む。湖沼など静水域での堆積物と考えられる。場所により１層の上に砂礫層が載り、そこではロード構造が見られた[2)]。１・２・５・６層に対応する本相には地震動によると考えられる変形構造が認められた（松田・別所 1994）。

堆積相A'：平行葉理をなす粘土質シルト。未分解あるいは分解の進んだ植物遺体を多量に含む。S1～S6は含まれる貝殻の破砕状態や多寡、マトリクスの粒径組成によって区分した。静水下で形成された堆積物と考えられる。８層上部およびS2,3,4に対応する本相には地震動によると考えられる変形構造が認められた。S4には上層部と下層部にそれぞれ変形構造があり、２回の地震動によるものと思われる。

堆積相A"：部分的にトラフ型斜交層理をなし、わずかに砂が混じる粘土質シルトあるいはシルト。開析谷内の堆積物のみに認められる。静水下で、降水時などに時折砂が流入するような堆積環境であったと考えられる。

堆積相A'''：平行葉理をなし、わずかに砂が混じる砂質泥。開析谷内の８層下部にのみ認められる。かなり分解が進んだ植物遺体を多量に含む。水深の浅い静水域の堆積物と考えられる。地震動による変形構造があり、８層上部の変形構造と一連のフレームを構成し、同一の地震動によるものである。

堆積相B：平行葉理をなすシルト質粘土。主にヨシの植物遺体からなる泥炭層。３層のみに認められる。土色によりいくつかの単層に区分できる。地震動による変形構造があり、２層の変形構造と一連のフレームを構成し、同一の地震動によるものである。閉鎖された静水域の堆積

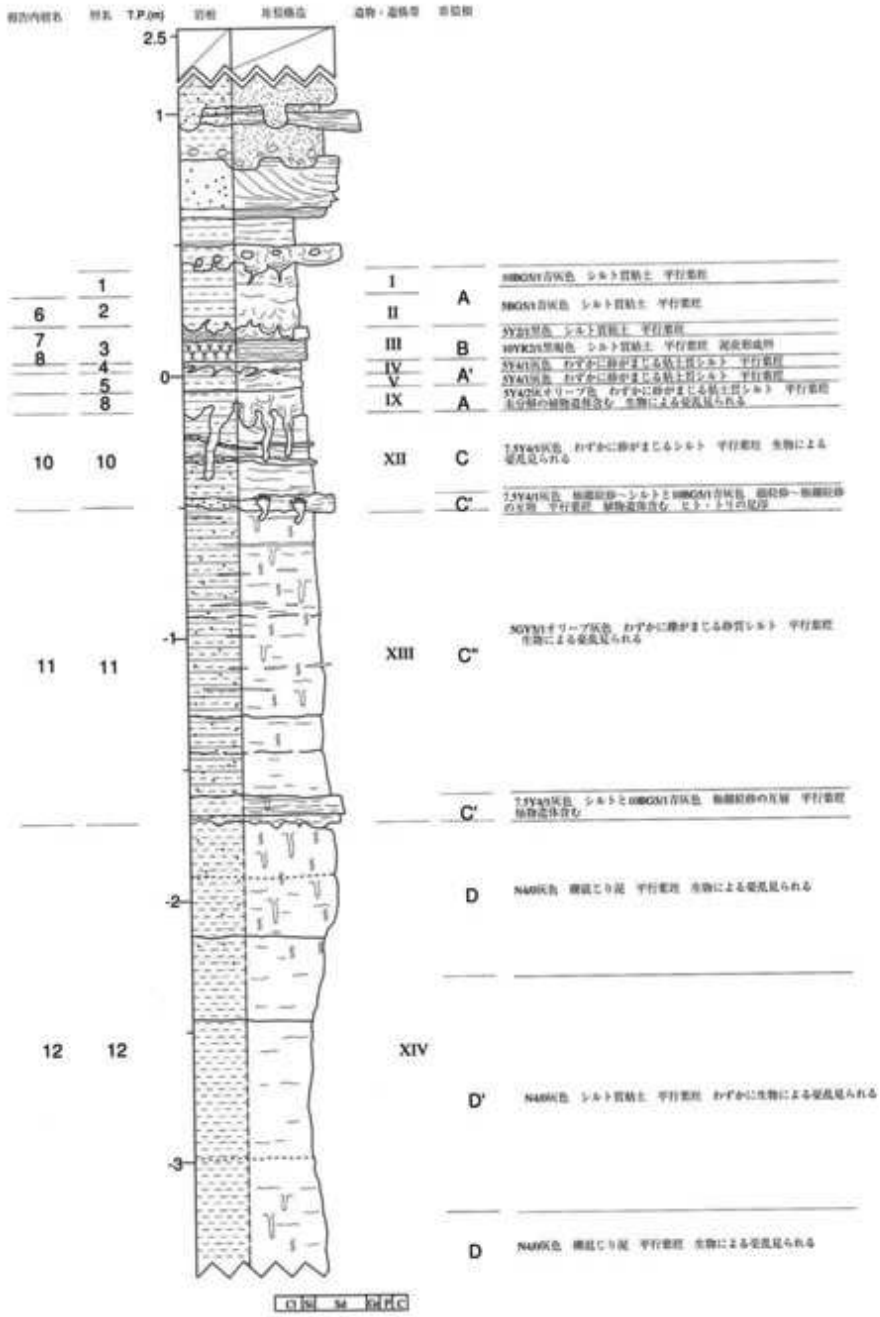


fig.15　LOC.16柱状図

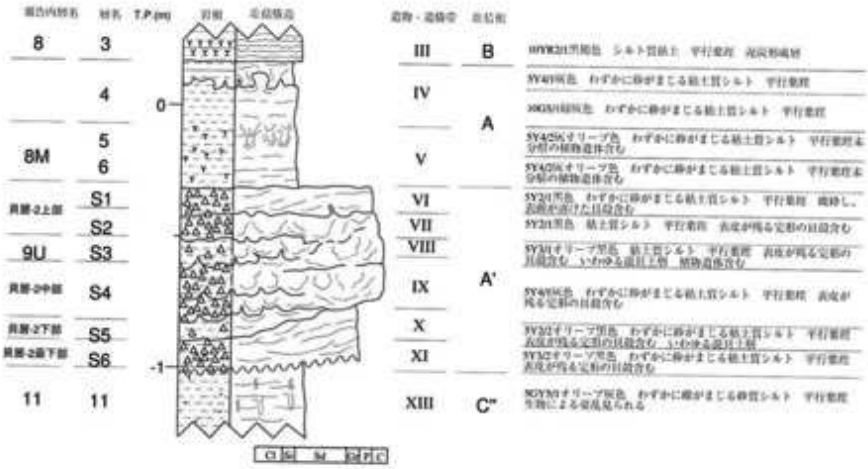


fig.16　LOC. 9柱状図

fig.17　A地区Jライン沿い貝層断面。LOC. 9に相当。

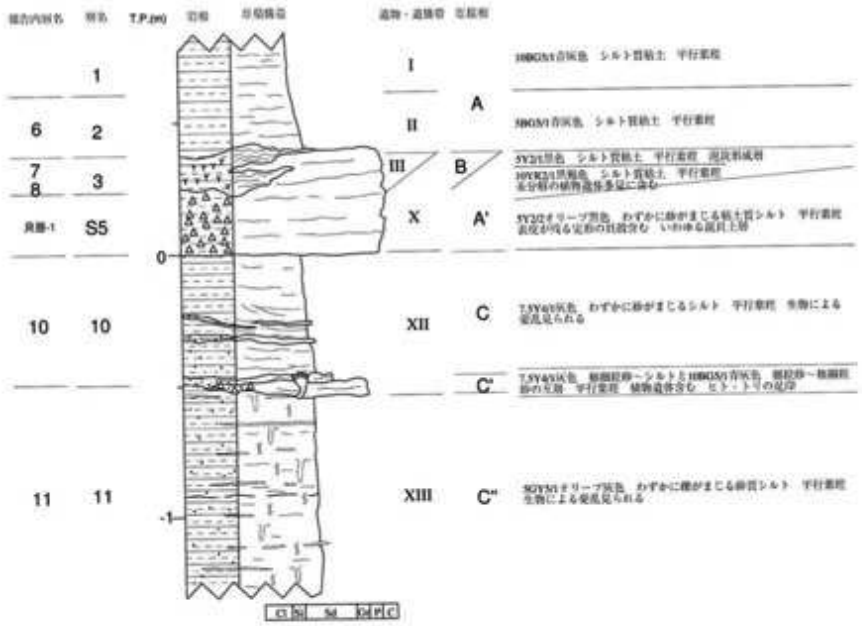


fig.18　LOC. 2柱状図

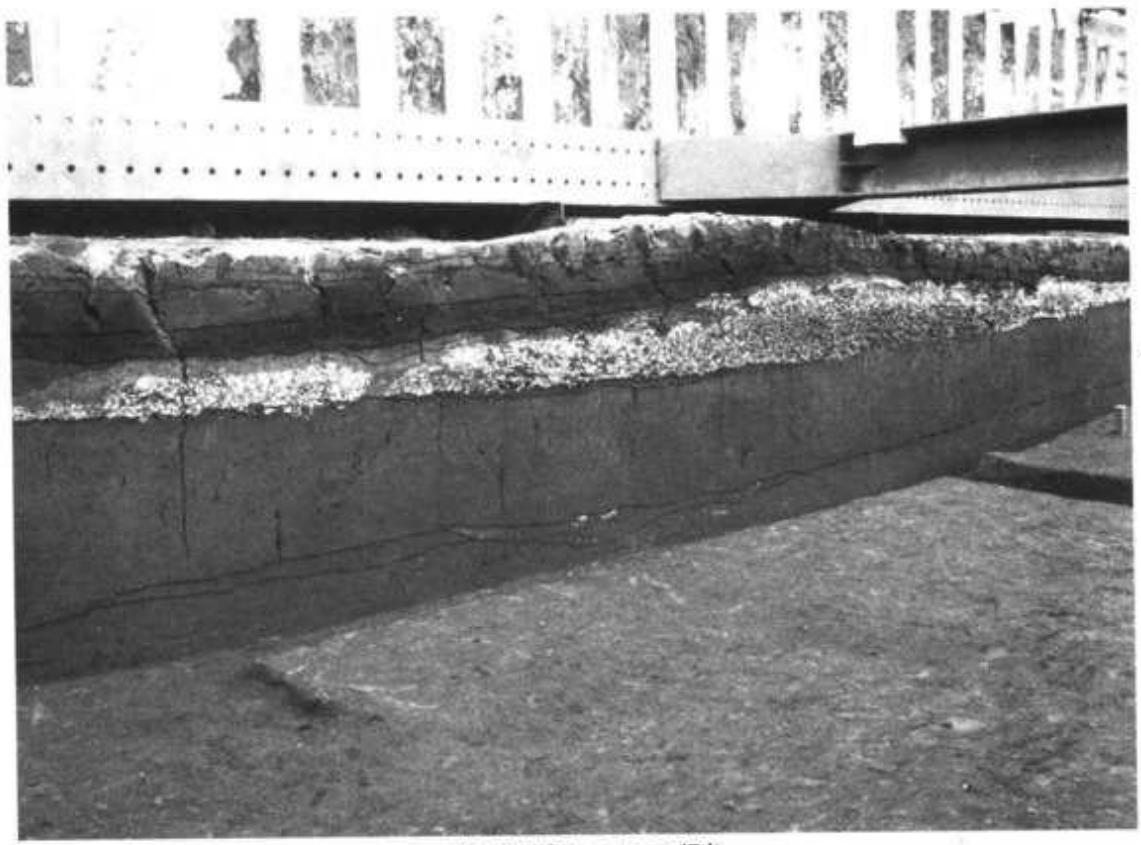


fig.19　A地区東壁断面。LOC.2に相当。

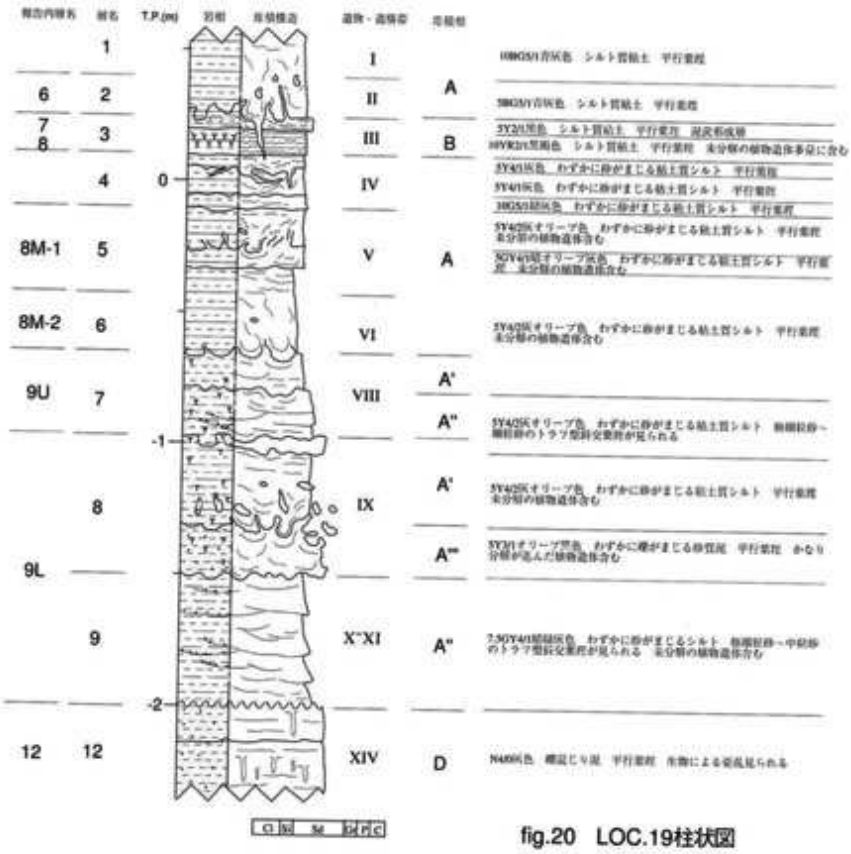


fig.20　LOC.19柱状図

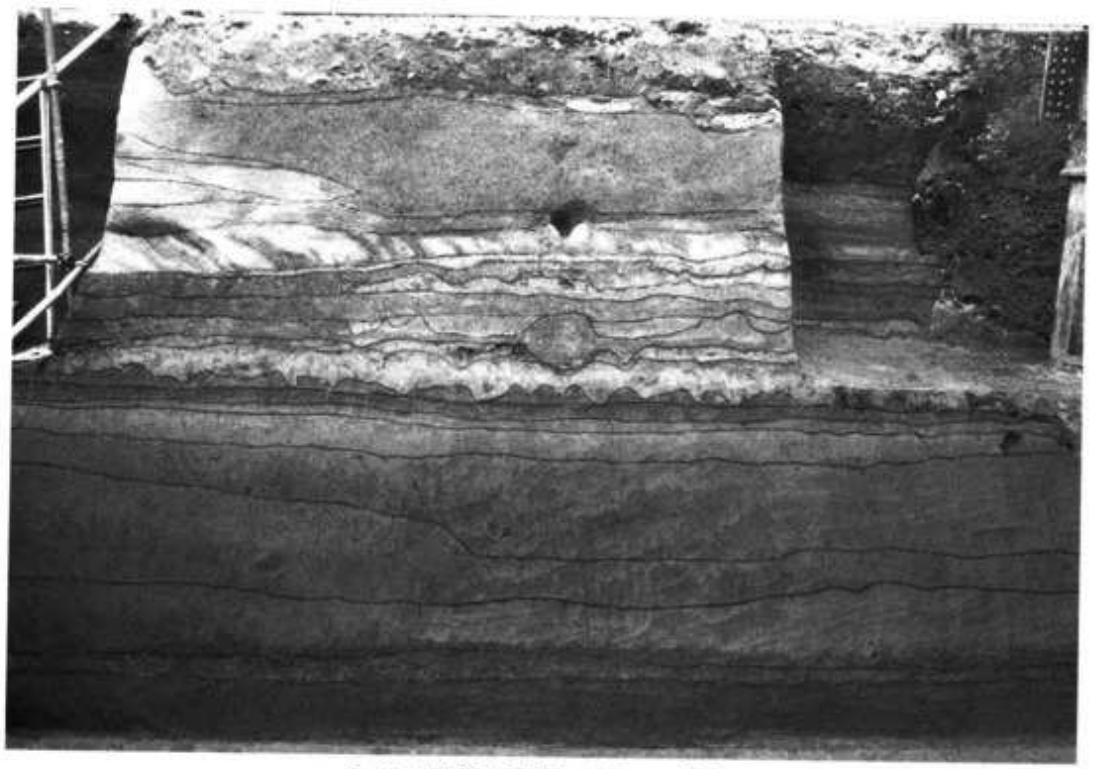


fig.21　開析谷内の層序。LOC.19に相当。

物と考えられる。

堆積相C：不明瞭な平行葉理をなすシルト。10層のみに認められる。しばしばシルトと極細粒砂の葉理の互層が認められる。弱い潮汐流の影響下で形成された干潟（Supra tidal）の堆積物と考えられる。S1・S2・S5・S6よりリワークした堆積物を含む。

堆積相C'：平行葉理をなすシルト～極細粒砂と細粒砂の互層。未分解の植物遺体を含む。堆積相CおよびC"の下に認められる。強い潮汐流の影響下で形成された干潟の堆積物と考えられる。

堆積相C"：平行葉理をなす砂質シルト。11層のみに認められ、その上面には10層下部の堆積相C'の砂によって充填された人や鳥の足印あるいは行跡がある。11層上部は生物擾乱が顕著である。下部は生物擾乱を受けていないシルト～極細粒砂と細粒砂～中粒砂の互層が認められる。潮汐流の影響下で形成された干潟の堆積物と考えられる。堆積相C・C'・C"と対応する10層および11層は11層下部から10層上部にかけて級化成層をなす。

堆積相D：不明瞭な平行葉理をなす礫混じり泥。生物擾乱が顕著である。12層上部に対応する。粒径組成によっていくつかの単層に区分できる。水深の浅い海底の堆積物と考えられる。

堆積相D'：平行葉理をなすシルト質粘土。12層中部～下部に対応する。Ma13に相当する海底の堆積物と考えられる。堆積相D・D'と対応する12層は下部から上部にかけて逆級化成層をなす。13層より下層でも堆積層D'が認められ、同じMa13の海成粘土と思われる。

堆積相E：トラフ型斜交層理とプラナー型斜交層理をなす中粒砂～細礫。13層に対応する。12層との層界には不整合が認められ、海水準の上昇によって侵食されたものと思われる。扇状地斜面など河床勾配がきついところで発達する網状河川の堆積物によく似ている。

以上の堆積相より12層中でD'－Dおよび11層から1層にかけてC"－C－A－B－Aのサクセッションが認められ、前者は海が陸化（干潟化）する過程を示す上方粗粒化サクセッション、後者は干潟の堆積環境から静水域への変化を示す上方細粒化サクセッションと考えられる。詳細な観察を行っていないが、これらの上には河道内の堆積物、自然堤防の堆積物、あるいはクレバススプレー堆積物が載り、中世から昭和初期までこの堆積物を整地し水田耕作や畑作が行われていたようだ。

（文化層序）

遺物・遺構帯I：1層に対応する。軒平瓦、須恵器、土師器などが出土した。平安時代に比定される。なお13世紀以降の遺物を含む遺構を多数検出したが、中世以降の層を機械で掘削したため正確な遺物・遺構帯をおさえることができなかった。

遺物・遺構帯II：2層に対応する。出土遺物はまったくなかった。本帯の上下の遺物・遺構帯よりおおむね6世紀初頭から8世紀末頃に比定される。

遺物・遺構帯III：3層に対応する。現地での遺物取り上げ時には本帯の上部と下部を恣意的に区分し「7層」「8U層」としているが、必ずしも妥当な層区分とは思われず、1つの層として扱う。弥生時代中期末の土器・石器、弥生時代後期の土器、古墳時代前期あるいは中期の土器、木製品など、出土遺物には約400年の時期幅がある。これらの出土遺物から本帯の年代は弥生時

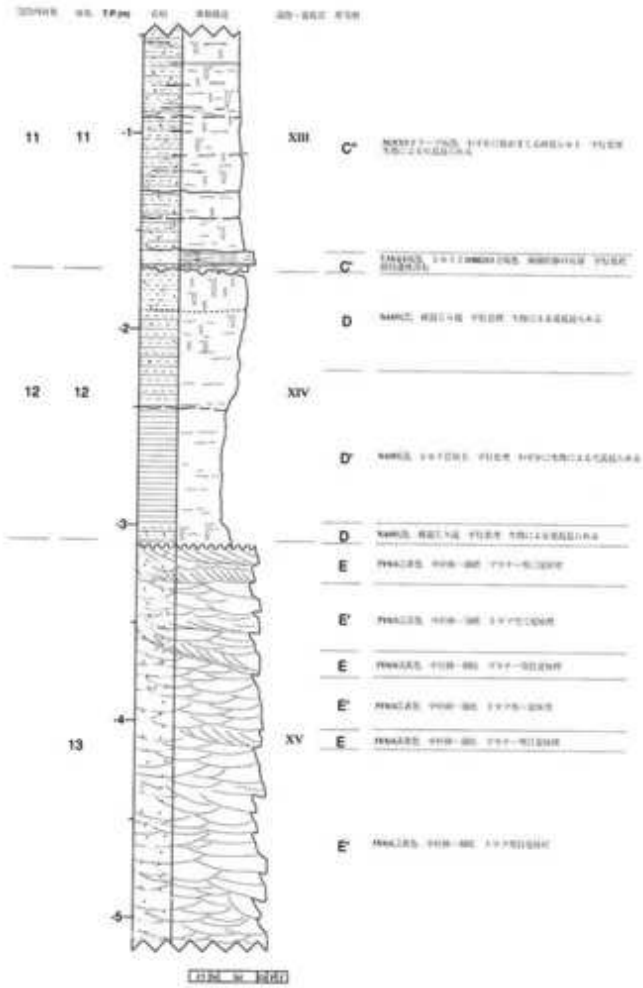


fig.22　LOC.10柱状図

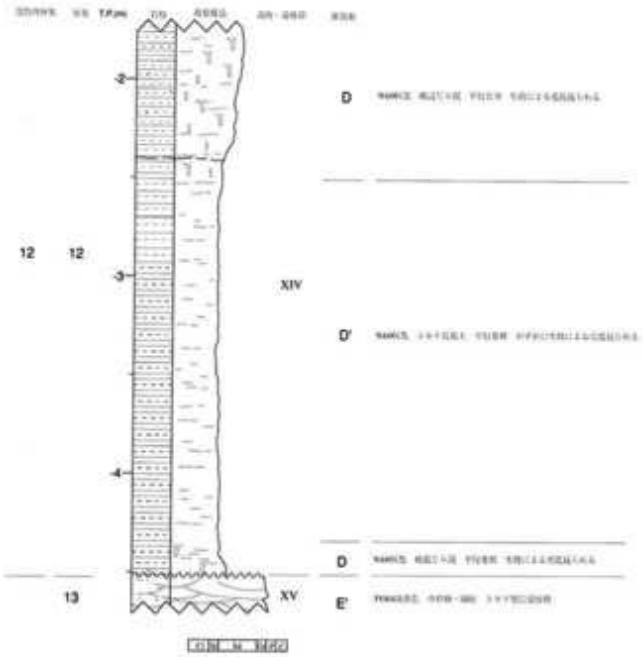


fig.23　LOC.11柱状図

代中期末から古墳時代中期末頃に比定される。本帯は閉鎖された水域下で形成されたため、遺構は認められず、人間活動は顕著ではなかったようである。また、開析谷は本帯をもって完全に埋積される。

遺物・遺構帯IV：4層に対応する。本調査ではまったく認識できず、後の調査で明らかになった。出土遺物より本帯の年代は弥生時代中期中葉に比定される。

遺物・遺構帯V：5層に対応し、開析谷内から調査区全域にかけて分布する。開析谷内の6層上面で、畦状の高まりの上に杭を並べた遺構（fig.27,28）が認められ、水田遺構の一部と考えられる。また、開析谷外では、溝・土壙・ピットなど多数の遺構（fig.34）があった。出土遺物より本帯の年代は弥生時代中期初頭（新相）に比定される。

遺物・遺構帯VI：6層およびS1に対応する。開析谷内のみに分布する。出土遺物より本帯の年代は弥生時代中期初頭（古相）に比定される。

遺物・遺構帯VII：S2に相当する。開析谷内のみに分布する。上帯の遺物とはあまり時期差がなく、本帯も弥生時代中期初頭（古相）に比定される。

遺物・遺構帯VIII：7層およびS3に対応する。開析谷内のみに分布する。S3のみに出土遺物が認められる。出土遺物より本帯の年代は弥生時代前期（中・新）に比定される。

遺物・遺構帯IX：8層およびS4に対応する。開析谷内から調査区全域にかけて分布する。S4のみに出土遺物が認められる。出土遺物より本帯の年代は縄文時代晩期長原式期～弥生時代前期に比定される。

遺物・遺構帯X：S5および9層上部に対応する。S5のみに出土遺物が認められる。出土遺物より本帯の年代は縄文時代晩期船橋式期～長原式期に比定される。

遺物・遺構帯XI：S6および9層下部に対応する。S6のみに出土遺物が認められる。出土遺物より本帯の年代は縄文時代晩期船橋式期に比定される。

遺物・遺構帯XII,XIII,XIV,XV：それぞれ10、11、12、13層に対応する。12層中や13層より下の海成粘土層中にはアカホヤ火山灰層（約6,300年前に降下）がみられず、おそらく13層の河川砂によって海成粘土とともにアカホヤ火山灰層が侵食されたためだろう。アカホヤ火山灰降下以降に急激な海退に伴って周辺が陸化したのち河川が流入し、アカホヤ火山灰層が挟まる海成粘土を侵食しながら13層が形成されたと考えられる。したがって、遺物・遺構帯XII～XVの年代は縄文時代の海水準最高頂期以後最初に急激な海退現象が起こった約4,500年前（縄文時代中期）から、10層上面で開析谷が形成された約3,000年前（縄文時代晩期）の間に比定される[3]。

以上の遺物・遺構帯より、本調査地点では縄文時代晩期末～弥生時代中期末頃かけては確実に人間活動が行われていたことがうかがえる。

iii. 開析谷について

本調査では調査区南西隅より北へ延びる開析谷を検出した。沖積低地上で形成された開析谷は「埋積浅谷」とも呼ばれる。ところが河床勾配のきつい扇状地斜面に形成された谷は必ずしも

fig.24　B-1地区で検出した開析谷。北より撮影。

「浅谷」ではなく谷壁斜面が急峻であったり、オーバーハングしているものも見つかっている。ここでは海水準低下によって形成されたと考えられる谷をすべて「開析谷」と呼ぶことにする。

縄文時代の海水準最高頂期以降、縄文時代中期と晩期には顕著な海水準の低下があった。この時に沖積低地や扇状地斜面で多数の開析谷が形成された。東大阪市内では後期に形成された神並・西ノ辻・植附遺跡[4]にまたがる開析谷や、晩期の開析谷が神並・西ノ辻・植附遺跡、鬼虎川遺跡、水走遺跡、段上遺跡（東大阪市文化財協会1995）、新家遺跡[5]で見つかっている。本調査で検出した開析谷は出土遺物より縄文時代晩期に形成されたものと考えられるが、垂直断面（fig.25,26）の詳細な観察よりこの開析谷の形成には２回の侵食（開析）と２回の埋積があったことがわかった。そのプロセスは以下のとおりである。

1. 約3000年前、急激に海水準が低下し、開析谷が形成された（開析谷Ⅰ）。

2. その直後に海水準が回復し、主に泥質の堆積物（９－A）で谷が埋積された。同時に貝殻や動物遺体、土器（縄文時代晩期船橋式併行）などが谷の中に投棄され、貝塚（S1）が形成された。

3. 再び急激に海水準が低下し、貝塚とともに開析谷Ⅰの谷底が侵食され、開析谷Ⅱが形成された。

4. その直後に再び海水準が回復し、谷内が泥質の堆積物（９－B）で埋積されると同時に貝塚（S2～6，縄文時代晩期船橋式～弥生時代中期初頭に併行）が形成された。

以上より、本調査で検出した開析谷は約3000年前に一度形成され埋積された後、2400年前（縄文時代晩期船橋式期）に再び形成されたことがわかる。

いっぽう、この開析谷で貝塚の形成終了直後に５・６層（弥生時代中期初頭並行）が堆積するが、６層上面で畦状の高まりに並ぶ杭列（fig.27,28）や、５・６層で石包丁を多数検出したことから、これらの層準で水田が営まれた可能性がある[6]。開析谷内の湿地（自然の潅漑）を利用した水田跡は岡山市津島遺跡、豊橋市瓜郷遺跡、静岡県韮山遺跡で見つかっている（井関1989）。

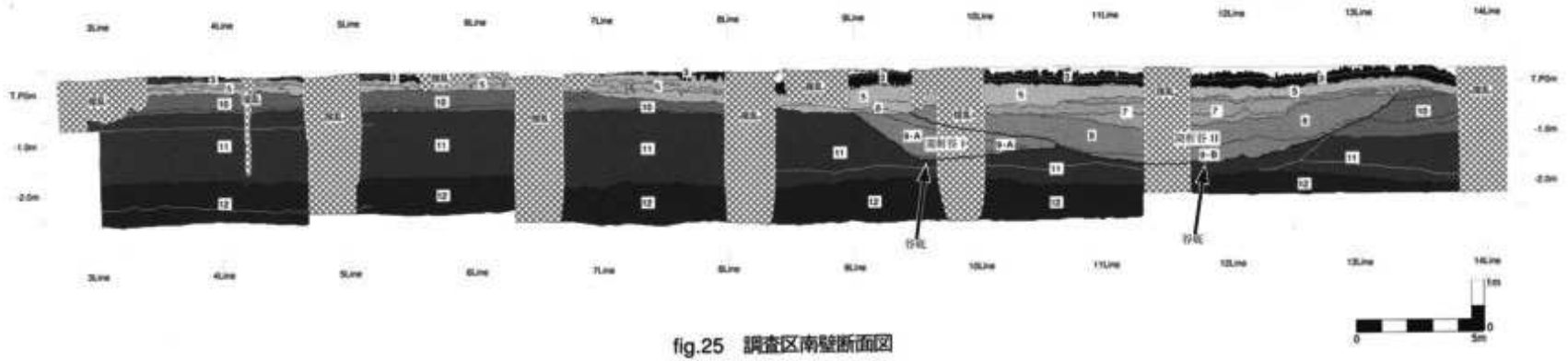


fig.25　調査区南壁断面図

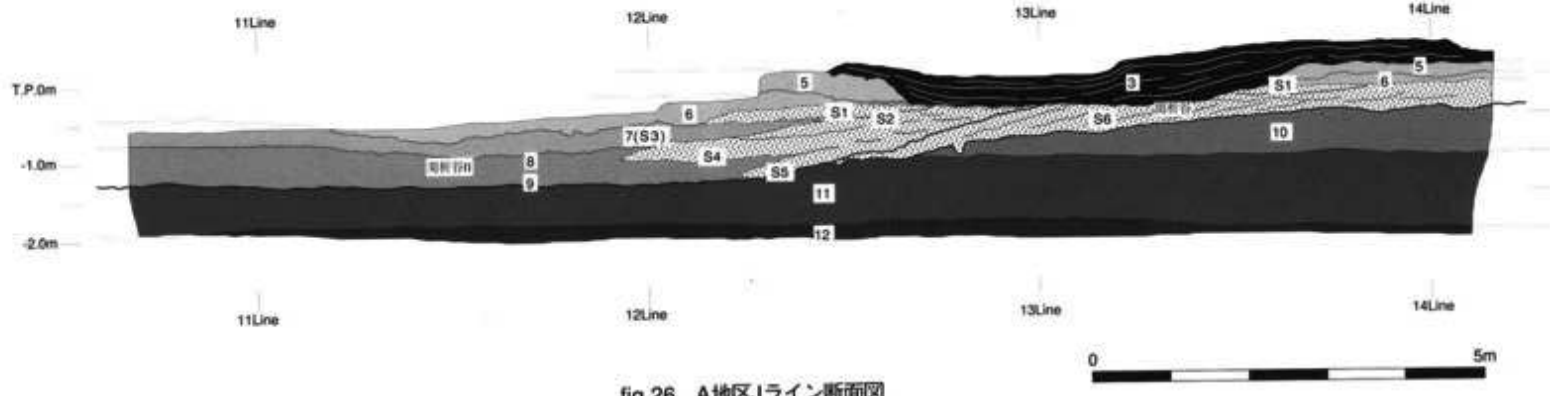


fig.26　A地区Jライン断面図

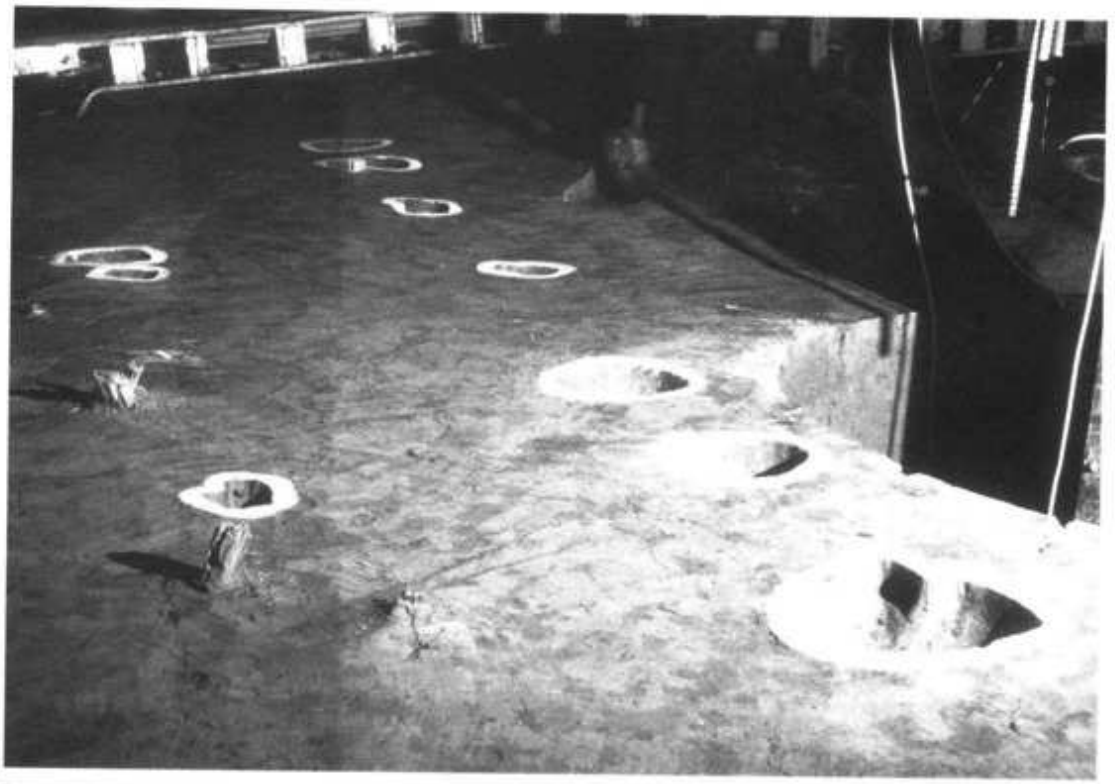


fig.27（上）
6層上面で検出した杭列
B地区

fig.28（左）
6層上面で検出した杭列
A地区

iv. 埋没後の擾乱

考古遺跡を調査する場合、普通「地層累重の法則」を念頭に置き、遺構を見極めながら上層から下層へと掘り進めていく。しかし、現地調査でのルーティンワークの精度をどれだけ高めても古い層準により新しい時代の遺物が混じることはよくある。調査担当者の努力もさることながら、この原因の多くは埋没後の擾乱（Postdepositional disturbance, Postburial disturbance）にあると思われる。埋没後の擾乱の要因には、凍結、マスムーブメント、泥質マトリクスの収縮、風食作用、変形、生物による擾乱などがあげられる（Butzer 1982, Waters 1992）。

本調査では生物による擾乱と地震動による変形が認められた。生物擾乱には植物によるものと、動物によるものがあり、前者は4層および10層上面で繁殖したヨシの地下茎により4・5・8・10層（fig.31・32）が、後者はカニや貝（fig.30）によって9・11・12層が擾乱を受けている。地震動による変形は1・2～3・4・5・6(S2)・8層、S3・S4・S5・S6で認められた。貝層中（S2～S6）には顕著なロード構造が見られ、本来下位の層準に含まれていた遺物が上位まで押し上げられたり、上位の遺物が下位に押し込まれたことが想定される。現地では貝層をS1～S6まで区分し遺物を取り上げたが、単一の層準で異なる時期の遺物が多数混じっていた。

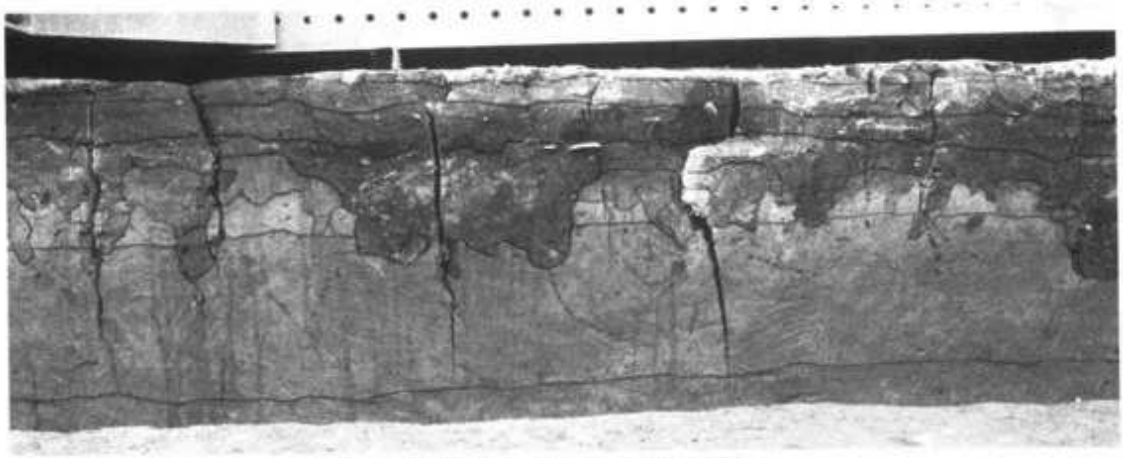


fig.29　ヨシの地下茎による擾乱。A地区東壁断面。

fig.30　貝よる擾乱。11層上面。

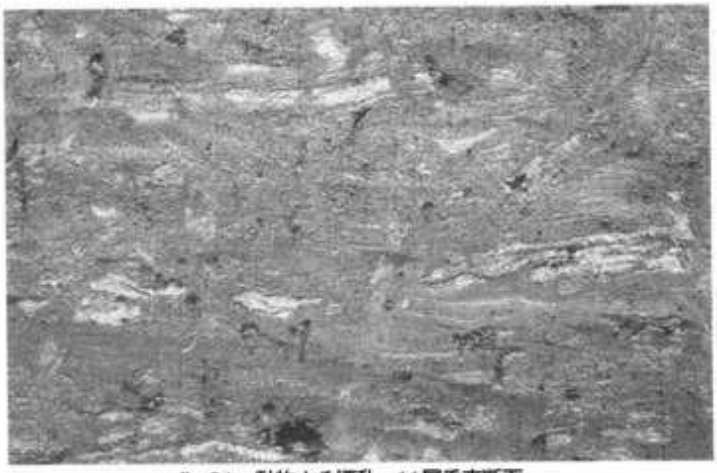


fig.31　動物よる擾乱。11層垂直断面。

v. 宮ノ下遺跡の形成過程

本調査では約6300年前以前～現在までの地層を観察することができた。ここでは、先述の層序観察結果や土壌サンプルの分析結果をふまえて宮ノ下遺跡の形成過程について述べる。形成過程の垂直断面のモデルをfig. 36に示す。

約1万数千年～4500年前

縄文海進によって河内平野堆積盆に海が進入し海成粘土（Ma13）が堆積する。約6300年前にはアカホヤ火山灰が堆積したが、約4500年前に急激に海水準が低下しときに当地周辺が一時的に陸化し、網状河川の発達によって海成粘土とともにアカホヤ火山灰層が侵食された。

約4500～3000年前

海水準が回復し、再び海成粘土（Ma13）が堆積した。約3000年前までには干潟が形成され陸化がすすんだ。干潟の上では人間活動が行われ（fig. 32,33）、より時期が下ってsupra tidal上ではヨシが繁殖した。このころには周辺は汽水域に変化した。

約3000～2400年前

海水準が低下し、supra tidal 上面を侵食して開析谷Iが形成される。縄文時代晩期船橋式期には開析谷内に貝殻・土器片・石器などが投棄され、貝塚が形成された（fig. 35）。周辺の水域は汽水から徐々に淡水へ変化した。

約2400～2100年前

約2400年前（縄文時代晩期船橋式期）に再び海水準が低下し、開析谷I内の堆積物および谷底を侵食し開析谷IIが形成された。貝塚は引き続き弥生時代中期初頭（畿内第II様式期）まで形成された。

約2100年前（弥生時代中期初頭）

開析谷内の湿地を利用して水田（？）が行われた（fig. 27,28）。

約2100～1900年前（弥生時代中期）

開析谷の周りで溝や穴がつくられた（fig. 34）。溝は水を開析谷へ引き込むためものもと思われる。

約1900～1500年前（弥生時代中期末～古墳時代中期末）

周辺の水域が閉鎖されたため水位が上昇しヨシが繁殖した。泥炭が形成された。

約1500～1400年前（古墳時代後期）

水位が上昇し、河内湖が拡大した。

約1400～1300年前（飛鳥時代）

近傍で河道が形成され、当地では自然堤防が発達した。

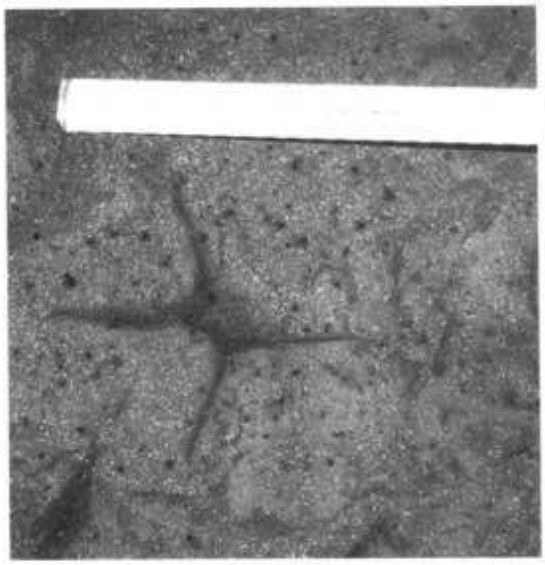
約1300～100年前（奈良時代～明治時代）

水田耕作および畑作が行われた。この間幾度も洪水にあったと考えられ、耕作土を作り直すための土取り穴を多数検出した。

現在

近鉄布施駅を中心に、高層ビル・バスターミナルなどができ市内最大の繁華街になった。

（別所秀高）



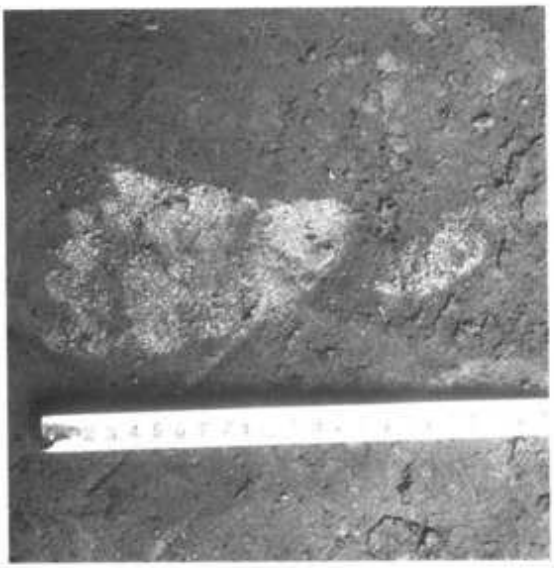


fig.32（上左）
鳥の足印。11層上面。

fig.33（上右）
ヒトの足印。11層上面。

fig.34（中）
開析谷の周りに形成された弥生時代中期の遺構。

fig.35（下）
開析谷内に形成された貝塚。開析谷の西岸から貝殻などが投棄された。手前はKライン、奥がJライン沿いのセクション。

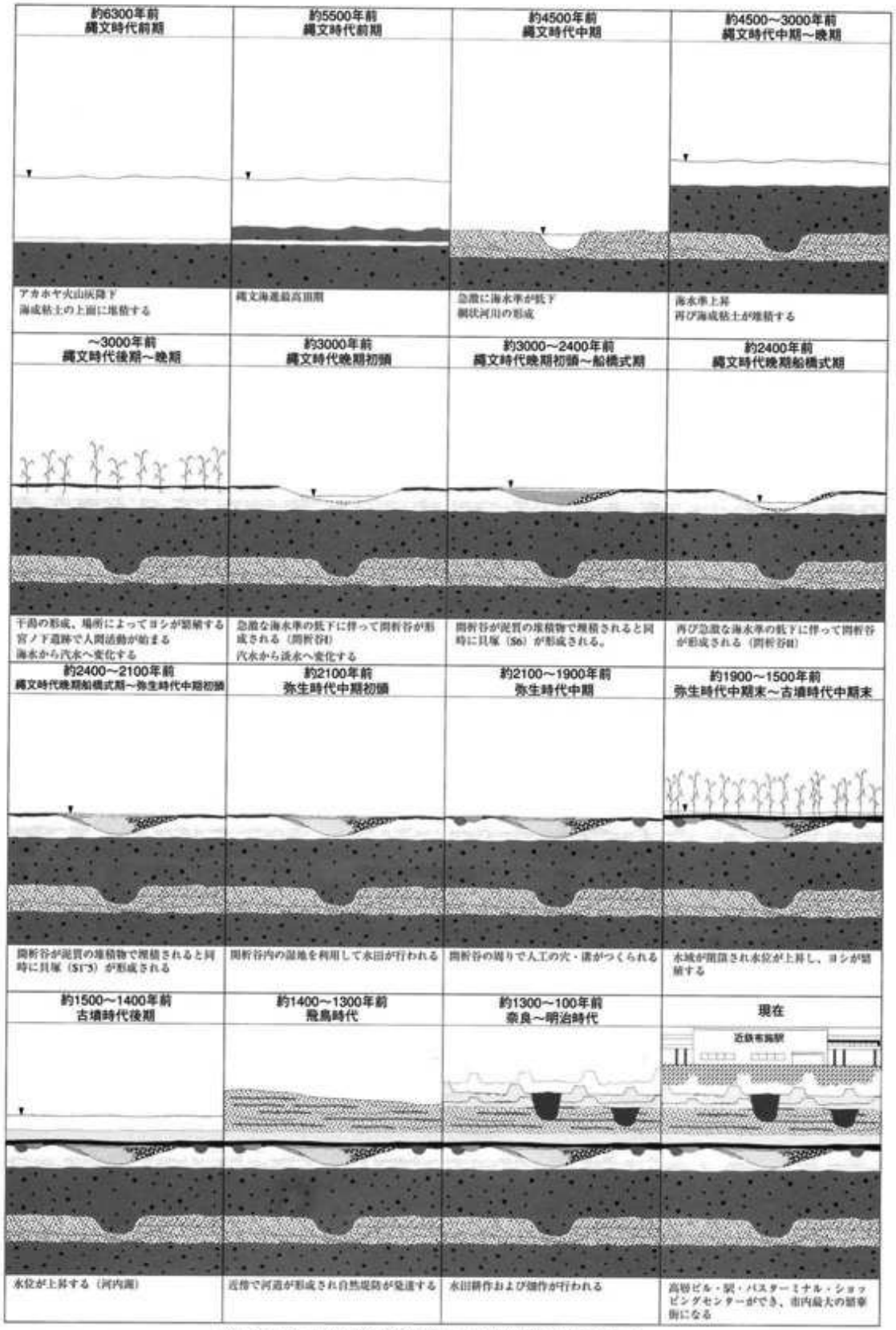


fig.36　宮ノ下遺跡の形成過程。模式的な断面図で表した。

【注釈】

1）従来考古遺跡において分層された単一の層準は何を示しているのかよくわからない場合が多い。また各々の単一の層準といわゆる「遺物包含層」はどういう関係にあるのかよくわからない。Hedberg（1976）やNASCOSN（1983）では一連の層序を観察するために、岩石学的な性質（lithostratigraphic unit）、化石（Bio-stratigraphic unit）、地質年代（Time unit）、考古遺物の年代（Ethnostratigraphic unit）によって区分している。本報告では堆積相(Facies)と遺物・遺構帯(Ethnozone)を設定し、地層の物理的な変化を観察するための岩質層序（堆積構造や粒径組成など岩石学的な性質による区分）と文化層序（出土した考古遺物の年代による区分）を分けて記載した。

2）ロード構造については松田(1994)参照

3）縄文時代の海水準最高頂期以降に起こった２回の顕著な海水準低下の比定年代は、那須（1989）の見解に従う。

4）これらの遺跡で見つかった開析谷は縄文時代中期に一度形成され、晩期にもう一度同じ谷底が侵食されてできた谷である。

5）大阪府教育委員会・財団法人大阪文化財センター（1984）のなかで10B・11B・12Bにかけて延びる「自然河川」が開析谷に相当すると思われる。

6）III-2章のプラントオパールの検出結果によると、これらの層準からは栽培種のイネはあまり検出されなかった。もともとなかったと考えるよりも、栽培種のイネのプラントオパールはどのような土壌マトリクスで流出するのか、あるいはどのような土壌の化学的組成のもとで破壊されてしまうのかという議論がまず必要である。開析谷と水田の関係については、後日さらに踏み込んで考察したいと思う。

【文献】

井関弘太郎（1989）3.海水準の変動，「弥生文化の研究１弥生人とその環境」永井昌文，那須孝悌，金関　恕，佐原　眞編，雄山閣出版，P 148-160.

大阪府教育委員会・財団法人大阪文化財センター（1984）「新家遺跡（その２）」近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

那須孝悌（1989）1.活動の舞台：概論，「弥生文化の研究１弥生人とその環境」永井昌文，那須孝悌，金関　恕，佐原　眞編，雄山閣出版，P 119-130.

東大阪市文化財協会（1995）「段上遺跡第３次発掘調査現地説明会資料」

松田順一郎（1994）足跡とは似而非なるロードキャストについて，東大阪市文化財協会ニュース，6(2)，P 1-5.

松田順一郎・別所秀高（1995）東大阪市宮ノ下遺跡の貝塚にみられる地震による変形構造，日本文化財科学会第12回大会研究発表要旨集，P 66-67.

Butzer, K. B. (1982) *Archaeology as Human ecology*. Cambridge University Press, P 104-114.

Folk, R. L. (1954) The Distinction Between Grain Size and Mineral Composition in Sedimentary-Rock Nomen-clature. *Journal of Geology*, 62, P 344-359

Hedberg, H. D. (1976) *International Stratigraphic Guide : A Guide to Stratigraphic Classifications, Terminology and Procedure*. New York : Wiley.

NACOSN (1983) *North America Stratigraphic Code*. American Association of Petroleum Geologist Bulletin, 67. P 841-875.

Waters, R. W. (1992) *Principle of Geoarchaeology*. The Universuty of Arizona Press, P 291-316.

Wentworth, C. K. (1922) A Scale of Ggrade and Class Terms for Clastic Sediments. *Journal of Geology*, 30, P 377-392.

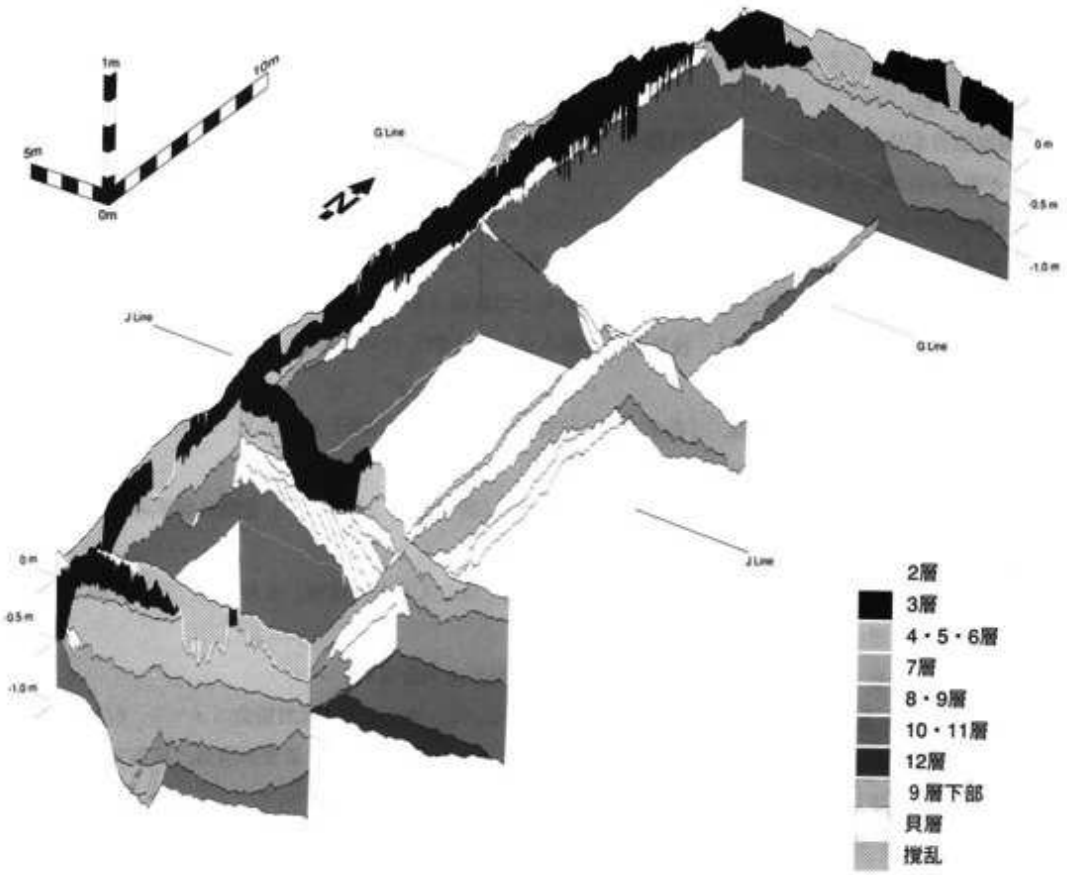


fig.37　A地区の層序側方分布図

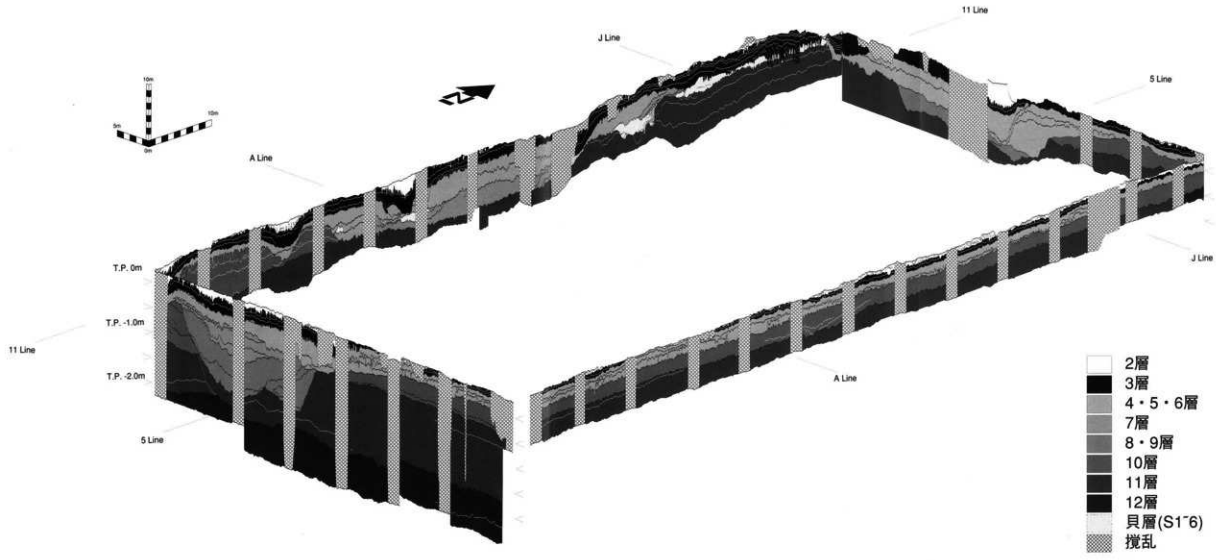


fig.38　宮ノ下遺跡第1次調査区の層序側方分布図

III-2. 古環境

辻本裕也・伊藤良永・馬場健司（パリノ・サーヴェイ株式会社）

1. はじめに

河内平野には縄文時代以降の遺跡が多数分布している。これらの遺跡の分布は縄文海進後の陸域の拡大といった地形発達史と密接な関わりを持っている。今回調査が行われた河内平野中央部に位置する宮ノ下遺跡は、縄文海進後の海退期以降の河内平野の古地理変遷を捉える上で重要な場所に位置している。古地理変遷を明らかにすることは、本遺跡および平野に位置する遺跡での人間活動を捉える上で重要な情報となる。そこで、本遺跡では、これを考慮して、自然科学分析調査を応用した調査が実施されている。

今回の自然科学分析調査は、その調査の一環として実施するものであり、堆積域の環境変化と周辺植生を復元することに主目的がある。具体的な調査方法としては、堆積層中に時間軸を設けるために放射性炭素年代測定、堆積環境の変遷を捉らえるために珪藻分析、周辺植生および低地での稲作に関する情報を得るために花粉分析・植物珪酸体分析を実施する。なお、結果表については紙面の都合により割愛している。

2. 調査地点試料

試料は、各調査地点より層位単位で柱状ブロック状に採取された土壌試料と、堆積物中の材・貝などの試料である。採取試料は、室内で再度観察し、調査目的および層相変化を考慮しながら各分析用の試料を選択した（fig.39）。

3. 堆積年代と堆積環境

3−1. 方法

古地理および古環境復元においては、調査区に分布する堆積層の堆積年代および堆積環境をまず明らかにしなければならない。堆積年代を知るための方法は、指標テフラ・古地磁気による方法、放射性炭素年代測定などの絶対年代による方法などがある。今回は指標テフラが認められなかったことから、堆積層中に包含する材と貝を対象とした放射性炭素年代測定を実施する。また、堆積環境については、堆積層の層相から推定される情報の他に、当時の水域環境の指標となる珪藻化石の産状について調査する。これらの情報と発掘調査時に得られた情報を総合的に捉えることにより、調査区の環境変遷について検討する。

3−2. 放射性炭素年代測定

（1）試料・方法

試料は、12層・11層・9層・S6層・S5層・S4層・S1層の各層から採取された材・貝・炭化物の合計20点である。試料の採取層位および質は、結果とともにtable. 1に示す。測定は学習院大学木越研究室に依頼して測定して頂いた。

（2）結果

各層位から採取された試料の測定結果をtable. 1に示す。

table.1　放射性炭素年代測定結果

試料番号	採取層位（地点）	試料の質	年代（1950年よりの年数）	Code No.
1	S1層 (Loc. 9)	貝	2790± 90 840 B.C.	Gak-17236
2	S4層 (Loc. 9)	貝	2590± 90 640 B.C.	Gak-17243
3	S4層 (Loc. 9)	貝	2690± 80 740 B.C.	Gak-17235
4	S4層 (Loc. 9)	貝	2970±100 1020 B.C.	Gak-17238
5	S5層	貝	3340± 90 1390 B.C.	Gak-17241
6	S5層	貝	2690±100 740 B.C.	Gak-17240
7	S5層	貝	3110±100 1160 B.C.	Gak-17242
8	S5層	炭化物	3280±200 1330 B.C.	Gak-17248
9	S5層 (Loc. 9)	貝	3050± 70 1100 B.C.	Gak-17237
10	S6層 (Loc. 1)	貝	2860± 80 910 B.C.	Gak-17231
11	S6層 (Loc. 1)	貝	2530± 80 580 B.C.	Gak-17232
12	S6層 (Loc. 1)	貝	2300± 90 350 B.C.	Gak-17234
13	S6層 (Loc. 1)	貝	2890± 90 940 B.C.	Gak-17244
14	S6層 (Loc. 1)	貝	3120± 90 1170 B.C.	Gak-17233
15	9層 (Loc. 19)	材	5670±110 3720 B.C.	Gak-17247
16	9層最下部 (Loc. 19)	材	5050±120 3100 B.C.	Gak-17249
17	10層最下部 (Loc. 2)	貝	3290±100 1340 B.C.	Gak-17239
18	11層上部 (Loc. 1)	貝	3210±100 1260 B.C.	Gak-17245
19	11層 (Loc. 1)	材	4580±110 2630 B.C.	Gak-17246
20	12層下部 (Loc. 11)	材	5690±110 3740 B.C.	Gak-17822

＊半減期はLIBBYの半減期5570年を使用

3－3．珪藻化石群集

（1）試料・方法

分析は、LOC.10・11・1・19・9・2より採取された試料54点（fig.39）と10層試料の4点の合計58点である。10層試料は、堆積構造から推定される堆積環境が不明瞭であったため、調査区内の複数地点において層位試料を別途採取した。試料から珪藻化石を抽出する方法は次の通りである。

試料を乾燥機により絶乾させ、乾燥重量を量る（3.11～14.68g）。秤量後、過酸化水素水（H_2O_2）処理、塩酸（HCl）処理を行い、試料の泥化と有機物の分解・漂白、次に自然沈降法で粘土分、傾斜法で砂分を除去し珪藻化石を濃集する。残渣を検鏡に適する濃度まで希釈（希釈倍率を求めておく）し、一定量（0.4 ml）を計り取り一辺15mmのカバーガラス上に滴下・乾燥させ、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、プレパラート全面をメカニカルステージで任意の測線に沿って走査しながら、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に同定・計数する。この際、種の同定は、K.Krammer and Lange-Bertalot（1986・1988・1991a･b）、K.Krammer（1992）などを参考とする。また、珪藻化石の保存状況を知るために完形殻・非完形殻の比率（完形殻の出現率）を求める。

結果は珪藻化石群集の層位分布図として示す。この際、同定された各種類は塩分濃度に対する適応性から産出種を海水-汽水-淡水生種に分類し、淡水生種については更に塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応性について生態区分する。図中の海水-汽水-淡水生種の帯グラフと各種産出率は全体基数、淡水生種の生態性の帯グラフは淡水生種の合計を基数とする相対頻度で算出する。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、ハイフンで結んだ分類群は、両者の区別が不明瞭なものである。また、●は1％未満の産出、○は100個体未満の試料における産出を示す。堆積環境の解析に当たっては、海～汽水生種については小杉（1988）、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）の環境指標種を参考とする。珪藻の生態性の解説をtable. 2に示す。

（2）各地点の珪藻化石群集

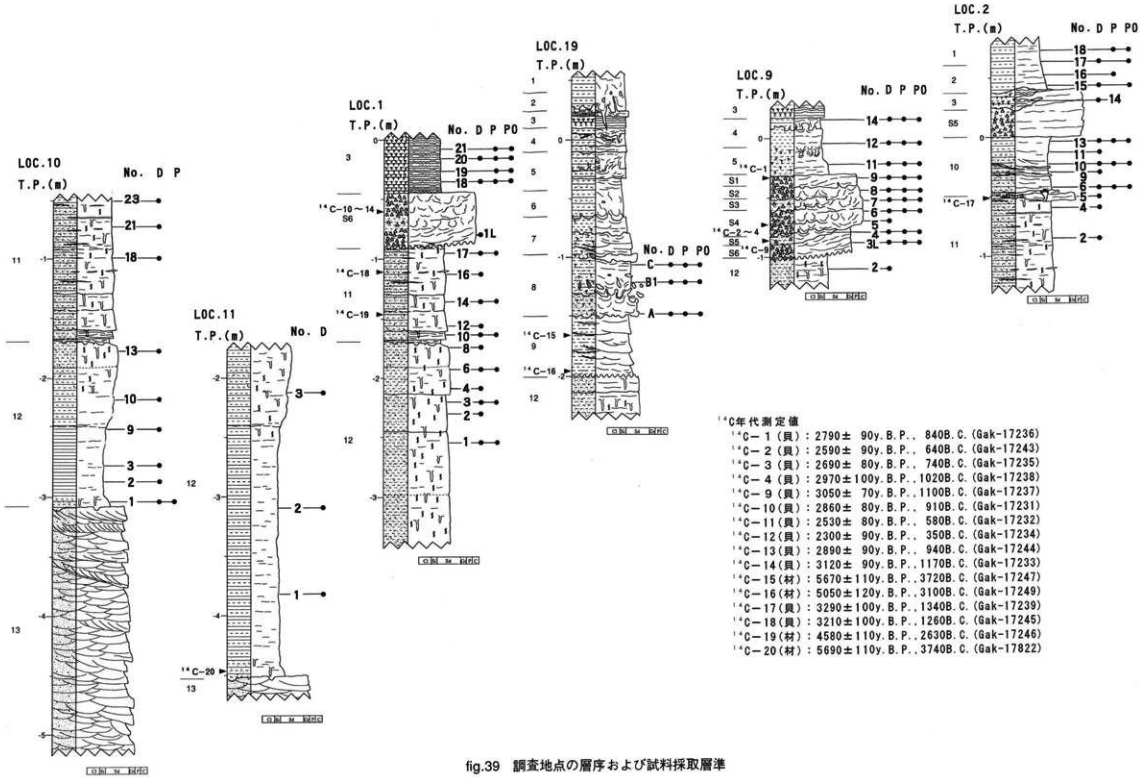


fig.39　調査地点の層序および試料採取層準

¹⁴C年代測定値

¹⁴C－1（貝）：2790± 90y.B.P.，840B.C.(Gak-17236)
¹⁴C－2（貝）：2590± 90y.B.P.，640B.C.(Gak-17243)
¹⁴C－3（貝）：2690± 80y.B.P.，740B.C.(Gak-17235)
¹⁴C－4（貝）：2970±100y.B.P.，1020B.C.(Gak-17238)
¹⁴C－9（貝）：3050± 70y.B.P.，1100B.C.(Gak-17237)
¹⁴C－10（貝）：2860± 80y.B.P.，910B.C.(Gak-17231)
¹⁴C－11（貝）：2530± 80y.B.P.，580B.C.(Gak-17232)
¹⁴C－12（貝）：2300± 90y.B.P.，350B.C.(Gak-17234)
¹⁴C－13（貝）：2890± 90y.B.P.，940B.C.(Gak-17244)
¹⁴C－14（貝）：3120± 90y.B.P.，1170B.C.(Gak-17233)
¹⁴C－15（材）：5670±110y.B.P.，3720B.C.(Gak-17247)
¹⁴C－16（材）：5050±120y.B.P.，3100B.C.(Gak-17249)
¹⁴C－17（貝）：3290±100y.B.P.，1340B.C.(Gak-17239)
¹⁴C－18（貝）：3210±100y.B.P.，1260B.C.(Gak-17245)
¹⁴C－19（材）：4580±110y.B.P.，2630B.C.(Gak-17246)
¹⁴C－20（材）：5690±110y.B.P.，3740B.C.(Gak-17822)

table.2　珪藻の生態性

塩分濃度に対する区分		塩分濃度に対する適応性		生育環境（例）
海水生種：強塩性種（Polyhalobous）		塩分濃度40.0‰-ts以上に出現するもの		低緯度熱帯海域・塩湖など
海水生種：真塩性種（Euhalobous）		塩分濃度30.0～40.0‰-tsに出現するもの（海産生種）		大陸棚および大陸棚以深の海域など
汽水生種：中塩生種（Mesohalobous）		塩分濃度0.5～30.0‰-tsに出現するもの	強中塩生種（α-Mesohalobous）	河口・内湾・潮間帯・海跡湖・干潟など
			弱中塩生種（β-Mesohalobous）	
淡水生種：貧塩生種（Oligohalobous）		塩分濃度0.5‰-ts以下に出現するもの		湖沼・池・沼・河川・湿沢地・泉など
塩分・pH・流水に対する区分		塩分・pH・流水に対する適応性		
塩分に対する適応性	貧塩－好塩性種（Halophilous）	少量の塩分がある方が良く生育するもの		塩水湖上域・温泉など
	貧塩－不定性種（Indifferent）	少量の塩分があってもこれに良く耐えることができるもの		湖沼・池・沼・河川・湿沢地など
	貧塩－嫌塩性種（Halophobous）	少量の塩分にも耐えることができないもの		湿原・湿地・湿沢地など
	広域塩性種（Euryhalinous）	低濃度から高濃度まで広い範囲の塩分濃度に適応して出現するもの		河口など
pHに対する適応性	真酸性種（Acidobiontic）	pH7.0以下に出現、特にpH5.5以下の酸性水域で最も良く生育するもの		火口湖・湿原・湿地・泥炭地など
	好酸性種（Acidophilous）	pH7.0付近に出現、pH7.0以下の水域で最も良く生育するもの		湿原・湿地・湿沢地・泥炭地など
	pH-不定性種（Indifferent）	pH7.0付近の中性水域で最もよく生育するもの		湖沼・池沼・河川など
	好アルカリ性種（Alkaliphilous）	pH7.0付近に出現、pH7.0以上の水域で最も良く生育するもの		
	真アルカリ性種（Alkalibiontic）	pH8.5以上のアルカリ性水域で最も良く生育するもの		アルカリ性水域
流水に対する適応性	真止水性種（Limobiontic）	止水域にのみ出現するもの		湖沼・池沼など
	好止水性種（Limophilous）	止水域に特徴的であるが、流水にも出現する		湖沼・池沼・河川下流域など
	流水不定性種（Indifferent）	止水域にも流水域にも普通に出現するもの		河川・川・池沼・湖沼など
	好流水性種（Rheophilous）	流水域に特徴的であるが、止水域にも出現するもの		河川・川・小川・河川上流域など
	真流水性種（Rheobiontic）	流水域にのみ出現するもの		河川・川・渓流・河川上流域など
陸生珪藻	好気性種（Aerophilous）	好気的環境（Aerial habitats） 陸上の常に大気に曝された特殊な環境に耐性のある珪藻の一群で多少の湿り気と光さえあれば、土壌表面やコケ類の表面に生育可能 特に、土壌表層中に生育する陸生珪藻を土壌珪藻という		・土壌表面や土壌表層中に付着生育 ・木の根元や幹に生えたコケ類に付着生育 ・濡れた岩の表面やそれに生えたコケ類に付着生育 ・滝の飛沫で湿ったコケ類や石垣・岩上のコケ類に付着生育 ・洞窟入口や内部の照明の当たったところに生えたコケ類に付着生育

註）塩分に対する区分はLowe（1974）、pHと流水に対する区分はHustedt（1937-39）による。

a) LOC.2

結果をfig.40に示す。同定された分類群数は、全層準を通じて237であり、淡水生・海～汽水生種からなる。多産した層準の化石の保存状態は良好である。

11層（試料番号１・４）は、海水～汽水生種と淡水生種がほぼ同率の産出を示す。海水～汽水生種では*Opephora martyi*が多産し、*Navicula pseudony*、*Achnanthes haukiana-A. delicatula*、*Catenula adhaerens*、*Diploneis smithii*、などを伴う。淡水生種では、*Fragilaria brevistriata*が20～30%と多産する。

10層（試料番号５～13）は、海～汽水生種の占める割合が減少し、淡水生種が増加する。淡水生種の生態性は、いずれの層準も貧塩－不定性種、真・好アルカリ性種、真・好止水性種が優占する。各種群では、好止水性の*Fragilaria brevistriata*が30～50%と優占し、海水付着性の*Navicula pseudony*が10～20%と多産する。これに付随して、汽水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、海水砂質干潟指標種群の*Opephora martyi*、*Achnanthes haukiana-A. delicatula*、汽水付着性の*Catenula adhaerens*などを伴う。

３・２層（試料番号14・15）は、珪藻化石の保存状態が悪く、化石数も少ない。

１層（試料番号17）は、淡水生種からなり、その生態性は貧塩－不定性種、真・好アルカリ性種、真・好止水性種が優占する。真～好酸性種の占める割合も高い。各種群では湖沼沼沢湿地指標種群の*Aulacoseira ambigua*、淡水浮遊性の*Aulacoseira italica*、好止水性の*Fragilaria construens* var. *venter*が多産する。

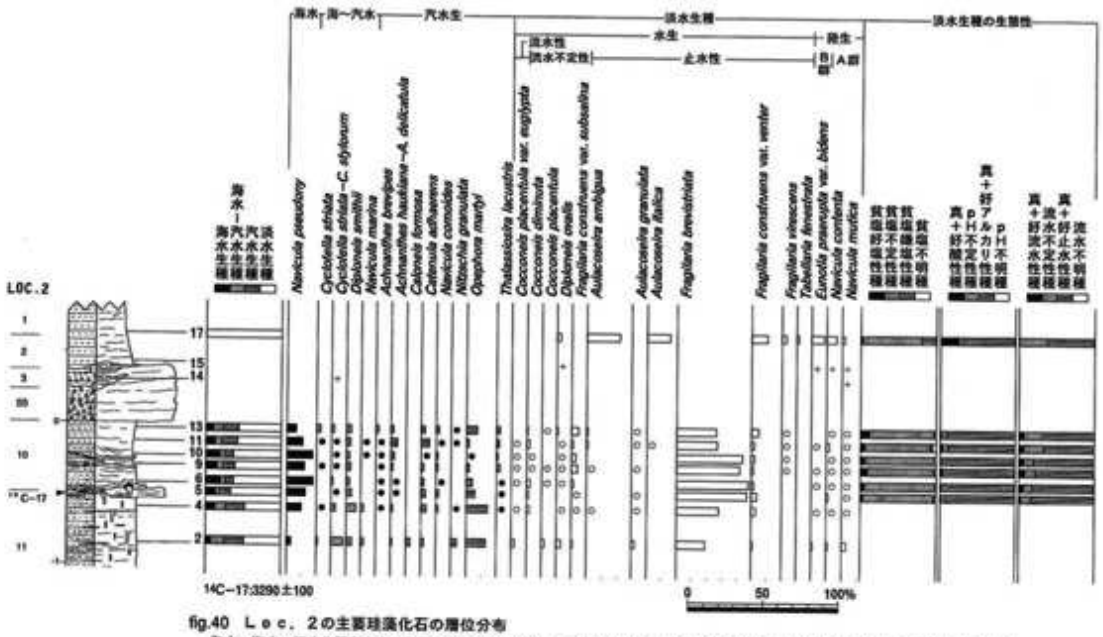


fig.40　Ｌｏｃ．２の主要珪藻化石の層位分布

海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種合計数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は１％未満、＋は化石数100個未満の試料において出現した種類を示す。

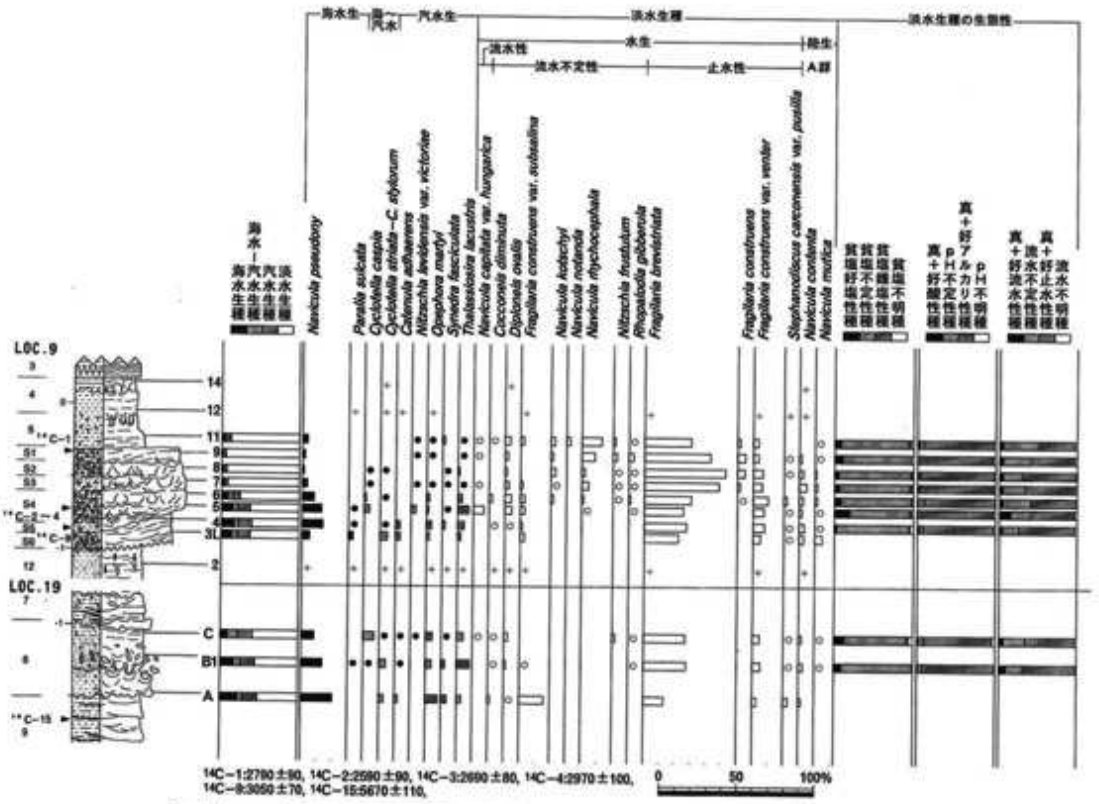


fig.41　Ｌｏｃ．９・19の主要珪藻化石の層位分布

海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種合計数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は１％未満、＋は化石数100個未満の試料において出現した種類を示す。

b) LOC.9

珪藻分析結果をfig.41に示す。同定された分類群数は、全層準を通じて220であり、海水～汽水生種と淡水生種からなる。珪藻化石群集はS4層とS3層の間の層準で変化する。

S6層～S4層（試料番号3L～６）では、海～汽水生種が35%前後産出する。各種群では、淡水生の*Fragilaria brevistriata*、海水付着性の*Navicula pseudony* が10～25%と多産し、汽水浮遊性の*Thalasiosira lacustris*、好止水性の*Fragilaria construens* var. *venter* を伴う。

S3層～５層下部（試料番号７～11）では、淡水生種が優占する。淡水生の*Fragilaria brevistriata* が増加し、逆に*Navicula pseudony*をはじめとする海水～汽水生の種群が減少する。

c) LOC.19

珪藻分析結果をfig.41に示す。同定された分類群数は、全層準を通じて192であり、海水・汽水・淡水生種からなる。珪藻化石群集は層位的に多少変化する。

８層下部（試料番号Ａ）では、海水付着性の*Navicula pseudony*、淡水生の*Fragilaria construens* var. *subsalina*、*F. brevistriata* が15～20%と多産し、海水砂質干潟指標種群の*Opephora martyi*を伴う。８層上部（試料番号Ｂ１・Ｃ）では、汽水～淡水生の*Fragilaria brevistriata*が約30%と優占し、海水付着性の*Navicula pseudony* が10～20%と多産する。これに付随して、汽水浮遊性の*Thalasiosira lacustris*、好止水性の*Fragilaria construens var. venter* を伴う。

d) LOC.1

珪藻分析結果をfig.42に示す。検出された分類群数は、全層準を通じて138であり、淡水生種、海～汽水生種からなる。多産した試料のうち試料番号12では破損している化石が多い。

12層（試料番号２）は、海水～汽水生種が90%以上と卓越する。各種群では内湾指標種群の*Cyclotella striata-C. stylorum* が優占し、同じく内湾指標種群の*Paralia sulcata* 、汽水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、海水泥質干潟指標種群の*Nitzschia compressa* var. *elongata*、*N. granulata*、海水浮遊性の*Biddulphia* sp.A、海水付着性の*Grammatophora macilenta* などを伴う。

11層（試料番号17）は海～汽水生種と淡水生種からなり、前者が約35%を占める。淡水生種の生態性は、貧塩－不定性種、真・好アルカリ性種、真・好止水性種が優占する。各種群では淡水生の*Fragilaria brevistriata*、海水砂質干潟指標種群の*Opephora martyi* が10～20%と多産し、内湾指標種群の*Cyclotella striata-C. stylorum*、海水泥質干潟指標種群の*Navicula marina* を伴う。

３層（試料番号18・20）は、下部から上部にかけて変化する。下部では、淡水生の*Fragilaria brevistriata*、有機汚濁の進んだ水域や好気的環境に耐性のある*Navicula confervacea*、耐乾性の強い陸生珪藻のＡ群の*Navicula contenta* が20%前後と多産し、好止水性の*Fragilaria construens* var. *venter*、*F. virescens* を伴う。上部（試料番号20）では、湖沼沼沢湿地指標種群の*Aulacoseira ambigua*、淡水浮遊性の*Aulacoseira italica*、沼沢湿地付着生種群の*Eunotia praerupta* var. *bidens* が30～20%と多産し、好止水性の*Fragilaria construens* var. *venter* を伴う。

e) LOC.10

結果をfig.43に示す。同定された分類群は、全層準を通じて96であり、海水・汽水・淡水生種

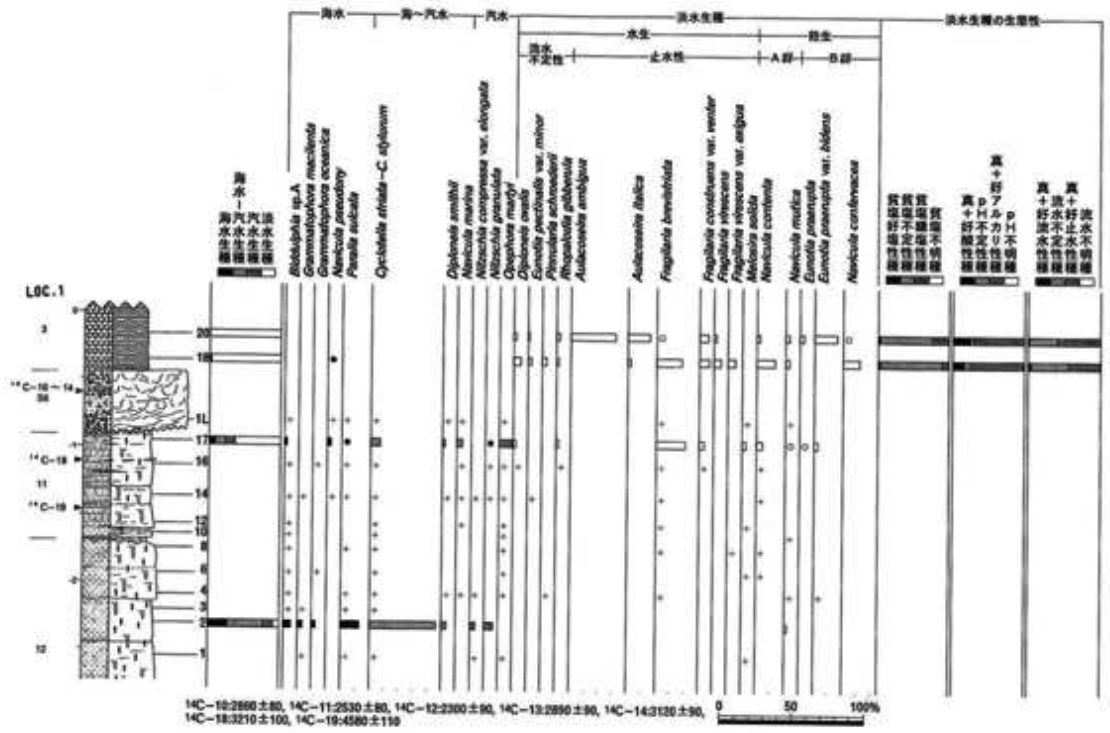


fig.42　Ｌｏｃ．１の主要珪藻化石の層位分布

海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種合計数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は１％未満、＋は化石数100個未満の試料において出現した種類を示す。

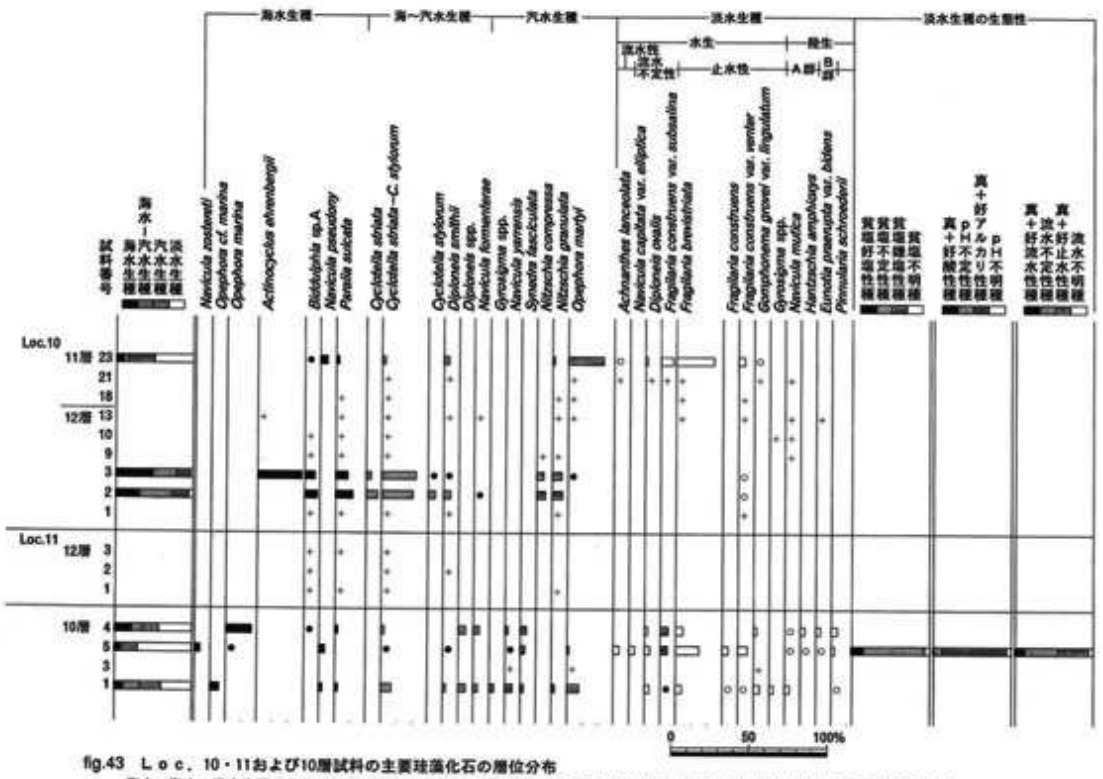


fig.43　Ｌｏｃ．10・11および10層試料の主要珪藻化石の層位分布

海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種合計数を基数として百分率で算出した。
なお、●は１％未満、＋は化石数100個未満の試料において出現した種類を示す。

からなる。試料番号２・３では破損している化石がやや多い。

12層下部（試料番号２・３）では海～汽水生種が優占する。内湾指標種群の*Cyclotella striata-C. stylorum*が20～30%と優占し、同じく内湾指標種群の*Paralia sulcata*、海水浮遊性の*Biddulphia* sp. Aが約10%と多産する。これに付随して、汽水付着性の*Nitzschia compressa*、海水泥質干潟指標種群の*Nitzschia granulata*、内湾指標種群の*Cyclotella striata*などを伴う。12層上部（試料番号23）では、海～汽水生種と淡水生種がほぼ同率の出現を示す。汽水～淡水生の*Fragilaria brevistriata*、海水砂質干潟指標種群の*Opephora martyi*が25%と優占し、汽水～淡水生の*Fragilaria construens* var. *subsalina*、海水付着性の*Navicula pseudony*を伴う。

f) LOC.11

結果をfig.43に示す。全層準を通じて、同定された分類群は11分類群と少なく、絶対化石数も少ない。珪藻化石の保存状態は悪く、ほとんどが溶解したり壊れている。

g) 10層試料

結果をfig.43に示す。各試料を通じて、同定された分類群は57である。試料番号３では化石の保存状態が悪く、化石数が少ない。試料番号４・５・１の珪藻化石群集は、海水～汽水生種と淡水生種からなり、その比率は30～57%である。各種群の産状は各試料で多少異なり、試料番号４では*Opephora marina*、試料番号５では汽水～淡水生の*Fragilaria brevistriata*が多産する。試料番号１では際だって多産する種群はなく、試料番号４と類似した種群が産出する。

3－4．堆積年代と堆積環境

（１）放射性炭素年代測定値について

放射性炭素年代測定値から堆積年代を推定する場合、対象とした試料の質、試料の保存状況、試料を包含していた地層の成因など、複数の要因を考慮する必要がある。

試料の質は、一般的に化学的に充分に安定で、外界からの汚染のないもの、アイソトープ効果の小さいものが良いさとされる。今回は貝殻・木材・炭化物について測定した。これらの試料の性質については、東村（1990）に詳しく、次のように述べられている。

炭化物は最も化学的に安定で、しかも炭素含有量が高いことから信頼性が高い。木材も^{14}C汚染を受けることが少ない試料であるが、大木などでは、材の中心部分と外側で年代値に差が生じることを考慮する必要がある。貝殻は、棲息している水中の炭素が空気中の炭素と同じ^{14}C濃度であったか否かということと、アイソトープ効果の問題がある。一般に海水中の炭素の滞留時間は空気中よりもかなり長いから、その年代は平均して空気中の炭素よりも古い年代を示す。したがって、海産の貝の場合は約400年ほど古すぎる年代を与える場合がある。一方、淡水産の貝の場合は、Dead Carbonの影響により1500年ほど古い年代を示す場合がある。また、アイソトープ効果は、木材に比較して、^{14}C濃度が０～６%大きいと言われており、６%が正しいとすれば、貝殻は500年ほど若すぎる年代を与えることになる。海水産の貝の場合、上記した海水の影響と相殺され、補正の必要はほとんどないとされる。

試料の保存状況については、時期の異なる炭素による汚染などが考えられる。炭化物の場合は

土壌中の腐植の影響、木材の場合は腐敗しているバクテリアなどによる汚染、貝殻の場合は表面が空気中のCO_2と入れ変わっている場合などの汚染が考えられる。ただし、これら汚染の影響は分析時に取り除くことが可能である。

試料を包含していた地層の成因については、試料が現地性であるか異地性であるかを評価する上で重要である。例えば、本遺跡のように低地に位置する遺跡では、遺物を包含する堆積物は河川の運搬堆積作用などにより再堆積したものであり、その中の木材・炭化物なども再堆積したものである可能性がある。そのような場合、それらの木材や炭化物は古い年代値を与えると考えられる。

以上、放射性炭素年代測定値から堆積年代を推定するために考慮すべき点についていくつか述べたが、これ以外にも放射性炭素年代測定方法の精度の問題などがある。現状では放射性炭素年代値の扱いについては、単純に暦年代と合っている、いないの議論をするのではなく、試料の性質や出土層位などの分類基準を確立し、それに基づいた整理方法に取り組み、精度を高めていくことが必要と考える。次に上記のことを考慮しながら、調査地点の堆積層の堆積年代と環境の変遷について述べる。

（2）堆積年代と堆積環境について

今回の調査では、9層を除く、12層から1層の堆積物について調査を実施した。各層の堆積年代および堆積環境について、先述した層序に関する情報を合わせて検討する。

12層：珪藻化石群集は海水～汽水性種が卓越しており、その中では内湾指標種群が優占した。珪藻化石の保存状態が悪かったことから、偏った組成となっている可能性もあるが、淡水生種だけが選択的に分解している可能性は低く、当時の調査地点が内湾に位置していたと考えてほぼ間違いないであろう。本層下部の木材の放射性炭素年代値は、5690±110y.B.P.を示した。本木材は再堆積したものであること、および後述する11層の年代値を考慮すると、本層の堆積年代は5500年前から4000ないし3200年前までの間と幅をもって捉えるべきであろう。

更新世末期に始まる世界的な氷河性海面上昇は、大阪湾岸では約6000年前頃にピークに達し、その海水準は現在より3m高かったことがと推定されている（MAEDA 1976・前田1980）。当時の河内平野一帯には内湾が広がっていたことが推定されている（市原・梶山1985）。この内湾は河内湾と呼ばれており、地形発達史上、古い時期より河内湾1の時代（約7000年～6000年前）、河内湾2の時代（約5000～4000年前）に時期区分されている。今回の調査地点は両時期の古地理図（市原・梶山1985）上では内湾に位置し、上記した堆積環境および放射性炭素年代測定値は既往の調査成果と符号する。

11層：珪藻化石群集は、本層上部で得られたが、下部では化石の保存状態が悪く、層位的変化は捉えられなかった。上部の珪藻化石群集は、海～汽水生種と淡水生種がほぼ同率の割合を占めた。海～汽水生種では内湾指標種群が減少し、干潟の環境を指標する汽水生種が占める割合が高くなった。また、海水付着性の*Navicula pseudony*が多産した。淡水生種では、止水性種である*Fragilaria brevistriata*が卓越したが、本種群は多少の塩分を含んだ汽水域からも多く出現する

ことが知られている。生活型は本来付着性であるが、偶然に付着基物から離れると浮遊生活を行う種群（偶発性浮遊性種）でもある。小杉（1988）は、本種を塩分濃度12～２パーミルの塩性湿地の泥底に付着生育する水泥質干潟指標種群の主要構成種としている。このような珪藻化石群集の特徴と層相からみて、本層堆積期の調査地点一帯は陸水と海水の影響を受ける干潟の環境であったと推定される。ただし、先に述べたように本層下部の堆積環境は不明であり、12層の内湾から本層の干潟への堆積環境の変化様式は不明である。

本層下部の材と上部の貝の14C年代値は、それぞれ4,580±110y.B.P.、3,210±100y.B.P.であった。材は後背地域より水流などにより運搬堆積したとみられることから、堆積年代はそれ以降の時期とみなすのが妥当である。本層上部の貝の年代値および後述する10層の年代値からみて、本層は4500年前～3200年前までの間の時期に堆積した可能性が強い。

10層：珪藻化石群集は地点によって多少の差異があるものの、基本的には類似し、海水～汽水生種が30～50%前後を占める特徴を示した。産出種群の構成は、11層の構成と類似しており、地点によっては海水砂質干潟指標種群の*Opephora martyi*が多産した。これらのことから、調査地点は11層の時期と同様に干潟であったことが推定される。本層最下部の貝の放射性炭素年代値は3290±100y.B.P.を示した。この年代値は11層上部の貝の年代値に近似することから、11層と10層は堆積構造が多少違うものの両層の堆積時期は比較的近接していた可能性がある。

９層：開析谷の谷底に堆積するトラフ型斜交層理のみられる堆積物である。本層中の材の放射性炭素年代値は、5670±110y.B.P.と最下部で5050±120y.B.P.の値を示した。この年代値は、11層・10層の年代値に比較して古く、12層下部の年代値に近い。谷の浸食が11・12層に及んでいることから、^{14}C試料は古い地層から洗い出されて再堆積した材であるとみなせる。したがって、年代値は９層の堆積年代を示しているとはいえない。

８層：９層の上位に堆積する開析谷堆積物である。本層の珪藻化石群集は、海水～汽水性種が35%前後を占めており、種群の構成および産状は10層の群集に類似する。淡水性種の種群も10層と類似し、その多くが塩分濃度の高い水域にも生育可能な種類からなる。これらのことから、本層堆積期の谷内は汽水域であったと推定される。ただし、谷の周縁部が水域であり、汽水干潟であったかについては今後の調査課題として残される。

S6～S1層：開析谷の斜面部分に認められた貝層を主体とする層で、８・９層と同時異相の関係にある。放射性炭素年代値は、S6層が3120±90～2300±90y.B.P.の値を示し、S5層は3340±90～2690±100y.B.P.の値を示した。S6層中の試料よりもS5層中の試料の方が古い値を示す傾向がある。S4層は2970±100～2590±90y.B.P.の値を示し、概ね2700年前頃の値を示すとみてよい。S1層では2790±90y.B.P.の値を示した。上記したように海水産貝の放射性炭素年代値は、海水の影響とアイソトープ効果により相殺され補正の必要がないとされる。したがって、堆積年代は、S6層～S4層が2800年前前後と推定される。なお、S5層の年代がその下位のS6層より古い値を示したのは、層相よりS5層中の貝が再堆積したものであることによると考えられる。S6～S5層から出土する遺物は縄文時代晩期の舟橋式から長原式の土器であるが、上述のS6～S4層の堆積年代

は畿内で得られてる同時期の遺物包含層の年代値とは調和的な傾向にある。S1層は、2700年前頃の時期となるが、出土遺物は弥生時代II様式の新段階の遺物であり、その暦年代とは一致しない。これは、本層の年代値が1点のみの値であるためS6層のような評価はできない。また、再堆積の可能性もあることから、今後試料数を増やすなどして検討する必要がある。

また、このようなS6層の年代値および先述した10層の年代値を考慮すると、谷の形成時期は概ね3000年前頃と推定される。このような開析谷の形成は、日本各地の海岸平野において認められており、海水準の低下と関係していることが指摘されている。縄文海進の最高頂期以後の海水準の小変動は、海退に転じた後、約5000～4000年前頃と、約3000～2000年前頃に相対的海水準が小低下することが知られている（太田，1990）。これらは、各々「縄文中期の小海退」と「弥生の小海退」と呼ばれている。本地点の開析谷も浸食基準面低下によって形成されたものである可能性があり、そうであるとすれば、放射性炭素年代より「弥生の小海退」に伴って形成された谷であることになる。

珪藻化石群集は8層のそれと極めて類似しており、層位的変化も概ね一致しており、同時異相の堆積物であることを裏づける。また、このことは谷内の水位レベルがこれら貝層のレベルまであったことを示している。層位的には、S4層より上位で群集に多少の変化が認められる。S4層より上位では、珪藻化石群集の構成比において海水～汽水生種が占める割合が低率になり、淡水生種の種群が分類群数・量ともに増加した。ただし、ここでの淡水生の種群のほとんどは塩分濃度の高い水域に生育する種群であり、汽水干潟の珪藻群集を構成する要素である。したがって、変遷図上では淡水域に変化したように見えるが、実際の堆積環境は急激に変化しておらず、汽水の水域環境であったと考えるのが妥当である。ただし、微妙な変化ではあるが、S4層より上位では淡水域に限って生育する*Navicula kotschiyi*が低率ながらも連続して出現するようになる。本種群の出現は4層以降の時期には谷内が下位層準に比較して淡水の影響を強く受けるようになったことを示している可能性がある。この変化と類似する変化は、後述する花粉化石群集においても認められる。すなわち、花粉化石群集において、3層より上位で草本花粉が増加しており、後背地域においてこられ草本植物が生育する環境が拡がったことを示唆している。両変化は調査地点近辺の低地の環境変化を反映したものである可能性が強く、その原因としては、1）氷河性海面変動における陸域の拡大、2）堆積物の堆積進行に伴う陸域の拡大の可能性が考えられる。

5層：本層下部の珪藻化石群集は、上記したS4～S1層と同様な特徴を示した。したがって、本層堆積期も同様な汽水域であったことが推定される。

4層：珪藻化石の保存状態が悪く堆積環境については不明である。産出した種群の多くが5層と類似していることから、干潟の環境が継続していた可能性がある。また、後述する3層では堆積環境が急変することから、本層は調査区の堆積環境を論じる上で重要であり、今後の調査課題として残される。

3層：4層の堆積後に形成された流路を埋積する堆積物である。珪藻化石群集は、下部でわず

かに海水～汽水生種を伴うが、大半が淡水生種からなる。このことから、本層堆積期には海水・汽水の影響をほとんど受けなくなり、湖沼～池沼の環境へ変化したことが推定される。また、その珪藻化石群集の特徴は上部については後述する1層の特徴に類似している。この特徴から、本層堆積期には湖沼や池沼のような淡水の止水域であったことが推定される。このように静穏な堆積環境であったことから、本層から出土する大量の木器は水流によって遠方より運ばれてきて堆積したものではない可能性がある。

2層：珪藻化石の保存状態が悪く、堆積環境を特定することはできない。堆積構造からは水成堆積した堆積物であると推定されることから、珪藻化石は堆積後分解している可能性が考えられる。

1層：珪藻化石群集は、淡水生種から構成される。各種群では、湖沼沼沢湿地指標種群や淡水浮遊性種が優占することが特徴である。このことから、本層は、湖沼～池沼のような状況下に堆積した地層であることが推定される。

4. 花粉化石・植物珪酸体からみた古植生・古環境

4－1. 方法

調査地域の古植生復元は、遺跡の古環境を捉えるだけでなく、当時の人間と自然環境との関わりを論じる上で重要な課題である。本遺跡のように沖積低地に位置する遺跡では、古植生復元において有効な情報となり得る植物化石が良好に保存されている場合が多い。今回の調査では、花粉・植物珪酸体分析を実施する。両化石群集は、調査地点の地形環境を考慮すると、堆積域近辺の低地から後背山地までの広い範囲の植生を反映していると考えられ、ここでは周辺の森林植生および低地の植生と稲作の消長について検討する。

4－2. 花粉化石群集

（1）方法

試料採取層準をfig.39に示す。湿重約10gの試料について、HF処理、重液分離（ZnBr2；比重2.2）、アセトリシス処理、KOH処理の順に物理・化学処理を施して花粉化石を分離・濃集する。得られた残渣をグリセリンで封入しプレパラートを作成した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら出現する種類の同定・計数を行う。

分析結果は花粉化石群集の層位分布図として示す。図中の出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総花粉・胞子数から不明花粉を除く数をそれぞれ基数として、百分率で算出してある。

（2）各地点の花粉化石群集の特徴

a) LOC.2

結果をfig.44に示す。10層の花粉化石群集は、木本花粉が高率を占める。その中ではアカガシ亜属が卓越すし、モミ属・ツガ属などの針葉樹の種類を伴う。2・1層の花粉化石群集では、草本花粉が20%前後を占める。スギ属が高率に出現し、次いでマツ属が多産する。このほか、ア

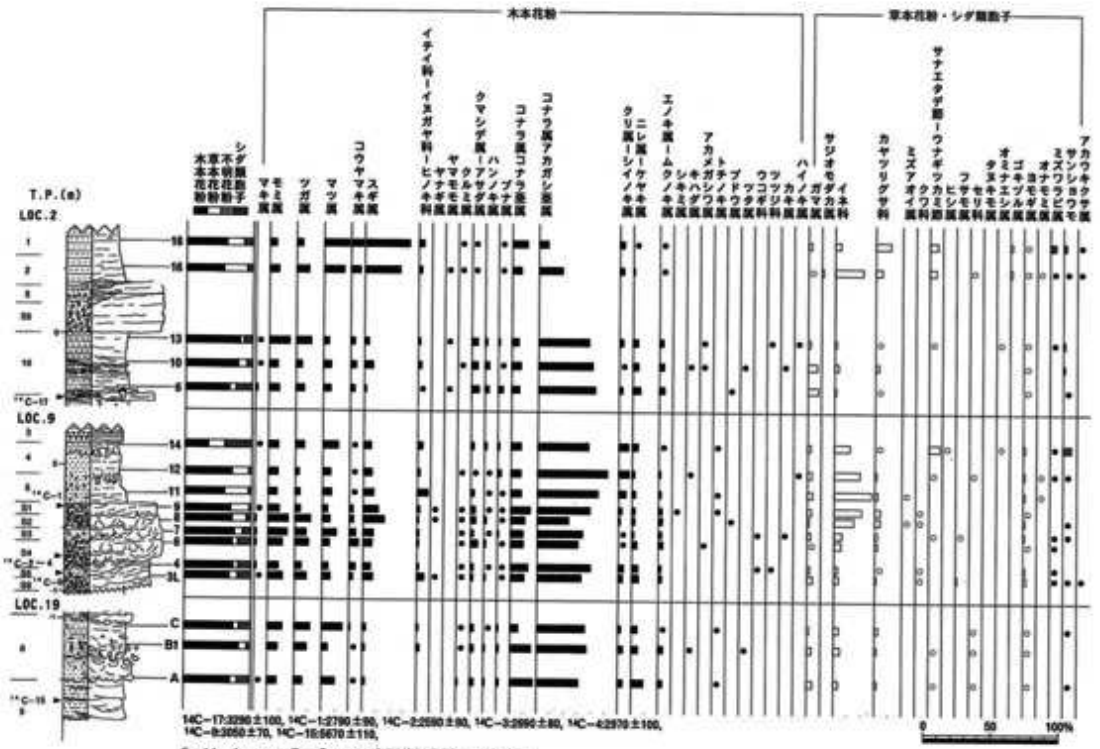


fig.44 Loc. 2・9・19の主要花粉化石の層位分布

出現率は、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子が総花粉・胞子数から不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は1%未満の出現を示す。

カガシ亜属、コナラ亜属を伴う。

b) LOC.9

結果をfig.44に示す。S6層～4層の花粉化石群集はS3層とS2層を境としてに多少変化する。総花粉・胞子の中で木本花粉が最も高率を占めており、次いで草本花粉が30%前後を占める。木本花粉ではアカガシ亜属が最も高率に出現し、モミ属、ツガ属、マツ属、コナラ亜属などを伴う。草本花粉ではイネ科が比較的多産し、ガマ属、カヤツリグサ科、ヨモギ属、オナモミ属などを伴う。

c) LOC.19

結果をfig.44に示す。8層の花粉化石群集は層位的にほとんど変化しない。総花粉・胞子の中で木本花粉が卓越する。その中ではアカガシ亜属が最も高率に出現する。このほかモミ属、ツガ属、マツ属、コナラ亜属が10%前後の出現率を示す。草本花粉ではイネ科・カヤツリグサ科などが低率に出現する。

d) LOC.1・10

結果をfig.45に示す。花粉化石はほとんどの層準で良好に出現するが、試料番号3では少ない。花粉化石群集は層位的に変化する。

12～11層（LOC.10：試料番号1-1，LOC.1：試料番号1～17）では、総花粉・胞子の中で木本花粉が卓越する。その中ではアカガシ亜属が高率に出現する。このほかコナラ亜属、モミ属・ツガ属などを伴う。このうち、モミ属・ツガ属は漸増傾向にある。草本花粉ではガマ属、イネ

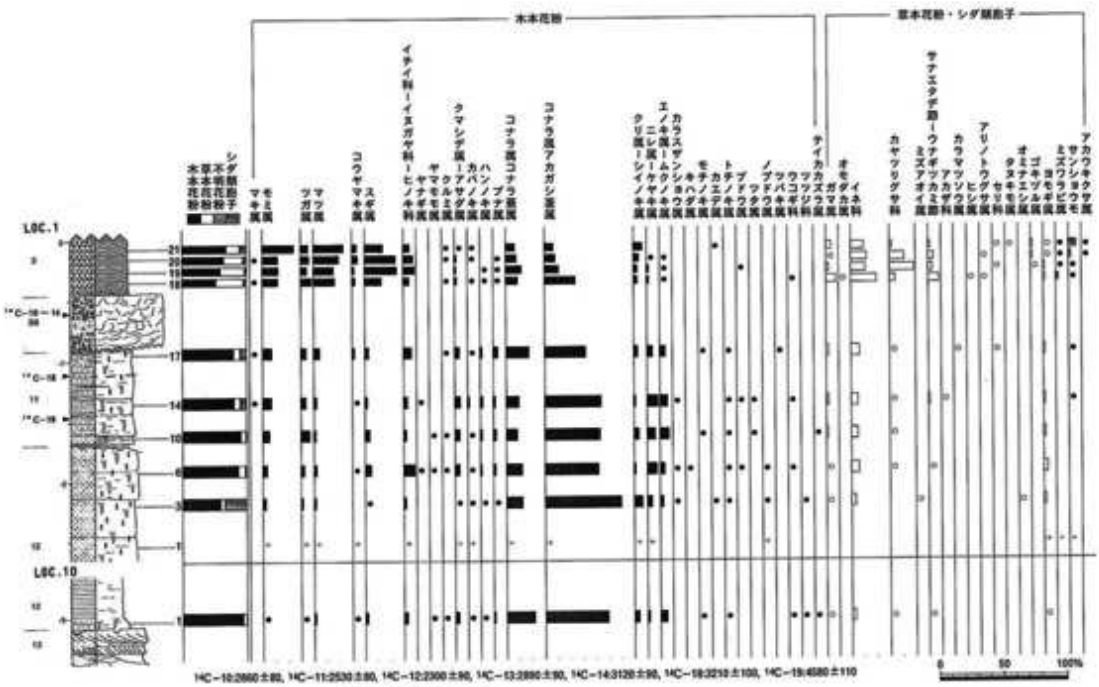


fig.45 Loc. 1・10の主要花粉化石の層位分布
出現率は、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・シダ胞子が総花粉・胞子数から不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は1％未満、＋は花粉化石の保存状態が悪い試料において出現した種類を示す。

科などがわずかに出現する。

3層（LOC.1：試料番号18～21）では、総花粉・胞子の中で草本花粉が増加する。木本花粉では、モミ属・ツガ属・マツ属・スギ属が多産する。12～11層で高率であったアカガシ亜属は上位に向けて減少する。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科などが比較的多産するようになり、ガマ属、ミズワラビ属・サンショウモなどの水生植物の種類が連続して出現するようになる。

4－3．植物珪酸体

（1）方法

試料約10gについて、過酸化水素水（H_2O_2）と塩酸（HCl）による有機物と鉄分の除去、超音波処理（80W，250KHz，1分間）による試料の分散、沈降法による粘土分の除去、ポリタングステン酸ナトリウム（比重2.5）による重液分離の物理・化学処理を順に行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈した後、カバーガラスに滴下し、乾燥させる。その後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

検鏡は、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現するイネ科植物の葉部（葉身と葉鞘）の短細胞に由来する植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身の機動細胞に由来する植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、同定・計数する。なお、同定には、近藤・佐瀬（1986）の分類を参考にした。

結果は植物珪酸体組成の層位分布図として示す。出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の各珪酸体毎に、それぞれの総数を基数として百分率で算出する。なお、●○は1％未満を示し、＋は短細胞珪酸体200個未満、機動細胞珪酸体100個未満の試料において出現した種類を示す。

（2）植物珪酸体群集の特徴

各地点の植物珪酸体分析結果をfig.46に示す。各地点別に植物珪酸体群集について記載する。

a）LOC.1

3層では、ヨシ属が卓越する。このほかタケ亜科、マコモ属、チゴザサ属、キビ族、イチゴツナギ亜科などをわずかに伴う。

b）LOC.2

10層はタケ亜科が卓越し、次いでヨシ属が多産する。このほか、ウシクサ族ススキ属などを伴う。

2層は、ヨシ属が多産し、キビ族、ウシクサ族、マコモ属、栽培種のイネ属などを伴う。1層では、ヨシ属が増加し、卓越する。逆に栽培種のイネ属など随伴種の出現率は減少する。

c）LOC.9

開析谷の埋積物S6層～S1層では、植物珪酸体群集は層位的に変化する。S6・S5層ではタケ亜科が卓越し、次いでヨシ属が多産する。このほか、マコモ属、チゴザサ属、キビ族、イチゴツナギ亜科などをわずかに伴う。S4～S1層ではヨシ属が増加傾向を示し、S1層では卓越するようになる。これとは逆にタケ亜科が減少傾向を示す。また、栽培種のイネ属が増加し、S2・S1層では今回調査した層準の中で最も多産する。

5・4層は、ヨシ属が卓越し、次いでタケ亜科が10%前後の出現率を示す。栽培種のイネ属が随伴するが、出現率は低率である。

d）LOC.19

9層では、短細胞珪酸体でヨシ属、機動細胞珪酸体でタケ亜科が多産する。8層ではヨシ属・タケ亜科が多産する。

4－4．花粉化石・植物珪酸体からみた古植生

（1）森林植生

周辺の森林植生を構成する要素は、4層と3層の間の層準を境として変化した。12層から4層では、暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）の主要構成要素であるアカガシ亜属が卓越しており、当時の調査地点が暖温帯性の気候下に属していたことが推定される。森林構成要素としては、クマシデ属－アサダ属・コナラ亜属・ニレ属－ケヤキ属・エノキ属－ムクノキ属といった落葉広葉樹の種類も普通に認められたであろう。また、モミ属・ツガ属・マツ属・スギ属などの針葉樹の種類は、現在では暖温帯から冷温帯にかけての推移帯に成立する中間温帯林（温帯針葉樹林）の構成要素でもあり、当時も後背山地に分布していたとみられる。これら温帯性針葉樹の種類は、11層より上位で漸増傾向を示しており、先に述べた堆積年代より、約4500～3200年前以降の時期に分布域を広げたことが推定される。また、那須（1989）は大阪平野周辺の山地では温帯性針葉樹の種類が縄文時代晩期の約3000年前から増加することを指摘しており、これが気候の冷涼化・湿潤化に起因することを推定している。今回の温帯性針葉樹の増加も、そのような気候の悪化に伴う植生変化であり、地域的な広がりをもった変化とみなせる。

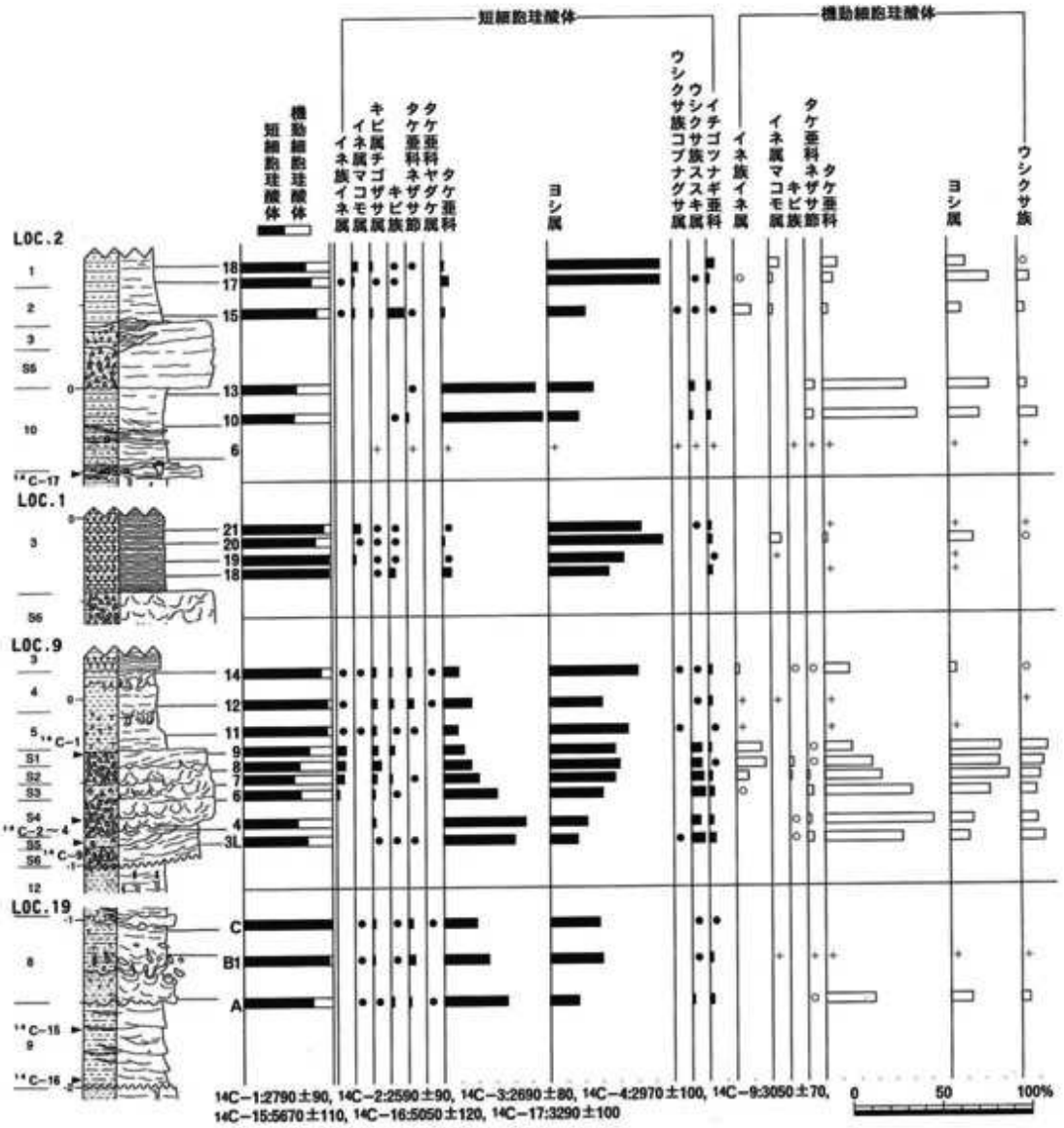


fig.46　Ｌｏｃ．２・１・９・19の植物珪酸体組成の層位分布

出現率は、短細胞・機動細胞珪酸体ともにそれぞれの総数を基数として百分率で算出した。なお、●○は１％未満、＋は短細胞珪酸体200個未満、機動細胞珪酸体100個未満の試料において出現した種類を示す

3層～1層では、マツ属・スギ属といった針葉樹が増加した。マツ属花粉のほとんどは陽樹であるマツ属複維管束亜属の形態に近似しており、卓越していた常緑広葉樹のアカガシ亜属が減少することやその変化が比較的急激であることから、森林植生は急激に変化し、二次林としてのマツ林が分布域を拡げた可能性が強い。時代性は、弥生時代IV様式～5世紀末である。

この時期における植生変化は、生駒山西麓の扇状地上に位置する西ノ辻遺跡でも得られている（未公表）。そこでは植生が急激に変化し、卓越していた照葉樹林が衰退し、草本植生が拡がったことが推定されている。また、那須（1989）は、大阪平野地域では弥生時代の時期に森林破壊は致命的段階に至っておらず、6世紀以降にアカマツ二次林が急速に分布拡大することを指摘している。今回の結果は、これら既往の傾向と調和的であり、この時期の植生変化が比較的広域にわたって起こった変化であることが推定される。この変化の原因としては、人間の植生干渉に起因する可能性が考えられるが、地理的条件の変化（例えば扇状地の発達など）に起因する可能性もあり、古地理変遷や考古学的情報と合わせた評価が必要である。

（2）低地の植生および稲作について

調査地点が砂質～泥質干潟であった11層～5層堆積期は、ヨシ属やガマ属などの大型の抽水植物が生育していたとみられる。10層堆積後に形成された開析谷は、汽水域の環境下で堆積が進行した。この堆積物中の花粉化石・植物珪酸体群集は、S3層を境として層位的に変化した。すなわち、花粉化石ではイネ科が増加し、植物珪酸体ではヨシ属が増加し、ススキ属の産状が顕著になった。この一連の変化は、堆積域において、これら草本植物が繁茂する環境が拡がったことを示しており、陸域が拡がったことを物語っている。

また、S3層～S1層からは栽培種のイネ属の植物珪酸体が比較的多産した。谷地形であることを考慮すると、谷近辺において稲作が行われていた可能性がある。年代的には、S3層からS1層は先に述べたように約2500年前以降であり、出土遺物の時代性に基づくと、弥生時代前期から中期となる。河内平野の低湿地帯に位置する新家、若江北、山賀、友井東、美園遺跡では、弥生時代前期中段階の時期に人間の居住が確認されており、若江北遺跡では水田も検出されている。これらの考古学的な調査成果と今回の結果は調和的なようにみえるが、現段階では遺跡間の対比は慎重でなければならない。また、同時層である8層からはイネ属の植物珪酸体が検出されていないなど矛盾点もあり、今後、谷周縁部分の堆積物について植物珪酸体分析を実施し、考古学的情報と合わせた総合評価が必要である。

谷の埋積がほぼ完了する5・4層の時期も基本的にはヨシ属・ガマ属などの水生植物が分布していたものと思われる。これらの層準では栽培種のイネ属は少なくなることから、何らかの変化が起こっている可能性がある。

4層堆積後に形成された流路は、未分解植物遺体からなる泥炭により埋積している。この泥炭層は、微化石の産状より、ヨシ属やガマ属などの大型の抽水植物に由来するものとみられる。したがって、この時期には流路内およびその周辺にはヨシ属やガマ属が繁茂する場所となったことが推定される。

3～1層の堆積期は池沼のような環境であったと考えられる。堆積域にはヨシ属・ガマ属・マコモ属などの大型の抽水植物が繁茂していたと推定される。また、本層中からは栽培種のイネ属の植物珪酸体が検出されたが、出現率が低率であり、調査区近辺で稲作が行われていたとは考えにくい。本時期の河内平野では既に稲作が行われていたことが各地の遺跡の発掘調査により明らかにされていることを考慮すると、ここでの栽培種のイネ属は後背地域よりもたらされたものである可能性が強い。

5. 古環境変遷

本遺跡で捉えられた環境変遷の概念図をfig.47に示す。調査地点の古環境は、古い時期より、内湾の時期、干潟の時期、池沼の時期に大きく3時期に区分される。それぞれの時代性は、放射性炭素年代測定値および遺物の時代性に基づくと、各々、5500～3200年前の間のある時期、4500年前頃から弥生時代II様式新段階の時期、弥生時代III様式～中世の頃と推定される。以下に各時期ごとに古環境について述べる。

・内湾の時期（12層の堆積期）

調査区は内湾に位置しており、海成粘土層の堆積が進行した。周辺の森林植生は、カシ類を中心とした暖温帯性の広葉樹林であった。

・干潟の時期（11層～5層の堆積期）

本時期は、調査区が砂質～泥質干潟に変化した時期である。この干潟にはヨシ属やガマ属などの大型の抽水植物が繁茂していたことが推定される。約3000年前頃には調査区において谷が形成された。谷内の水域環境は汽水域であり、S4層が堆積する頃には淡水の影響を受けるようになり、谷近辺においてヨシ属やガマ属などが繁茂する場所が拡がったとみられる。また、S3～S1層の時期には堆積域近辺において稲作が行われていた可能性がある。

一方、森林植生は、基本的にはカシ類を主体とした森林が継続していたとみられるものの、本時期には後背山地において温帯性針葉樹の種類が分布域を広げたことが推定される。

・池沼の時期（3層～1層堆積期）

4層堆積後に形成された流路は、ヨシ属などの水湿地生の草本植物が繁茂する池沼のような状況を呈していたと考えられる。これらの水生植物が枯死し、3層の未分解質泥炭層を形成したと考えられる。3層は流路内だけでなく、流路周縁部にも連続して堆積していることから、調査区一帯は湿地帯となったと推定される。2・1層の時期も基本的には同様な池沼のような場所であったと推定されるが、砕屑物の供給量が増加し、泥炭が形成されない環境となったことが推定される。

一方、3～1層堆積期には、森林植生の構成要素において、スギ・マツ類が増加した。この変化は地域的な広がりをもった変化であったことが推定された。

【文献】

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，P 73-88.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用 *Diatom*, 6，23-45.

太田陽子・海津正倫・松島義章（1990）日本における完新世相対的海面変化とそれに関する問題－1980～1988における研究の展望，第四紀研究．29(1)，P 31-48.

近藤錬三・佐瀬 隆（1986）植物珪酸体分析,その特性と応用，第四紀研究．25，P 31-64.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用，第四紀研究．27，P 1-20.

那須孝悌（1989）1.活動の舞台：概論，「弥生文化の研究１弥生人とその環境」．永井昌文，那須孝悌，金関恕，佐原 眞編，雄山閣出版，P 119-130.

東村武信（1990）「考古学と物理化学」．学生社，P 213

渡辺仁治・山田妥恵子・浅井一視（1988）珪藻群集による有機汚濁指数（DAI po）の止水域への適用，水質汚濁研究．11(12)，P 765-773.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1986）*Bacillariophyceae,Teil 1,Naviculaceae.Band 2/1 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa,P 876, Gustav Fischer Verlag.*

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1988）*Bacillariophyceae,Teil 2,Epithemiaceae,Bacillariaceae,Surirellaceae. Band 2/2 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*,P 536, Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1991a）*Bacillariophyceae,Teil 3,Centrales, Fragilariaceae,Eunotiaceae. Band 2/3 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*,P 230, Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1991b）*Bacillariophyceae,Teil 4,Achnanthaceae,Kritsche Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae)und Gomphonema. Band 2/4 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*,P 248, Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K.(1992) Pinnularia, eine Monographie der europaischen Taxa. *BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND* 26.P1-353.BERLIN･STUTTGART.

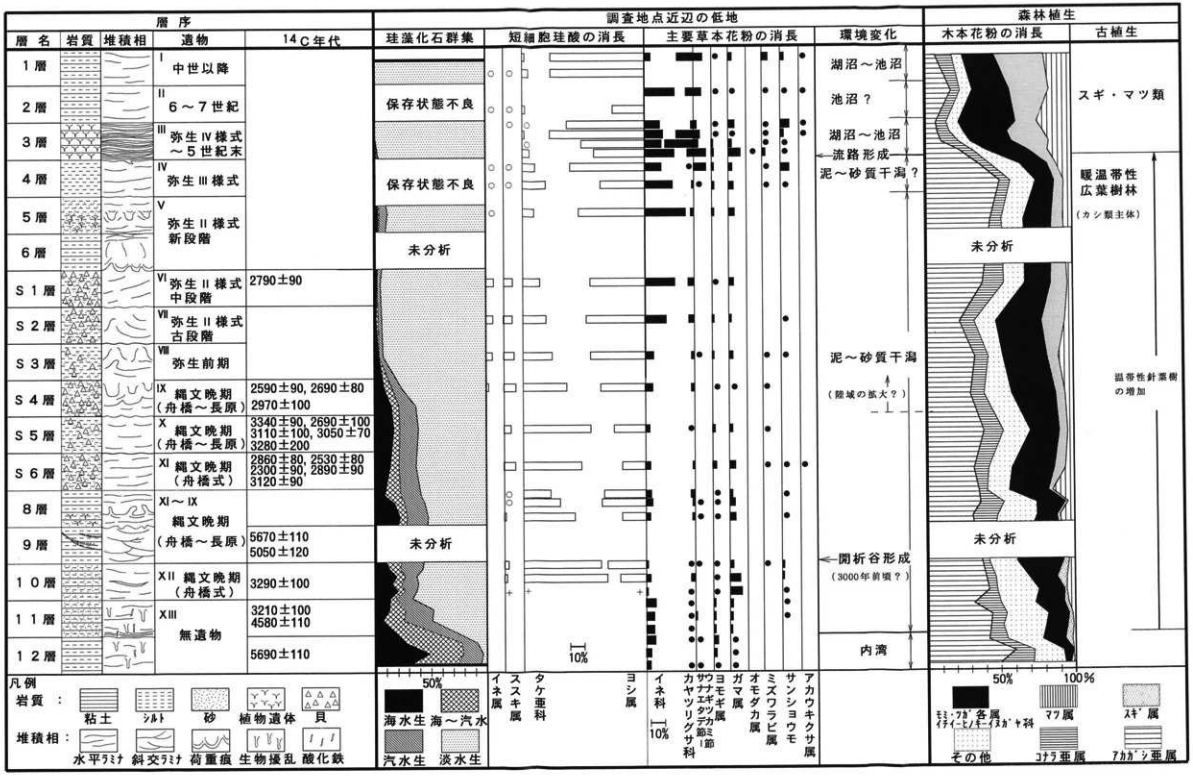
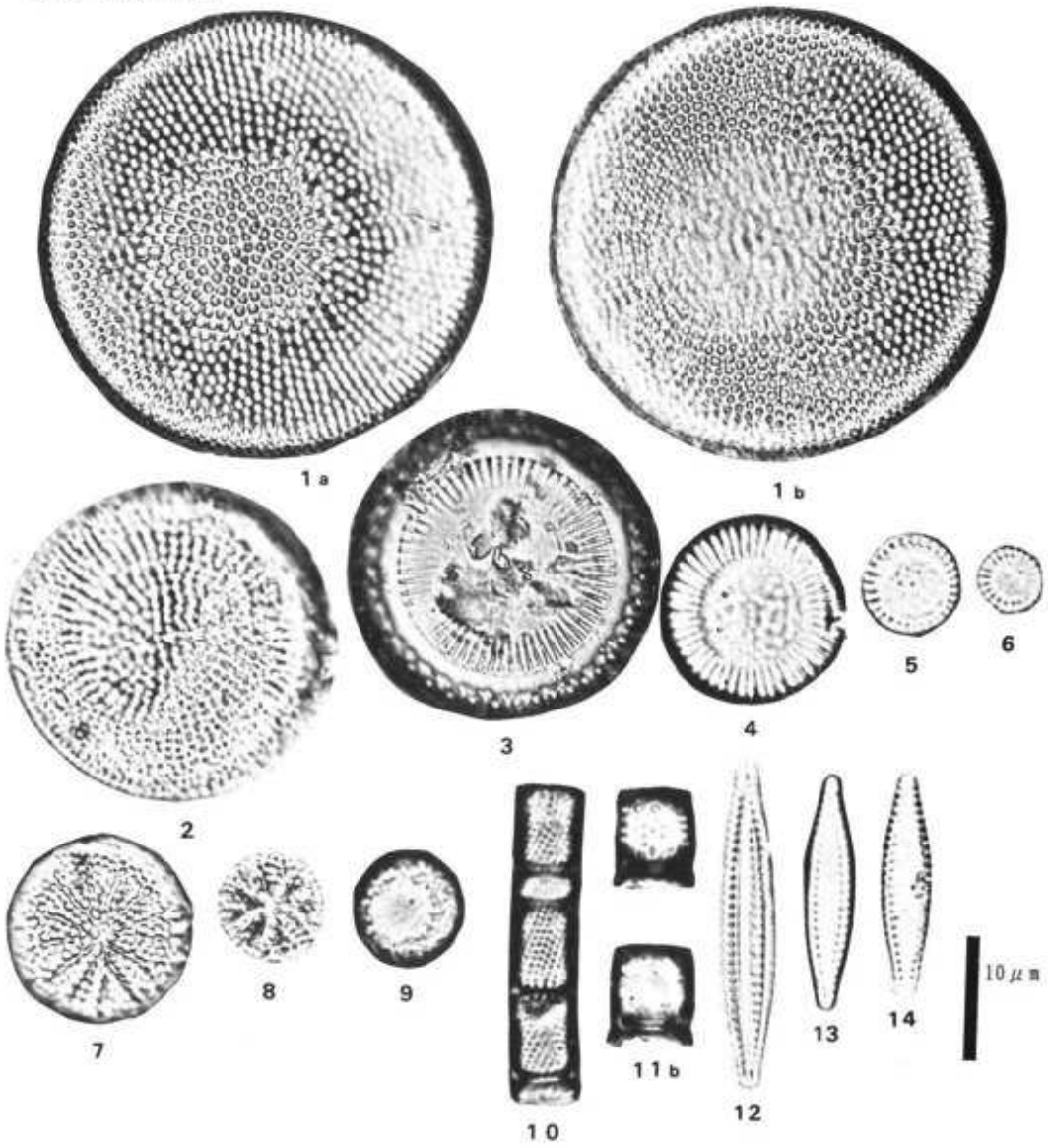


fig.47　宮ノ下遺跡における環境変遷の概念図

fig.48　珪藻化石



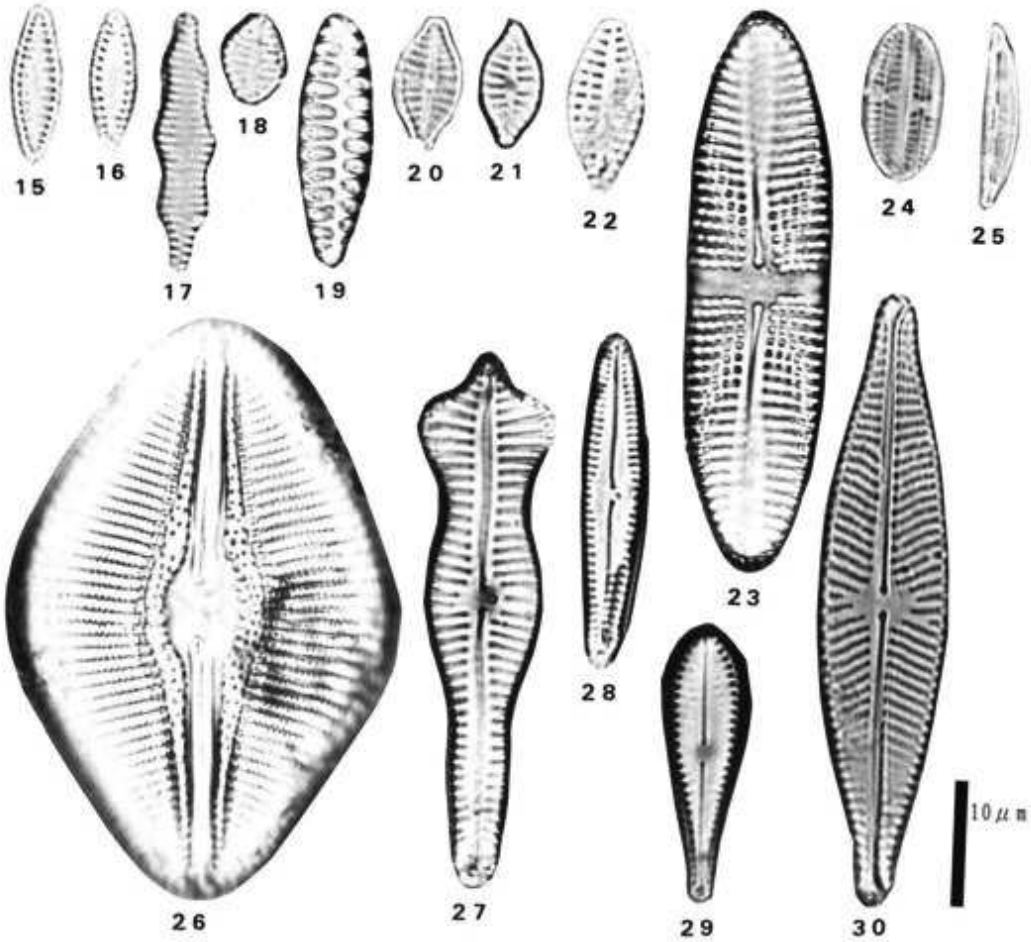
1. *Actinocyclus normanii* (Greg)Husted (Loc.9：試料番号5)
2. *Thalassiosira lacustris* (Grun.)Hasle (Loc.2：試料番号11)
3. *Paralia sulcata* (Ehr.)Cleve (Loc.1：試料番号3)
4. *Cyclotella striata* (Kuetz.)Grunow (Loc.2：試料番号11)

5-6. *Cyclotella caspia* Grunow (Loc.2：試料番号6)

7. *Stephanodiscus carconensis* Grunow (Loc.2：試料番号6)
8. *Stephanodiscus carconensis* var. *pusilla* Grunow (Loc.2：試料番号13)
9. *Melosira* sp.n. (Loc.1：試料番号2)
10. *Aulacoseira ambigua* (Grun.)Simonsen (Loc.9：試料番号7)
11. *Melosira solida* Eulenstein (Loc.2：試料番号11)
12. *Synedra fasciculata* (Ag.)Kuetzing (Loc.2：試料番号13)

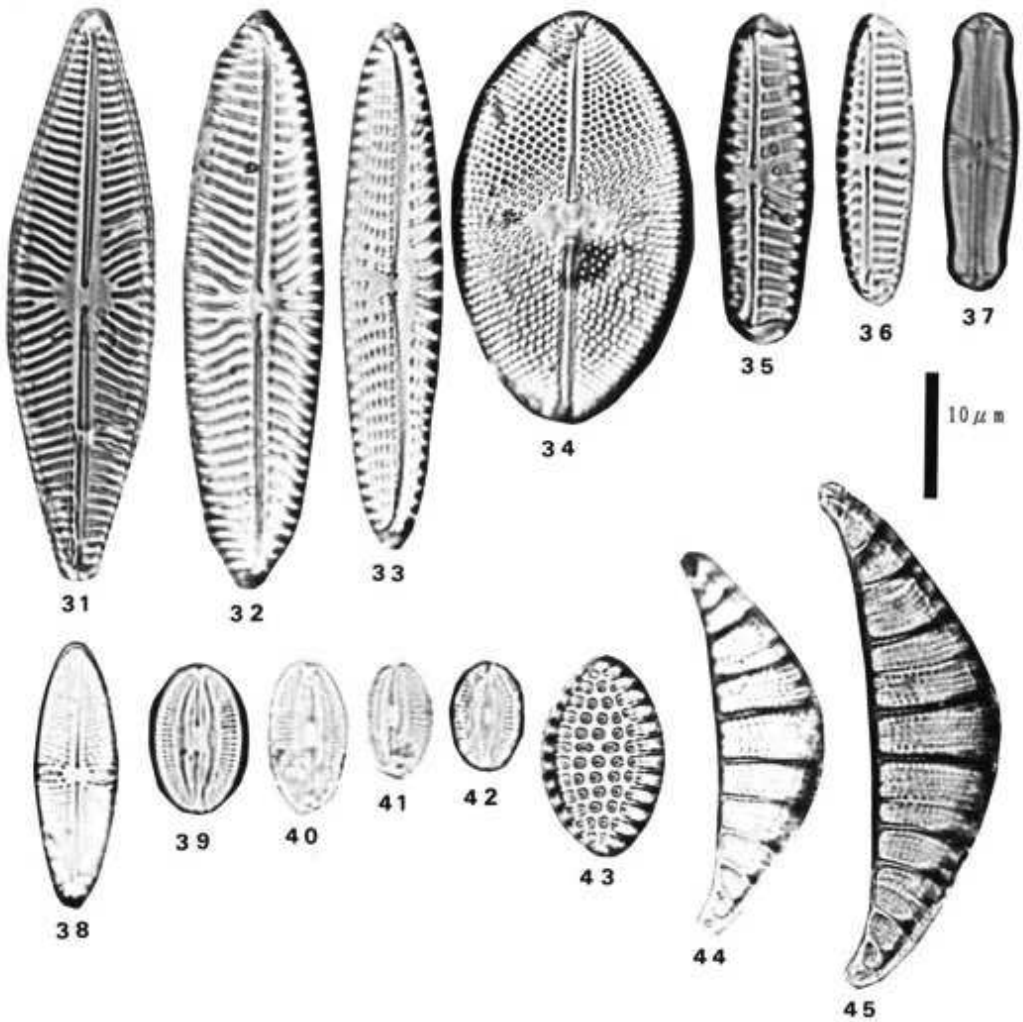
13-14. *Fragilaria brevistriata* Grunow (Loc.2：試料番号11)

fig.49　珪藻化石



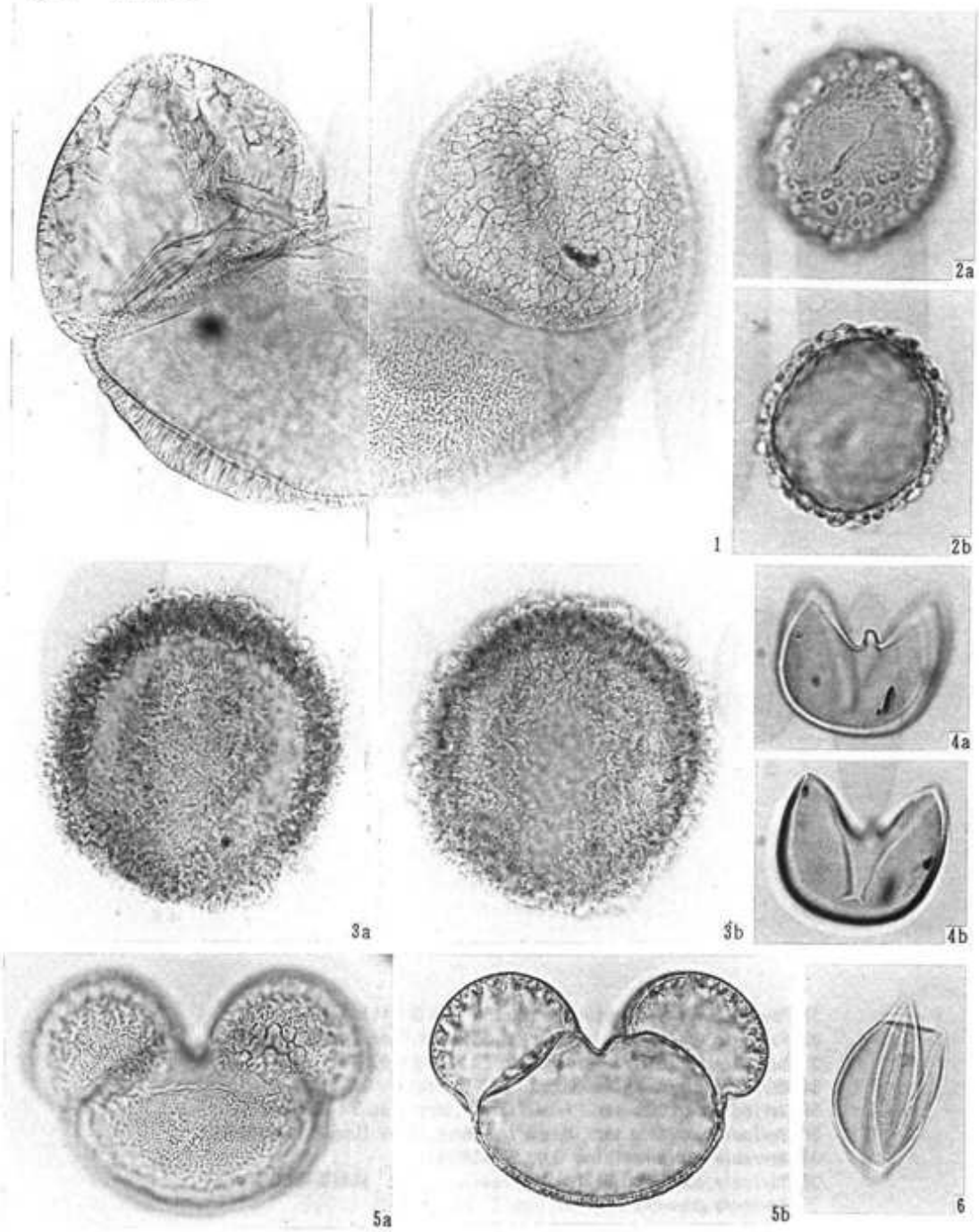
15-16. *Fragilaria brevistriata* Grunow (Loc. 2：試料番号13)
17. *Fragilaria construens* var. *triundulata* Reichelt (Loc. 1：試料番号20)
18. *Fragilaria construens* var. *venter* (Ehr.) Grunown (Loc. 2：試料番号11)
19. *Opephora martyi* Heribaud (Loc. 2：試料番号13)
20-21. *Achnanthes haukiana-A. delicatula* (Loc. 2：試料番号11)
22. *Achnanthes clevei* Grunow (Loc. 2：試料番号13)
23. *Achnanthes brevipes* Agardh (Loc. 2：試料番号9)
24. *Amphora pediculus* (Kuetz.) Grunow (Loc. 2：試料番号11)
25. *Catenula adhaerens* Mereschkowsky (Loc. 2：試料番号13)
26. *Diploneis smithii* var. *rhombica* Mereschkowsky (Loc. 2：試料番号9)
27. *Gomphonema acuminatum* Ehrenberg (Loc. 1：試料番号20)
28. *Gomphonema clevei* Fricke (Loc. 2：試料番号11)
29. *Gomphonema grovei* var. *lingulatum* (Hust.) Lange-Bertalot (Loc. 9：試料番号5)
30. *Navicula rhychocephala* Kuetzing (Loc. 1：試料番号11)

fig.50　珪藻化石



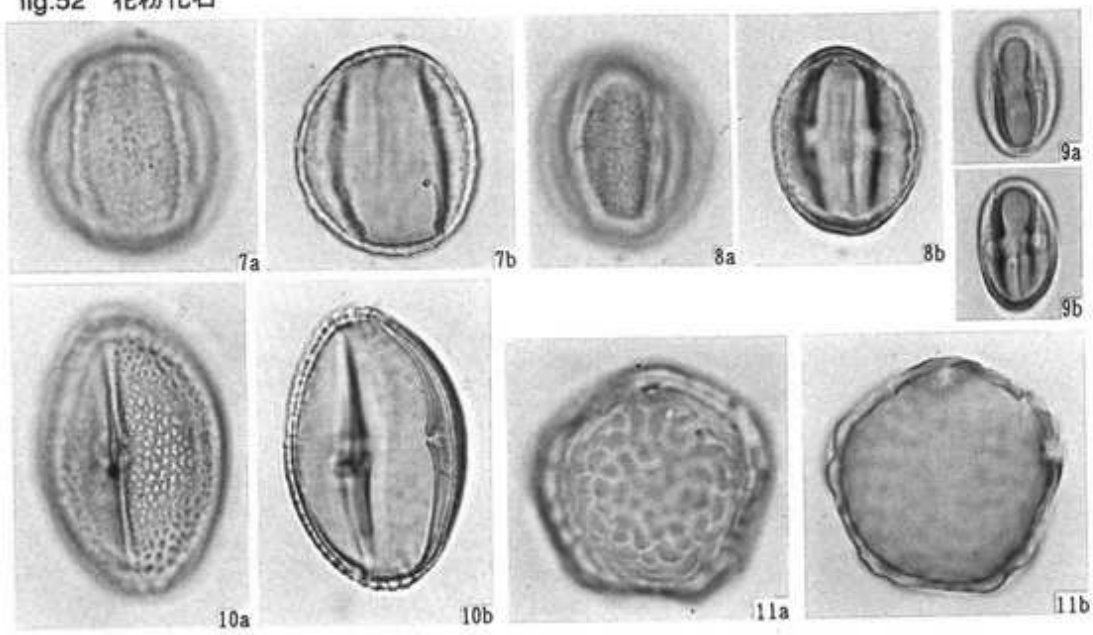
31. *Navicula notanda* Pentocsek (Loc.9：試料番号11)
32. *Navicula digitoradiata* (Greg.)A.Schumidt (Loc.2：試料番号6)
33. *Navicula formenterae* Cleve (Loc.2：試料番号9)
34. *Navicula marina* Ralfs (Loc.2：試料番号10)
35. *Navicula* capitata var. *linealis* Oestrup (Loc.9：試料番号5)
36. *Navicula capitata* var. *hungarica* (Grun.)Ross (Loc.2：試料番号9)
37. *Navicula pupla* Kuetzing (Loc.9：試料番号7)
38. *Navicula comoides* (Dillwgn)Peragallo (Loc.2：試料番号13)
39. *Navicula pseudony* Hustedt (Loc.2：試料番号11)
40·41. *Navicula pseudony* Hustedt (Loc.2：試料番号13)
42. *Navicula pseudony* Hustedt (Loc.2：試料番号9)
43. *Nitzschia granulata* Grunow (Loc.2：試料番号13)
44. *Rhopalodia musculus* (Kuetz.)O.Muller (Loc.2：試料番号13)
45. *Rhopalodia musculus* (Kuetz.)O.Muller (Loc.9：試料番号6)

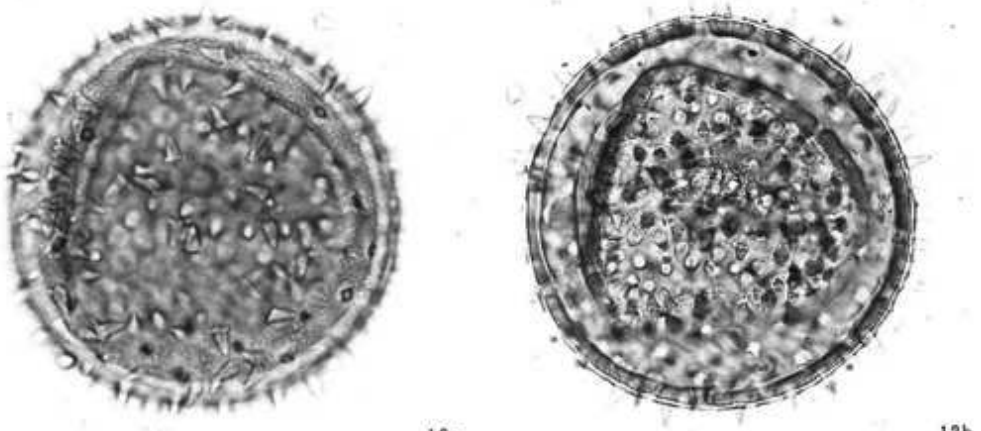
fig.51　花粉化石

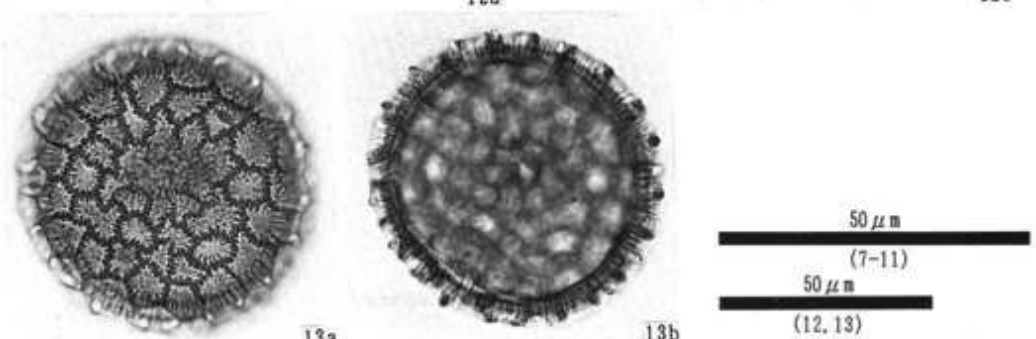


1. モミ属（Loc. 19：試料番号B）
2. コウヤマキ属（Loc. 1：試料番号20）
3. ツガ属（Loc. 1：試料番号14）
4. スギ属（Loc. 1：試料番号20）
5. マツ属（Loc. 19：試料番号B）
6. イチイ科-イヌガヤ科ーヒノキ科（Loc. 1：試料番号20）

fig.52　花粉化石

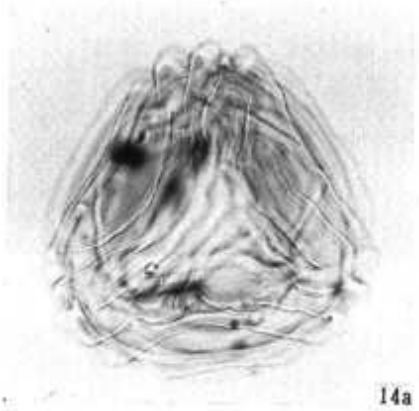




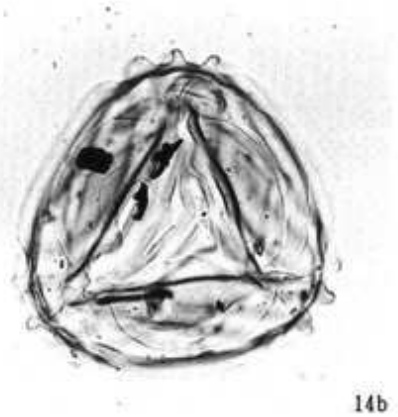


7. コナラ属コナラ亜属（Loc. 11:試料番号1）
8. コナラ属アカガシ亜属（Loc. 11:試料番号17）
9. クリ属ーシイノキ属（Loc. 1:試料番号14）
10. ツタ属（Loc. 1:試料番号17）
11. ニレ属ーケヤキ属（Loc. 1:試料番号4）
12. アオイ科（Loc. 9:試料番号14）
13. サナエタデ節ーウナギツカミ節（Loc. 9:試料番号14）

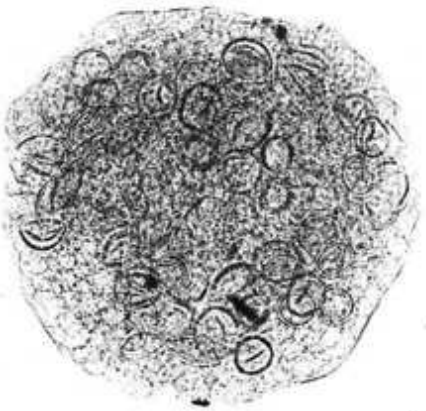
fig.53　花粉化石



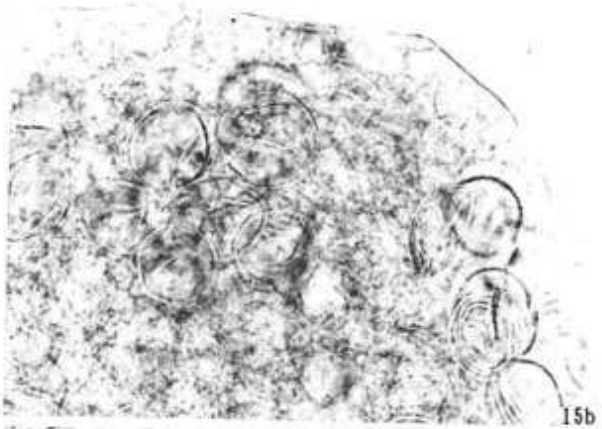
14a



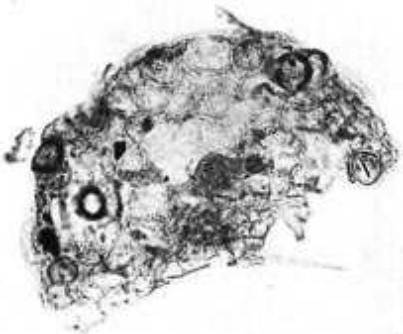
14b



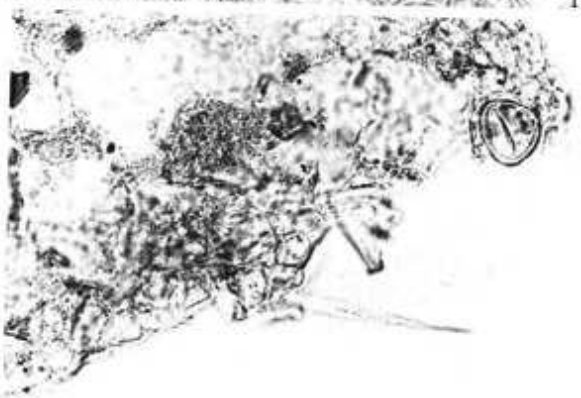
15a



15b



16a



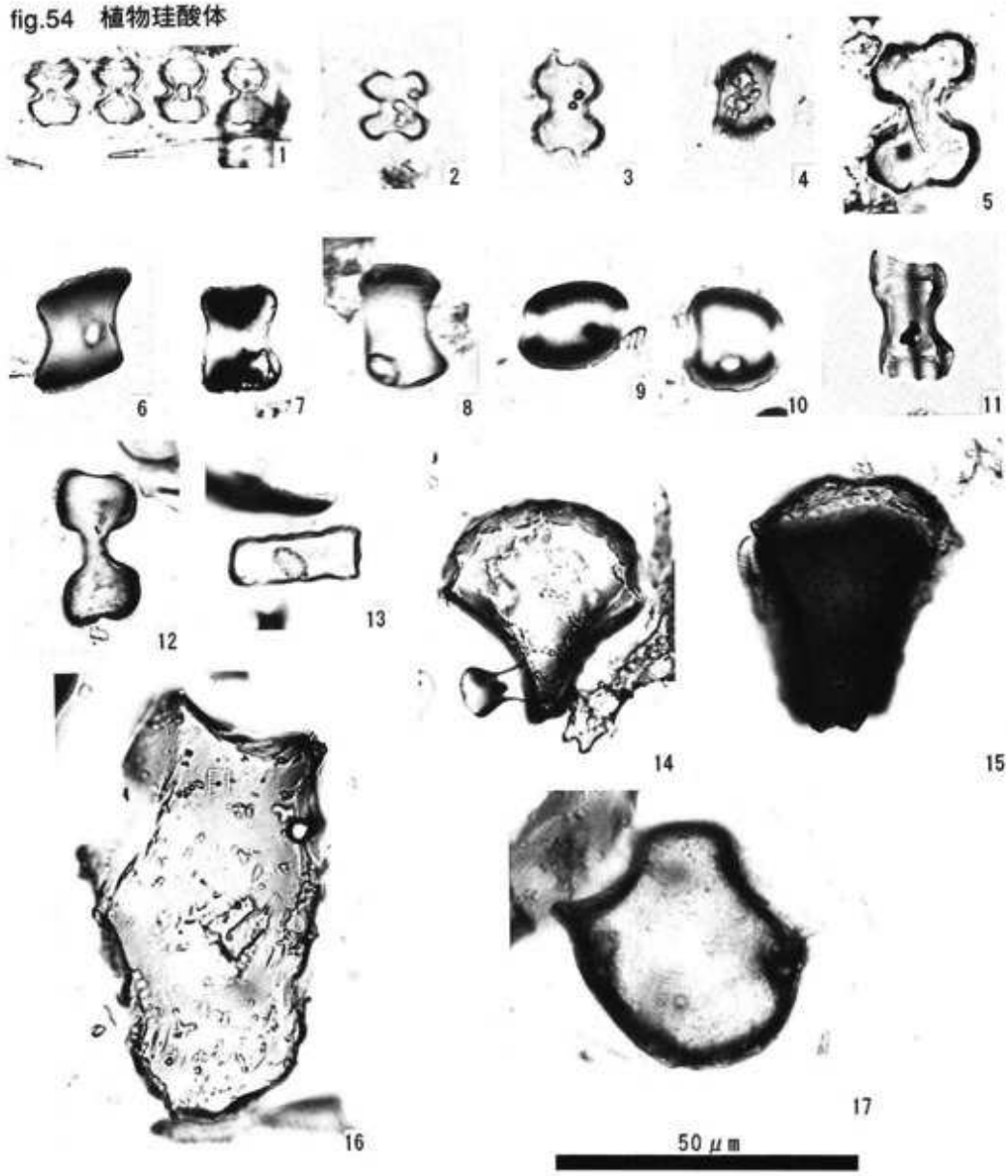
16b

100 μm
(14, 15a, 16a)

50 μm
(15b, 16b)

14. ミズワラビ属（Loc. 9:試料番号14）　15. サンショウモ（Loc. 1:試料番号20）
16. アカウキクサ属（Loc. 1:試料番号20）

fig.54　植物珪酸体



1. イネ属短細胞珪酸体列（Loc. 2:試料番号15）
2. マコモ属短細胞珪酸体列（Loc. 1:試料番号21）
3. マコモ属短細胞珪酸体（Loc. 2:試料番号18）
4. チゴザサ属短細胞珪酸体（Loc. 1:試料番号21）
5. キビ族短細胞珪酸体（Loc. 2:試料番号15）
6. ネザサ節短細胞珪酸体（Loc. 19:試料番号A）
7. ヤダケ属短細胞珪酸体（Loc. 9:試料番号14）
8. タケ亜科短細胞珪酸体（Loc. 9:試料番号11）
9. ヨシ属短細胞珪酸体（Loc. 19:試料番号C）
10. ヨシ属短細胞珪酸体（Loc. 1:試料番号21）
11. コブナグサ属短細胞珪酸体（Loc. 2:試料番号15）
12. ススキ属短細胞珪酸体（Loc. 2:試料番号15）
13. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（Loc. 1:試料番号20）
14. イネ属機動細胞珪酸体（Loc. 2:試料番号15）
15. タケ亜科機動細胞珪酸体（Loc. 19:試料番号A）
16. ヨシ属機動細胞珪酸体（Loc. 2試料番号17）
17. マコモ属機動細胞珪酸体（Loc. 2:試料番号18）

IV-1. 打製石器

1．目的と方法

本章では宮ノ下遺跡第１次発掘調査で出土した、おもにサヌカイトを材料とする打製石器資料群(搬入石材、剥片、石核を含む)の分類をおこなう。また、この分類作業の方法論的意味と今後の課題についても述べる。

この資料群は、船橋式および長原式土器を含む縄文時代晩期末の層準以上で、畿内第IV様式土器を含む弥生時代中期後半の層準までの、主として貝塚構成層から出土した。個別の資料については、現地の調査担当者による分層にもとづいて記載したが、松田・別所(1995)が示したように、貝塚の堆積層は地震動による変形をこうむっており、各層の遺物が垂直方向に移動している。そのため、堆積層ごとの出土資料の組成を厳密に比較することはできない。実態としては、多くの弥生時代中期(畿内第II様式～第IV様式の時期)の資料のなかに縄文時代晩期末から弥生時代前期(畿内第I様式の時期)のものが少数紛れ込んでいる状態である。任意の層準から出土した土器の相対年代による石器資料の時期別分類は今後の課題である。したがって、今回の分類結果は、おおむね弥生時代中期の石器組成の特徴を示すものと考えていただきたい。分類にあたっては、赤澤・小田・山中(1980)の旧石器技術論で示された形態的特徴によって、石器タイプ（ないしは竹岡(1989)の「器種」）およびそのサブタイプを階層的に設定した。

2．分類結果

分類作業の結果えられた石器タイプとそのサブタイプを以下に列記し、それぞれについて簡略に定義する。なお、出土した石器資料数は、破片なども含めて約1,000点で、このうち約82%は弥生時代中期、畿内第II～IV様式の土器にともなうものと考えられている。試みに畿内第II様式の土器にともなうとされる資料を数えると、約360点であった。この中には、尖頭器21点、削器101点（複刃削器19点、尖頭削器11点含む）、敲打痕のある石器７点、石核B48点が含まれ、石器組成の代表的なプロポーションを示すものと思われる。

I. 尖頭器

尖った刃部を有する剥片石器。

（１） 両面調整尖頭器

器面両面全体を、両側縁および基部縁辺より薄形ないし平形の侵形細部調整で整形した尖頭器。長さ10数cm以上で長幅比が約3：1より大きく、左右対称で、横断面はおおむね菱形を呈するような、当時モードとなったいわゆる「畿内式尖頭器(中村,1980)」の打製技法によるもの(a～d)、打製石鏃(e)のほか、比較的粗大な調整剥離痕でおおわれ、鋸歯縁をなすもの(f)、侵形細部調整が両面にみられるが、器面を完全におおっておらず、やや不整形なもの(g)がある。

剣形・槍形・戈形のサブタイプに関しては順に、薄手・幅広で尖端部に向かっての両側縁の幅の減少がほとんどない、厚手・幅狭で尖端部に向かって幅が徐々に減少する、厚手・幅広で尖端部に向かって幅が徐々に減少し、尖端部を構成する側縁が比較的長い、といった特徴に注目した。また、小型槍形両面調整尖頭器に関しては、増田(1978)が示した10cm前後の「柳葉形石槍」と7～8cmの「凸基式大型長身鏃」にみられる有意差や、蜂屋晴美(1989) の「中型尖頭

器」を設定する分類基準などを考慮し、1つのサブタイプとしたが、将来より適切な呼称に変えたい。以上の畿内式打製尖頭器の観察・記載は計測を怠ったため、ここでは全く直観的な判断による。今回の資料群では、畿内式打製尖頭器の出土数は少なく、ほとんど破片であったため、個別の資料の記載には誤りがあるかもしれない。なお、これらと同種の磨製石器では、たとえば「畿内式剣形磨製尖頭器」などと呼ぶのがよいかと思われる。石鏃に関しては、大型・小型を分ける議論もあるが、ここでは一括した。

侵形細部調整痕が両面にみられるが、器面を完全におおっていないものを「不完全両面調整」尖頭器と称し、両面調整尖頭器のサブタイプとした。このサブタイプには尖端部と基部がなす軸の左右で対称形をなすものばかりではなく、不整形なものもある。

a. 剣形両面調整尖頭器

b. 槍形両面調整尖頭器

c. 戈形両面調整尖頭器

d. 小型槍形両面調整尖頭器

e. 打製石鏃

f. 鋸歯縁両面調整尖頭器

g. 不完全両面調整尖頭器

（2）ーa. 片面調整尖頭器

b. 刃部両面調整片面調整尖頭器

上記2つのサブタイプは、器面の片面を平形ないし薄形で侵形の細部調整で整形したもので、後者は尖端部および側縁の一部を平形ないし薄形で浅形の連続する細部調整を加えた尖頭器である。bは器面中央部に至らない浅形の刃部調整で、それが片面のみにみとめられるもので、両面にみとめられる場合は「刃部両面調整」と呼ぶ。

以上の尖頭器のうち、(1)-g、(2)-a・bは、畿内式尖頭器や石鏃類の未製品だという可能性もあるが、今回の資料では検証できない。ただ、法量の点から、これらに細部調整を加えても、畿内式尖頭器(a～c)を完成させるのは不可能と判断されるものがほとんどであった。

II. 削器

通常のsidescraperではない。サヌカイト石材からは、横形剥片が生産されやすく、これを素材として、その端縁に平形～厚形(まれに極厚形)で浅形を主とする細部調整で刃部をなすもの(横形削器)がほとんどである。刃部の細部調整が、一縁辺の1/2をこえることを条件とし、それ以下のものは細部調整剥片とした。削器の一次的なサブタイプは刃部をなす縁辺の数だけでなく、尖端部の有無にもよった。

（1）単刃削器

素材剥片の1縁辺ないし、緩やかな角度をなして隣接する縁辺に一つながりの平形ないし薄形で浅形の連続的な刃部調整をほどこした削器。

a. 刃部両面調整削器

このサブタイプは刃部調整が器面両面(素材剥片の表裏面)に施されているものを指す。

さらに、刃部の平面形状が直線的か、凸形ないしは凹形に湾曲するかによってさらにサブタイプを設けた。凹刃を有するものはまれである。

刃部両面調整直刃削器

刃部両面調整凹刃削器

b. 刃部片面調整削器

このサブタイプは刃部調整が器面の片面にのみ施されているものを指す。刃部の平面形状によって、さらにサブタイプを設ける。凹凸両形の刃部が連続したものを「曲刃」とした。

刃部片面調整直刃削器

刃部片面調整凸刃削器

刃部片面調整凹刃削器

刃部片面調整曲刃削器

c. 不完全両面調整削器

このサブタイプは、器面両面に一部分を残して、平形ないし薄形の侵形細部調整で整形し、さらに1縁辺に平形あるいは薄形でおもに浅形の連続した刃部調整をほどこした、刃部の平面形状が直線的な削器を指す。刃部調整を器面の両面にほどこしたものと、片面にほどこしたものを区別した。

刃部両面調整不完全両面調整直刃削器

刃部片面調整不完全両面調整直刃削器

d. 片面調整削器

このサブタイプは器面の片面のみに平形ないし薄形で侵形細部調整がみられ、1縁辺に刃部細部調整をなすものを指す。平形、薄形で浅形ないし侵形の刃部細部調整が器面の両面にみられるか、片面のみかによっても、刃部の平面形状によっても区別できるが、名称の記載は省略する。

（2） 複刃削器

素材剥片の長軸にほぼ平行する2つの縁辺に、平形～厚形でおもに浅形の細部調整をほどこし刃部をなす削器。サブタイプの設定は、上述した単刃削器とほぼ同様に、器面を覆う侵形細部調整を伴わないものと伴うものを区別し、さらに両者は刃部両面調整と刃部片面調整、刃部の平面形状によって階層的に区分される。刃部形状による記載は省略する。

a. 刃部両面調整複刃削器

b. 刃部片面調整複刃削器

c. 両面調整複刃削器(石小刀形両面調整複刃削器)

d. 不完全両面調整複刃削器

e. 片面調整複刃削器

上記の両面調整複刃削器のなかには、その特殊形態として、石小刀形両面調整複刃削器を含める。この石器の細部調整は、整形・器面調整と刃部調整を兼ねるものとみ

なす。これはいわゆる「石小刀」で、畿内式尖頭器の呼称と同様に、慣用的呼称を技術形態論的呼称の前に加える。ここで、複刃削器のサブグループとしたのは、明瞭な尖端部をもたない資料もしばしばみられ、尖頭器や尖頭削器とみなすことが不都合な場合があるためである。しかし、森本(1985)も述べているように、基本形態は、尖頭部をもつので、その場合はサブグループ(3)-cとし、「石小刀形両面調整尖頭削器」とする。

（3） 尖頭削器

素材剥片の一端に、平形ないし薄形で浅形ないし深形の細部調整による尖端部をもつ削器。尖端部をなす縁辺の開きは約60±20°である。尖端部をもつ複刃削器とも定義されるが、調整縁辺の片方が削器の定義を満たさない場合、すなわち調整部位の長さが縁辺の1/2以下で、ひじょうに短い場合があるため、一つのサブグループとした。このサブグループも、器面の侵形細部調整、刃部の浅形ないし深形調整と、それぞれが片面か両面かによってさらに下位のサブグループを設けることができる。前述したように、cには石小刀形両面調整複刃削器が含まれる。

a. 刃部両面調整尖頭削器

b. 刃部両面調整複刃尖頭削器

c. 両面調整尖頭削器(石小刀形両面調整複刃削器)

えぐりのある両面調整尖頭削器

d. 不完全両面調整尖頭削器

e. 片面調整尖頭削器

III. 石錐

素材剥片の全体あるいは一端を極厚形ないし厚形で侵形ないし深形細部調整で整形し、断面多角形(菱形～偏六角形)の柱状に仕上げた石器。まれに、剥片縁辺の一部に、わずかな調整剥離によってきわめて短い突起を作りだしたものがある。柱状部あるいは尖端部には、回転によって生じた条痕をともなう磨滅面のみとめられることが多い。

IV. えぐりのある石器

この石器タイプは、素材剥片の1縁辺に極厚形ないし厚形で浅形ないし深形の細部調整をほどこし、刃部の平面形状を著しい凹形に整形したものである。刃部両面調整と刃部片面調整がある。次に述べる鋸歯縁石器は基本的にはこのえぐりを作る細部調整が縁辺にそって連続したものだが、本資料群では単独で比較的大きなえぐりをもつものについてこのタイプを設定した。

V. 鋸歯縁石器

このタイプの石器はえぐりのある石器とは異なり、素材剥片の少なくとも1縁辺に、薄形～極厚形で浅形の細部調整によって、連続した鋸歯状の凹凸を刻んだ石器を指す。下に記載した(2)(3)のような、鋸歯縁を向かい合う縁辺にもつもの、鋸歯縁をほどした刃部の調整が片面のものがある。

（1） 鋸歯縁石器

（2） 複刃鋸歯縁石器

（3） 刃部片面調整鋸歯縁石器

VI. 敲打痕のある石器

剥片、石核(後述する石核Bを含む)、自然礫を、おもに薄形～極厚形で浅形～侵形の細部調整で整形された、縁辺にいちじるしい「潰れ」をもつ石器。Battered pieceと呼ばれるものに相当する。長軸と平行する両縁辺に敲打痕を残すものがかなりある。縁辺の細部調整は比較的乱雑で、連続した削器の刃部調整とは区分される。石核、自然礫を素材とするものは少ない。

後述する石核Bとの区別がひじょうにむずかしいものもあるが、敲打面からの剥片剥離がほとんどみられず、潰れがいちじるしく発達して凹みをなすものをこの名称で記載した。

VII. 剥片

剥片資料には細部調整がみとめられないものと、縁辺の一部に調整剥離をほどこした細部調整剥片がある。前者には基本的に剥片剥離時点の形状を残すが、以下のような細部調整ではない特徴をもつ剥片が含まれる。

（1）－a. **剥片**

b. **使用痕のある剥片**

c. **敲打痕のある剥片**

d. **研磨痕のある剥片**

ここで使用痕というのは、縁辺の微細な刃こぼれ剥離痕、条痕やなめらかな表面をなす磨耗痕などである(松田,1986)。敲打痕は縁辺ばかりでなく、剥片の表面あるいは裏面にもしばしばみられる。研磨痕は、磨耗痕とまぎらわしいので、縁辺にみとめられるものは除外し、剥片の表面ないし裏面にみられるものについて上記の名称を用いることにした。

剥片剥離技法の点で興味深い資料として

石核Bから生産された剥片

がある。石核Bについては後述するが、この剥片は台石上の両極打法の結果生じた剥片と考えられる。その特徴は、とくに裏面で打点付近にみられる微細なステップ状の剥離痕、裏面つまり主剥離面のなす凸面の不明瞭さ、剥片端縁にしばしばみられる二次的な打点とそこから発生し、主剥離面との不明瞭な境界をもち、主剥離軸と対向する剥離痕などである。また、表面の打点と端縁付近には、微細な亀裂や潰れが密集する。剥片の平面形状は、石刃状や隅丸方形、扇形の横形剥片など多様だが、いちじるしく屈曲するような平面形状をなすものはほとんどない。上記の特徴は基本的にはCotterel and Kamminga (1990)によるが、筆者の観察にもとづくものも加えた。

（2）－a. **細部調整剥片**

剥片縁辺に打点をもつ、少なくとも2、3の調整剥離痕がみとめられる剥片で、上述した石器タイプに分類できないものにこの名称を与えた。したがって、削器とはみなせないが、縁辺の一部に刃部調整と考えられる連続した平形・薄形で浅形の剥離痕が

みられるもの、薄形で侵形の粗略な細部調整痕が表裏面にみとめられるもの、さらに細部調整とは異なる部位に使用痕がみとめられるものもこれに含まれる。これらには、以下のような名称を用いる。

b. 刃部片面調整細部調整剥片

c. 不完全両面調整剥片

d. 使用痕のある細部調整剥片

VIII. 石核

剥片剥離をおこなった結果生じた残核で、したがって基本的には凹面をなすの剥離面で構成されるが、しばしば厚い剥片を素材とする石核もある。その場合は、剥離面中に、1枚ないし2枚の凸面の主剥離面がみとめられる。

素材の種類とはべつに、石核そのものの形状や打面の種類とそれらから推測される剥離技法の違いによって2つのサブタイプを設定した。

（1）石核A

（2）石核B

石核Aは、ぶ厚い板状ないしは礫塊状をなし、それらの打面は主として原礫面打面、剥離面打面で、剥片剥離方向は打面選択に影響され剥片剥離工程のなかで三次元的に多様であると考えられる。これに対し石核Bは、小ぶりのものは凸レンズ状、礫塊状であるが、基本的にはぶ厚い板状で、打面は稜状ないし点状で、板状の形態の縁辺部、とくに長軸に平行する向かい合う縁辺に集中する。打面付近には微細な亀裂や潰れが白く密集してみとめられる。この石核は、台石上で行う両極打法で形成された可能性が高く、すでに述べたように生産された剥片も特徴的である。

3．考察

タクソノミーについて

本調査で得た打製石器資料は現在のところ、上述したような分類作業とそのデータベース化がほぼ終了したばかりで、属性分析をつうじて石器タイプ間の技術的な関連を検討したり、それらを時期別に比較検討するのは今後の課題である。本節では、これらの課題の前提となるような、タクソノミーの方法論的意味と作業仮説としうる弥生時代の打製石器に関するフレームワークについて述べたい。

まず石器タイプとその下位のサブタイプで構成されるタクソノミーの意義について、認識人類学や民俗誌的言語学における成分分析の方法（多くはフレイク(1970)により、[ ]内は同文献中の引用文献を示す。）を参照する。

(1) まず、形態的特徴で区分される「分離体(segregate)」に注目する。分離体はある特定の社会言語学的なコンテクストで1つの言い方が他の言い方よりもよしとされる、こういったことがら[Chomsky,1955；その他]である。つまり、分離体とは、用語上他と区別された(名称の異なる)一連の対象である。石器資料群の分類では、より下位のサブタイプそのもの(その事象)を指す。

(2) 言語学的な「同じ環境」に起りうる別個の選択肢となる分離体は「対立グループ(contrast

set)」を構成する。つまり選択肢とは、たとえば人殺しに剣をもってゆくか、槍をもってゆくかというような、厳密には代替可能ではないが、「武器」という同一レベルでの分類項目群を指す。ただし、分類における「同じ環境」とは、剣形両面調整尖頭器と槍形のそれとが「両面調整尖頭器」であるということを指し、いいかえれば「技術的に」同じ環境ということを意味する。あえていうが「用途的に」同じ環境を意味しているのではない。先の分離体に対して、より上位のサブタイプとなる。

(3) 石器資料群の分類の「さしあたっての」最終目標はタクソノミーである。タクソノミーは分離体の包摂関係によって関係づけられる複数の対立グループの体系と考えられる。タクソノミーに含まれる分離体が単一の起点に包摂される必要はない。いくつかの対立グループが存在しているということがわかればよい。

タクソノミーを通じて範疇の階層的な配列が与えられ、必要とされる情報の認知、補充、回復のための効果的なプログラムの作成が可能となるのである[Hardin,1960]。つまり、タクソノミーは記載の規則というだけでなく、事物に関する認識の「地図」として、システマティックであり動的に機能する。石器の技術形態的特徴と分類項目はこのような地図を描き出すための独立変数とみなしうる。分類者の認識を反映する作業仮説としてのタクソノミーにおける独立変数の採用の仕方や組み合せ方の立証可能性は、過去の復原の様々な状況においてテストされなければならない。

弥生人も、彼らが作った石器を観察する現代人も、ともに意識するしないにかかわらず、このようなタクソノミーを石器に対して用いる。前者のそれはかつて存在し今や死に絶えたものだが、行動の痕跡・認知パターンの反映として石器それ自体に残されているはずである。後者は「仕事として」の分類作業を通じて、自分のタクソノミーを前者のそれに近似させようと試行錯誤をくりかえすかもしれない。いっぽう、分類作業をすすめるなかで、われわれもこれまでわからなかったが、弥生人も気づかなかった、しかし、過去がそうであったということを、何らかの確実性をもって説明できるかもしれない。それも過去の復原の一つである。さらに、少々不都合なことがある。道具についていえば、製作者のタクソノミーと使用者のタクソノミーが異なることがある。過去においてもそうであった可能性があるし、現在でも、報告を急ぐあまり観察者が石器資料をいきなり「武器」、「工具」、「紡織具」、「農具」、「その他の打製石器」などと分類することがある。

しかし、いずれにせよ、筆者は以下のようなリーチ(1981. 原著Leach,1976)の仮定を受け入れる。「文化のさまざまな非言語的次元はすべて、コード化された情報を自然言語の音や語や文に類する仕方で組み込むためにパターン化されたまとまりのなかで組織化されている」、「非言語的「言語」の統辞法(シンタックス)は、話言葉や書き言葉の言語のそれと比べて、はるかに単純である」。コード化された情報を得るには、今後より詳細な資料の観察が必要となるが、さしあたり、先に述べた「いくつかの対立グループ」が石器タイプとして提示できたので、これらが、打製石器組成のなかでどのように関連し合うのか(組織化されているのか)、そういう問題の一面をさらに考察しようと思う。

石器組成の状態空間

前節の分類では、たとえばII-(1)-c- というような上位の対立グループから下位の分離体までの、石器タイプとそのサブタイプの階層的な諸変異を示した。このなかには、最上位の石器タイプ間でも、各石器タイプのサブタイプ内でも、<単刃(縁)—複刃(縁)>、<複刃(縁)—尖頭>の、異なる形態的特徴が対をなす2種類の傾向がある。(縁)としたのは刃部ではない調整剥離も含まれる、むしろ刃とそうでない縁辺の境界が不明瞭ということでもある。たとえば、尖頭器では尖頭傾向の典型的な形態をとる畿内式打製尖頭器がある。これらは同時に尖端を挟む両側縁が調整されているから複刃傾向も強い。いっぽう、尖頭器の中には刃部両面調整片面調整尖頭器といった、尖頭傾向はあるが複刃傾向の弱いものが現れる。削器ではその3つのサブタイプにみられるように、単刃傾向の強いものから、複刃および尖頭傾向の強いものまで、変化に富む。鋸歯縁石器、えぐりのある石器は単刃傾向が強い。敲打痕のある石器は刃部をもたないが、相対する縁辺に調整剥離をほどこしたものは複刃傾向とみなせる。実際に、サブタイプには複刃削器や尖頭削器との識別が困難なものがある。このようなことから、尖頭化が複刃傾向を媒介して実現するとすれば、単刃の一端から尖頭の他端までのタイプ変異のスペクトラムが想定される。

いっぽう、<単刃—複刃—尖頭>とは、観察のうえでは独立した変数だが、実際にはこのスペクトラムと相関するような<侵形の整形・器面調整痕が卓越する傾向—縁辺のみの浅形調整痕が卓越する傾向>のスペクトラムがあると考えられる。当然この両端には畿内式尖頭器と単刃削器を置くことができる。細部調整剥片では、不完全両面調整細部調整剥片は器面調整傾向の強いもので、刃部片面調整剥片は縁辺調整傾向の強いものと考えられる。

以上のような2つのスペクトラムを並行してとらえ、石器タイプを配列した結果をfig.55に示す。図中でひじょうに明瞭な特徴をもつ両端の石器タイプに対して、中央部にくる複刃削器、敲打痕のある石器、石核などは、形態的特徴にみられる変異ははるかに多様で、しかもスペクトラムの中の相対的な位置づけも、定量的な基準を設けない限り不可能である。(図の曲線の傾きは変異の多様さと考えていただきたい。)

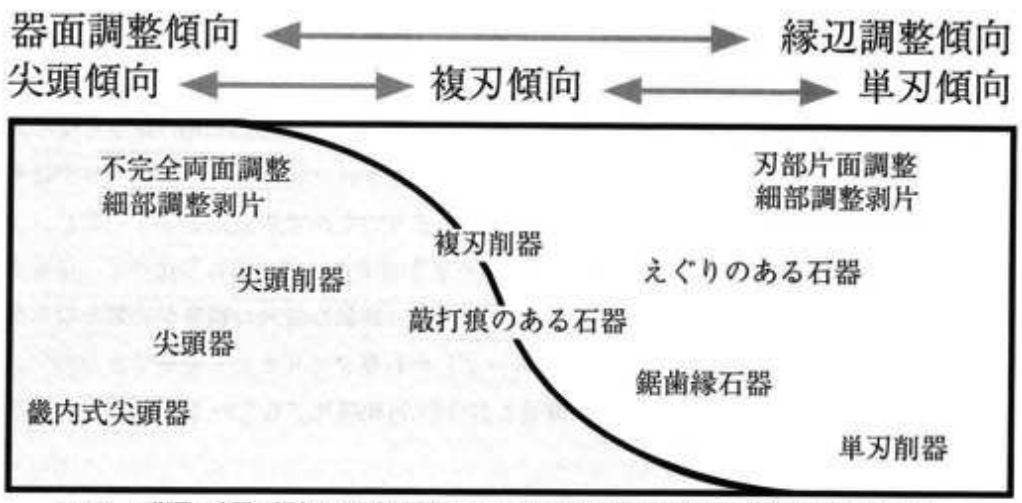
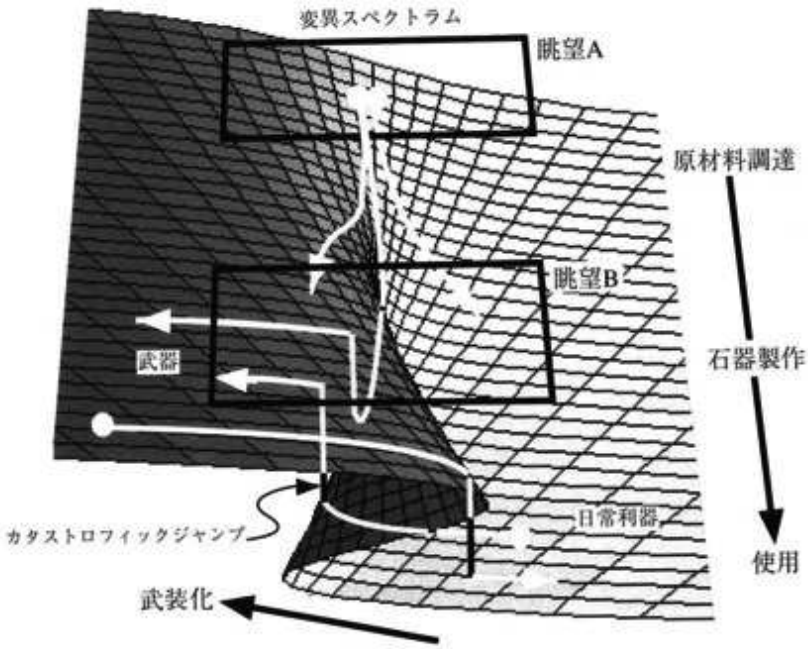


fig.55 <単刃—尖頭>傾向と<刃部調整—器面調整>傾向による石器タイプの変異スペクトラム



さらに、説明を容易にするため、次元を1つ加えてfig.56を描いた。この図形は、2次元制御空間におけるエネルギーの関数 $V=1/4x^4+1/2ax^2+bx$ の第1導関数 $dv/dx=x^3+ax+b$ を3次元座標にプロットしてえられるもので、カタストロフィ理論の一モデルとしてZeeman(1971)によって示された。「カスプのカタストロフィ」と呼ばれる。考古学の分野では、Renfrew(1979)が、初期国家システムの崩壊や安定性の説明に適用した。このように、社会科学・人文学でこのモデルはふつう何らかの社会過程の説明に適用されるが、ここでは石器組成の状態空間と考える。図の左右方向には同じく石器タイプの変異スペクトラムをとるが、前後方向には石材の調達から製作をとおして使用までの相対的時間経過をとり、前後・左右方向の2次元制御空間での石器資料群のマトリクスを想定する。

ここでなぜ、ことさらに手前のほうで左右の面がS字状にひだを作り、尖頭器傾向と単刃傾向の面が重複するようなモデルにしたかを述べる。研究の現状に即していうと、観察者の認識でもっとも典型的で対立的なのは、<定形石器—不定形石器><武器—武器でないもの>などと<技術形態論的分類>だが、これらはこの状態空間の異なる2つの領域の眺めと考えられる。すなわち、前者に対応するfig.56の手前領域では変異スペクトラムを区分する境界が中央付近にあらわれるのに対して（眺望Bの真下の領域）、後者に対応する向こう側ではほとんど連続的と思える変異スペクトラムが広がる（の眺望Aの真下の領域）。このモデルが必要な理由は、以上のような観察者によって異なる眺望を取りこむためである。たとえば、石鏃を中心とした「戦争論」は左手前付近の「武器」とよばれる領域を対象とし、製作技術論は比較的向う側の領域を対象とする。

いまのところ思いつきであるが、以上のような異なる観察者の眺望を含む状態空間があり、「さまざまにではあるがそう見える」ことを手掛りに過去を復原するとすれば、その立証可能性の強弱とは別に、200～300年間維持された、当時のコード化された—つまり意味やパターンをもつ

状態空間を仮定してもよいのではなかろうか。要点を述べると、(1) 観察者のみならず、弥生人の文化にも製作から使用へと、合目的性が高まるにしたがって、石器タイプの変異スペクトラムが不連続になるのではないか、(2) それはとくに両端に対してどちら寄りともいえないスペクトラムの中央部分で生じ、(3)ある種の(量的にはかなりの割合の)石器は、一時的にせよ最終的にせよ、不連続部分のどちらかに移り代われるような石器形成過程上の分岐(divergence)とジャンプ(catastrophic jump)を可能にするような技法やタクソノミーの構造をもっているのではないか、ということである。

石器タイプの変異スペクトラムの両端に日常の利器らしきものと戦闘用の武器らしきものが現れることから、集団間の抗争が石器組成の状態空間の重要な要素となっているらしい。仮に、状態空間モデルの左方向へは抗争状態の程度あるいは「武装化」という意味づけをすれば、すでに述べたように両者の中間領域の「あいまい」な石器資料群は武器ともなれば日常の利器ともなる可能性がある。またスペクトラムの両端の石器でも、武器からの転用、武器への転用がなされたと考えられる出土資料もある。この転用は状態空間モデルの手前部分での左右の移動とみなすことができ、抗争状態のある閾値を境に左右の状態空間の間で石器タイプの転移が生じることを意味している。

さらに図形パズルを続けることは可能である。ただし、このカタストロフィーモデルには限界がある。第一に状態空間のパラメータの与えかたによってかわるが、このモデルでは前後方向の状態空間の分岐を記述している。話の筋はやや混乱するが、最近のカオス理論では、カタストロフィックジャンプの際におこるアトラクターの交替を分岐と呼んでいる。これまでのことを、石器タイプの変異スペクトラムがどのように発生し、相転移をなすかという議論に集約するならば、それを実際の遺物で観察・検証するためには、後者の理論モデルのほうが有効ではないかという気がする。第二に、先の定性的なモデルでは、コントロールパラメータを4つや5つに増やすと人間の認知能力がついてゆけない。かといって限られたパラメータに何重にも意味を重ねると過度の単純化に陥る。遺物を定量的に扱うためにはやや異なるモデルを必要とするのではないかとも思える。石器組成の状態空間は、物理的には散逸系であるが、文化的にはある期間を通じて保存系たりうる。このような2つの性質の間の折合いをどうつけるか、まだその方法はわかっていない。しかし、プリゴジンとスタンジェール(1987：原著1984)の「ゆらぎを通しての秩序」というモデルは「どの事象が減衰し、どの事象が全系に影響を与えるようになりそうか。選択点の状況はどうで、安定領域はどこか。系の大きさと密度は分岐パラメータの役割を果たすから、純粋に定量的成長がどのようにして、選択という定性的に新しいことを行うようになるのか(同著)」という疑問にも、またこれに似た本節での課題にも明かりを投げかけるもののような気がする。カタストロフィーモデルは問題の入口にはなったが、いまや古典的すぎるようである。

4．まとめ

本章では、宮ノ下遺跡第1次発掘調査で出土した打製石器資料の技術形態論的分類をおこなった。その結果、尖頭器、削器、石錐、えぐりのある石器、鋸歯縁石器、敲打痕のある石器、剥

片および石核が分類できた。この中で削器はさらに単刃削器、複刃削器、尖頭削器に分類した。また、他の石器タイプについてもそれぞれサブタイプを認定した。今回の調査で出土した石器資料の特徴についての詳細は今後の課題であるが、先の分類結果にもとづき、弥生時代中期のサヌカイト製打製石器の、複刃傾向を媒介にした単刃傾向—尖頭傾向、および細部調整における縁辺調整—器面調整という相対する石器タイプの変異スペクトラムについて述べ、さらにその文化的-技術的状態空間の解明についての見通しを、カタストロフィーモデルを用いて論じた。

付記

筆者は数年間考古学の遺物の研究から遠ざかっていたため、その間に弥生時代の石器研究がどのように進展したか、どのような注目すべき資料の発見があったのかについては、はなはだ不勉強である。小文は、筆者がかつてたどった時点までの考えをまとめたのもである。資料をみるよい機会ではあったが、実測図やデータベースの作成は調査担当者に依存したため、小文の記述とは若干の齟齬を生じたところもある。読者諸氏の御寛怒と御教示・御指導を乞うしだいである。

（松田順一郎）

【文献】

赤澤威・小田静夫・山中一郎(1980)「日本の旧石器」．立風書房．

竹岡俊樹(1989)「石器研究法」．言叢社，p.121-140.

中村友博(1980) 畿内式磨製尖頭器．東大阪市遺跡保護調査会「調査会ニュース」，No.17，p.3-5.

蜂屋晴美(1983) 終末期石器の性格とその社会．藤沢一夫先生古希記念論集刊行会「藤沢一夫先生古希記念古文化論叢」，p.37-82.

プリゴジン，I.，スタンジェール，I.（1987)「混沌からの秩序」．伏見康治・伏見譲・松枝秀明訳，みすず書房，p.271-276.

フレイク，C.O.(1970) 民俗誌学的立場からの認識体系の研究．池上嘉彦編・訳「文化人類学と言語学」．弘文堂，p.121-140.

増田一裕(1978) 大福遺跡の石器．奈良県立橿原考古学研究所編「大福遺跡—桜井市大福所在遺跡の調査報告—」，p.84-110.

松田順一郎(1986) サヌカイト製打製石器にみられる使用痕の諸例．財団法人東大阪市文化財協会ニュース，Vol.1，No.2，p.10-25.

松田順一郎(1992) その他の石器．東大阪市教育委員会・財団法人 東大阪市文化財協会「西之辻遺跡第23次発掘調査報告」，p.122-132.

松田順一郎・別所秀高(1995) 東大阪市宮ノ下遺跡の貝塚にみられる地震による変形構造．日本文化財科学会第12回大会 研究発表要旨集，p.66,67.

森本晋(1985) 石小刀．金関恕・佐原真編「弥生文化の研究 5 道具と技術I」．雄山閣出版，p.59-62.

リーチ，E.（1981)「文化とコミュニケーション—構造人類学入門」．青木保・宮坂敬造訳，紀伊国屋書店，p.26・27.

Cotterel.B and Kamminga,J.(1990) *Mechanics of pre-industrial technology*.Cambridge University Press, p.125-135.

Renfrew, C.(1979) System collapse as social transformation: Catastrophe and anastrophe in early state sicieties. Renfrew,C. and Cooke,K.L.(eds.) *Transformations:Mathematical Approaches to Cultural Change*. Academic Press, p.481-506.

Zeeman, E.C.(1971) The geometry of catastrophe. *Times Literary Supplement*. 1556-7.

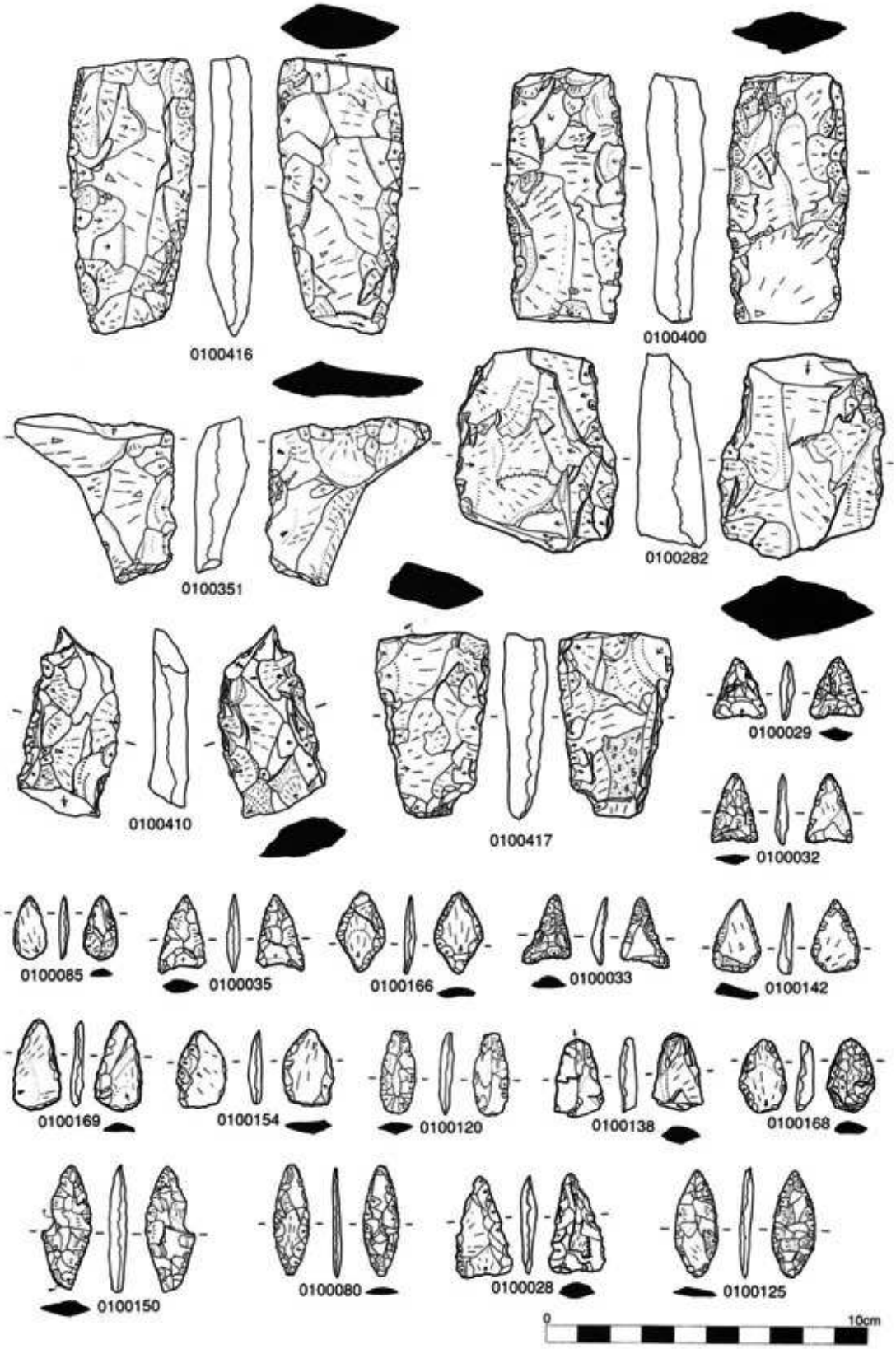


fig.58　打製石器実測図

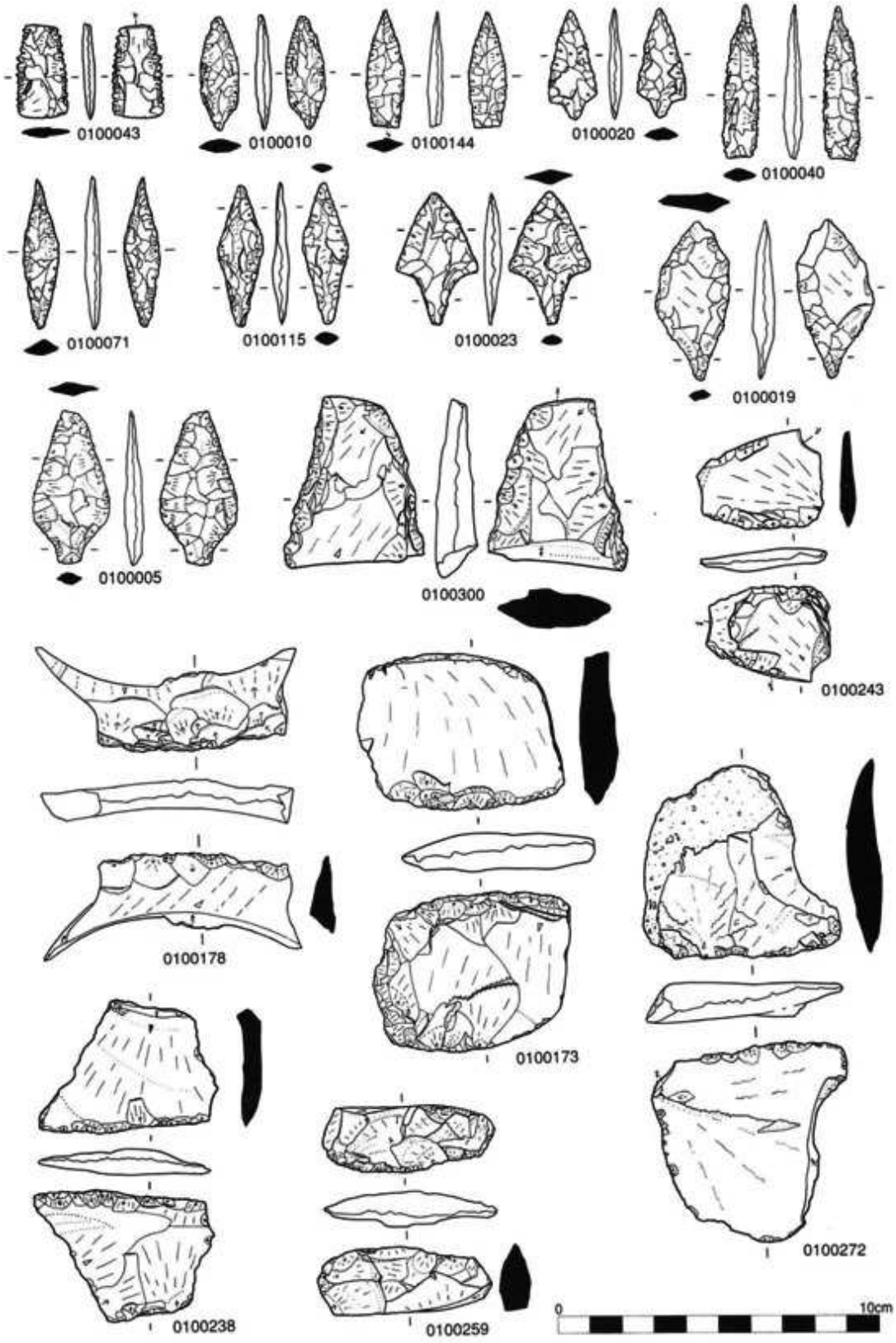


fig.59　打製石器実測図

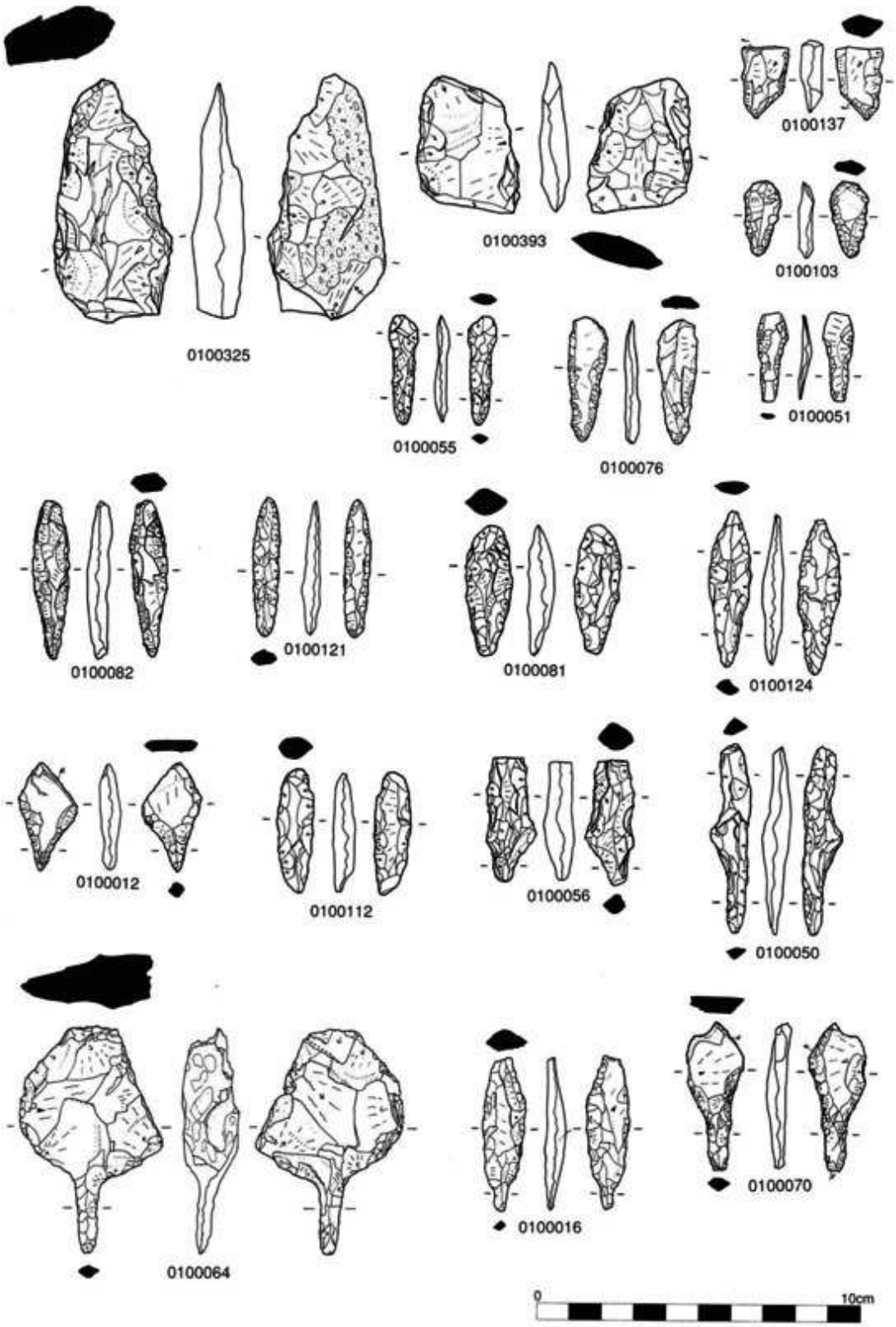


fig.60　打製石器実測図

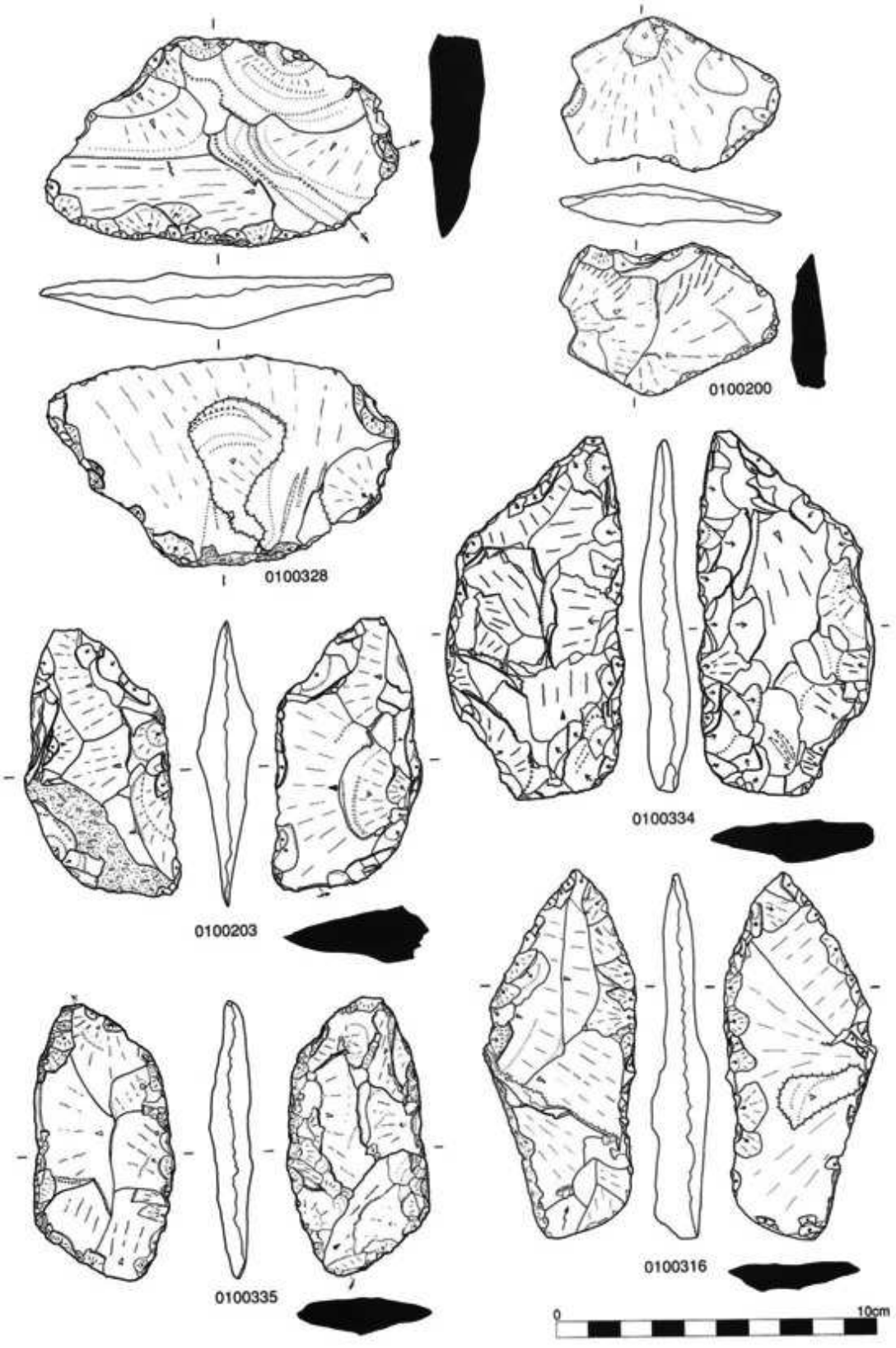


fig.61　打製石器実測図

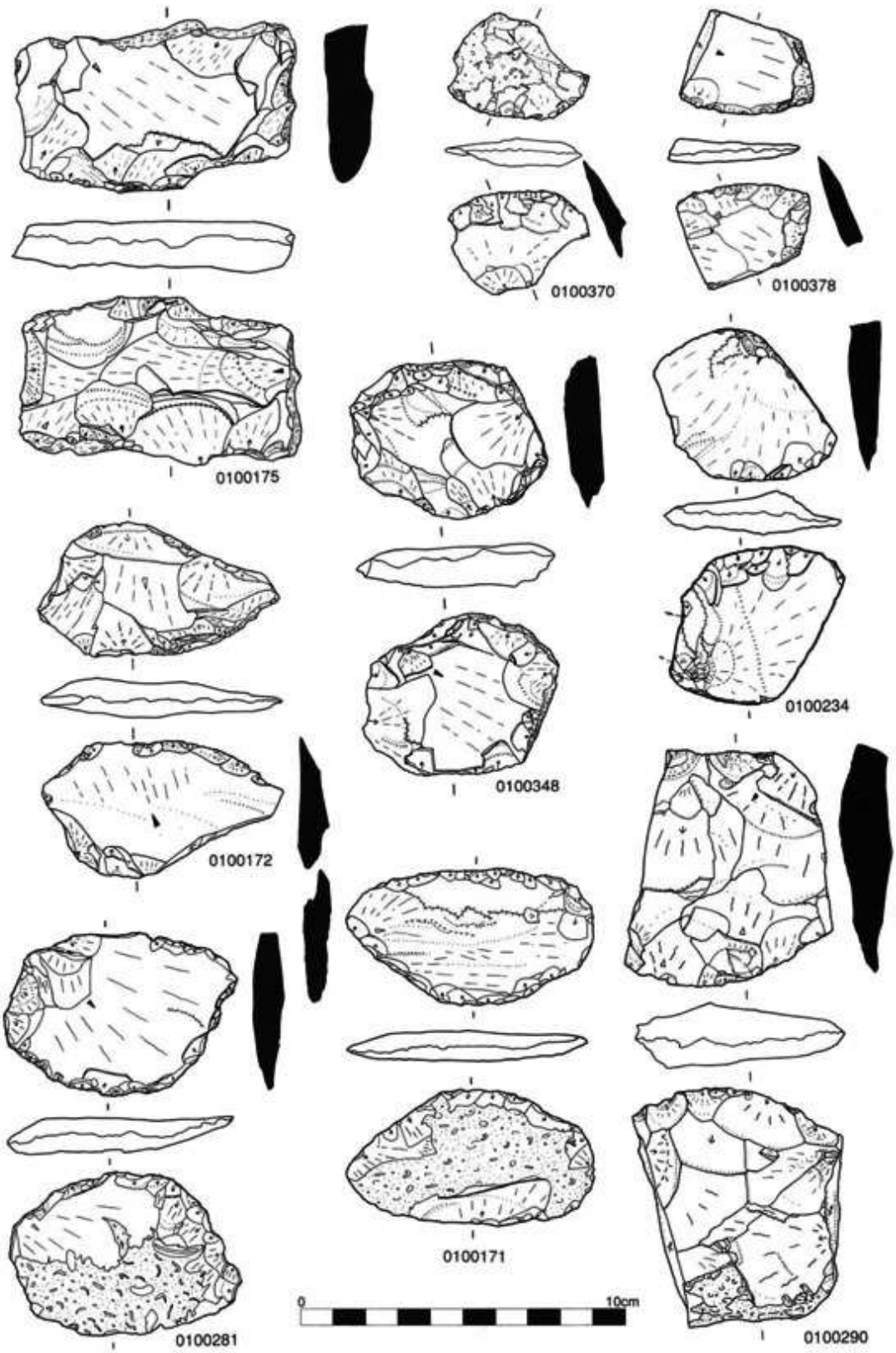


fig.62　打製石器実測図

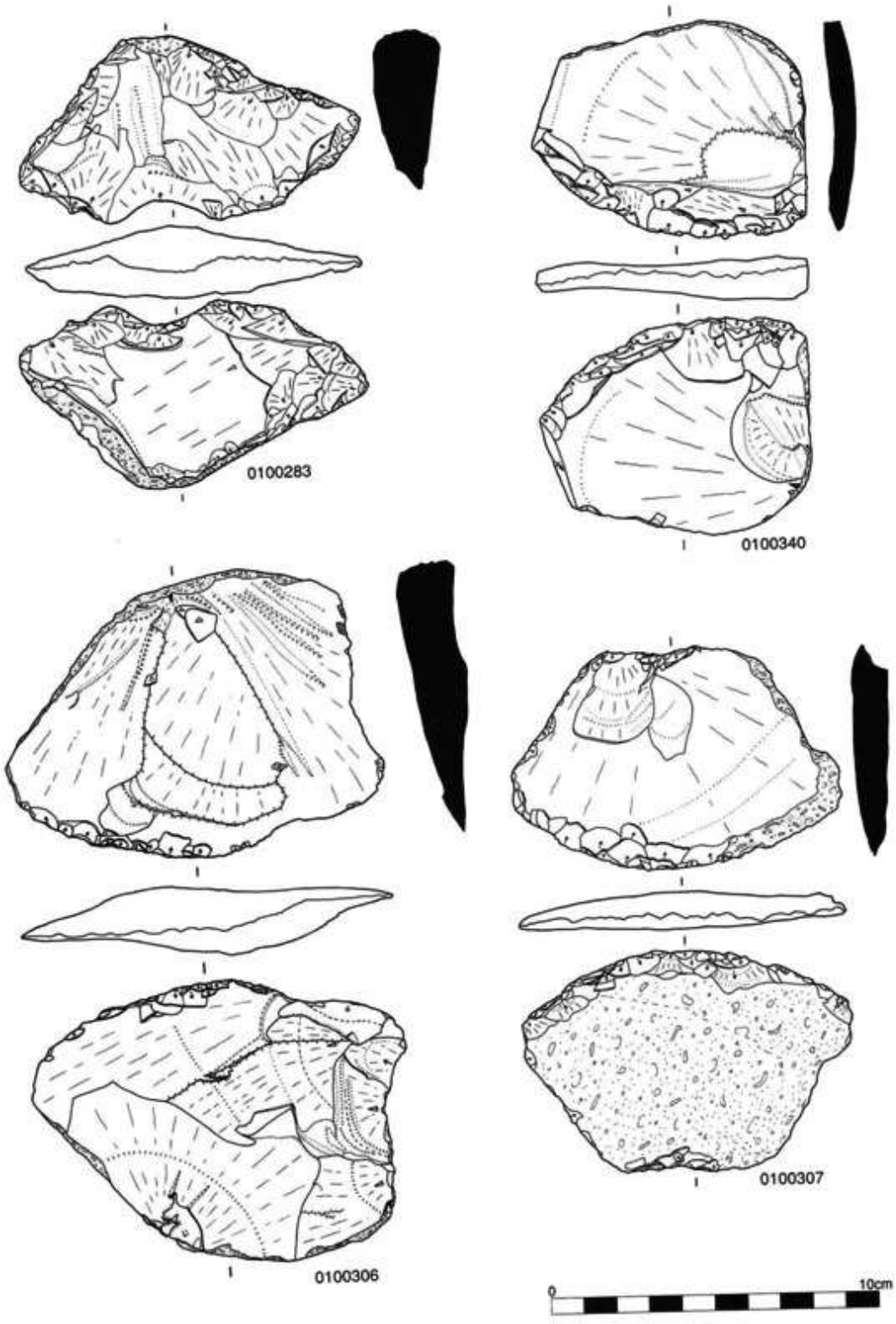


fig.63　打製石器実測図

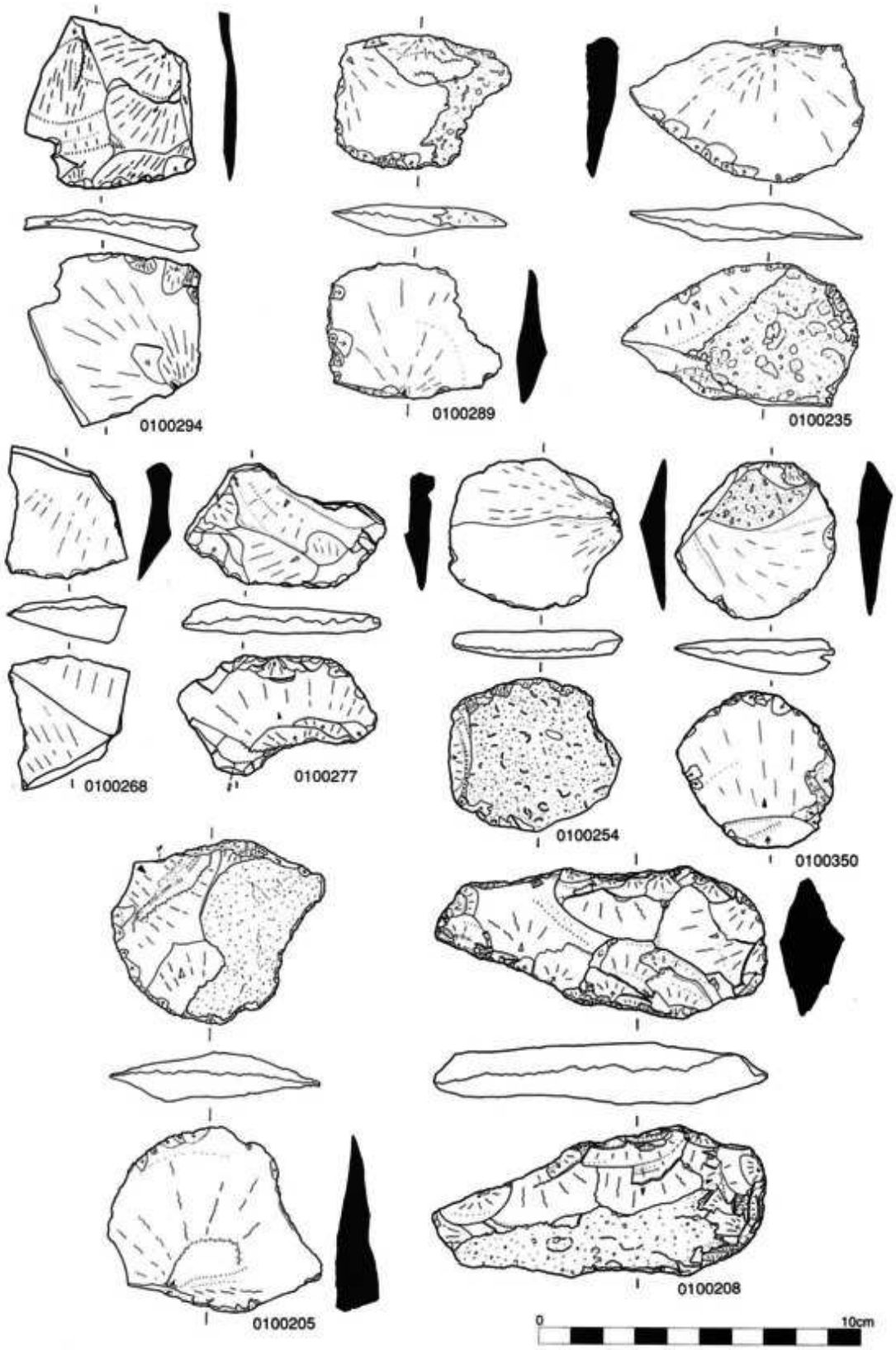


fig.64　打製石器実測図

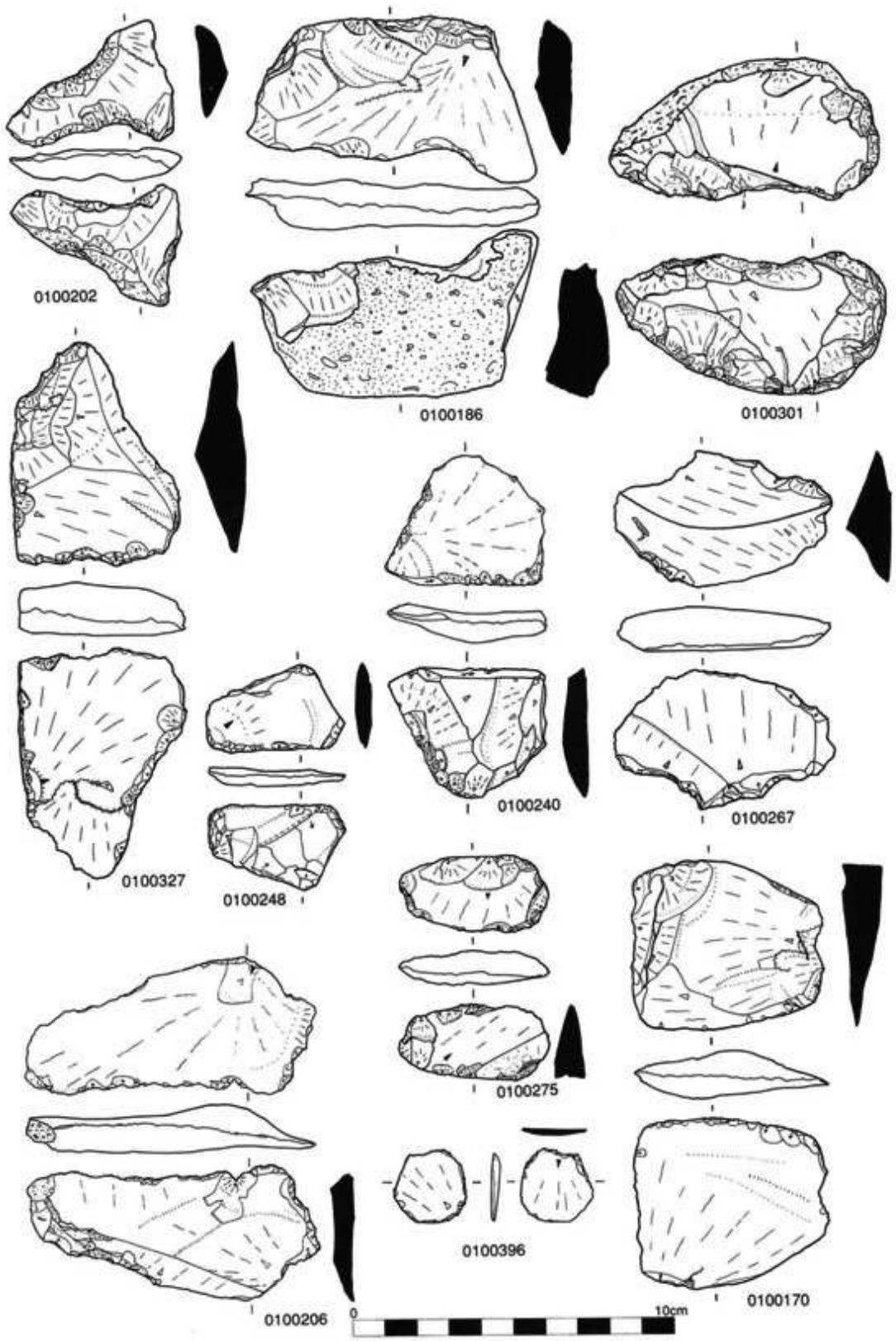


fig.65　打製石器実測図

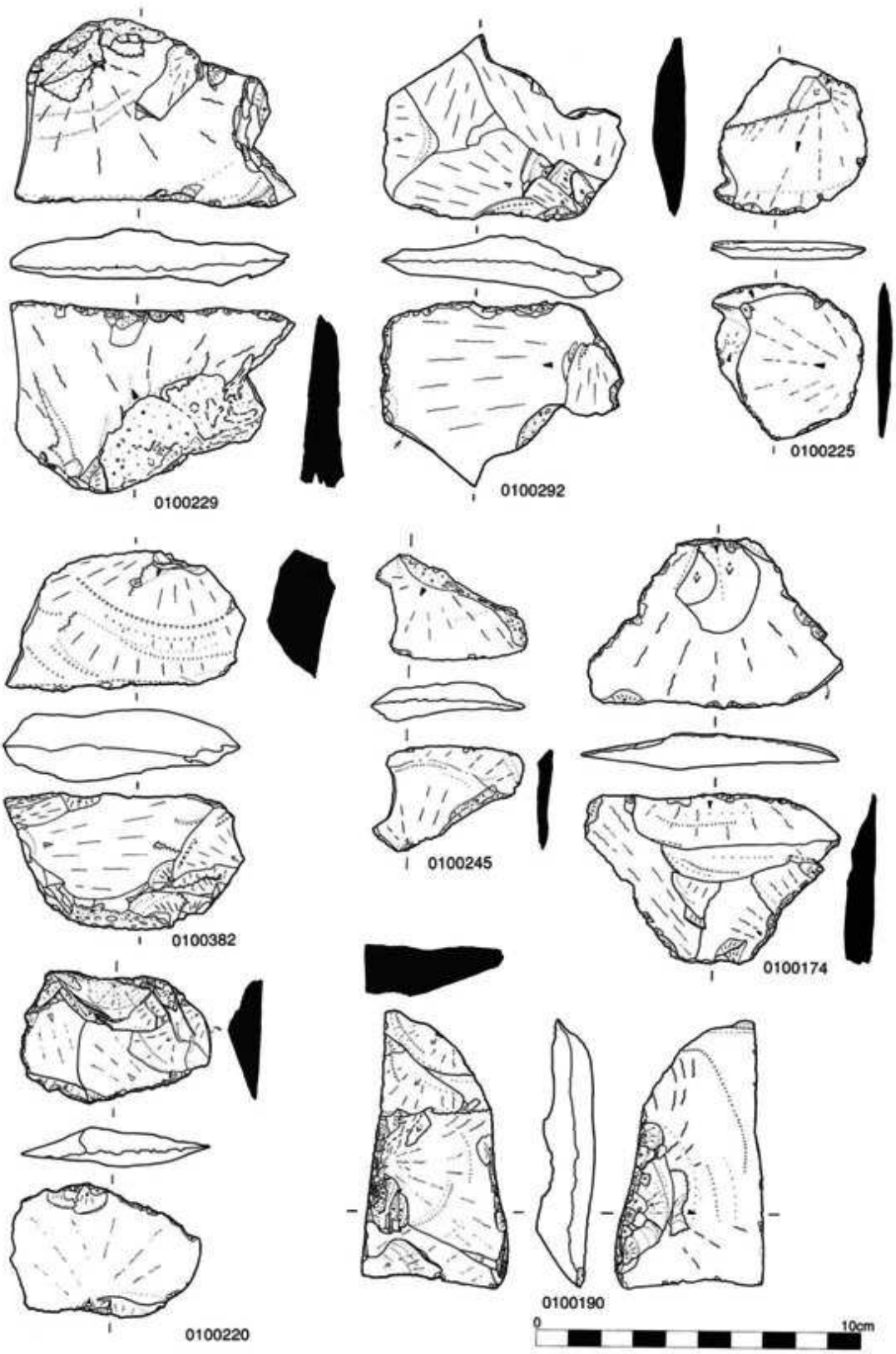


fig.66　打製石器実測図

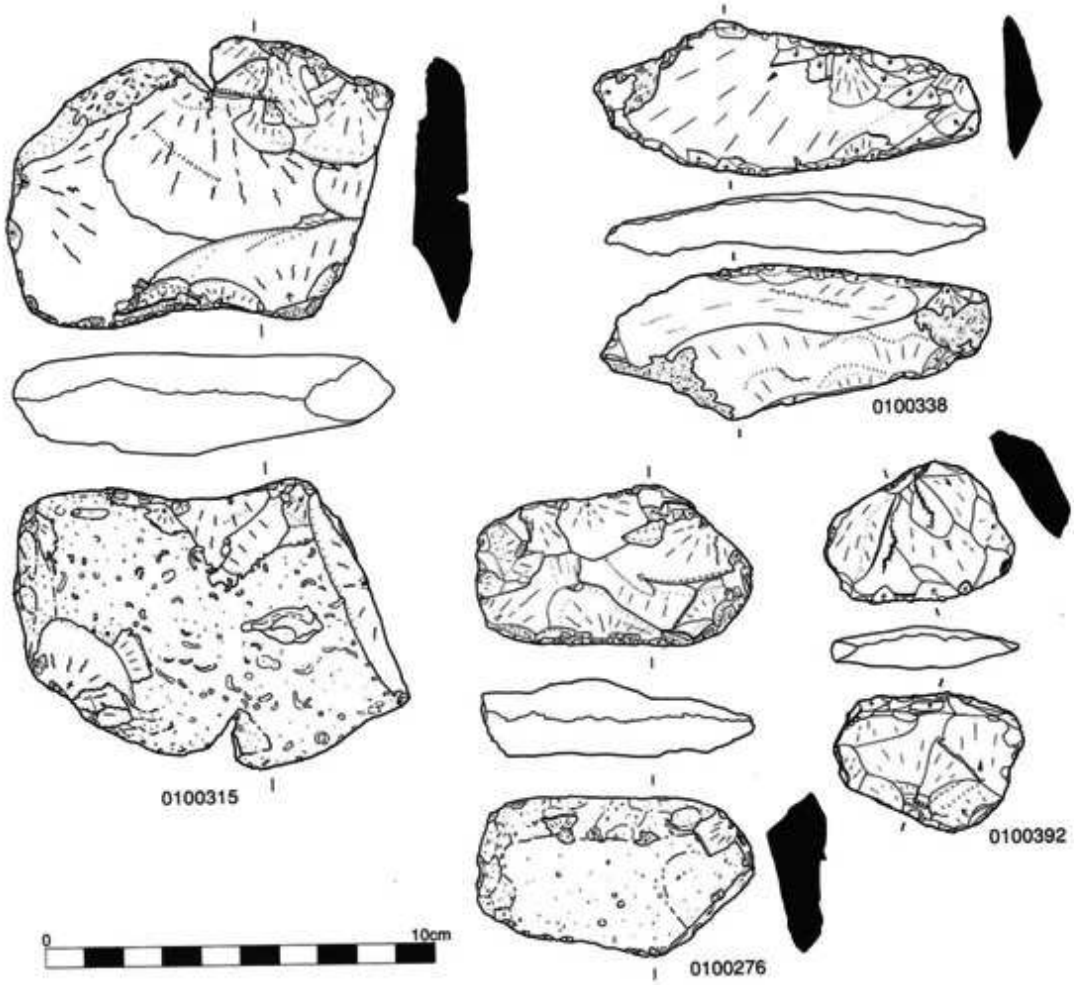


fig.67　打製石器実測図

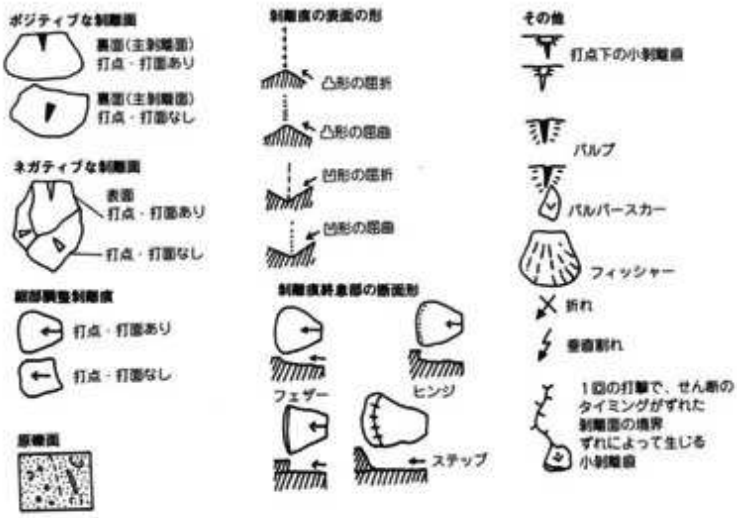


fig.57　打製石器実測図凡例

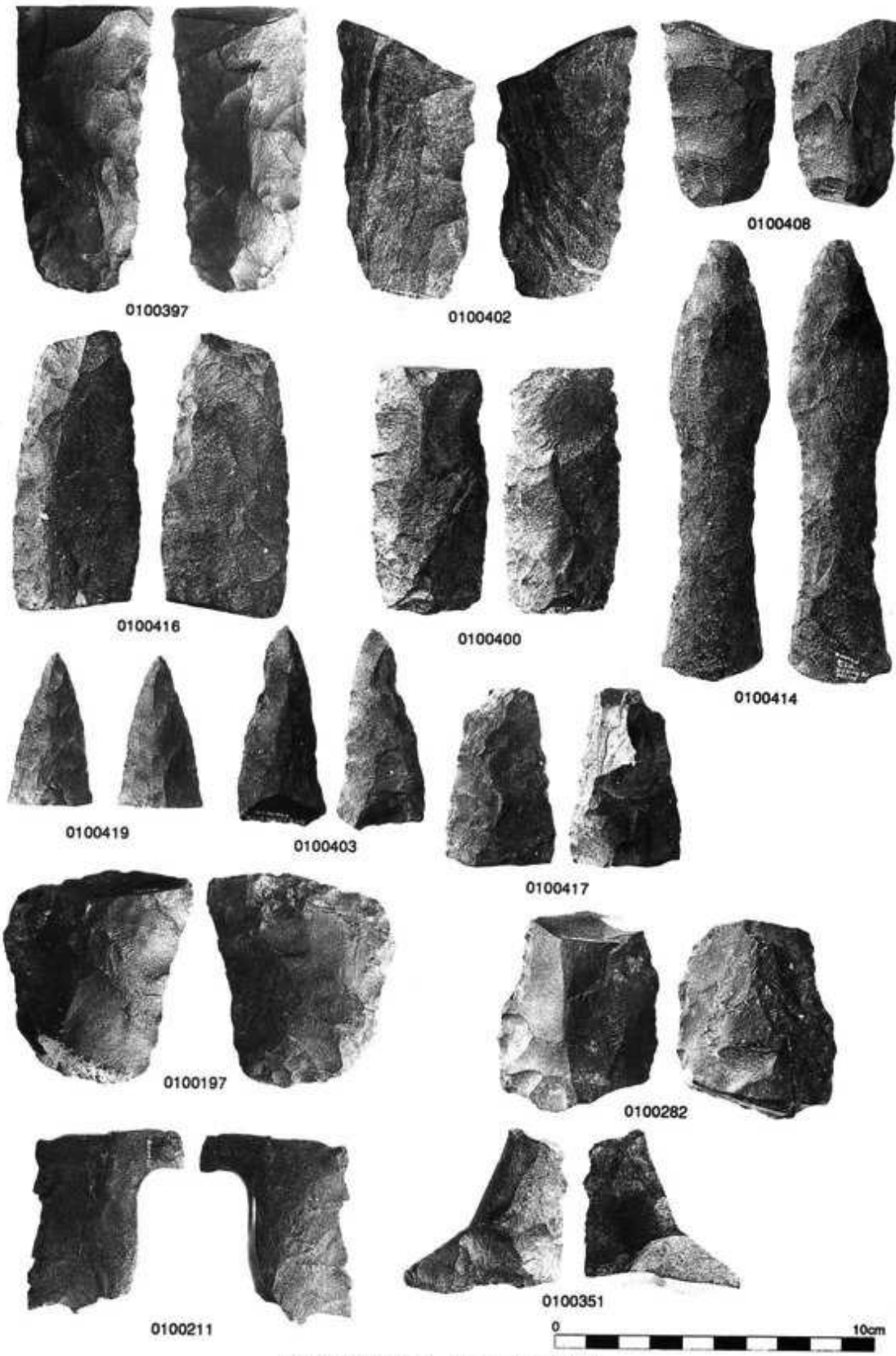


fig.68　剣形・槍形・戈形両面調整尖頭器

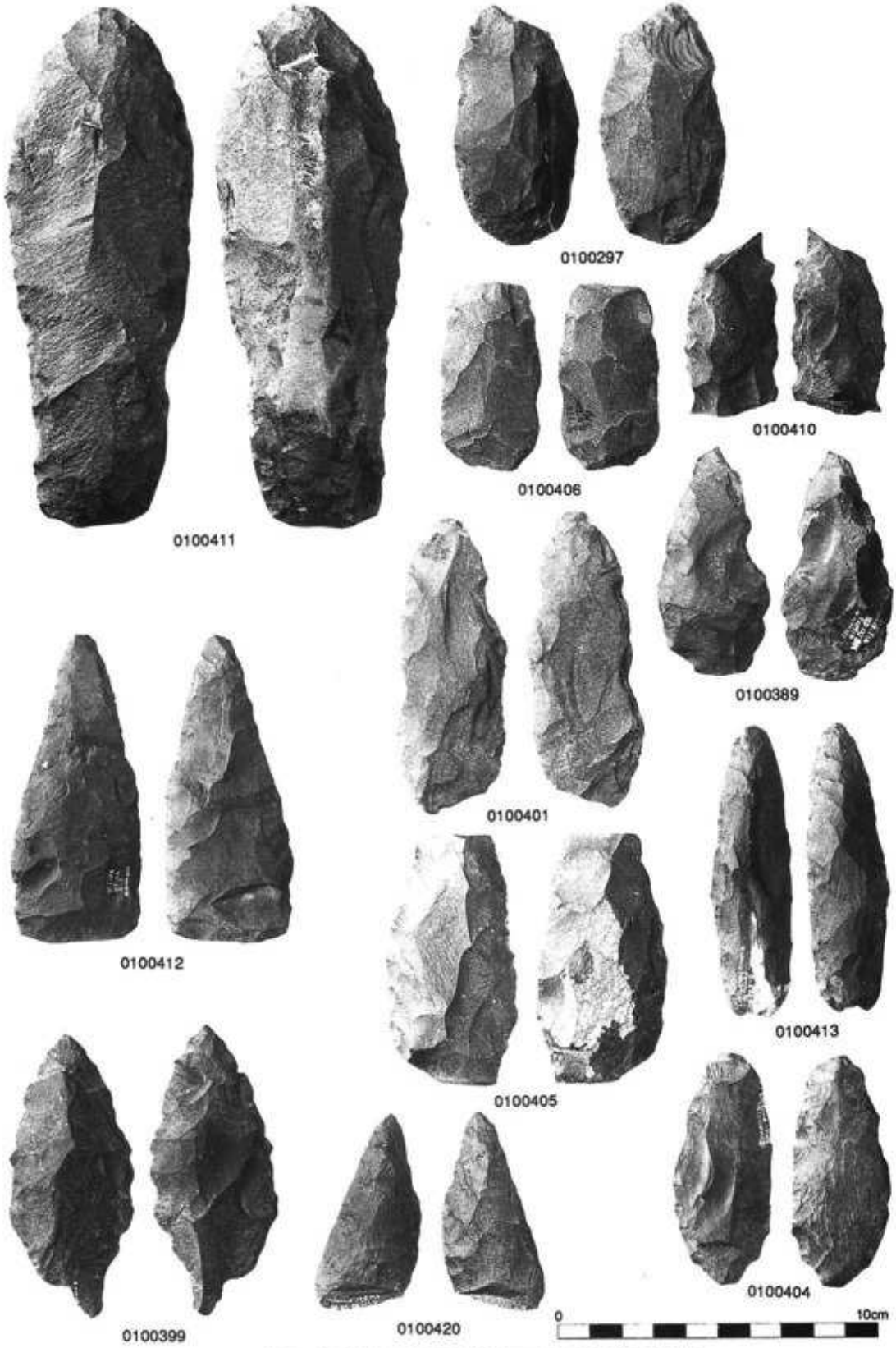


fig.69　戈形・小型槍形両面調整尖頭器、両面調整尖頭器（敲打具）

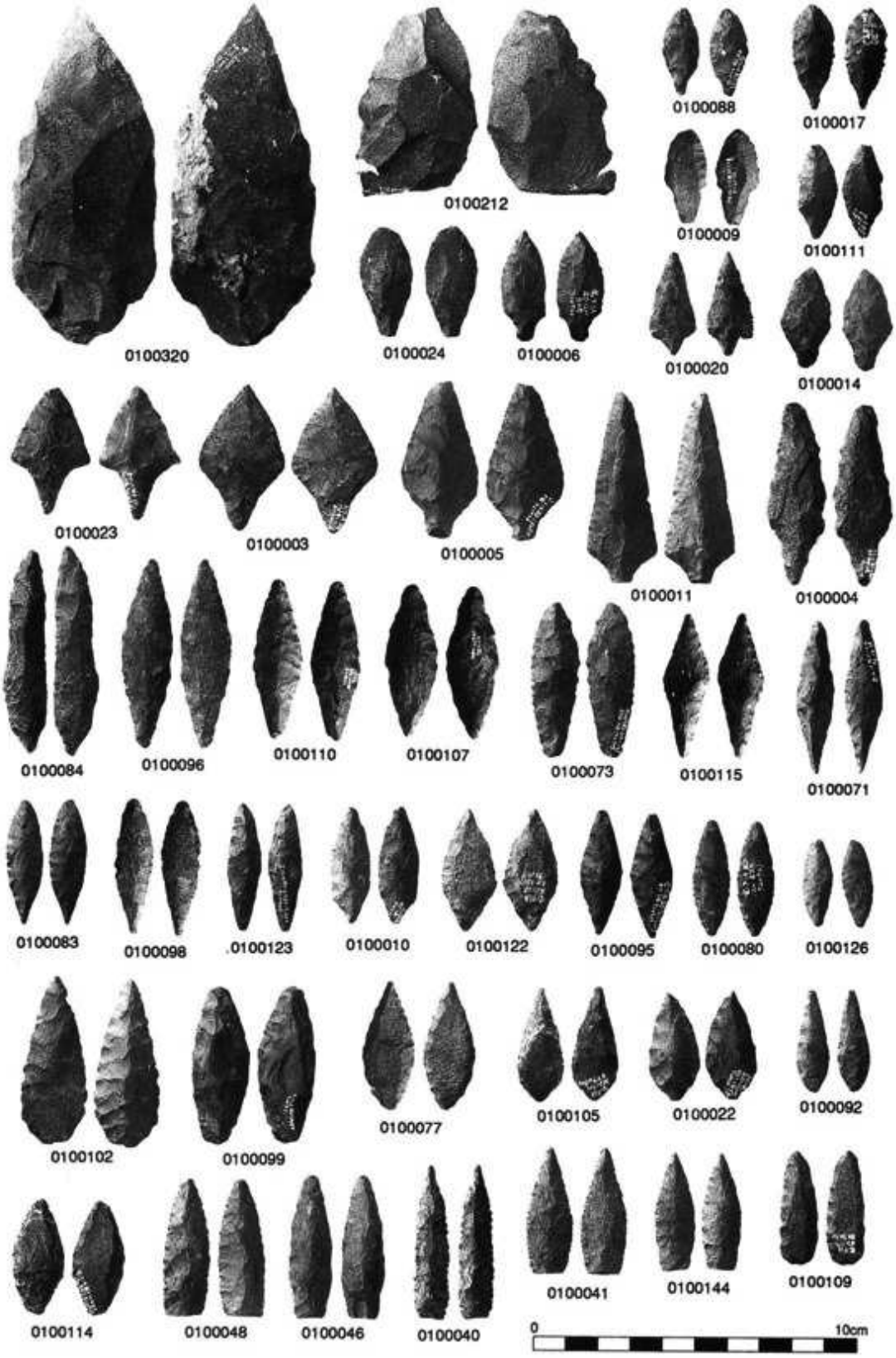


fig.70　小型槍形両面調整尖頭器、石鏃

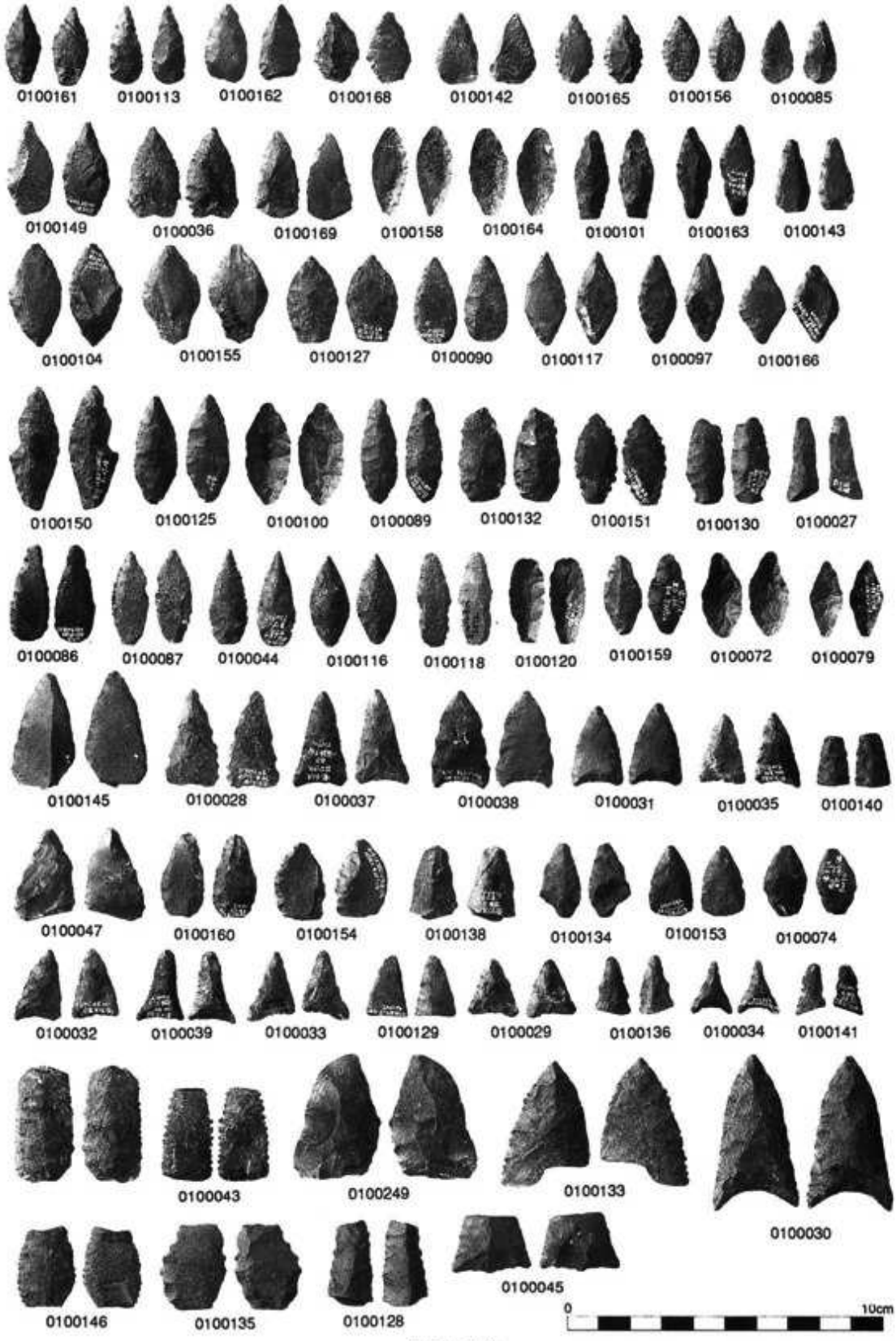

0100161
0100113
0100162
0100168
0100142
0100165
0100156
0100085
0100149
0100036
0100169
0100158
0100164
0100101
0100163
0100143
0100104
0100155
0100127
0100090
0100117
0100097
0100166
0100150
0100125
0100100
0100089
0100132
0100151
0100130
0100027
0100086
0100087
0100044
0100116
0100118
0100120
0100159
0100072
0100079
0100145
0100028
0100037
0100038
0100031
0100035
0100140
0100047
0100160
0100154
0100138
0100134
0100153
0100074
0100032
0100039
0100033
0100129
0100029
0100136
0100034
0100141
0100043
0100249
0100133
0100030
0100045
0100146
0100135
0100128
0
10cm

fig.71 石鏃

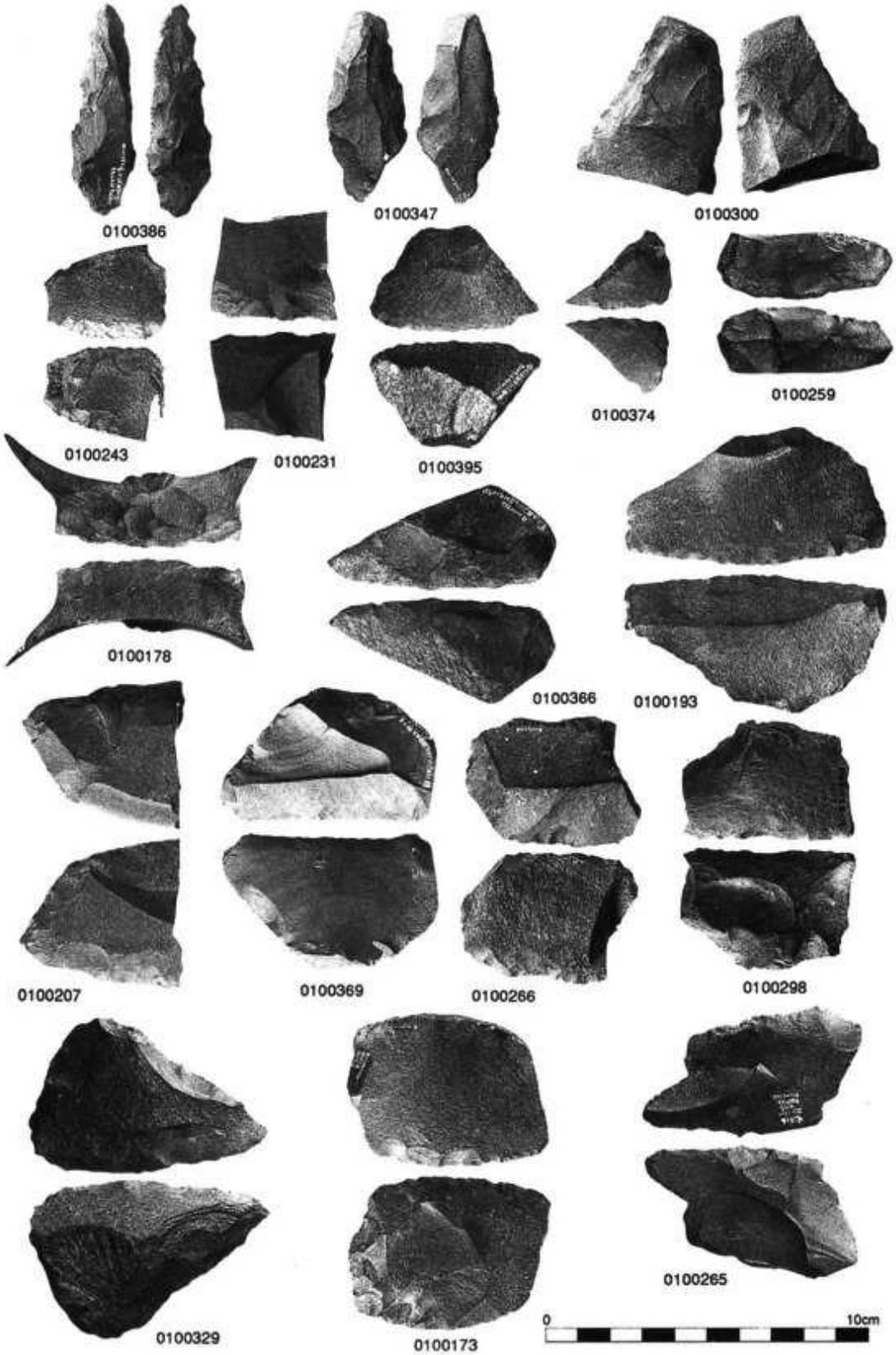


fig.72　不完全両面調整尖頭器、刃部両面調整片面調整尖頭器、刃部両面調整直刃削器

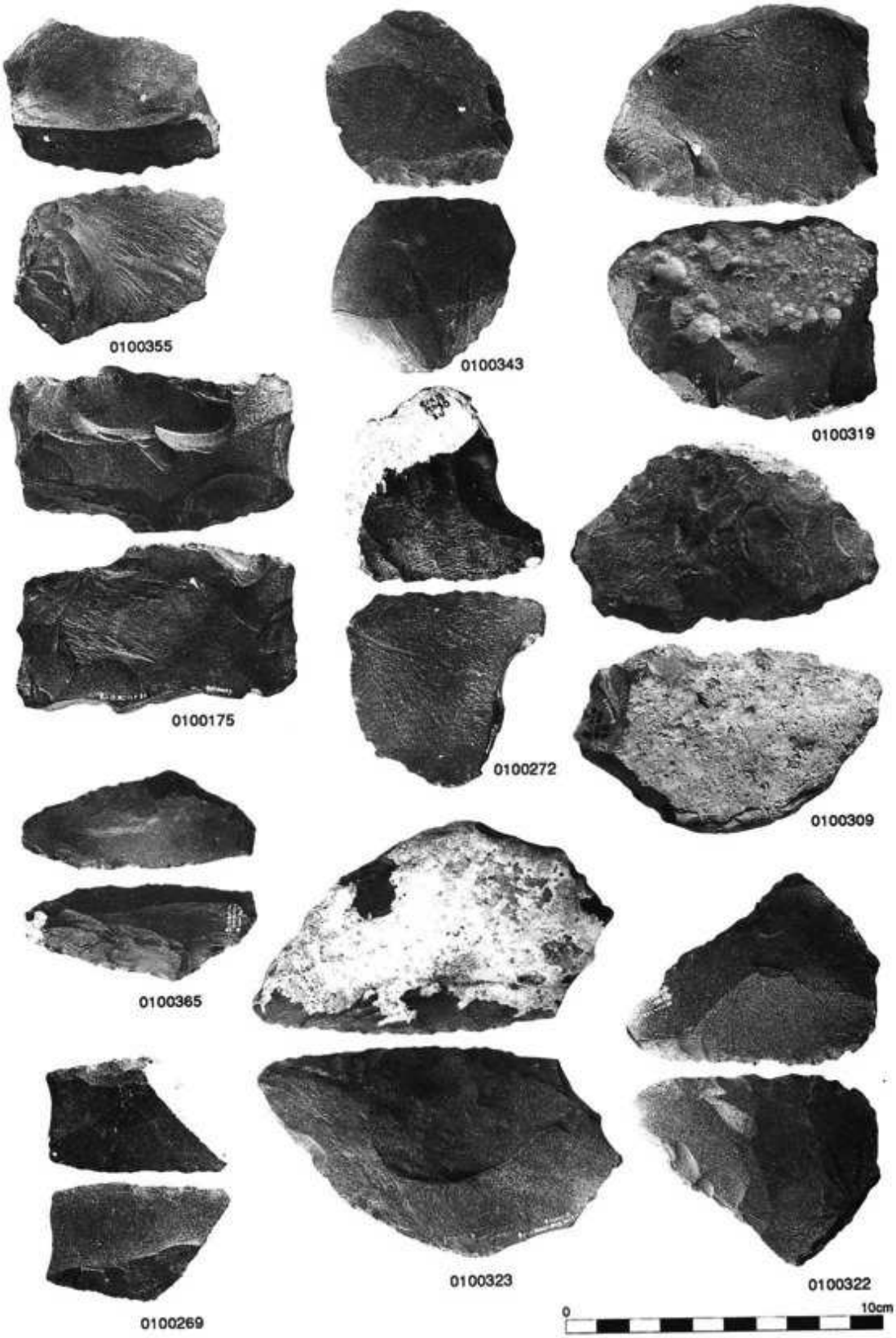


fig.73　刃部両面調整直刃削器

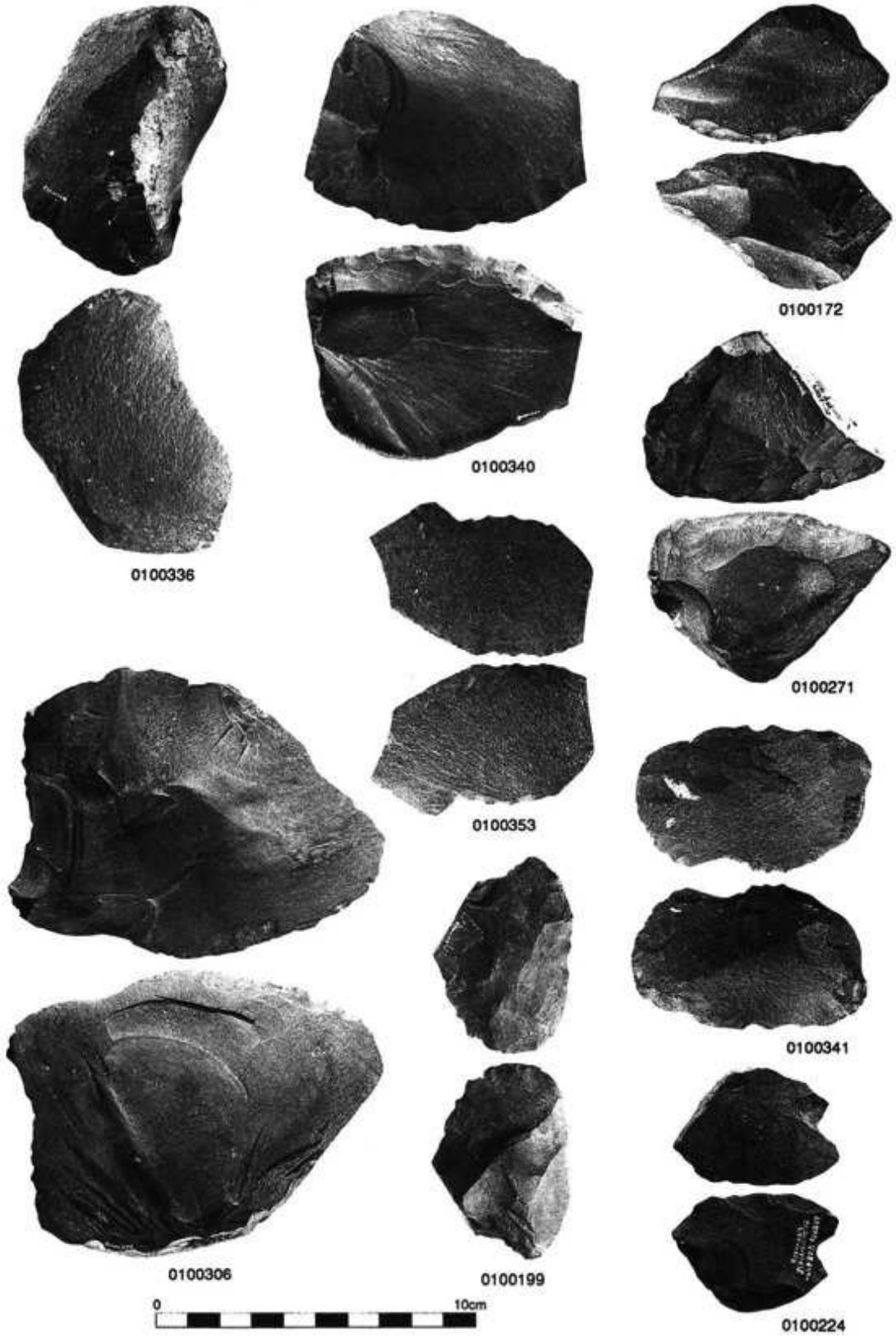


fig.74　刃部両面調整凸刃削器

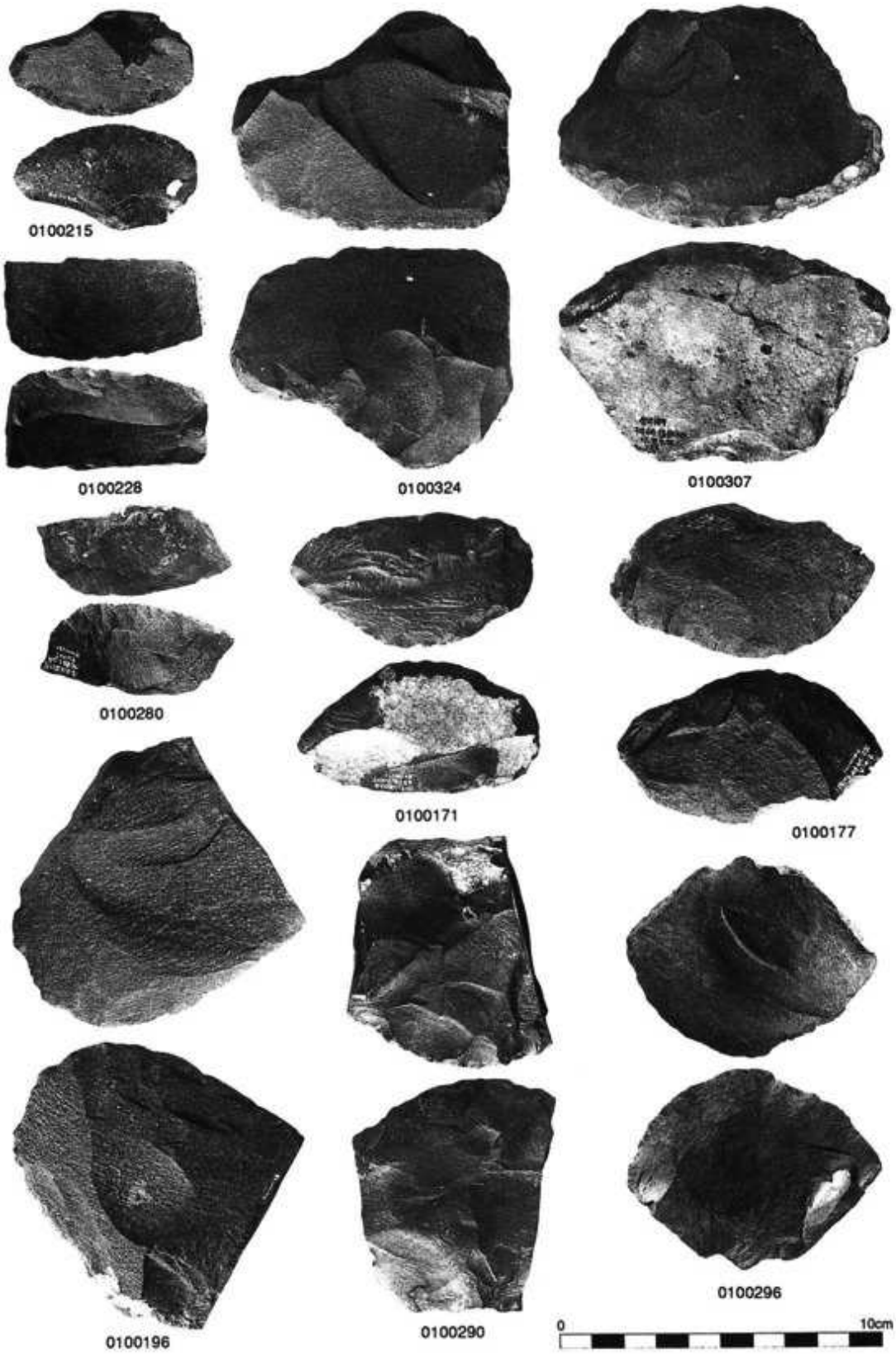


fig.75　刃部両面調整直刃凸刃削器、刃部両面調整凸刃削器

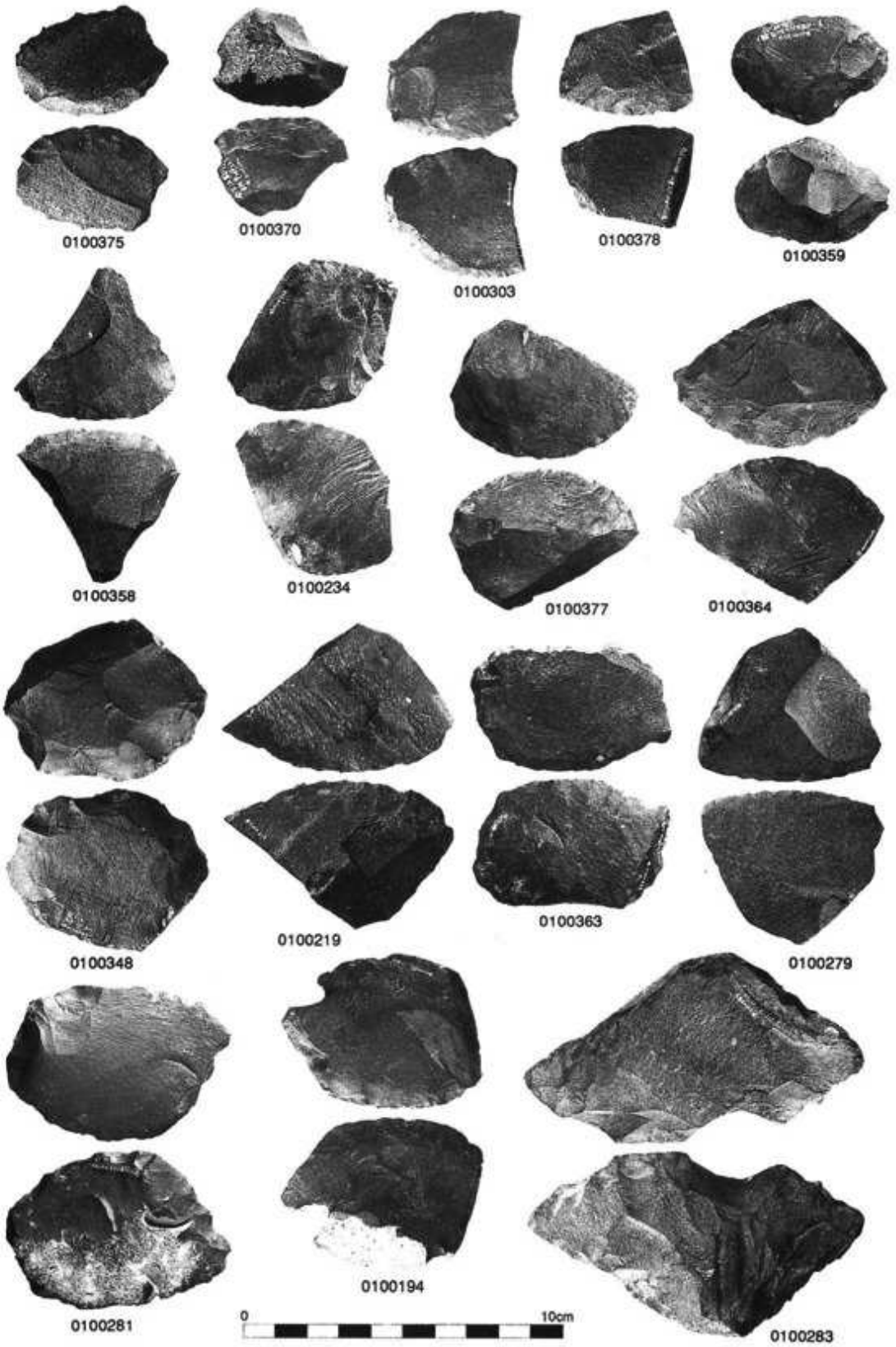


fig.76　刃部両面調整直刃削器

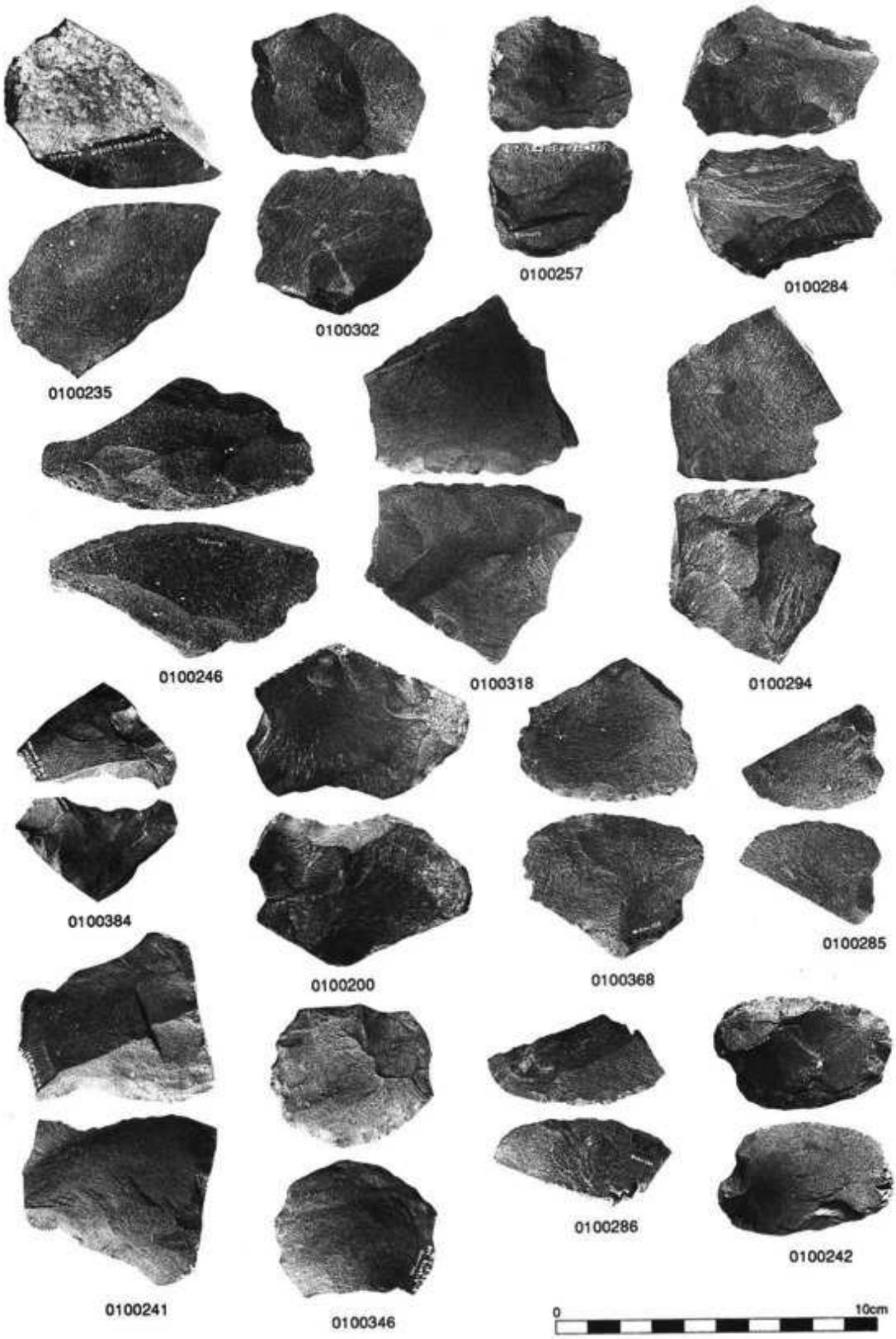


fig.77　刃部片面調整直刃削器、刃部片面調整直刃凹刃削器、刃部片面調整凹刃削器、刃部片面調整凸刃削器

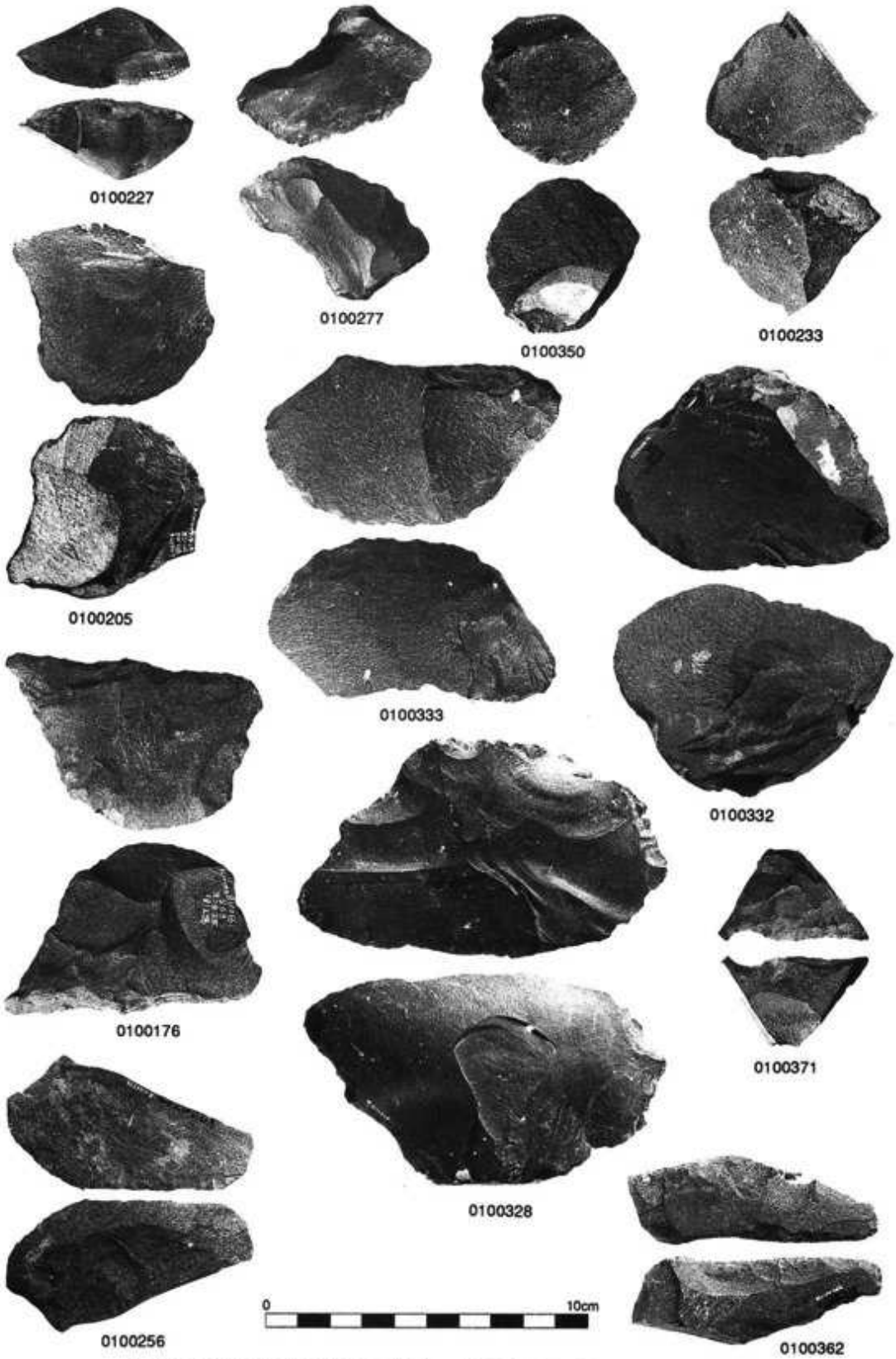


fig.78　刃部片面調整凸刃削器、不完全両面調整刃部片面調整えぐりつき直刃削器

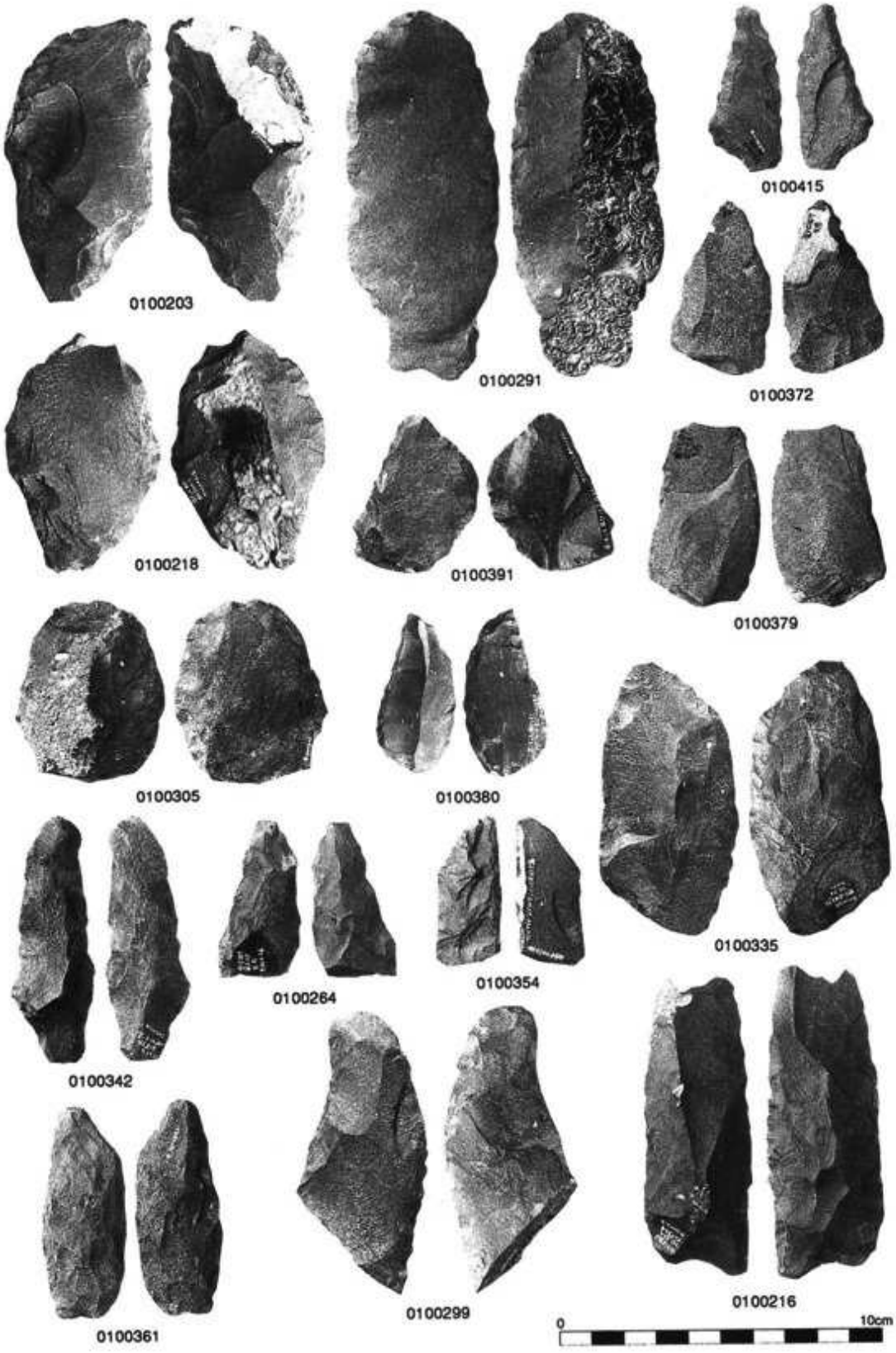


fig.79　刃部両面調整複刃削器、刃部片面調整複刃削器、両面調整複刃削器、両面調整尖頭削器、片面調整複刃削器

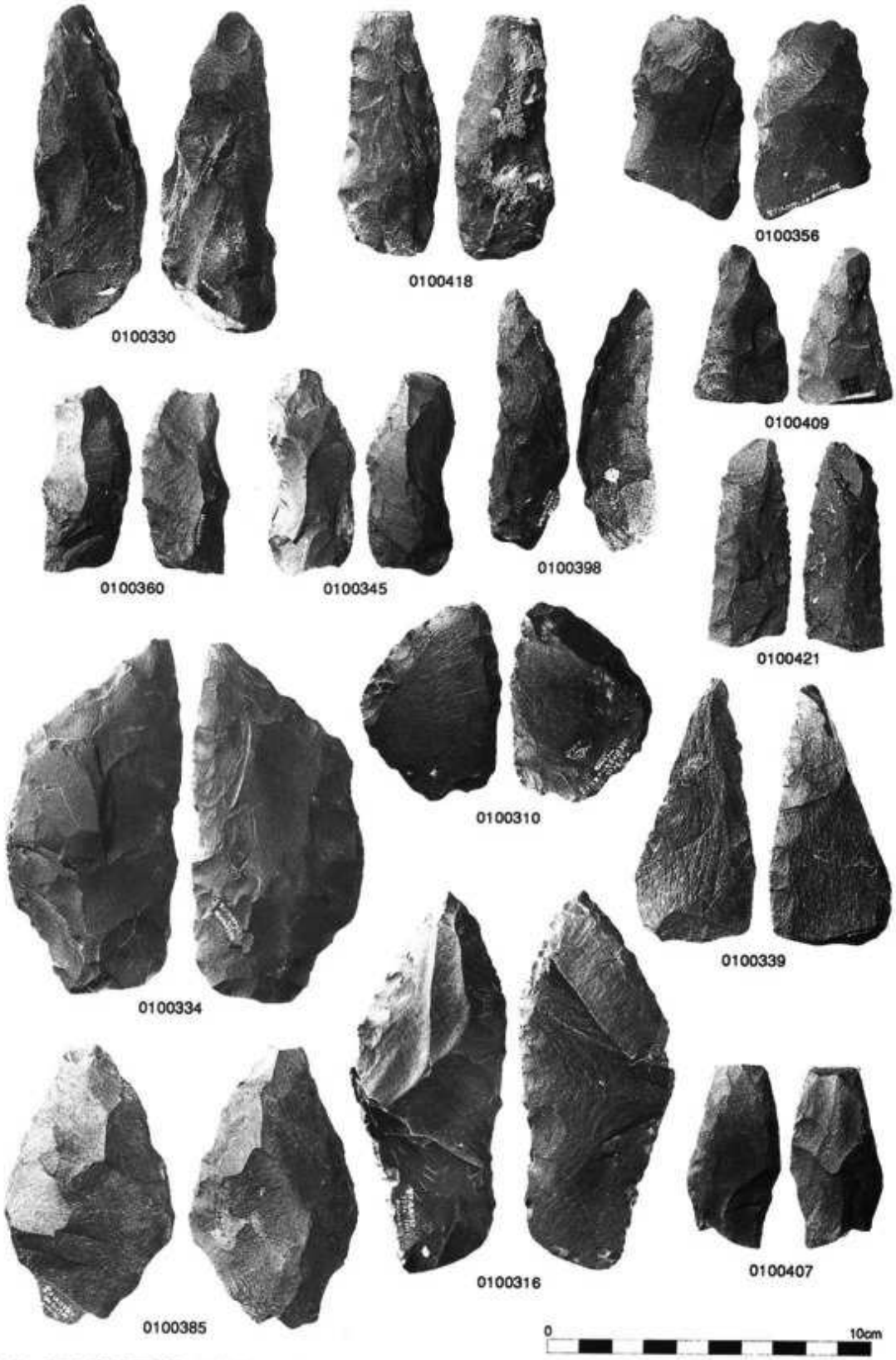


fig.80 両面調整尖頭削器、不完全両面調整刃部両面調整複刃削器、不完全両面調整複刃削器、石小刀形両面調整複複刃尖頭削器、刃部両面調整尖頭削器、刃部両面調整複刃尖頭削器、不完全両面調整尖頭削器

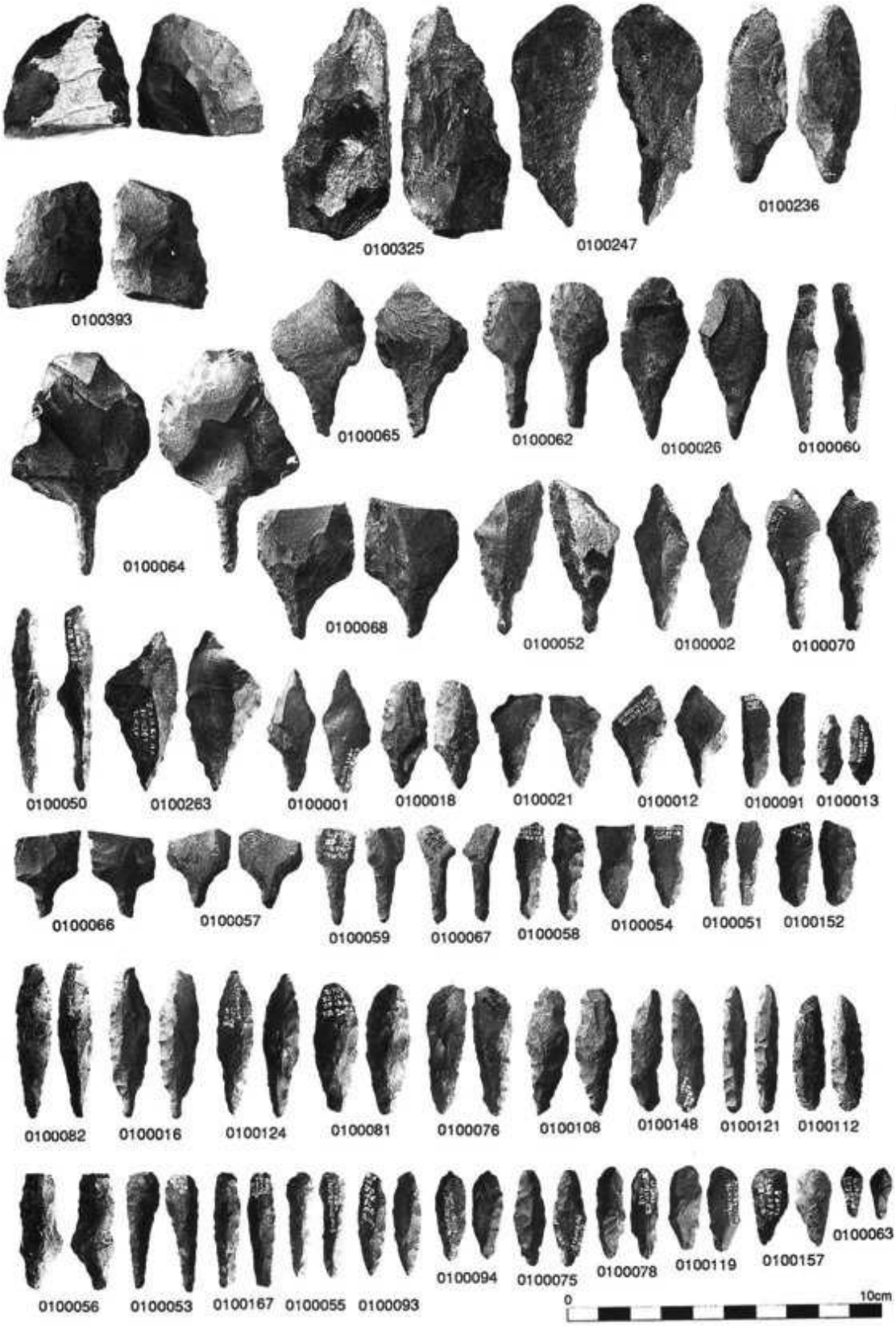

0100393
0100325
0100247
0100236
0100065
0100062
0100026
0100060
0100064
0100068
0100052
0100002
0100070
0100050
0100263
0100001
0100018
0100021
0100012
0100091
0100013
0100066
0100057
0100059
0100067
0100058
0100054
0100051
0100152
0100082
0100016
0100124
0100081
0100076
0100108
0100148
0100121
0100112
0100056
0100053
0100167
0100055
0100093
0100094
0100075
0100078
0100119
0100157
0100063
0
10cm

fig.81 石錐

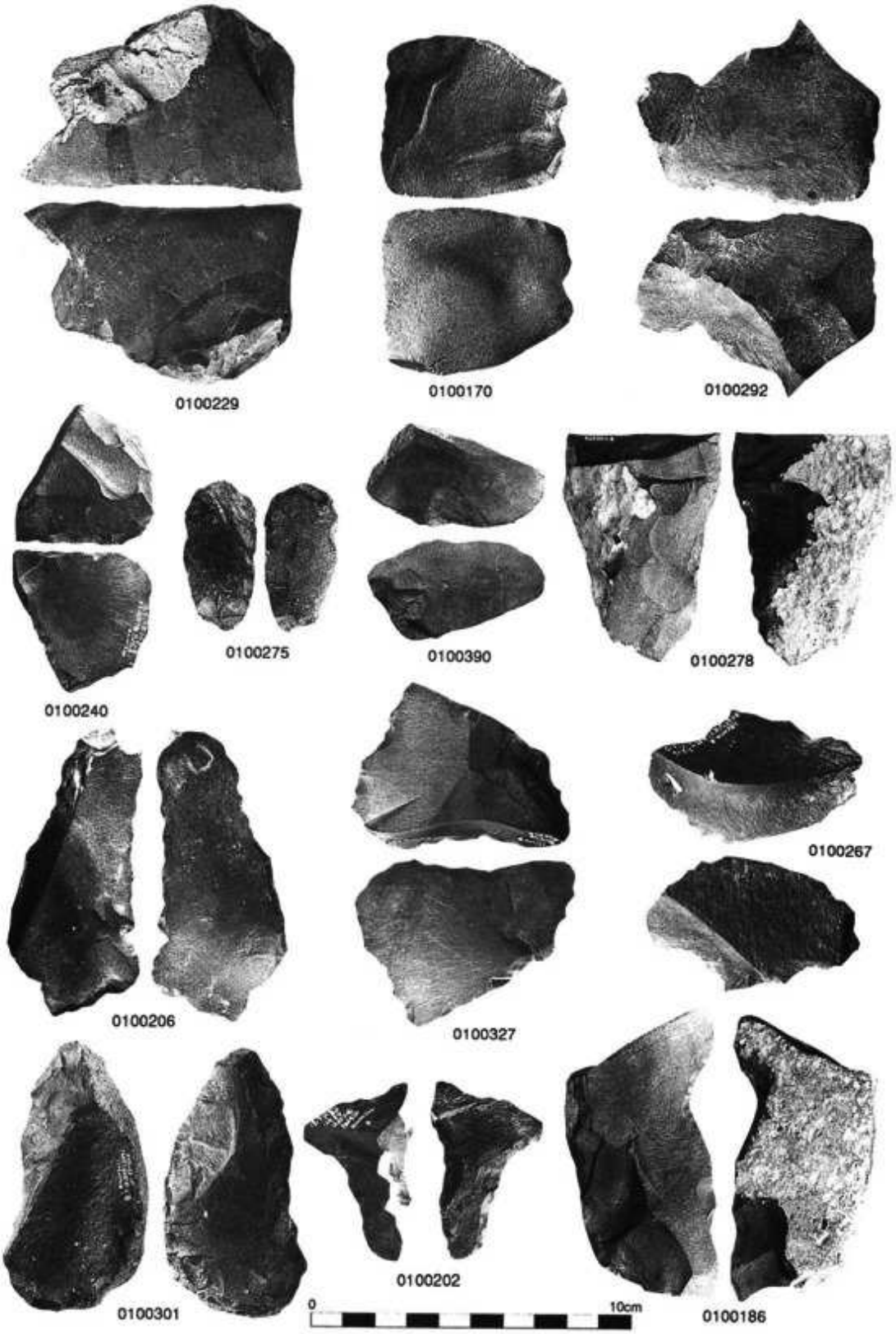


fig.82　使用痕のある細部調整剥片，不完全両面調整剥片，細部調整剥片，刃部両面調整細部調整剥片，敲打痕のある石器、えぐりのある石器

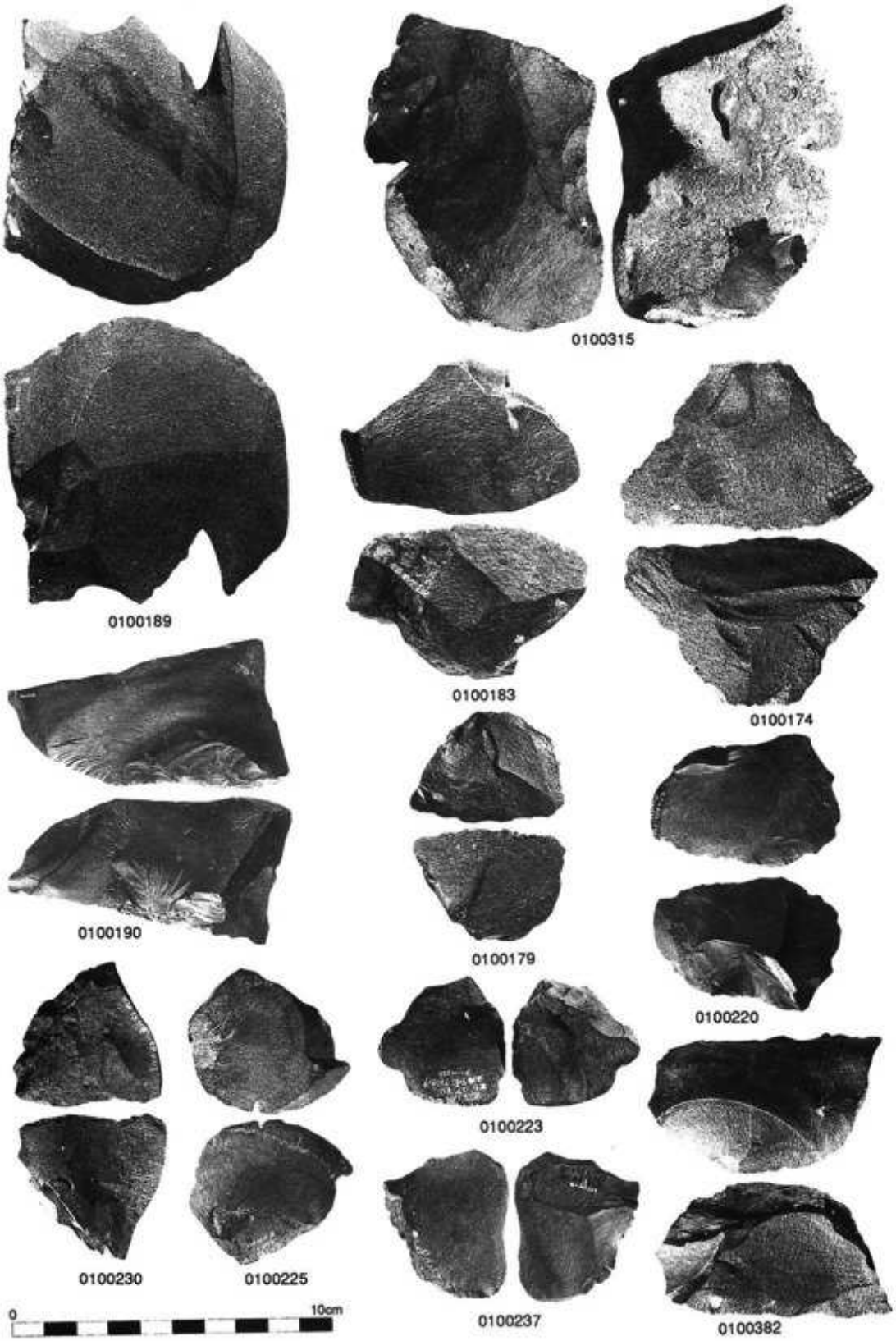


fig.83　敲打痕のある剥片，使用痕のある剥片，剥片

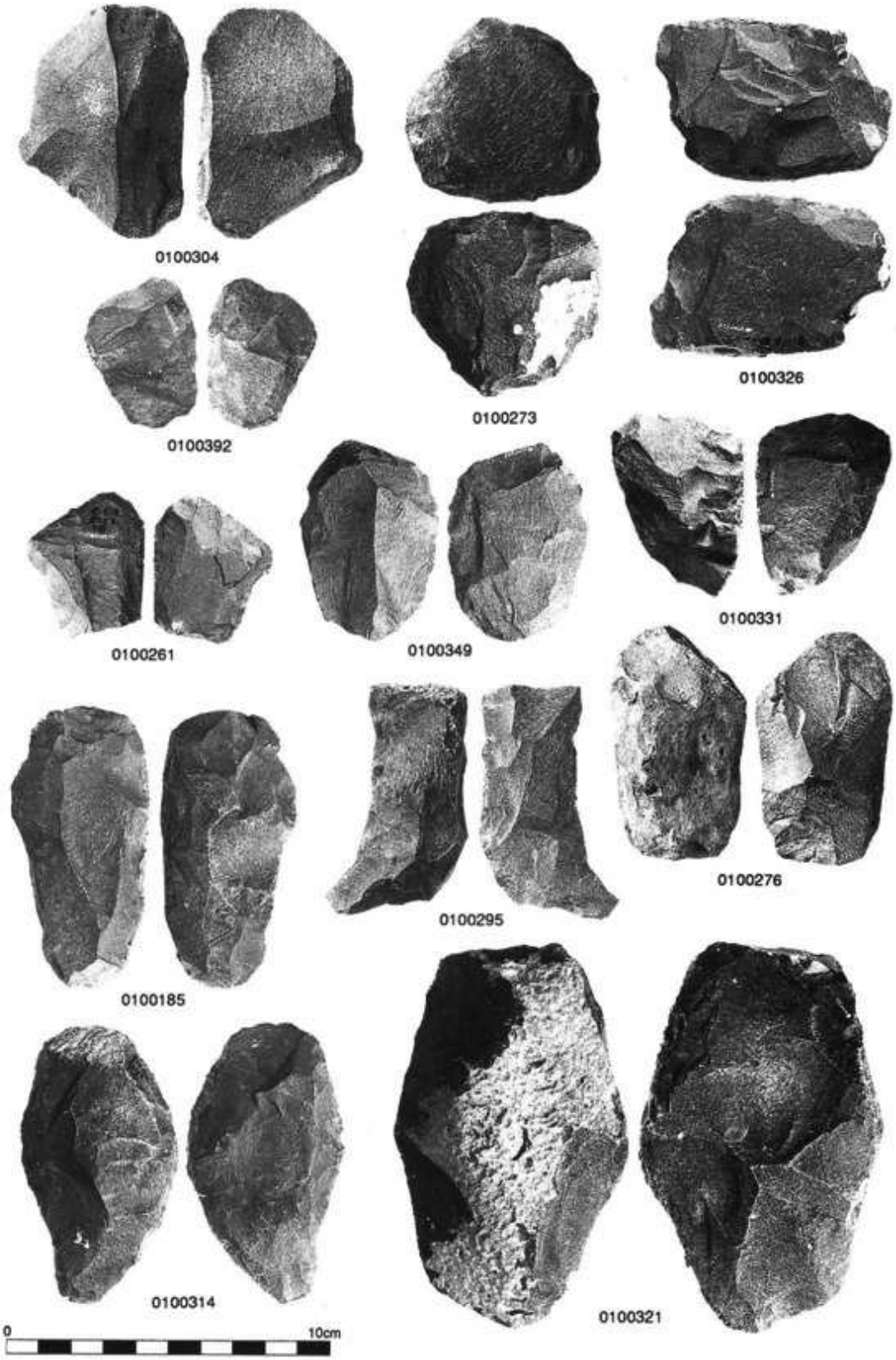


fig.84　石核A，石核B

ID	型式・形態								地区	区画	層位/遺構	時期
0100001	石錐						現礫面 なし		A	IIID,11H,SW	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 3.87 cm	幅 1.56 cm	厚さ 0.57 cm	重さ 2.8 g	備考							
0100002	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12H	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.68 cm	幅 1.78 cm	厚さ 0.65 cm	重さ 4.7 g	備考							
0100003	石錐						現礫面 なし		A	10G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.58 cm	幅 2.68 cm	厚さ 0.44 cm	重さ 4.1 g	備考							
0100004	石錐						現礫面 なし		A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.60 cm	幅 1.84 cm	厚さ 0.71 cm	重さ 7.1 g	備考							
0100005	石錐						現礫面 なし		A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.84 cm	幅 2.39 cm	厚さ 0.54 cm	重さ 5.3 g	備考							
0100006	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12H	8U	弥生時代IV期
	長さ 0.24 cm	幅 1.39 cm	厚さ 0.39 cm	重さ 1.8 g	備考							
0100008	石錐						現礫面 なし		A	IIID,11H	トレンチ内貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ 3.43 cm	幅 1.64 cm	厚さ 0.39 cm	重さ 1.9 g	備考							
0100009	石錐						現礫面 なし		A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.79 cm	幅 1.28 cm	厚さ 0.37 cm	重さ 1.2 g	備考							
0100010	石錐						現礫面 なし		A	IIID	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.61 cm	幅 1.19 cm	厚さ 0.44 cm	重さ 1.9 g	備考							
0100011	石錐						現礫面 なし		A	IIID,13L	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.95 cm	幅 2.22 cm	厚さ 0.54 cm	重さ 5.9 g	備考							
0100012	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12J,SE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 3.19 cm	幅 1.67 cm	厚さ 0.54 cm	重さ 2.6 g	備考							
0100013	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.24 cm	幅 0.83 cm	厚さ 0.39 cm	重さ 0.8 g	備考							
0100014	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12I,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 2.98 cm	幅 1.47 cm	厚さ 0.50 cm	重さ 2.0 g	備考							
0100015	石錐						現礫面 なし		B5	IIID,13T	8L'9	弥生時代II期
	長さ 2.47 cm	幅 0.72 cm	厚さ 0.70 cm	重さ 2.7 g	備考							
0100016	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.69 cm	幅 1.31 cm	厚さ 0.58 cm	重さ 3.5 g	備考							
0100017	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12I,SE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 2.95 cm	幅 1.20 cm	厚さ 0.35 cm	重さ 1.1 g	備考							
0100018	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12H	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.24 cm	幅 1.42 cm	厚さ 0.62 cm	重さ 2.7 g	備考							
0100019	石錐						現礫面 なし		B	IIID,9O	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.90 cm	幅 2.22 cm	厚さ 0.62 cm	重さ 6.3 g	備考							
0100020	石錐						現礫面 なし		A	IIID,13K	トレンチ内貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ 3.41 cm	幅 1.48 cm	厚さ 0.37 cm	重さ 1.6 g	備考							
0100021	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12I,NE	貝層-2下部	縄文晩期前横式期～長原式期
	長さ 0.88 cm	幅 1.55 cm	厚さ 0.45 cm	重さ 1.9 g	備考							
0100022	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12J,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 3.21 cm	幅 1.46 cm	厚さ 0.47 cm	重さ 1.8 g	備考							
0100023	石錐						現礫面 なし		A	IIID,13L	8M	弥生時代II期
	長さ 4.12 cm	幅 2.53 cm	厚さ 0.50 cm	重さ 3.7 g	備考							
0100024	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12II,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 3.29 cm	幅 1.59 cm	厚さ 0.39 cm	重さ 1.9 g	備考							
0100026	石錐						現礫面 なし		B?	IIID,8P	SP-69	弥生時代？
	長さ 5.13 cm	幅 2.20 cm	厚さ 0.77 cm	重さ 6.1 g	備考							
0100027	石錐						現礫面 なし		A	不明	不明	弥生時代？
	長さ 2.56 cm	幅 1.01 cm	厚さ 0.29 cm	重さ 0.8 g	備考							
0100028	石錐						現礫面 なし		A	14F	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.99 cm	幅 1.65 cm	厚さ 0.45 cm	重さ 1.9 g	備考							
0100029	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12J,SE	貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ 1.76 cm	幅 1.58 cm	厚さ 0.40 cm	重さ 0.8 g	備考							
0100030	石錐						現礫面 あり		B5	IIID,12I	8L	弥生時代II期
	長さ 4.69 cm	幅 2.62 cm	厚さ 0.55 cm	重さ 5.6 g	備考							
0100031	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12J,SW	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 2.47 cm	幅 1.58 cm	厚さ 0.27 cm	重さ 1.2 g	備考							
0100032	石錐						現礫面 なし		A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.09 cm	幅 1.41 cm	厚さ 0.31 cm	重さ 0.8 g	備考							
0100033	石錐						現礫面 なし		A	IIID,11I,NW	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 1.98 cm	幅 1.54 cm	厚さ 0.35 cm	重さ 0.8 g	備考							
0100034	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 1.71 cm	幅 1.33 cm	厚さ 0.35 cm	重さ 0.5 g	備考							
0100035	石錐						現礫面 なし		A	IIID,14K	8M	弥生時代II期
	長さ 2.10 cm	幅 1.38 cm	厚さ 0.40 cm	重さ 1.1 g	備考							
0100036	石錐						現礫面 なし		A	IIID,12J	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 2.79 cm	幅 1.64 cm	厚さ 0.39 cm	重さ 1.8 g	備考							

table. 3-1 打製石器一覧

ID	型式・形態							地区	区画	層位/遺構	時期
0100037	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,13K	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.97 cm	幅 1.66 cm	厚さ 0.40 cm	重さ 1.5 g	備考						
0100038	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,12K,NW	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 3.03 cm	幅 1.81 cm	厚さ 0.30 cm	重さ 1.5 g	備考						
0100039	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,12E	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.31 cm	幅 1.46 cm	厚さ 0.31 cm	重さ 0.7 g	備考						
0100040	石鏃					現礫面 なし			IIIE,7D	SD-71	弥生時代II期
	長さ 4.74 cm	幅 1.09 cm	厚さ 0.53 cm	重さ 2.6 g	備考						
0100041	石鏃					現礫面 なし		B	IIID,2Q	SD-69	弥生時代II期
	長さ 3.91 cm	幅 1.45 cm	厚さ 0.37 cm	重さ 2.0 g	備考						
0100043	石鏃					現礫面 なし		B7	IIIE,6B	8	弥生時代II～IV期
	長さ 2.89 cm	幅 1.61 cm	厚さ 0.32 cm	重さ 1.9 g	備考						
0100044	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,14H	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.11 cm	幅 1.23 cm	厚さ 0.39 cm	重さ 1.3 g	備考						
0100045	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,12H	9U	弥生時代II期
	長さ 1.84 cm	幅 2.55 cm	厚さ 0.44 cm	重さ 2.1 g	備考						
0100046	石鏃					現礫面 なし		B5	IIID,11T	8M	弥生時代II期
	長さ 4.23 cm	幅 1.28 cm	厚さ 0.52 cm	重さ 2.8 g	備考						
0100047	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,10E	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.56 cm	幅 1.95 cm	厚さ 0.35 cm	重さ 1.7 g	備考						
0100048	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,13G	不明	弥生時代？
	長さ 4.07 cm	幅 1.41 cm	厚さ 0.50 cm	重さ 3.1 g	備考						
0100049	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,12I,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 1.85 cm	幅 0.83 cm	厚さ 0.38 cm	重さ 0.7 g	備考						
0100050	石鏃					現礫面 あり		A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.83 cm	幅 1.05 cm	厚さ 0.77 cm	重さ 4.0 g	備考						
0100051	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.57 cm	幅 0.86 cm	厚さ 0.27 cm	重さ 0.7 g	備考						
0100052	石鏃					現礫面 あり		B	IIIE,10E	8M	弥生時代II期
	長さ 4.94 cm	幅 2.25 cm	厚さ 1.35 cm	重さ 10.5 g	備考						
0100053	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.63 cm	幅 1.06 cm	厚さ 0.76 cm	重さ 2.4 g	備考						
0100054	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,12G'12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.63 cm	幅 1.27 cm	厚さ 0.53 cm	重さ 2.2 g	備考						
0100055	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,11E	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.25 cm	幅 0.86 cm	厚さ 0.32 cm	重さ 1.0 g	備考						
0100056	石鏃					現礫面 なし		B3	IIIE,3E	8M	弥生時代II期
	長さ 3.64 cm	幅 1.47 cm	厚さ 0.93 cm	重さ 4.7 g	備考						
0100057	石鏃					現礫面 なし		B	IIID,6S	8	弥生時代II～IV期
	長さ 2.43 cm	幅 1.96 cm	厚さ 0.46 cm	重さ 1.8 g	備考						
0100058	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.99 cm	幅 1.03 cm	厚さ 0.55 cm	重さ 1.6 g	備考						
0100059	石鏃					現礫面 あり		A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.83 cm	幅 1.15 cm	厚さ 0.48 cm	重さ 1.3 g	備考						
0100060	石鏃					現礫面 あり		A	IIID,12I,SE	貝層-2下部	縄文晩期前葉式期～弥生式期
	長さ 4.67 cm	幅 1.09 cm	厚さ 0.78 cm	重さ 3.5 g	備考						
0100061	石鏃					現礫面 あり		A	IIID,13L	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.82 cm	幅 1.22 cm	厚さ 0.45 cm	重さ 1.5 g	備考						
0100062	石鏃					現礫面 なし		B7	IIIE,7B	SX-15	弥生時代II～IV期
	長さ 4.67 cm	幅 1.89 cm	厚さ 0.75 cm	重さ 5.9 g	備考						
0100063	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,11F	8U	弥生時代IV期
	長さ 1.64 cm	幅 0.74 cm	厚さ 0.39 cm	重さ 0.4 g	備考						
0100064	石鏃					現礫面 あり		B	IIID,10P	SP-65	弥生時代？
	長さ 6.94 cm	幅 4.36 cm	厚さ 1.73 cm	重さ 35.5 g	備考						
0100065	石鏃					現礫面 あり		B	IIIE,7C	SX-15	弥生時代II～IV期
	長さ 4.96 cm	幅 3.02 cm	厚さ 0.99 cm	重さ 9.3 g	備考						
0100066	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.67 cm	幅 1.89 cm	厚さ 0.52 cm	重さ 2.4 g	備考						
0100067	石鏃					現礫面 なし		B	IIIE,7D	SD-71	弥生時代II期
	長さ 2.94 cm	幅 1.13 cm	厚さ 0.33 cm	重さ 0.8 g	備考						
0100068	石鏃					現礫面 あり		B	IIID,4B	SX-13	弥生時代II期
	長さ 4.53 cm	幅 3.15 cm	厚さ 1.22 cm	重さ 16.1 g	備考						
0100069	石鏃					現礫面 あり		A	IIID,12J	8M	弥生時代II期
	長さ 3.19 cm	幅 1.44 cm	厚さ 0.90 cm	重さ 3.5 g	備考						
0100070	石鏃					現礫面 あり		B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 4.43 cm	幅 1.75 cm	厚さ 0.56 cm	重さ 4.2 g	備考						
0100071	石鏃					現礫面 なし		A	IIID,13G	不明	弥生時代？
	長さ 4.77 cm	幅 1.11 cm	厚さ 0.45 cm	重さ 2.3 g	備考						

table. 3-2 打製石器一覧

ID	型式・形態	研磨面	地区	区画	層位/遺構	時期	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
0100072	石鏃	なし	A	IIID,12E	8U	弥生時代IV期	2.57 cm	1.22 cm	0.39 cm	1.0 g	
0100073	石鏃	なし	A	IIID,12H'12J	8U	弥生時代IV期	4.61 cm	1.47 cm	0.51 cm	3.2 g	
0100074	石鏃	なし	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期	2.1 cm	1.26 cm	0.27 cm	0.9 g	
0100075	石鏃	なし	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期	2.88 cm	0.99 cm	0.51 cm	1.5 g	
0100076	石鏃	なし	B	IIIE,5A	8M-2	弥生時代II期	3.79 cm	1.19 cm	0.37 cm	2.0 g	
0100077	石鏃	なし	B	IIID,8T	SD-72	弥生時代II期	3.80 cm	1.52 cm	0.38 cm	2.2 g	
0100078	石鏃	なし	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期	2.75 cm	0.91 cm	0.54 cm	1.5 g	
0100079	石鏃	なし	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期	2.36 cm	1.01 cm	0.49 cm	1.0 g	
0100080	石鏃	なし	A	IIID,12H	8U	弥生時代IV期	3.42 cm	1.09 cm	0.23 cm	1.0 g	
0100081	石鏃	なし	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期	4.02 cm	1.39 cm	0.77 cm	4.0 g	
0100082	石鏃	あり	A	IIID,13E	8U	弥生時代IV期	4.84 cm	1.13 cm	0.69 cm	4.3 g	
0100083	石鏃	なし	B5	IIID,13R	8L	弥生時代II期	3.75 cm	1.10 cm	0.35 cm	1.3 g	
0100084	石鏃	なし	B	IIIE,6A	8U	弥生時代IV期	6.45 cm	1.40 cm	0.80 cm	6.9 g	
0100085	石鏃	なし	A	IIID,12H	8U	弥生時代IV期	1.95 cm	1.01 cm	0.24 cm	0.5 g	
0100086	石鏃	なし	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期	2.92 cm	1.22 cm	0.26 cm	1.0 g	
0100087	石鏃	なし	B	IIIE,5B	8	弥生時代II～IV期	2.80 cm	1.11 cm	0.27 cm	0.9 g	
0100088	石鏃	なし	A	IIID,13I	8U	弥生時代IV期	2.76 cm	1.21 cm	0.37 cm	1.1 g	
0100089	石鏃	なし	A	IIID,12I,NE	貝層-2上部	弥生時代II期	3.11 cm	1.12 cm	0.34 cm	1.2 g	
0100090	石鏃	なし	A	IIID,12G	8M	弥生時代II期	2.71 cm	1.37 cm	0.25 cm	1.1 g	
0100091	石鏃	なし	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期	2.84 cm	0.90 cm	0.37 cm	1.1 g	
0100092	石鏃	なし	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期	3.16 cm	1.02 cm	0.31 cm	1.0 g	
0100093	石鏃	なし	A	IIID,10E	8L	弥生時代II期	3.02 cm	0.86 cm	0.50 cm	1.4 g	
0100094	石鏃	なし	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期	2.80 cm	0.99 cm	0.37 cm	1.1 g	
0100095	石鏃	なし	A	IIID,12H'12J	8U	弥生時代IV期	3.67 cm	1.22 cm	0.47 cm	1.9 g	
0100096	石鏃	なし	B6		7	弥生時代？	5.69 cm	1.52 cm	0.84 cm	6.4 g	
0100097	石鏃	なし	A	IIID,13I,NE	貝層-2中部	縄文晩期長原式期～弥生I期	2.69 cm	1.17 cm	0.32 cm	1.0 g	
0100098	石鏃	なし	B6		7	弥生時代？	3.96 cm	1.15 cm	0.44 cm	1.8 g	
0100099	石鏃	なし	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期	4.68 cm	1.73 cm	0.89 cm	7.5 g	
0100100	石鏃	なし	A	IIID,10F	8L	弥生時代II期	3.05 cm	1.36 cm	0.44 cm	1.7 g	
0100101	石鏃	なし	B7		7	弥生時代？	2.72 cm	1.08 cm	0.48 cm	1.2 g	
0100102	石鏃	なし	A	IIID,10G	8L	弥生時代II期	5.01 cm	2.02 cm	0.56 cm	4.6 g	
0100103	石鏃	なし	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期	2.30 cm	1.16 cm	0.39 cm	1.2 g	
0100104	石鏃	なし	A	IIID,14I	トレンチ内貝層	縄文晩期船橋式期～弥生II期	3.07 cm	1.59 cm	0.63 cm	2.8 g	
0100105	石鏃	なし	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期	3.35 cm	1.38 cm	0.47 cm	1.9 g	

table. 3-3 打製石器一覧

ID	型式・形態								地区	区画	層位/遺構	時期
0100106	石鏃					現礫面 あり			A	IIID,11I	8M	弥生時代II期
	長さ 2.54 cm	幅 0.84 cm	厚さ 0.42 cm	重さ 1.1 g	備考							
0100107	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.53 cm	幅 1.56 cm	厚さ 0.68 cm	重さ 4.2 g	備考							
0100108	石鏃					現礫面 なし			B7	IIID,8Q	8M	弥生時代II期
	長さ 4.08 cm	幅 1.43 cm	厚さ 0.82 cm	重さ 3.4 g	備考							
0100109	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,11G	8M	弥生時代II期
	長さ 3.22 cm	幅 1.13 cm	厚さ 0.40 cm	重さ 1.8 g	備考							
0100110	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.82 cm	幅 1.51 cm	厚さ 0.46 cm	重さ 2.8 g	備考							
0100111	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,14I	トレンチ内貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ 2.78 cm	幅 1.18 cm	厚さ 0.40 cm	重さ 1.3 g	備考							
0100112	石鏃					現礫面 なし			B	IIIE,7B	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.64 cm	幅 1.03 cm	厚さ 0.66 cm	重さ 2.8 g	備考							
0100113	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,12E	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.32 cm	幅 0.98 cm	厚さ 0.40 cm	重さ 0.9 g	備考							
0100114	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.36 cm	幅 1.54 cm	厚さ 0.52 cm	重さ 2.5 g	備考							
0100115	石鏃					現礫面 なし			B7	IIID,8T	SD-66	弥生時代II～IV期
	長さ 4.45 cm	幅 1.39 cm	厚さ 0.46 cm	重さ 2.1 g	備考							
0100116	石鏃					現礫面 なし			B5	IIID,12R	8M	弥生時代II期
	長さ 2.75 cm	幅 1.19 cm	厚さ 0.38 cm	重さ 1.1 g	備考							
0100117	石鏃					現礫面 あり			A	IIID,13D	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.82 cm	幅 1.24 cm	厚さ 0.35 cm	重さ 1.2 g	備考							
0100118	石鏃					現礫面 なし			B	IIID,8J	SD-72	弥生時代II期
	長さ 2.75 cm	幅 1.02 cm	厚さ 0.38 cm	重さ 1.1 g	備考							
0100119	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,12J,SE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 2.62 cm	幅 1.02 cm	厚さ 0.45 cm	重さ 1.5 g	備考							
0100120	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,12J	トレンチ内貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ 2.50 cm	幅 1.06 cm	厚さ 0.38 cm	重さ 1.1 g	備考							
0100121	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,12J	8M	弥生時代II期
	長さ 4.13 cm	幅 0.78 cm	厚さ 0.53 cm	重さ 1.7 g	備考							
0100122	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.49 cm	幅 1.58 cm	厚さ 0.50 cm	重さ 2.6 g	備考							
0100123	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.72 cm	幅 0.98 cm	厚さ 0.58 cm	重さ 1.8 g	備考							
0100124	石鏃					現礫面 なし			A		不明	弥生時代？
	長さ 4.67 cm	幅 1.20 cm	厚さ 0.63 cm	重さ 2.9 g	備考							
0100125	石鏃					現礫面 なし			A	IIID	不明	弥生時代？
	長さ 3.40 cm	幅 1.38 cm	厚さ 0.31 cm	重さ 1.7 g	備考							
0100126	石鏃					現礫面 なし			B5		不明	弥生時代？
	長さ 2.76 cm	幅 0.93 cm	厚さ 0.44 cm	重さ 1.1 g	備考							
0100127	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,13G	不明	弥生時代？
	長さ 2.62 cm	幅 1.58 cm	厚さ 0.46 cm	重さ 1.8 g	備考							
0100128	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,13K	トレンチ内貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ 2.60 cm	幅 1.39 cm	厚さ 0.50 cm	重さ 1.8 g	備考							
0100129	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,11F	9U	弥生時代II期
	長さ 1.81 cm	幅 1.26 cm	厚さ 0.26 cm	重さ 0.5 g	備考							
0100130	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,12J,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 2.58 cm	幅 1.19 cm	厚さ 0.38 cm	重さ 1.3 g	備考							
0100132	石鏃					現礫面 なし			B5	IIID,12R	8L'9	弥生時代II期
	長さ 2.78 cm	幅 1.41 cm	厚さ 0.47 cm	重さ 1.8 g	備考							
0100133	石鏃					現礫面 なし			B7	IIIE,5C	SD-71	弥生時代II期
	長さ 4.30 cm	幅 2.95 cm	厚さ 0.61 cm	重さ 7.1 g	備考							
0100134	石鏃					現礫面 なし			B5	IIID,12R	8M	弥生時代II期
	長さ 2.24 cm	幅 1.24 cm	厚さ 0.48 cm	重さ 1.2 g	備考							
0100135	石鏃					現礫面 なし			B1		8M	弥生時代II期
	長さ 2.57 cm	幅 1.98 cm	厚さ 0.48 cm	重さ 2.8 g	備考							
0100136	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 1.74 cm	幅 1.10 cm	厚さ 0.50 cm	重さ 0.8 g	備考							
0100137	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.16 cm	幅 1.38 cm	厚さ 0.62 cm	重さ 2.3 g	備考							
0100138	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.29 cm	幅 1.43 cm	厚さ 0.47 cm	重さ 1.6 g	備考							
0100140	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,11E	8U	弥生時代IV期
	長さ 1.52 cm	幅 1.02 cm	厚さ 0.30 cm	重さ 0.5 g	備考							
0100141	石鏃					現礫面 なし			A	IIID,11E	8U	弥生時代IV期
	長さ 1.69 cm	幅 0.81 cm	厚さ 0.18 cm	重さ 0.2 g	備考							

table. 3-4 打製石器一覧

ID	型式・形態								地区	区画	層位/遺構	時期
0100142	石鏃							現礫面 あり	A	IIID,12E	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.16 cm	幅	0.40 cm	厚さ	0.32 cm	重さ	1.1 g	備考			
0100143	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12E	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.22 cm	幅	1.12 cm	厚さ	0.38 cm	重さ	1.2 g	備考			
0100144	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ	3.50 cm	幅	1.16 cm	厚さ	0.39 cm	重さ	1.6 g	備考			
0100145	石鏃							現礫面 なし	B	IIID,10S	SD-72	弥生時代II期
	長さ	3.36 cm	幅	1.75 cm	厚さ	0.46 cm	重さ	3.2 g	備考			
0100146	石鏃							現礫面 なし	B	IIID,8S	SD-72	弥生時代II期
	長さ	2.48 cm	幅	1.75 cm	厚さ	0.30 cm	重さ	1.6 g	備考			
0100147	石鏃							現礫面 なし	B	IIID,9S	不明	弥生時代？
	長さ	3.54 cm	幅	1.84 cm	厚さ	0.47 cm	重さ	3.7 g	備考			
0100148	石鏃							現礫面 あり	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ	3.57 cm	幅	0.95 cm	厚さ	0.60 cm	重さ	2.4 g	備考			
0100149	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12H	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.98 cm	幅	1.50 cm	厚さ	0.44 cm	重さ	1.7 g	備考			
0100150	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12E	8U	弥生時代IV期
	長さ	3.85 cm	幅	1.57 cm	厚さ	0.49 cm	重さ	2.6 g	備考			
0100151	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.69 cm	幅	1.28 cm	厚さ	0.31 cm	重さ	1.3 g	備考			
0100152	石鏃							現礫面 あり	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.58 cm	幅	1.13 cm	厚さ	0.63 cm	重さ	2.2 g	備考			
0100153	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12H~12J	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.30 cm	幅	1.40 cm	厚さ	0.33 cm	重さ	1.1 g	備考			
0100154	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.37 cm	幅	1.57 cm	厚さ	0.39 cm	重さ	1.7 g	備考			
0100155	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.96 cm	幅	1.75 cm	厚さ	0.49 cm	重さ	2.6 g	備考			
0100156	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12E	8U	弥生時代IV期
	長さ	1.98 cm	幅	1.13 cm	厚さ	0.28 cm	重さ	0.7 g	備考			
0100157	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,11F	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.25 cm	幅	1.15 cm	厚さ	0.54 cm	重さ	1.2 g	備考			
0100158	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12~13F	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.77 cm	幅	1.10 cm	厚さ	0.27 cm	重さ	0.9 g	備考			
0100159	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,13K	8M	弥生時代II期
	長さ	2.42 cm	幅	1.14 cm	厚さ	0.37 cm	重さ	1.1 g	備考			
0100160	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,14K	8M	弥生時代II期
	長さ	2.56 cm	幅	1.33 cm	厚さ	0.31 cm	重さ	1.1 g	備考			
0100161	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,11F	8L	弥生時代II期
	長さ	2.41 cm	幅	1.11 cm	厚さ	0.38 cm	重さ	1.0 g	備考			
0100162	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,10E	8L	弥生時代II期
	長さ	2.32 cm	幅	1.28 cm	厚さ	0.47 cm	重さ	1.6 g	備考			
0100163	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,10E	8L	弥生時代II期
	長さ	2.73 cm	幅	1.04 cm	厚さ	0.41 cm	重さ	1.2 g	備考			
0100164	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12J,NW	貝層-2下部	縄文晩期的横式期～弥原式期
	長さ	2.62 cm	幅	1.18 cm	厚さ	0.36 cm	重さ	1.1 g	備考			
0100165	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12J,SE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ	2.09 cm	幅	1.21 cm	厚さ	0.28 cm	重さ	0.7 g	備考			
0100166	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,12J,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ	2.38 cm	幅	1.42 cm	厚さ	0.25 cm	重さ	0.9 g	備考			
0100167	石鏃							現礫面 なし	A	IIID,11H,NW	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ	3.61 cm	幅	0.87 cm	厚さ	0.57 cm	重さ	1.8 g	備考			
0100168	石鏃							現礫面 なし	B7		7	弥生時代？
	長さ	2.12 cm	幅	1.35 cm	厚さ	0.53 cm	重さ	1.6 g	備考			
0100169	石鏃							現礫面 なし	B7	IIID,8S	SD-72	弥生時代II期
	長さ	2.58 cm	幅	1.38 cm	厚さ	0.28 cm	重さ	1.2 g	備考			
0100170	使用痕のある細部調整剥片							現礫面 あり	B7	IIIE,10A	8	弥生時代II～IV期
	長さ	5.55 cm	幅	6.62 cm	厚さ	1.37 cm	重さ	34.8 g	備考			
0100171	刃部両面調整凸刃削器							現礫面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ	4.04 cm	幅	7.39 cm	厚さ	0.84 cm	重さ	27.3 g	備考			
0100172	刃部両面調整凸刃削器							現礫面 なし	B	IIID,13	8U	弥生時代IV期
	長さ	4.16 cm	幅	7.43 cm	厚さ	0.10 cm	重さ	28.6 g	備考			
0100173	刃部両面調整直刃削器							現礫面 あり	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ	6.43 cm	幅	4.97 cm	厚さ	1.12 cm	重さ	48.0 g	備考			
0100174	使用痕のある剥片							現礫面 あり	A	IIID,13J,SW	貝層-2最下部	縄文晩期的横式期
	長さ	7.91 cm	幅	5.28 cm	厚さ	0.92 cm	重さ	33.0 g	備考			
0100175	刃部両面調整直刃削器							現礫面 あり	B	IIID,10P	8U	弥生時代IV期
	長さ	8.66 cm	幅	5.08 cm	厚さ	1.52 cm	重さ	92.5 g	備考	使用痕あり		

table. 3-5　打製石器一覧

ID	型式・形態		地区	区画	層位/遺構	時期
0100176	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 なし	B3	IIIE,4C	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.85 cm 幅 5.18 cm 厚さ 1.53 cm 重さ 47.2 g 備考					
0100177	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 8.10 cm 幅 4.77 cm 厚さ 1.35 cm 重さ 57.2 g 備考					
0100178	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし	A	IIID,11H	8L	弥生時代II期
	長さ 3.06 cm 幅 7.81 cm 厚さ 1.24 cm 重さ 17.3 g 備考					
0100179	使用痕のある剥片	現礫面 あり	A	IIID,12H	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.36 cm 幅 4.32 cm 厚さ 0.90 cm 重さ 13.4 g 備考					
0100180	剥片	現礫面 あり	B	IIIH,6F	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.55 cm 幅 2.89 cm 厚さ 0.96 cm 重さ 8.2 g 備考					
0100181	小型楕形両面調整尖頭器	現礫面 なし	B5	IIID,13Q	8M	弥生時代II期
	長さ 8.21 cm 幅 3.15 cm 厚さ 2.42 cm 重さ 43.0 g 備考					
0100182	石核B	現礫面 あり	B	6P	8	弥生時代II～IV期
	長さ 6.37 cm 幅 5.26 cm 厚さ 1.45 cm 重さ 38.8 g 備考					
0100183	使用痕のある剥片	現礫面 あり	A	IIID,12H	8M	弥生時代II期
	長さ 7.24 cm 幅 4.85 cm 厚さ 1.39 cm 重さ 53.4 g 備考					
0100184	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり	B7		8U	弥生時代IV期
	長さ 11.3 cm 幅 4.36 cm 厚さ 1.62 cm 重さ 58.2 g 備考					
0100185	石核B	現礫面 あり	B7	IIID,10Q	SX-17	弥生時代II期
	長さ 8.52 cm 幅 4.22 cm 厚さ 1.70 cm 重さ 73.4 g 備考					
0100186	えぐりのある石器	現礫面 あり	A	IIID,12I,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 8.15 cm 幅 6.38 cm 厚さ 1.45 cm 重さ 61.9 g 備考					
0100187	石核B	現礫面 なし	A	IIID,12I,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 5.11 cm 幅 5.08 cm 厚さ 1.35 cm 重さ 46.4 g 備考					
0100188	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり	B	IIID,5P	SD-69	弥生時代II期
	長さ 6.87 cm 幅 5.01 cm 厚さ 1.24 cm 重さ 47.7 g 備考					
0100189	使用痕のある剥片	現礫面 あり	B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 8.56 cm 幅 8.88 cm 厚さ 1.63 cm 重さ 117.4 g 備考					
0100190	使用痕（敲打痕）のある剥片	現礫面 なし	B	8S	SD-72	弥生時代II期
	長さ 4.41 cm 幅 8.57 cm 厚さ 1.17 cm 重さ 49.6 g 備考					
0100191	小型楕形両面調整尖頭器	現礫面 なし	A	IIID,13C	8M	弥生時代II期
	長さ 6.26 cm 幅 4.99 cm 厚さ 1.25 cm 重さ 31.9 g 備考					
0100192	刃部両面調整凸刃削器破片	現礫面 あり	B7	IIID,7O	8	弥生時代II～IV期
	長さ 4.47 cm 幅 2.55 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 6.4 g 備考					
0100193	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり	B7	IIID	SD-72	弥生時代II期
	長さ 8.11 cm 幅 4.18 cm 厚さ 1.03 cm 重さ 35.3 g 備考					
0100194	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	A	IIID,11F	8L	弥生時代II期
	長さ 5.93 cm 幅 4.93 cm 厚さ 1.02 cm 重さ 32.5 g 備考					
0100195	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり	B7		8	弥生時代II～IV期
	長さ 8.77 cm 幅 5.58 cm 厚さ 1.78 cm 重さ 78.9 g 備考					
0100196	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	B3	IIIE,4B	8U	弥生時代IV期
	長さ 8.26 cm 幅 7.66 cm 厚さ 2.25 cm 重さ 125.2 g 備考					
0100197	叉形両面調整尖頭器破片	現礫面 あり	A	IIID,5H,SW	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 6.53 cm 幅 5.90 cm 厚さ 1.54 cm 重さ 63.7 g 備考					
0100198	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし	B	IIID,5S	SK-53	弥生時代II～IV期
	長さ 3.63 cm 幅 3.34 cm 厚さ 0.46 cm 重さ 5.5 g 備考					
0100199	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.95 cm 幅 4.59 cm 厚さ 1.28 cm 重さ 35.7 g 備考					
0100200	刃部片面調整凹刃削器	現礫面 あり	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.02 cm 幅 6.60 cm 厚さ 1.20 cm 重さ 34.4 g 備考					
0100201	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 なし	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.99 cm 幅 5.44 cm 厚さ 1.02 cm 重さ 29.7 g 備考					
0100202	えぐりのある石器	現礫面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.28 cm 幅 3.69 cm 厚さ 0.89 cm 重さ 13.2 g 備考					
0100203	刃部両面調整複刃削器	現礫面 あり	B	IIID,6N	8M	弥生時代II期
	長さ 8.91 cm 幅 4.79 cm 厚さ 1.76 cm 重さ 50.7 g 備考					
0100204	細部調整剥片	現礫面 なし	B	IIID,12M	8M	弥生時代II期
	長さ 4.24 cm 幅 3.45 cm 厚さ 0.70 cm 重さ 10.5 g 備考					
0100205	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.59 cm 幅 6.42 cm 厚さ 1.32 cm 重さ 36.7 g 備考					
0100206	刃部片面調整細部調整剥片	現礫面 なし	B	IIID,14T	8U	弥生時代IV期
	長さ 9.26 cm 幅 4.36 cm 厚さ 1.21 cm 重さ 39.6 g 備考					
0100207	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.07 cm 幅 4.60 cm 厚さ 1.10 cm 重さ 27.1 g 備考					
0100208	不完全両面調整複刃削器	現礫面 あり	B7	IIID,8S	SD-72	弥生時代II期
	長さ 10.44 cm 幅 4.75 cm 厚さ 1.94 cm 重さ 86.2 g 備考 使用痕あり					
0100209	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり	B7	IIID,7P	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.27 cm 幅 3.76 cm 厚さ 1.59 cm 重さ 24.7 g 備考 石核B類					

table. 3-6 打製石器一覧

ID	型式・形態			地区	区画	層位/遺構	時期
0100210	刃部両面調整直刃・凸刃削器	現礫面 なし		B	IIID,8S	SD-72	弥生時代II期
	長さ 7.61 cm 幅 5.65 cm 厚さ 0.94 cm 重さ 26.6 g 備考						
0100211	尖形両面調整実頭器破片	現礫面 なし		B	IIID,7S	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.79 cm 幅 5.10 cm 厚さ 1.46 cm 重さ 40.8 g 備考						
0100212	小型楕形両面調整実頭器未製品	現礫面 あり		A	IIID,13L,SN	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 5.65 cm 幅 3.98 cm 厚さ 1.05 cm 重さ 24.8 g 備考						
0100213	楕もしくは尖形両面調整実頭器	現礫面 あり		B1	IIID,7E	8M	弥生時代II期
	長さ 5.25 cm 幅 5.03 cm 厚さ 1.45 cm 重さ 39.3 g 備考						
0100214	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		B		先行トレンチ	弥生時代？
	長さ 8.47 cm 幅 5.30 cm 厚さ 1.07 cm 重さ 49.4 g 備考						
0100215	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		B3	IIIE,3E	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.73 cm 幅 3.30 cm 厚さ 0.89 cm 重さ 16.7 g 備考						
0100216	両面調整楔刃削器	現礫面 あり		A	IIID,16R	8M	弥生時代II期
	長さ 9.22 cm 幅 3.42 cm 厚さ 1.56 cm 重さ 50.6 g 備考						
0100217	石核B	現礫面 あり		B5	IIID,11Q	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.30 cm 幅 4.11 cm 厚さ 1.37 cm 重さ 26.5 g 備考						
0100218	刃部両面調整楔刃削器	現礫面 あり		A	IIID	8M	弥生時代II期
	長さ 7.33 cm 幅 4.85 cm 厚さ 1.22 cm 重さ 39.3 g 備考						
0100219	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし		B3	IIIE,3B	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.92 cm 幅 4.81 cm 厚さ 1.53 cm 重さ 35.6 g 備考						
0100220	使用痕のある剥片	現礫面 あり		A	IIID,12L	8M	弥生時代II期
	長さ 5.87 cm 幅 4.05 cm 厚さ 1.12 cm 重さ 23.7 g 備考						
0100221	両面調整実頭器（石鏃）	現礫面 あり				不明	弥生時代？
	長さ 4.47 cm 幅 2.21 cm 厚さ 0.85 cm 重さ 7.3 g 備考						
0100222	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし		A	IIID,13I	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.31 cm 幅 3.24 cm 厚さ 0.67 cm 重さ 8.0 g 備考						
0100223	使用痕のある剥片	現礫面 なし		A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.68 cm 幅 3.72 cm 厚さ 0.71 cm 重さ 8.4 g 備考						
0100224	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	13D	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.71 cm 幅 3.40 cm 厚さ 1.46 cm 重さ 20.7 g 備考						
0100225	使用痕のある剥片	現礫面 あり		A	IIID,11I	8M	弥生時代II期
	長さ 4.94 cm 幅 4.35 cm 厚さ 0.47 cm 重さ 12.6 g 備考						
0100226	両面調整実頭器破片	現礫面 あり		A	IIID,13F	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.18 cm 幅 4.10 cm 厚さ 1.42 cm 重さ 39.6 g 備考						
0100227	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,14K	8M	弥生時代II期
	長さ 5.31 cm 幅 2.47 cm 厚さ 0.71 cm 重さ 7.9 g 備考						
0100228	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,13J	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.23 cm 幅 3.16 cm 厚さ 1.08 cm 重さ 32.4 g 備考						
0100229	使用痕のある縁部調整剥片	現礫面 あり		B	IIIE,9C	8U	弥生時代IV期
	長さ 8.58 cm 幅 5.68 cm 厚さ 1.56 cm 重さ 74.2 g 備考						
0100230	使用痕のある剥片	現礫面 あり		A	IIID,11L	8M	弥生時代II期
	長さ 4.76 cm 幅 4.60 cm 厚さ 0.84 cm 重さ 17.3 g 備考						
0100231	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,11M,SE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 3.96 cm 幅 3.46 cm 厚さ 0.99 cm 重さ 17.1 g 備考						
0100232	石核B	現礫面 あり		B		8U	弥生時代IV期
	長さ 6.05 cm 幅 4.12 cm 厚さ 1.34 cm 重さ 32.0 g 備考						
0100233	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		B	IIIE,5A	8M	弥生時代II期
	長さ 4.38 cm 幅 4.49 cm 厚さ 0.94 cm 重さ 21.5 g 備考						
0100234	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIIE,8'9	8L	弥生時代II期
	長さ 5.88 cm 幅 4.50 cm 厚さ 1.23 cm 重さ 22.4 g 備考						
0100235	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.30 cm 幅 7.23 cm 厚さ 0.99 cm 重さ 29.5 g 備考						
0100236	石錐	現礫面 なし		B	IIID,8P	9	縄文晩期的様式期～弥生II期
	長さ 5.68 cm 幅 2.10 cm 厚さ 0.71 cm 重さ 8.9 g 備考						
0100237	剥片	現礫面 あり		B5	IIID,13A	8L	弥生時代II期
	長さ 4.73 cm 幅 3.94 cm 厚さ 0.96 cm 重さ 16.9 g 備考						
0100238	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし		B	IIIE,6D	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.40 cm 幅 4.23 cm 厚さ 0.78 cm 重さ 13.1 g 備考						
0100239	片面調整実頭削器	現礫面 なし		B	IIID,7M	8M	弥生時代II期
	長さ 4.99 cm 幅 3.73 cm 厚さ 1.37 cm 重さ 19.7 g 備考						
0100240	縁部調整剥片	現礫面 あり		A	IIID,12F'G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.87 cm 幅 4.01 cm 厚さ 0.84 cm 重さ 18.7 g 備考						
0100241	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.85 cm 幅 5.35 cm 厚さ 1.24 cm 重さ 42.3 g 備考						
0100242	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		B	IIID,10J	8U-1	弥生時代IV期
	長さ 5.59 cm 幅 3.62 cm 厚さ 1.20 cm 重さ 21.7 g 備考						
0100243	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		B4	IIIE,13F	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.94 cm 幅 2.95 cm 厚さ 0.55 cm 重さ 7.8 g 備考						

table. 3-7 打製石器一覧

ID	型式・形態			地区	区画	層位/遺構	時期
0100244	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし		A	IIID,111I,NW	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 6.03 cm 幅 2.79 cm 厚さ 1.28 cm 重さ 19.8 g 備考						
0100245	剥片	現礫面 あり				不明	弥生時代？
	長さ 5.11 cm 幅 3.14 cm 厚さ 1.00 cm 重さ 9.2 g 備考						
0100246	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,11I	SM	弥生時代II期
	長さ 8.30 cm 幅 4.12 cm 厚さ 1.29 cm 重さ 43.5 g 備考						
0100247	石錐	現礫面 あり		A	IIID,I-J	SM	弥生時代II期
	長さ 7.09 cm 幅 2.93 cm 厚さ 0.91 cm 重さ 15.8 g 備考						
0100248	縁部調整剥片	現礫面 なし		A	IIID,1H	SM	弥生時代II期
	長さ 3.96 cm 幅 2.95 cm 厚さ 0.53 cm 重さ 6.0 g 備考						
0100249	石鏃未製品	現礫面 なし		A	IIID,10F	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 3.87 cm 幅 2.90 cm 厚さ 0.67 cm 重さ 6.6 g 備考						
0100250	刃部片面調整縁部調整剥片	現礫面 あり		B	IIID,10I	SM	弥生時代II期
	長さ 3.79 cm 幅 4.08 cm 厚さ 1.09 cm 重さ 13.7 g 備考 刃部破損						
0100251	石核B	現礫面 あり		B	IIID,6S	SU	弥生時代IV期
	長さ 5.97 cm 幅 3.88 cm 厚さ 1.25 cm 重さ 29.1 g 備考 両面調整尖頭器未製品？						
0100252	剥形両面調整尖頭器基部破片	現礫面 なし		B	IIIH,7R	SM	弥生時代II期
	長さ 3.97 cm 幅 2.02 cm 厚さ 0.70 cm 重さ 9.7 g 備考						
0100253	刃部片面調整直刃削器	現礫面 なし		A	IIID,12G	SU	弥生時代IV期
	長さ 4.00 cm 幅 3.33 cm 厚さ 0.61 cm 重さ 9.0 g 備考						
0100254	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		B	IIID,8O	S	弥生時代II～IV期
	長さ 5.42 cm 幅 4.74 cm 厚さ 0.82 cm 重さ 19.6 g 備考						
0100255	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり				試掘	弥生時代？
	長さ 7.33 cm 幅 4.98 cm 厚さ 1.29 cm 重さ 47.1 g 備考						
0100256	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		B	IIIE,7C	SU	弥生時代IV期
	長さ 7.71 cm 幅 3.75 cm 厚さ 0.56 cm 重さ 17.5 g 備考						
0100257	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,10F	SU	弥生時代IV期
	長さ 4.44 cm 幅 3.63 cm 厚さ 0.97 cm 重さ 15.4 g 備考						
0100258	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,12J,NW	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 5.67 cm 幅 4.08 cm 厚さ 1.93 cm 重さ 33.2 g 備考						
0100259	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし		B7	IIID,8S	SD-72	弥生時代II期
	長さ 5.37 cm 幅 2.07 cm 厚さ 0.96 cm 重さ 11.6 g 備考						
0100260	削器破片	現礫面 なし		A	IIID,13G	SU	弥生時代IV期
	長さ 3.71 cm 幅 3.06 cm 厚さ 0.76 cm 重さ 7.6 g 備考						
0100261	石核B	現礫面 あり		B	IIIE,5B	SU	弥生時代IV期
	長さ 4.17 cm 幅 3.33 cm 厚さ 0.98 cm 重さ 16.7 g 備考						
0100262	槍もしくは戈形両面調整尖頭器	現礫面 なし		B	IIID,6T	SU	弥生時代IV期
	長さ 3.93 cm 幅 2.32 cm 厚さ 2.36 cm 重さ 10.7 g 備考						
0100263	石錐	現礫面 あり		A	IIID,12H	SU	弥生時代IV期
	長さ 4.64 cm 幅 2.23 cm 厚さ 1.12 cm 重さ 7.2 g 備考						
0100264	両面調整複刃削器	現礫面 あり		B7	IIID,11P	S	弥生時代II～IV期
	長さ 4.76 cm 幅 2.55 cm 厚さ 0.85 cm 重さ 9.6 g 備考						
0100265	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし		A	IIID,12H	SM	弥生時代II期
	長さ 7.35 cm 幅 4.06 cm 厚さ 0.90 cm 重さ 21.6 g 備考						
0100266	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし		B3	IIIE	SU	弥生時代IV期
	長さ 5.49 cm 幅 4.07 cm 厚さ 1.22 cm 重さ 25.8 g 備考						
0100267	刃部片面調整縁部調整剥片	現礫面 なし		A	IIID,12G	SU	弥生時代IV期
	長さ 4.11 cm 幅 6.51 cm 厚さ 1.37 cm 重さ 29.7 g 備考						
0100268	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		B5	IIID,HT	SL	弥生時代II期
	長さ 4.82 cm 幅 3.82 cm 厚さ 1.35 cm 重さ 12.7 g 備考						
0100269	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		B	IIID,5R	SU	弥生時代IV期
	長さ 5.58 cm 幅 3.98 cm 厚さ 1.40 cm 重さ 26.1 g 備考						
0100270	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし		A		SX-18	弥生時代II～IV期
	長さ 6.22 cm 幅 3.15 cm 厚さ 1.01 cm 重さ 14.0 g 備考						
0100271	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし		B7	IIID,10P	SU	弥生時代IV期
	長さ 7.45 cm 幅 5.72 cm 厚さ 1.43 cm 重さ 55.1 g 備考						
0100272	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		B	IIID,8O	SU	弥生時代IV期
	長さ 6.85 cm 幅 6.33 cm 厚さ 1.26 cm 重さ 43.4 g 備考						
0100273	石核B	現礫面 あり		A	IIID,12H	SU	弥生時代IV期
	長さ 5.90 cm 幅 5.58 cm 厚さ 1.41 cm 重さ 57.6 g 備考 刃部両面調整凸刃削器？						
0100274	使用痕のある剥片	現礫面 あり		B4	IIID,12Q	SU	弥生時代IV期
	長さ 5.94 cm 幅 4.14 cm 厚さ 1.00 cm 重さ 18.5 g 備考						
0100275	使用痕のある縁部調整剥片	現礫面 あり		B7	IIID,6P	S	弥生時代II～IV期
	長さ 2.36 cm 幅 4.57 cm 厚さ 1.00 cm 重さ 11.8 g 備考						
0100276	石核B	現礫面 あり		A	IIID,13M	SM	弥生時代II期
	長さ 7.01 cm 幅 4.05 cm 厚さ 1.72 cm 重さ 55.0 g 備考						
0100277	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 なし		A	IIID,12I,SE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 5.04 cm 幅 4.28 cm 厚さ 0.86 cm 重さ 17.3 g 備考						

table. 3-8 打製石器一覧

ID	型式・形態			地区	区画	層位/遺構	時期
0100278	不完全両面調整剥片	現礫面 あり		B	IIID,6T	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.02 cm 幅 4.91 cm 厚さ 1.78 cm 重さ 56.7 g 備考						
0100279	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		B7	IIID,6P	8	弥生時代II～IV期
	長さ 5.56 cm 幅 4.95 cm 厚さ 1.00 cm 重さ 23.3 g 備考						
0100280	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,12J,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 6.19 cm 幅 3.15 cm 厚さ 1.30 cm 重さ 19.0 g 備考						
0100281	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,11E	9U-1	弥生時代II期
	長さ 7.17 cm 幅 4.98 cm 厚さ 1.06 cm 重さ 39.6 g 備考						
0100282	尖形両面調整実頭器破片	現礫面 なし		B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 6.31 cm 幅 4.88 cm 厚さ 2.36 cm 重さ 69.5 g 備考						
0100283	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		B7		8U	弥生時代IV期
	長さ 10.26 cm 幅 5.40 cm 厚さ 2.05 cm 重さ 95.5 g 備考						
0100284	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,O'E	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.64 cm 幅 4.34 cm 厚さ 1.51 cm 重さ 31.5 g 備考						
0100285	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 なし		B	IIID,8Q	8	弥生時代II～IV期
	長さ 4.29 cm 幅 2.62 cm 厚さ 0.80 cm 重さ 9.0 g 備考						
0100286	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 5.59 cm 幅 2.92 cm 厚さ 0.85 cm 重さ 11.1 g 備考						
0100287	両面調整尖頭器破片	現礫面 なし		B8	IIID,9O	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.69 cm 幅 2.78 cm 厚さ 0.87 cm 重さ 11.4 g 備考						
0100288	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		B3	IIIE,3B	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.72 cm 幅 4.31 cm 厚さ 1.11 cm 重さ 22.2 g 備考						
0100289	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり		B	IIIE,9C	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.38 cm 幅 4.12 cm 厚さ 0.91 cm 重さ 16.9 g 備考						
0100290	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,12I	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 7.69 cm 幅 6.23 cm 厚さ 1.91 cm 重さ 92.3 g 備考						
0100291	刃部両面調整複刃削器	現礫面 あり		B	IIID,7T	8U	弥生時代IV期
	長さ 11.16 cm 幅 4.70 cm 厚さ 1.14 cm 重さ 66.1 g 備考						
0100292	使用痕のある細部調整剥片	現礫面 あり		B	IIIE,6B	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.18 cm 幅 6.22 cm 厚さ 1.50 cm 重さ 50.2 g 備考						
0100293	刃部両面片面調整複刃削器	現礫面 なし		B4	IIIE,12B	8L	弥生時代II期
	長さ 7.99 cm 幅 4.41 cm 厚さ 1.14 cm 重さ 32.1 g 備考						
0100294	刃部片面調整直刃削器	現礫面 なし				ピット内遺物	弥生時代？
	長さ 5.44 cm 幅 5.99 cm 厚さ 0.55 cm 重さ 17.0 g 備考						
0100295	石核B	現礫面 あり		B	IIID,5P	SD-69	弥生時代II期
	長さ 7.15 cm 幅 4.16 cm 厚さ 2.30 cm 重さ 59.3 g 備考						
0100296	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		B	IIID,5P	SD-69	弥生時代II期
	長さ 7.65 cm 幅 6.03 cm 厚さ 1.47 cm 重さ 38.4 g 備考						
0100297	両面調整尖頭器（敲打具）	現礫面 あり		B	IIID	SD-10	弥生時代？
	長さ 7.43 cm 幅 3.92 cm 厚さ 1.86 cm 重さ 63.3 g 備考						
0100298	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,10G	8M	弥生時代II期
	長さ 5.33 cm 幅 3.72 cm 厚さ 1.18 cm 重さ 25.5 g 備考						
0100299	両面調整複刃削器	現礫面 なし		B3	IIIE,3F	8U	弥生時代IV期
	長さ 8.54 cm 幅 3.97 cm 厚さ 1.15 cm 重さ 36.2 g 備考 石小刀						
0100300	刃部両面調整片面調整尖頭器	現礫面 なし		B	IIID,4B	SX-10	弥生時代II期
	長さ 5.19 cm 幅 4.34 cm 厚さ 1.21 cm 重さ 28.6 g 備考 尖頭削器？						
0100301	敲打痕のある石器	現礫面 あり		B	IIIE,5C	SD-71	弥生時代II期
	長さ 4.38 cm 幅 8.21 cm 厚さ 2.07 cm 重さ 89.7 g 備考						
0100302	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり		B7	IIID,8R	8	弥生時代II～IV期
	長さ 5.78 cm 幅 4.80 cm 厚さ 0.65 cm 重さ 14.9 g 備考						
0100303	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,10J	8M	弥生時代II期
	長さ 4.82 cm 幅 3.99 cm 厚さ 0.81 cm 重さ 14.4 g 備考						
0100304	石核B	現礫面 あり		B7	IIIE,5D	8	弥生時代II～IV期
	長さ 7.10 cm 幅 5.32 cm 厚さ 1.59 cm 重さ 54.9 g 備考						
0100305	刃部両面調整複刃凸刃削器	現礫面 あり		B	IIID,10C	8M	弥生時代II期
	長さ 5.61 cm 幅 4.55 cm 厚さ 1.38 cm 重さ 41.7 g 備考						
0100306	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		B	IIID,11R	8M	弥生時代II期
	長さ 11.22 cm 幅 8.27 cm 厚さ 2.26 cm 重さ 163.3 g 備考 横形剥片素材						
0100307	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		B7		8	弥生時代II～IV期
	長さ 9.99 cm 幅 6.71 cm 厚さ 1.11 cm 重さ 87.5 g 備考 横形剥片素材						
0100308	石核B	現礫面 なし		A	IIID,10J	8M	弥生時代II期
	長さ 5.03 cm 幅 3.47 cm 厚さ 1.42 cm 重さ 18.0 g 備考						
0100309	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		B	IIID,10P	8	弥生時代II～IV期
	長さ 9.67 cm 幅 6.01 cm 厚さ 1.77 cm 重さ 92.1 g 備考						
0100310	刃部両面調整尖頭削器	現礫面 なし		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.31 cm 幅 4.59 cm 厚さ 0.69 cm 重さ 21.5 g 備考						
0100311	刃部両面調整直刃・凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,12J	8M	弥生時代II期
	長さ 5.41 cm 幅 4.69 cm 厚さ 1.67 cm 重さ 33.7 g 備考						

table. 3-8 打製石器一覧

ID	型式・形態			地区	区画	層位/遺構	時期
0100312	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり	B4	IIIH,11A	8M	弥生時代II期	
	長さ 5.10 cm 幅 5.13 cm 厚さ 0.94 cm 重さ 20.5 g 備考						
0100313	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし	A	IIID,11K	8M	弥生時代II期	
	長さ 6.59 cm 幅 4.59 cm 厚さ 1.14 cm 重さ 38.1 g 備考						
0100314	石核B	現礫面 あり	B5	IIID,13R	8L	弥生時代II期	
	長さ 8.60 cm 幅 4.92 cm 厚さ 1.73 cm 重さ 83.4 g 備考 敲打具						
0100315	使用痕（敲打痕）のある剥片	現礫面 あり	B7	IIIE,9A	SD-66	弥生時代II～IV期	
	長さ 10.65 cm 幅 7.67 cm 厚さ 2.65 cm 重さ 179.3 g 備考 敲打具						
0100316	刃部両面調整楔形尖頭削器	現礫面 あり	B	IIID,8S	SD-72	弥生時代II期	
	長さ 11.27 cm 幅 4.87 cm 厚さ 1.66 cm 重さ 68.8 g 備考						
0100317	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	B7	IIIE,6E	8M	弥生時代II期	
	長さ 9.57 cm 幅 6.89 cm 厚さ 1.32 cm 重さ 74.9 g 備考						
0100318	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり	B5	IIID,11R	8M	弥生時代II期	
	長さ 6.19 cm 幅 5.39 cm 厚さ 1.17 cm 重さ 34.9 g 備考						
0100319	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり	B	IIID,13O	8M-2	弥生時代II期	
	長さ 8.35 cm 幅 6.30 cm 厚さ 1.61 cm 重さ 94.2 g 備考						
0100320	小型舟形両面調整尖頭器未製品	現礫面 なし	A	IIID,12L	8M	弥生時代II期	
	長さ 10.37 cm 幅 4.43 cm 厚さ 1.56 cm 重さ 80.0 g 備考						
0100321	石核A	現礫面 あり	B3	IIID,3S	8U	弥生時代IV期	
	長さ 11.70 cm 幅 7.20 cm 厚さ 3.78 cm 重さ 346.0 g 備考 敲打具						
0100322	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり	A4		盛土内	弥生時代？	
	長さ 7.65 cm 幅 5.58 cm 厚さ 0.98 cm 重さ 43.6 g 備考						
0100323	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり	A	IIID,12H	8M	弥生時代II期	
	長さ 11.84 cm 幅 6.78 cm 厚さ 1.20 cm 重さ 92.6 g 備考						
0100324	刃部両面調整直刃・凸刃削器	現礫面 あり	B	IIIE,5A	8M-2	弥生時代II期	
	長さ 8.43 cm 幅 6.84 cm 厚さ 1.87 cm 重さ 87.9 g 備考						
0100325	片面調整尖頭削器	現礫面 あり	B7	IIIE,5A	8U	弥生時代IV期	
	長さ 7.21 cm 幅 3.43 cm 厚さ 1.48 cm 重さ 37.5 g 備考						
0100326	石核B	現礫面 あり	B	IIIF,6D	SD-71	弥生時代II期	
	長さ 7.24 cm 幅 4.97 cm 厚さ 1.81 cm 重さ 77.8 g 備考						
0100327	細部調整剥片	現礫面 あり	A	IIID,12J	8M	弥生時代II期	
	長さ 6.89 cm 幅 5.03 cm 厚さ 1.56 cm 重さ 54.6 g 備考						
0100328	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり	B	IIID,8Q	8	弥生時代II～IV期	
	長さ 10.87 cm 幅 6.37 cm 厚さ 1.64 cm 重さ 104.8 g 備考 横形剥片素材						
0100329	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし	B	IIID,7T	SD-72	弥生時代II期	
	長さ 7.17 cm 幅 4.80 cm 厚さ 1.46 cm 重さ 40.9 g 備考						
0100330	両面調整尖頭削器	現礫面 あり	B	IIID,8M	8M-1'2	弥生時代II期	
	長さ 9.84 cm 幅 3.63 cm 厚さ 1.85 cm 重さ 68.5 g 備考						
0100331	石核B	現礫面 あり	B7	IIID,8P	SD-69	弥生時代II期	
	長さ 5.73 cm 幅 4.18 cm 厚さ 2.51 cm 重さ 63.6 g 備考 敲打具						
0100332	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり	B3	IIID,4F	8M-1	弥生時代II期	
	長さ 8.32 cm 幅 6.40 cm 厚さ 2.62 cm 重さ 124.6 g 備考						
0100333	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり	B	IIID,8Q	8	弥生時代II～IV期	
	長さ 8.93 cm 幅 5.09 cm 厚さ 1.98 cm 重さ 80.7 g 備考						
0100334	刃部両面調整尖頭削器	現礫面 あり	A	IIID,12J	8M	弥生時代II期	
	長さ 11.08 cm 幅 5.32 cm 厚さ 1.23 cm 重さ 80.8 g 備考						
0100335	刃部両面調整（凸刃直刃）楔刃削器	現礫面 あり	B	IIIE,9S	SD-72	弥生時代II期	
	長さ 8.13 cm 幅 4.43 cm 厚さ 1.69 cm 重さ 57.9 g 備考						
0100336	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	B5	IIID,13R	8L	弥生時代II期	
	長さ 8.39 cm 幅 5.70 cm 厚さ 1.57 cm 重さ 85.9 g 備考						
0100337	両面調整尖頭器（先端部破片）	現礫面 なし	B	IIID,10P	8	弥生時代II～IV期	
	長さ 8.44 cm 幅 3.87 cm 厚さ 1.68 cm 重さ 46.5 g 備考						
0100338	使用痕（敲打痕）のある剥片	現礫面 あり	A	IIID,12G	8M	弥生時代II期	
	長さ 9.78 cm 幅 3.82 cm 厚さ 1.46 cm 重さ 48.0 g 備考 敲打具						
0100339	刃部両面調整尖頭削器	現礫面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期	
	長さ 8.12 cm 幅 3.74 cm 厚さ 1.02 cm 重さ 30.5 g 備考						
0100340	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	B	IIIE,10B	8M	弥生時代II期	
	長さ 8.32 cm 幅 6.60 cm 厚さ 1.17 cm 重さ 67.0 g 備考 横形剥片素材						
0100341	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし	B	IIID,9Q	8	弥生時代II～IV期	
	長さ 7.24 cm 幅 4.55 cm 厚さ 0.88 cm 重さ 34.5 g 備考						
0100342	両面調整楔刃削器	現礫面 あり	A	IIID,13I	8U	弥生時代IV期	
	長さ 7.61 cm 幅 2.64 cm 厚さ 1.27 cm 重さ 19.9 g 備考 石小刀						
0100343	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり	B	IIIE,8A	8	弥生時代II～IV期	
	長さ 6.35 cm 幅 5.65 cm 厚さ 1.72 cm 重さ 29.6 g 備考						
0100344	両面調整尖頭削器破片	現礫面 あり	A	IIID,12H	9U	弥生時代II期	
	長さ 4.09 cm 幅 3.86 cm 厚さ 1.30 cm 重さ 20.1 g 備考						
0100345	不完全両面調整楔刃削器	現礫面 なし	B4	IIIF,12A	8L	弥生時代II期	
	長さ 6.25 cm 幅 2.73 cm 厚さ 1.17 cm 重さ 22.8 g 備考						

table. 3-10 打製石器一覧

ID	型式・形態			地区	区画	層位/遺構	時期
0100346	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,11G	8M	弥生時代II期
	長さ 5.18 cm 幅 4.74 cm 厚さ 1.01 cm 重さ 24.7 g 備考						
0100347	不完全両面調整尖頭器	現礫面 なし		B7	IIID,8T	SD-66	弥生時代II～IV期
	長さ 5.92 cm 幅 2.54 cm 厚さ 0.89 cm 重さ 13.4 g 備考 大型石鏃						
0100348	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,13K	8M	弥生時代II期
	長さ 5.52 cm 幅 5.30 cm 厚さ 1.09 cm 重さ 45.5 g 備考 剥片素材の石核B類？						
0100349	石核B	現礫面 あり		B5	IIID,11R	8M	弥生時代II期
	長さ 6.21 cm 幅 4.30 cm 厚さ 1.61 cm 重さ 46.2 g 備考						
0100350	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		B	IIIE,10B	8M	弥生時代II期
	長さ 4.87 cm 幅 4.82 cm 厚さ 1.11 cm 重さ 22.2 g 備考						
0100351	尖形両面調整尖頭器破片	現礫面 なし		A	IIID,13L	8M	弥生時代II期
	長さ 4.90 cm 幅 4.84 cm 厚さ 1.50 cm 重さ 27.4 g 備考						
0100352	研磨痕のある剥片	現礫面 なし		B	IIII,8C	SK-47	弥生時代II～IV期
	長さ 3.86 cm 幅 2.44 cm 厚さ 0.83 cm 重さ 12.7 g 備考 柱状片刃石斧形						
0100353	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし		B6		8	弥生時代II～IV期
	長さ 6.92 cm 幅 4.40 cm 厚さ 0.56 cm 重さ 20.8 g 備考						
0100354	片面調整複刃削器	現礫面 あり		B	IIID,13T	8M-2	弥生時代II期
	長さ 4.30 cm 幅 1.98 cm 厚さ 0.67 cm 重さ 6.8 g 備考						
0100355	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,10M	8M	弥生時代II期
	長さ 6.41 cm 幅 5.14 cm 厚さ 1.16 cm 重さ 30.9 g 備考						
0100356	不完全両面調整複刃削器	現礫面 なし		A		カクラン土中	弥生時代？
	長さ 6.01 cm 幅 3.60 cm 厚さ 1.20 cm 重さ 28.2 g 備考						
0100357	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり			IIID,12L	8M	弥生時代II期
	長さ 5.53 cm 幅 4.52 cm 厚さ 0.95 cm 重さ 24.8 g 備考						
0100358	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		B7	IIID,9Q	8M	弥生時代II期
	長さ 5.06 cm 幅 4.07 cm 厚さ 0.88 cm 重さ 17.8 g 備考						
0100359	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.50 cm 幅 3.11 cm 厚さ 1.00 cm 重さ 12.4 g 備考						
0100360	不完全両面調整刃部両面調整複刃削器	現礫面 なし		B1	IIID,7F	8M	弥生時代II期
	長さ 5.70 cm 幅 2.81 cm 厚さ 1.30 cm 重さ 19.3 g 備考 石小刀						
0100361	両面調整尖頭削器	現礫面 なし		B7	IIID,8T	SD-66	弥生時代II～IV期
	長さ 6.44 cm 幅 2.61 cm 厚さ 1.42 cm 重さ 26.9 g 備考 石核B類						
0100362	不完全両面調整直刃削器	現礫面 あり		B	IIID,9P	8	弥生時代II～IV期
	長さ 7.73 cm 幅 3.06 cm 厚さ 1.44 cm 重さ 32.3 g 備考 石核B類						
0100363	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,13K	8M	弥生時代II期
	長さ 6.19 cm 幅 4.78 cm 厚さ 1.28 cm 重さ 37.8 g 備考						
0100364	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		B	IIIE,5B	8M	弥生時代II期
	長さ 5.84 cm 幅 4.31 cm 厚さ 1.20 cm 重さ 25.4 g 備考						
0100365	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,13L	8M	弥生時代II期
	長さ 7.34 cm 幅 3.06 cm 厚さ 0.87 cm 重さ 19.5 g 備考						
0100366	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,11L	8M	弥生時代II期
	長さ 6.97 cm 幅 3.16 cm 厚さ 1.17 cm 重さ 22.0 g 備考						
0100367	刃部両面調整複刃削器	現礫面 あり		B	IIIE,5A	8	弥生時代II～IV期
	長さ 4.80 cm 幅 4.09 cm 厚さ 1.26 cm 重さ 31.2 g 備考						
0100368	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 なし		B5	IIID,13R	8L	弥生時代II期
	長さ 5.43 cm 幅 4.49 cm 厚さ 0.63 cm 重さ 14.2 g 備考						
0100369	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,12I,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 6.38 cm 幅 4.39 cm 厚さ 1.34 cm 重さ 29.8 g 備考						
0100370	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		A	IIID,12I	8M	弥生時代II期
	長さ 4.07 cm 幅 3.12 cm 厚さ 0.67 cm 重さ 8.9 g 備考						
0100371	不完全両面調整刃部片面調整えぐりつき直刃削器	現礫面 あり		B4	IIIE,12E	8M	弥生時代II期
	長さ 4.56 cm 幅 2.82 cm 厚さ 1.19 cm 重さ 12.9 g 備考						
0100372	刃部片面（両面）調整複刃削器	現礫面 あり		B7		8	弥生時代II～IV期
	長さ 5.41 cm 幅 3.15 cm 厚さ 0.77 cm 重さ 13.0 g 備考						
0100373	小型楕形両面調整尖頭器	現礫面 あり		B7	IIID,10A	8	弥生時代II～IV期
	長さ 4.87 cm 幅 2.49 cm 厚さ 1.22 cm 重さ 13.9 g 備考						
0100374	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし		B5	IIID,13Q	8M	弥生時代II期
	長さ 3.25 cm 幅 1.91 cm 厚さ 0.38 cm 重さ 1.7 g 備考						
0100375	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし		B3	西側トレンチ	8	弥生時代II～IV期
	長さ 4.64 cm 幅 3.28 cm 厚さ 0.72 cm 重さ 12.1 g 備考 背縁は片面調整						
0100376	石錐	現礫面 なし		A	IIID,11J	8M	弥生時代II期
	長さ 5.04 cm 幅 2.31 cm 厚さ 0.94 cm 重さ 12.2 g 備考						
0100377	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.99 cm 幅 4.45 cm 厚さ 0.79 cm 重さ 16.7 g 備考						
0100378	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし		A	IIID,11J	8M	弥生時代II期
	長さ 3.95 cm 幅 3.07 cm 厚さ 0.69 cm 重さ 10.9 g 備考						
0100379	刃部両面調整複刃削器	現礫面 あり		B7	IIIE,7B	8	弥生時代II～IV期
	長さ 5.69 cm 幅 3.34 cm 厚さ 0.91 cm 重さ 21.2 g 備考						

table. 3-11 打製石器一覧

ID	型式・形態		地区	区画	層位/遺構	時期
0100380	刃部片面（両面）調整複刃削器	現礫面 あり	A	IIID,14I	トレンチ内貝層	縄文晩期前橋式期～弥生II期
	長さ 4.55 cm 幅 2.31 cm 厚さ 0.70 cm 重さ 7.1 g 備考					
0100381	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 なし	A	IIID,12I	8M	弥生時代II期
	長さ 6.40 cm 幅 7.16 cm 厚さ 1.62 cm 重さ 47.1 g 備考					
0100382	剥片	現礫面 あり	A	IIID,11E	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.28 cm 幅 4.14 cm 厚さ 1.82 cm 重さ 61.8 g 備考					
0100383	剥片	現礫面 あり	A	IIID,13F	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.76 cm 幅 4.62 cm 厚さ 1.03 cm 重さ 23.3 g 備考					
0100384	刃部片面調整直刃・凹刃削器	現礫面 あり	A	IIID,12H	8M	弥生時代II期
	長さ 3.78 cm 幅 3.58 cm 厚さ 0.98 cm 重さ 11.6 g 備考					
0100385	刃部両面調整尖頭削器	現礫面 なし	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 8.54 cm 幅 5.26 cm 厚さ 2.01 cm 重さ 61.1 g 備考 石核B類					
0100386	不完全両面調整尖頭器	現礫面 なし	A	IIID,12J,NE	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 6.50 cm 幅 2.02 cm 厚さ 0.87 cm 重さ 9.9 g 備考 石錐未製品？					
0100387	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり	A	IIID,11K	8M	弥生時代II期
	長さ 5.46 cm 幅 4.70 cm 厚さ 1.18 cm 重さ 27.4 g 備考					
0100388	剥片	現礫面 なし	B	IIID,4B	SX-10	弥生時代II期
	長さ 6.07 cm 幅 3.90 cm 厚さ 0.54 cm 重さ 8.9 g 備考					
0100389	小型楔形両面調整尖頭器未製品	現礫面 あり	A	IIID,12J	8M	弥生時代II期
	長さ 6.98 cm 幅 3.44 cm 厚さ 1.50 cm 重さ 29.9 g 備考					
0100390	使用痕のある縁部調整剥片	現礫面 あり			不明	弥生時代？
	長さ 5.24 cm 幅 3.02 cm 厚さ 0.86 cm 重さ 15.9 g 備考					
0100391	刃部片面調整複刃直刃削器	現礫面 あり	A	IIID,13J	8M	弥生時代II期
	長さ 4.83 cm 幅 3.34 cm 厚さ 0.97 cm 重さ 15.1 g 備考					
0100392	石核B	現礫面 あり	B7	IIID,8R	8	弥生時代II～IV期
	長さ 4.33 cm 幅 3.49 cm 厚さ 1.09 cm 重さ 19.4 g 備考					
0100393	片面調整（尖頭）削器破片	現礫面 なし	A	IIID,11F	8L	弥生時代II期
	長さ 4.58 cm 幅 3.03 cm 厚さ 0.82 cm 重さ 12.6 g 備考					
0100394	小型楔形両面調整尖頭器	現礫面 なし	A	IIID,11J	8M	弥生時代II期
	長さ 5.88 cm 幅 2.87 cm 厚さ 0.85 cm 重さ 12.3 g 備考					
0100395	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり	A	IIID,11I	8M	弥生時代II期
	長さ 5.24 cm 幅 3.31 cm 厚さ 0.68 cm 重さ 11.3 g 備考					
0100396	剥片	現礫面 なし	A	IIID,11H,NW	貝層-2上部	弥生時代II期
	長さ 2.13 cm 幅 2.34 cm 厚さ 0.28 cm 重さ 1.6 g 備考					
0100397	尖形両面調整尖頭器	現礫面 なし	A	IIID,10E	8U	弥生時代IV期
	長さ 8.71 cm 幅 4.19 cm 厚さ 1.55 cm 重さ 64.6 g 備考					
0100398	石小刀形両面調整複刃尖頭削器	現礫面 なし	A	IIID,14G	8U	弥生時代IV期
	長さ 8.04 cm 幅 2.48 cm 厚さ 1.25 cm 重さ 22.7 g 備考					
0100399	小型楔形両面調整尖頭器	現礫面 なし	B	IIID,7F	8U	弥生時代IV期
	長さ 8.77 cm 幅 3.91 cm 厚さ 1.37 cm 重さ 34.2 g 備考					
0100400	剣形両面調整尖頭器破片	現礫面 なし	A	IIID,11G	8M	弥生時代II期
	長さ 7.74 cm 幅 3.67 cm 厚さ 1.81 cm 重さ 57.1 g 備考					
0100401	小型楔形両面調整尖頭器未製品	現礫面 なし	B	IIID,10P	8	弥生時代II～IV期
	長さ 9.06 cm 幅 3.39 cm 厚さ 1.21 cm 重さ 37.5 g 備考					
0100402	剣形両面調整尖頭器	現礫面 なし	B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 8.54 cm 幅 4.31 cm 厚さ 1.36 cm 重さ 51.5 g 備考					
0100403	楔形両面調整尖頭器破片	現礫面 なし	B	IIID,7I	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.18 cm 幅 2.86 cm 厚さ 1.37 cm 重さ 21.4 g 備考					
0100404	小型楔形両面調整尖頭器	現礫面 あり	A	IIID,12E	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.12 cm 幅 3.05 cm 厚さ 0.75 cm 重さ 18.3 g 備考					
0100405	小型楔形両面調整尖頭器	現礫面 あり	A	IIID,12G	8M	弥生時代II期
	長さ 7.72 cm 幅 4.06 cm 厚さ 1.36 cm 重さ 50.4 g 備考					
0100406	小型楔形両面調整尖頭器破片	現礫面 なし	B	IIID,7Q	8	弥生時代II～IV期
	長さ 5.80 cm 幅 3.13 cm 厚さ 0.91 cm 重さ 19.7 g 備考					
0100407	不完全両面調整尖頭削器	現礫面 なし	A	IIID,11F	8M	弥生時代II期
	長さ 5.46 cm 幅 2.86 cm 厚さ 1.16 cm 重さ 22.8 g 備考					
0100408	剣形両面調整尖頭器	現礫面 なし	B	IIID,7R	8	弥生時代II～IV期
	長さ 5.89 cm 幅 3.43 cm 厚さ 1.26 cm 重さ 27.1 g 備考					
0100409	石小刀形両面調整複刃尖頭削器	現礫面 なし	B8	IIID,12O	8M	弥生時代II期
	長さ 4.84 cm 幅 2.92 cm 厚さ 0.83 cm 重さ 11.6 g 備考					
0100410	小型楔形両面調整尖頭器破片	現礫面 なし	B	IIID,5R	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.55 cm 幅 2.97 cm 厚さ 1.16 cm 重さ 21.0 g 備考					
0100411	尖形両面調整尖頭器	現礫面 あり	B	IIID,12T	8L	弥生時代II期
	長さ 16.10 cm 幅 5.82 cm 厚さ 2.36 cm 重さ 240.0 g 備考					
0100412	小型楔もしくは剣形両面調整尖頭器	現礫面 なし	B4	IIIE,12A	8L	弥生時代II期
	長さ 9.33 cm 幅 3.96 cm 厚さ 0.93 cm 重さ 35.7 g 備考					
0100413	小型楔形両面調整尖頭器	現礫面 あり	A	IIID,13K,NW	貝層-2下部	縄文晩期前橋式期～長原式期
	長さ 8.81 cm 幅 2.54 cm 厚さ 0.27 cm 重さ 30.6 g 備考					

table. 3-12 打製石器一覧

ID	型式・形態	現礫面	地区	区画	層位/遺構	時期	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
0100414	剣形両面調整尖頭器	あり	A	IIID,F'G	8U	弥生時代IV期	13.57 cm	3.15 cm	1.11 cm	56.3 g	
0100415	刃部両面調整複刃削器	なし	B7	IIID,5T	8	弥生時代II~IV期	5.06 cm	2.38 cm	0.75 cm	8.6 g	
0100416	剣形両面調整尖頭器破片	なし	B	IIID,9O	8U	弥生時代IV期	8.35 cm	3.89 cm	1.38 cm	61.0 g	
0100417	槍形両面調整尖頭器基部破片	あり	B-6		8	弥生時代II~IV期	5.57 cm	3.49 cm	1.31 cm	29.3 g	
0100418	両面調整尖頭削器	あり	B	IIID,10P	8U	弥生時代IV期	7.56 cm	3.20 cm	1.28 cm	31.0 g	
0100419	剣形両面調整尖頭器先端部	なし	A	IIID,13M,NW	貝層-2上部	弥生時代II期	4.68 cm	2.62 cm	1.12 cm	10.7 g	
0100420	小型槍形両面調整尖頭器	なし	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期	6.25 cm	2.88 cm	0.93 cm	15.5 g	
0100421	石小刀形両面調整複刃尖頭削器破片	なし	B	IIID,10N	8	弥生時代II~IV期	6.37 cm	2.51 cm	1.13 cm	20.0 g	
0100422	剥片				8L	弥生時代II期	cm	cm	cm	925.4 g	n=152
0100423	剥片				8	弥生時代II~IV期	cm	cm	cm	1280.5 g	n=134
0100424	剥片				8M	弥生時代II期	cm	cm	cm	3222.5 g	n=414
0100425	剥片				8U	弥生時代IV期	cm	cm	cm	7233.9 g	n=1700
0100426	剥片				貝層2上部	弥生時代II期	cm	cm	cm	1464.3 g	n=223
0100427	剥片				貝層2中部	縄文晩期長原式期~弥生I期	cm	cm	cm	328.4 g	n=82
0100428	剥片				貝層-2下部	縄文晩期船橋式期~長原式期	cm	cm	cm	80.5 g	n=12
0100429	剥片				貝層-2最下部	縄文晩期船橋式期	cm	cm	cm	4.1 g	n=3
0100430	剥片				SX19	弥生時代？	cm	cm	cm	4.0 g	n=2
0100431	剥片				SP19	弥生時代？	cm	cm	cm	0.7 g	n=1
0100432	剥片				SD16	弥生時代？	cm	cm	cm	5.6 g	n=3
0100433	剥片				SD51	弥生時代？	cm	cm	cm	2.7 g	n=1
0100434	剥片				SK30	弥生時代？	cm	cm	cm	1.5 g	n=1
0100435	剥片				SD87	弥生時代？	cm	cm	cm	1.6 g	n=1
0100436	剥片				SK55	弥生時代？	cm	cm	cm	19.4 g	n=2
0100437	剥片				SK63	弥生時代？	cm	cm	cm	15.7 g	n=1
0100438	剥片				SK46	弥生時代？	cm	cm	cm	9.5 g	n=4
0100439	剥片				SD66	弥生時代II~IV期	cm	cm	cm	60.7 g	n=8
0100440	剥片				SD72	弥生時代II期	cm	cm	cm	729.8 g	n=76
0100441	剥片				SD65	弥生時代？	cm	cm	cm	17.3 g	n=5
0100442	剥片				SK16	弥生時代？	cm	cm	cm	0.9 g	n=1
0100443	剥片				SK43	弥生時代II~IV期	cm	cm	cm	10.9 g	n=1
0100444	剥片				SK68	弥生時代？	cm	cm	cm	14.3 g	n=1
0100445	剥片				SD69	弥生時代II期	cm	cm	cm	653.5 g	n=42
0100446	剥片				SP21	弥生時代？	cm	cm	cm	2.9 g	n=1
0100447	剥片				SD55	弥生時代？	cm	cm	cm	10.4 g	n=1

table. 3-13 打製石器一覧

ID	型式・形態							地区	区画	層位/遺構	時期
0100448	剥片				現礫面					SX13	弥生時代II期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 20.7 g	備考 n=1						
0100449	剥片				現礫面					SD72内貝層	弥生時代II期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 1.0 g	備考 n=1						
0100450	剥片				現礫面					SK39	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 2.1 g	備考 n=1						
0100451	剥片				現礫面					SX6	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 19.6 g	備考 n=1						
0100452	剥片				現礫面					SX15	弥生時代II～IV期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 143.5 g	備考 n=47						
0100453	剥片				現礫面					SP58	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 1.9 g	備考 n=1						
0100454	剥片				現礫面					SK66	弥生時代II～IV期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 1.0 g	備考 n=1						
0100455	剥片				現礫面					SD68	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 24.1 g	備考 n=2						
0100456	剥片				現礫面					SD28	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 41.5 g	備考 n=4						
0100457	剥片				現礫面					SX2	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 25.7 g	備考 n=1						
0100458	剥片				現礫面					SK51	弥生時代II～IV期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 52.5 g	備考 n=4						
0100459	剥片				現礫面					SD52	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 2.2 g	備考 n=1						
0100460	剥片				現礫面					SK44	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 340.4 g	備考 n=47						
0100461	剥片				現礫面					SD47	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 5.2 g	備考 n=1						
0100462	剥片				現礫面					SK48	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 29.7 g	備考 n=3						
0100463	剥片				現礫面					SD71	弥生時代II期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 330.5 g	備考 n=37						
0100464	剥片				現礫面					SD61	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 21.5 g	備考 n=2						
0100465	剥片				現礫面					SX17	弥生時代II期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 109.8 g	備考 n=13						
0100466	剥片				現礫面					SD61	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 0.9 g	備考 n=1						
0100467	剥片				現礫面					SK47	弥生時代II～IV期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 8.2 g	備考 n=2						
0100468	剥片				現礫面					SD64	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 22.1 g	備考 n=1						
0100469	剥片				現礫面					SK41	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 4.6 g	備考 n=1						
0100470	剥片				現礫面					SP57	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 8.5 g	備考 n=1						
0100471	剥片				現礫面					SK58	弥生時代II～IV期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 7.9 g	備考 n=1						
0100472	剥片				現礫面					貝層-1	縄文晩期前葉式期～弥生式期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 25.5 g	備考 n=7						
0100473	剥片				現礫面					9U	弥生時代II期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 230.7 g	備考 n=23						
0100474	剥片				現礫面					9L	縄文晩期荒草式期～弥生I期
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 36.0 g	備考 n=7						
0100475	剥片				現礫面					SK36	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 29.8 g	備考 n=1						
0100476	剥片				現礫面					SX11	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 67.2 g	備考 n=1						
0100477	剥片				現礫面					Pit11	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 6.3 g	備考 n=2						
0100478	剥片				現礫面					不明	弥生時代？
	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ 776.6 g	備考 n=74						
0100481	石核B				現礫面 なし			A	IIID	不明	弥生時代？
	長さ 6.18 cm	幅 6.48 cm	厚さ 2.04 cm	重さ 78.9 g	備考						
0100482	石核B				現礫面 あり			B5	IIID	不明	弥生時代？
	長さ 7.26 cm	幅 4.58 cm	厚さ 2.55 cm	重さ 99.5 g	備考						
0100483	石核B				現礫面 なし			A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.02 cm	幅 6.02 cm	厚さ 1.66 cm	重さ 52.6 g	備考						

table. 3-14　打製石器一覧

ID	型式・形態							地区	区画	層位/遺構	時期
0100484	石核B						現礫面 あり	B3	IIID,3E	KM	弥生時代II期
	長さ 4.49 cm	幅 6.84 cm	厚さ 2.26 cm	重さ 92.1 g	備考						
0100485	石核B						現礫面 あり	A	IIID,14Q	8M	弥生時代II期
	長さ 7.64 cm	幅 8.41 cm	厚さ 2.03 cm	重さ 127.3 g	備考						
0100486	石核B						現礫面 あり	B	IIID,4J	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.51 cm	幅 2.92 cm	厚さ 1.62 cm	重さ 41.3 g	備考						
0100487	石核B						現礫面 なし	B7	IIID,7S	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.92 cm	幅 5.41 cm	厚さ 1.58 cm	重さ 50.3 g	備考						
0100488	石核B						現礫面 あり	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.12 cm	幅 3.73 cm	厚さ 1.61 cm	重さ 48.4 g	備考						
0100489	石核B						現礫面 なし	B	IIIE,6A	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.67 cm	幅 4.57 cm	厚さ 1.36 cm	重さ 32.3 g	備考						
0100490	石核B						現礫面 なし	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.35 cm	幅 4.19 cm	厚さ 1.46 cm	重さ 30.1 g	備考						
0100491	石核B						現礫面 なし	B	IIID,7S	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.61 cm	幅 5.06 cm	厚さ 1.45 cm	重さ 39.0 g	備考						
0100492	石核B						現礫面 あり	A	IIID,11H,SW	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 9.41 cm	幅 5.93 cm	厚さ 3.13 cm	重さ 153.8 g	備考						
0100493	石核B						現礫面 なし	A	IIID,13J	8M	弥生時代II期
	長さ 6.75 cm	幅 5.21 cm	厚さ 1.37 cm	重さ 57.8 g	備考						
0100494	石核B						現礫面 なし	B5	IIID,12P	8M	弥生時代II期
	長さ 5.39 cm	幅 3.55 cm	厚さ 1.70 cm	重さ 49.5 g	備考						
0100495	石核B						現礫面 あり	B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 9.35 cm	幅 4.73 cm	厚さ 1.81 cm	重さ 103.4 g	備考						
0100496	石核B						現礫面 あり	B7	IIID,10P	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.22 cm	幅 4.30 cm	厚さ 1.50 cm	重さ 67.1 g	備考						
0100497	石核B						現礫面 あり	B7	IIID,8T	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ 5.67 cm	幅 3.45 cm	厚さ 1.30 cm	重さ 26.4 g	備考						
0100498	石核B						現礫面 あり	B3	IIIE,2E	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.80 cm	幅 4.24 cm	厚さ 1.22 cm	重さ 36.0 g	備考						
0100499	石核B						現礫面 あり	B	IIID,10S	SD72	弥生時代II期
	長さ 7.42 cm	幅 3.75 cm	厚さ 1.34 cm	重さ 48.6 g	備考						
0100500	石核B						現礫面 あり	B7		8	弥生時代II～IV期
	長さ 8.31 cm	幅 4.46 cm	厚さ 1.85 cm	重さ 71.8 g	備考						
0100501	石核B						現礫面 あり	B	IIIE,6A	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.61 cm	幅 4.33 cm	厚さ 1.94 cm	重さ 53.5 g	備考						
0100502	石核B						現礫面 あり	A	IIID,10M	8	弥生時代II～IV期
	長さ 6.56 cm	幅 3.21 cm	厚さ 1.86 cm	重さ 36.3 g	備考						
0100503	石核B						現礫面 あり	B	IIID,10B	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.17 cm	幅 3.67 cm	厚さ 1.72 cm	重さ 34.2 g	備考						
0100504	石核B						現礫面 なし	A	IIID,11F	9U	弥生時代II期
	長さ 3.14 cm	幅 2.76 cm	厚さ 0.74 cm	重さ 8.0 g	備考						
0100505	石核B						現礫面 なし	B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 5.42 cm	幅 4.05 cm	厚さ 1.17 cm	重さ 29.6 g	備考						
0100506	石核B						現礫面 あり	A	IIID,13K,NW	9L	縄文晩期長原式期～弥生I期
	長さ 6.81 cm	幅 5.44 cm	厚さ 1.98 cm	重さ 75.1 g	備考						
0100507	石核B						現礫面 なし	B	IIID,8P	8	弥生時代II～IV期
	長さ 5.92 cm	幅 5.49 cm	厚さ 1.63 cm	重さ 47.7 g	備考						
0100508	石核B						現礫面 なし	A	IIID	不明	弥生時代？
	長さ 6.04 cm	幅 4.83 cm	厚さ 1.59 cm	重さ 53.2 g	備考						
0100509	石核B						現礫面 あり	B	IIID,13Q	8M	弥生時代II期
	長さ 8.21 cm	幅 4.30 cm	厚さ 1.86 cm	重さ 59.2 g	備考						
0100510	石核B						現礫面 あり		IIID,12L	8M	弥生時代II期
	長さ 6.33 cm	幅 4.28 cm	厚さ 1.94 cm	重さ 51.8 g	備考						
0100511	石核B						現礫面 なし	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.74 cm	幅 3.39 cm	厚さ 0.99 cm	重さ 18.6 g	備考						
0100512	石核B						現礫面 あり	A	IIID,12H	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.85 cm	幅 4.33 cm	厚さ 1.02 cm	重さ 11.6 g	備考						
0100513	石核B						現礫面 なし	B7	IIIE,6B	8	弥生時代II～IV期
	長さ 4.68 cm	幅 7.42 cm	厚さ 1.02 cm	重さ 46.2 g	備考						
0100514	石核B						現礫面 なし	A	IIID,12J,SE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 5.28 cm	幅 2.87 cm	厚さ 1.51 cm	重さ 26.4 g	備考						
0100515	石核B						現礫面 なし	B	IIID	8M	弥生時代II期
	長さ 6.09 cm	幅 3.62 cm	厚さ 1.06 cm	重さ 23.2 g	備考						
0100516	石核B						現礫面 あり	A	IIID,12H	8M	弥生時代II期
	長さ 3.54 cm	幅 3.30 cm	厚さ 1.46 cm	重さ 22.5 g	備考						
0100517	石核B						現礫面 あり	B4	IIIE,12B	8L	弥生時代II期
	長さ 6.44 cm	幅 4.54 cm	厚さ 1.39 cm	重さ 48.7 g	備考						

table. 3-15 打製石器一覧

ID	型式・形態										地区	区画	層位/遺構	時期
0100518	石核B							現礫面	あり		B7	IIID,8T	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ	4.50 cm	幅	2.54 cm	厚さ	1.41 cm	重さ	21.7 g	備考					
0100519	石核B							現礫面	あり		A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ	4.34 cm	幅	3.22 cm	厚さ	1.11 cm	重さ	16.3 g	備考					
0100520	石核B							現礫面	あり		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ	5.15 cm	幅	4.37 cm	厚さ	1.21 cm	重さ	28.2 g	備考					
0100521	石核B							現礫面	あり		A	IIID,13J	8U	弥生時代IV期
	長さ	5.44 cm	幅	2.45 cm	厚さ	1.23 cm	重さ	20.9 g	備考					
0100522	石核B							現礫面	あり		B7	IIID,8T	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ	6.27 cm	幅	3.97 cm	厚さ	1.03 cm	重さ	29.5 g	備考					
0100523	石核B							現礫面	あり		B	IIID,10O	8M	弥生時代II期
	長さ	4.46 cm	幅	2.92 cm	厚さ	1.72 cm	重さ	24.2 g	備考					
0100524	石核B							現礫面	なし		A	IIID,12J,NE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ	3.03 cm	幅	2.81 cm	厚さ	1.77 cm	重さ	9.8 g	備考					
0100525	石核B							現礫面	なし		B	IIIE,6C	SD71	弥生時代II期
	長さ	4.62 cm	幅	2.91 cm	厚さ	1.26 cm	重さ	13.7 g	備考					
0100526	石核B							現礫面	あり		A	IIID,12E	8U	弥生時代IV期
	長さ	4.96 cm	幅	3.12 cm	厚さ	0.85 cm	重さ	18.4 g	備考					
0100527	石核B							現礫面	あり		A	IIID,13L	8M	弥生時代II期
	長さ	4.84 cm	幅	3.02 cm	厚さ	1.25 cm	重さ	22.3 g	備考					
0100528	石核B							現礫面	なし		B7	IIIE,5D	SD71	弥生時代II期
	長さ	4.48 cm	幅	4.86 cm	厚さ	1.02 cm	重さ	22.6 g	備考					
0100529	石核B							現礫面	あり		B	IIID,5R	SD69	弥生時代II期
	長さ	4.98 cm	幅	3.30 cm	厚さ	0.90 cm	重さ	18.9 g	備考					
0100530	石核B							現礫面	なし		A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ	4.59 cm	幅	3.20 cm	厚さ	1.75 cm	重さ	28.0 g	備考					
0100531	石核B							現礫面	なし		B	IIID,9H	8U	弥生時代IV期
	長さ	4.32 cm	幅	3.65 cm	厚さ	0.84 cm	重さ	11.7 g	備考					
0100532	石核B							現礫面	なし		B	不明,8C	SK67	弥生時代？
	長さ	3.60 cm	幅	2.52 cm	厚さ	0.86 cm	重さ	9.2 g	備考					
0100533	石核B							現礫面	なし		B	IIIE,7B	8M	弥生時代II期
	長さ	4.68 cm	幅	4.21 cm	厚さ	0.88 cm	重さ	17.3 g	備考					
0100534	石核B							現礫面	あり		B7	IIID,6R	8	弥生時代II～IV期
	長さ	4.84 cm	幅	4.03 cm	厚さ	1.34 cm	重さ	36.3 g	備考					
0100535	石核B							現礫面	あり		A	IIID,12J	8U	弥生時代IV期
	長さ	3.59 cm	幅	2.48 cm	厚さ	1.02 cm	重さ	8.9 g	備考					
0100536	石核B							現礫面	なし		A	IIID,10J	8M	弥生時代II期
	長さ	2.92 cm	幅	2.37 cm	厚さ	0.61 cm	重さ	4.3 g	備考					
0100537	石核B							現礫面	なし		B	IIID,7Q	8U	弥生時代IV期
	長さ	3.68 cm	幅	3.24 cm	厚さ	0.86 cm	重さ	11.7 g	備考					
0100538	石核B							現礫面	なし		A	IIID,14I	9L	縄文晩期長原式期～弥生I期
	長さ	3.96 cm	幅	3.23 cm	厚さ	0.28 cm	重さ	14.4 g	備考					
0100539	石核B							現礫面	あり		B	IIIE,7B	SX15	弥生時代II～IV期
	長さ	4.58 cm	幅	3.88 cm	厚さ	1.49 cm	重さ	27.4 g	備考					
0100540	石核B							現礫面	あり		A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.19 cm	幅	2.87 cm	厚さ	0.61 cm	重さ	3.9 g	備考					
0100541	石核B							現礫面	なし		A	IIID,14K	8M	弥生時代II期
	長さ	3.71 cm	幅	2.57 cm	厚さ	1.02 cm	重さ	11.0 g	備考					
0100542	石核B							現礫面	あり		A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ	5.75 cm	幅	5.01 cm	厚さ	1.20 cm	重さ	35.1 g	備考					
0100543	石核B							現礫面	なし		B4	IIIE,13A	9	縄文晩期前葉式期～弥生II期
	長さ	4.86 cm	幅	3.14 cm	厚さ	0.65 cm	重さ	11.0 g	備考					
0100544	石核B							現礫面	なし		B	III,8D	8U	弥生時代IV期
	長さ	4.18 cm	幅	3.40 cm	厚さ	0.47 cm	重さ	6.4 g	備考					
0100545	石核B							現礫面	なし		A	不明,13D	8U	弥生時代IV期
	長さ	4.01 cm	幅	2.80 cm	厚さ	0.74 cm	重さ	10.5 g	備考					
0100546	石核B							現礫面	あり		B7	IIID,8T	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ	6.66 cm	幅	2.45 cm	厚さ	1.45 cm	重さ	22.5 g	備考					
0100547	石核B							現礫面	なし		B7	IIID,8T	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ	4.58 cm	幅	3.53 cm	厚さ	0.97 cm	重さ	16.6 g	備考					
0100548	石核B							現礫面	なし		A	IIID,11H	8M	弥生時代II期
	長さ	3.51 cm	幅	2.73 cm	厚さ	0.92 cm	重さ	8.2 g	備考					
0100549	石核B							現礫面	あり		B	IIIE,6C	SD71	弥生時代II期
	長さ	5.33 cm	幅	3.24 cm	厚さ	1.05 cm	重さ	21.7 g	備考					
0100550	石核B							現礫面	あり		B	IIIE	9L	弥生時代II期
	長さ	5.64 cm	幅	3.07 cm	厚さ	0.95 cm	重さ	15.5 g	備考					
0100551	石核B							現礫面	なし		B6		8U	弥生時代IV期
	長さ	3.52 cm	幅	3.08 cm	厚さ	0.97 cm	重さ	12.9 g	備考					

table. 31-6　打製石器一覧

ID	型式・形態									地区	区画	層位/遺構	時期
0100552	石核B					現礫面 あり				B	IIID,11H	8M	弥生時代II期
	長さ	4.29 cm	幅	3.15 cm	厚さ	1.29 cm	重さ	18.9 g	備考				
0100553	石核B					現礫面 あり				A	IIID,12J	8M	弥生時代II期
	長さ	3.25 cm	幅	3.20 cm	厚さ	1.34 cm	重さ	14.7 g	備考				
0100554	石核B					現礫面 あり				A	IIID,11G	8M	弥生時代II期
	長さ	4.52 cm	幅	2.49 cm	厚さ	1.05 cm	重さ	13.5 g	備考				
0100555	石核B					現礫面 なし				A	IIID,12I,NE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ	4.19 cm	幅	3.30 cm	厚さ	1.08 cm	重さ	14.5 g	備考				
0100556	石核B					現礫面 なし				A	IIID,12I,NE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ	4.73 cm	幅	2.75 cm	厚さ	1.38 cm	重さ	22.0 g	備考				
0100557	石核B					現礫面 あり				B5	IIID,13R	8L	弥生時代II期
	長さ	6.36 cm	幅	3.43 cm	厚さ	1.19 cm	重さ	30.6 g	備考				
0100558	石核B					現礫面 なし				B	IIID,7T	SD72	弥生時代II期
	長さ	4.04 cm	幅	3.34 cm	厚さ	1.02 cm	重さ	13.6 g	備考				
0100559	石核B					現礫面 なし				A	IIID,11J	8M	弥生時代II期
	長さ	3.52 cm	幅	2.87 cm	厚さ	1.17 cm	重さ	13.4 g	備考				
0100560	石核B					現礫面 なし				B	IIID,12N	8M	弥生時代II期
	長さ	3.59 cm	幅	2.95 cm	厚さ	0.93 cm	重さ	9.7 g	備考				
0100561	石核B					現礫面 なし				A	IIID,13K	8M	弥生時代II期
	長さ	4.12 cm	幅	2.64 cm	厚さ	0.92 cm	重さ	9.3 g	備考				
0100562	石核B					現礫面 あり				B7	IIID,10R	不明	弥生時代？
	長さ	2.97 cm	幅	2.29 cm	厚さ	0.85 cm	重さ	6.1 g	備考				
0100563	石核B					現礫面 なし				A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.37 cm	幅	1.24 cm	厚さ	0.79 cm	重さ	3.4 g	備考				
0100564	石核B					現礫面 なし				A	IIID,14H	トレンチ内貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ	2.74 cm	幅	3.30 cm	厚さ	0.79 cm	重さ	8.9 g	備考				
0100565	石核B					現礫面 なし				A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.79 cm	幅	1.50 cm	厚さ	0.46 cm	重さ	1.9 g	備考				
0100566	石核B					現礫面 あり				B	IIID,13N	8M	弥生時代II期
	長さ	3.25 cm	幅	1.86 cm	厚さ	1.02 cm	重さ	9.3 g	備考				
0100567	石核B					現礫面 あり				B7	IIID,8T	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ	4.43 cm	幅	3.53 cm	厚さ	1.05 cm	重さ	18.2 g	備考				
0100568	石核B					現礫面 あり				A	IIID,11H,SE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ	3.29 cm	幅	2.15 cm	厚さ	0.84 cm	重さ	6.0 g	備考				
0100569	石核B					現礫面 あり				B7	IIID,8T	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ	3.14 cm	幅	3.07 cm	厚さ	0.92 cm	重さ	10.5 g	備考				
0100570	石核B					現礫面 あり				A	IIID,13X,SW	貝層2中部	縄文晩期長原式期～弥生I期
	長さ	4.16 cm	幅	2.95 cm	厚さ	0.88 cm	重さ	10.2 g	備考				
0100571	石核B					現礫面 あり				B	不明,2T	不明	弥生時代？
	長さ	3.52 cm	幅	2.70 cm	厚さ	0.98 cm	重さ	10.4 g	備考				
0100572	石核B					現礫面 なし				A	IIID,10E	8L	弥生時代II期
	長さ	2.82 cm	幅	2.07 cm	厚さ	0.79 cm	重さ	6.5 g	備考				
0100573	石核B					現礫面 なし				A	IIID,10J	8M	弥生時代II期
	長さ	3.19 cm	幅	2.68 cm	厚さ	0.87 cm	重さ	6.6 g	備考				
0100574	石核B					現礫面 あり				B	IIID,10P	貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ	4.47 cm	幅	2.36 cm	厚さ	1.00 cm	重さ	14.1 g	備考				
0100575	石核B					現礫面 あり				A	IIID,12I,NE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ	3.55 cm	幅	1.84 cm	厚さ	0.88 cm	重さ	6.1 g	備考				
0100576	石核B					現礫面 あり				A	IIID,不明,NE	貝層2中部	縄文晩期長原式期～弥生I期
	長さ	2.64 cm	幅	2.22 cm	厚さ	0.49 cm	重さ	3.7 g	備考				
0100577	石核B					現礫面 なし				A		表採	弥生時代？
	長さ	3.38 cm	幅	1.18 cm	厚さ	0.87 cm	重さ	5.0 g	備考				
0100578	石核B					現礫面 なし						不明	弥生時代？
	長さ	4.20 cm	幅	2.75 cm	厚さ	0.89 cm	重さ	10.5 g	備考				
0100579	石核Bから生産された剥片					現礫面 あり				B	IIID,5R	8U	弥生時代IV期
	長さ	3.00 cm	幅	3.26 cm	厚さ	0.91 cm	重さ	7.4 g	備考				
0100580	石核Bから生産された剥片					現礫面 あり				B	IIID	8U	弥生時代IV期
	長さ	2.66 cm	幅	3.38 cm	厚さ	0.71 cm	重さ	7.5 g	備考				
0100581	石核Bから生産された剥片					現礫面 なし				B	IIID,10R	8U	弥生時代IV期
	長さ	4.73 cm	幅	4.13 cm	厚さ	0.61 cm	重さ	9.3 g	備考				
0100582	石核Bから生産された剥片					現礫面 なし				A	IIID,12K	8M	弥生時代II期
	長さ	3.56 cm	幅	2.72 cm	厚さ	0.59 cm	重さ	3.1 g	備考				
0100583	石核Bから生産された剥片					現礫面 なし				A	IIID,11H	トレンチ内貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ	2.00 cm	幅	2.96 cm	厚さ	0.69 cm	重さ	4.4 g	備考				
0100584	石核Bから生産された剥片					現礫面 なし				A	IIID,13L	8M	弥生時代II期
	長さ	4.05 cm	幅	3.81 cm	厚さ	0.97 cm	重さ	8.1 g	備考				
0100585	石核Bから生産された剥片					現礫面 なし				A	IIID,11H	8M	弥生時代II期
	長さ	4.10 cm	幅	3.70 cm	厚さ	1.05 cm	重さ	9.4 g	備考				

table. 3-17　打製石器一覧

ID	型式・形態			地区	区画	層位/遺構	時期
0100586	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,11R	SM	弥生時代II期
	長さ 3.68 cm 幅 4.49 cm 厚さ 1.01 cm 重さ 19.0 g 備考						
0100587	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12J	トレンチ内貝層	縄文晩期的模式期～弥生II期
	長さ 2.04 cm 幅 1.18 cm 厚さ 0.47 cm 重さ 1.3 g 備考						
0100588	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,12J	SM	弥生時代II期
	長さ 3.29 cm 幅 4.46 cm 厚さ 0.35 cm 重さ 5.0 g 備考						
0100589	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12J	トレンチ内貝層	縄文晩期的模式期～弥生II期
	長さ 2.08 cm 幅 3.47 cm 厚さ 0.59 cm 重さ 5.4 g 備考						
0100590	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		B5	IIID,11S	SM	弥生時代II期
	長さ 5.15 cm 幅 4.95 cm 厚さ 1.17 cm 重さ 25.3 g 備考						
0100591	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	不明	SX1	弥生時代？
	長さ 5.36 cm 幅 2.01 cm 厚さ 1.00 cm 重さ 9.1 g 備考						
0100592	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,11G	SL	弥生時代II期
	長さ 4.67 cm 幅 3.76 cm 厚さ 0.91 cm 重さ 16.4 g 備考						
0100593	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,12L	SM	弥生時代II期
	長さ 3.94 cm 幅 2.92 cm 厚さ 0.80 cm 重さ 9.4 g 備考						
0100594	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,13K	SM	弥生時代II期
	長さ 4.24 cm 幅 2.02 cm 厚さ 1.27 cm 重さ 8.6 g 備考						
0100595	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		B	IIID,3H	SM	弥生時代II期
	長さ 2.00 cm 幅 3.64 cm 厚さ 0.61 cm 重さ 4.7 g 備考						
0100596	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		B7	IIID,7O	SU	弥生時代IV期
	長さ 7.66 cm 幅 1.58 cm 厚さ 0.88 cm 重さ 8.9 g 備考						
0100597	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		B7	IIID,8R	SM	弥生時代II期
	長さ 5.01 cm 幅 4.27 cm 厚さ 0.69 cm 重さ 17.9 g 備考						
0100598	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,10G	SM	弥生時代II期
	長さ 2.62 cm 幅 3.92 cm 厚さ 0.97 cm 重さ 8.5 g 備考						
0100599	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,11G	SM	弥生時代II期
	長さ 2.87 cm 幅 1.38 cm 厚さ 0.29 cm 重さ 1.2 g 備考						
0100600	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,13H	SU	弥生時代IV期
	長さ 3.21 cm 幅 3.13 cm 厚さ 0.82 cm 重さ 9.2 g 備考						
0100601	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,11H	トレンチ内貝層	縄文晩期的模式期～弥生II期
	長さ 2.59 cm 幅 1.29 cm 厚さ 0.33 cm 重さ 1.0 g 備考						
0100602	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12J	SM	弥生時代II期
	長さ 4.78 cm 幅 3.22 cm 厚さ 0.69 cm 重さ 11.8 g 備考						
0100603	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,13K	トレンチ内貝層	縄文晩期的模式期～弥生II期
	長さ 3.55 cm 幅 2.38 cm 厚さ 0.63 cm 重さ 4.6 g 備考						
0100604	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,12H	SU	弥生時代IV期
	長さ 4.43 cm 幅 3.10 cm 厚さ 0.81 cm 重さ 10.4 g 備考						
0100605	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		B	IIIE,9C	SX15	弥生時代II～IV期
	長さ 3.65 cm 幅 2.40 cm 厚さ 0.96 cm 重さ 8.2 g 備考						
0100606	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12H	SM	弥生時代II期
	長さ 3.24 cm 幅 3.28 cm 厚さ 0.63 cm 重さ 7.4 g 備考						
0100607	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID	SM	弥生時代II期
	長さ 3.51 cm 幅 1.53 cm 厚さ 0.49 cm 重さ 2.0 g 備考						
0100608	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,13M	SM	弥生時代II期
	長さ 2.86 cm 幅 3.03 cm 厚さ 0.36 cm 重さ 2.6 g 備考						
0100609	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		不明	IIID,11P	SL	弥生時代II期
	長さ 2.62 cm 幅 3.82 cm 厚さ 0.71 cm 重さ 5.8 g 備考						
0100610	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		B	IIIE,6E	SU	弥生時代IV期
	長さ 3.90 cm 幅 3.28 cm 厚さ 0.11 cm 重さ 11.0 g 備考						
0100611	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12J,NW	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 3.40 cm 幅 2.19 cm 厚さ 0.91 cm 重さ 5.8 g 備考						
0100612	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		不明	不明	SL	弥生時代II期
	長さ 2.54 cm 幅 3.92 cm 厚さ 0.68 cm 重さ 7.2 g 備考						
0100613	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,11H	トレンチ内貝層	縄文晩期的模式期～弥生II期
	長さ 3.22 cm 幅 4.08 cm 厚さ 0.90 cm 重さ 8.8 g 備考						
0100614	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		B5	IIID,13D	SL	弥生時代II期
	長さ 6.30 cm 幅 3.44 cm 厚さ 0.82 cm 重さ 18.6 g 備考						
0100615	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,13K	貝層-2最下部	縄文晩期的模式期
	長さ 4.66 cm 幅 2.16 cm 厚さ 1.21 cm 重さ 6.3 g 備考						
0100616	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		B	IIID,10R	SM	弥生時代II期
	長さ 2.70 cm 幅 2.86 cm 厚さ 0.47 cm 重さ 4.0 g 備考						
0100617	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12J,SE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 2.49 cm 幅 2.50 cm 厚さ 0.61 cm 重さ 4.8 g 備考						
0100618	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,13K	トレンチ内貝層	縄文晩期的模式期～弥生II期
	長さ 2.94 cm 幅 1.73 cm 厚さ 0.47 cm 重さ 2.0 g 備考						
0100619	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,12L	SM	弥生時代II期
	長さ 2.88 cm 幅 2.63 cm 厚さ 0.63 cm 重さ 4.8 g 備考						

table. 3-18 打製石器一覧

ID	型式・形態			地区	区画	層位/遺構	時期
0100620	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,12H,NE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 2.91 cm 幅 1.91 cm 厚さ 0.53 cm 重さ 2.8 g	備考					
0100621	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12J,SW	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 3.51 cm 幅 1.59 cm 厚さ 0.91 cm 重さ 4.4 g	備考					
0100622	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,13K	SM	弥生時代II期
	長さ 2.77 cm 幅 1.87 cm 厚さ 0.89 cm 重さ 3.7 g	備考					
0100623	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,10I	SM	弥生時代II期
	長さ 2.80 cm 幅 2.44 cm 厚さ 0.44 cm 重さ 2.2 g	備考					
0100624	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		B7	IIIE,8C	SK49	弥生時代II～IV期
	長さ 4.22 cm 幅 2.56 cm 厚さ 0.82 cm 重さ 6.4 g	備考					
0100625	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,13M,NW	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 3.68 cm 幅 1.56 cm 厚さ 0.64 cm 重さ 3.4 g	備考					
0100626	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし				不明	弥生時代？
	長さ 2.77 cm 幅 2.11 cm 厚さ 0.31 cm 重さ 2.1 g	備考					
0100627	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,12J	SM	弥生時代II期
	長さ 2.75 cm 幅 2.81 cm 厚さ 0.56 cm 重さ 3.6 g	備考					
0100628	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12I,SE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 3.18 cm 幅 2.84 cm 厚さ 0.62 cm 重さ 5.1 g	備考					
0100629	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,12I	トレンチ内貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ 3.61 cm 幅 2.00 cm 厚さ 0.52 cm 重さ 3.0 g	備考					
0100630	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		B	IIIE,6B	8	弥生時代II～IV期
	長さ 3.35 cm 幅 2.63 cm 厚さ 0.96 cm 重さ 4.3 g	備考					
0100631	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IID,12I,NE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 3.40 cm 幅 3.52 cm 厚さ 0.45 cm 重さ 5.2 g	備考					
0100632	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,13M,NW	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 3.00 cm 幅 2.85 cm 厚さ 0.62 cm 重さ 5.1 g	備考					
0100633	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,12J	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 2.18 cm 幅 3.82 cm 厚さ 0.66 cm 重さ 3.9 g	備考					
0100634	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A		表採	弥生時代？
	長さ 3.76 cm 幅 1.90 cm 厚さ 0.34 cm 重さ 2.9 g	備考					
0100635	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし				不明	弥生時代？
	長さ 2.61 cm 幅 2.28 cm 厚さ 0.89 cm 重さ 6.1 g	備考					
0100636	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,11H	SL	弥生時代II期
	長さ 3.03 cm 幅 1.33 cm 厚さ 0.41 cm 重さ 1.4 g	備考					
0100637	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12K,NW	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 2.77 cm 幅 1.62 cm 厚さ 0.86 cm 重さ 4.1 g	備考					
0100638	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		B	IIIE,14B	SM	弥生時代II期
	長さ 2.22 cm 幅 2.43 cm 厚さ 0.34 cm 重さ 1.5 g	備考					
0100639	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A		表採	弥生時代？
	長さ 2.83 cm 幅 1.22 cm 厚さ 0.31 cm 重さ 1.1 g	備考					
0100640	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12J	トレンチ内貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ 2.59 cm 幅 1.55 cm 厚さ 0.45 cm 重さ 1.8 g	備考					
0100641	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,11I	SM	弥生時代II期
	長さ 2.86 cm 幅 1.51 cm 厚さ 0.55 cm 重さ 1.7 g	備考					
0100642	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A	IIID,12J,SE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 2.93 cm 幅 1.48 cm 厚さ 0.59 cm 重さ 2.4 g	備考					
0100643	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり		A		表採	弥生時代？
	長さ 3.13 cm 幅 1.97 cm 厚さ 0.39 cm 重さ 1.2 g	備考					
0100644	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,13J	SM	弥生時代II期
	長さ 2.56 cm 幅 1.15 cm 厚さ 0.30 cm 重さ 1.1 g	備考					
0100645	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		A	IIID,13K	トレンチ内貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期
	長さ 1.75 cm 幅 1.92 cm 厚さ 0.35 cm 重さ 0.6 g	備考					
0100646	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし		B	IIIE,14B	SM	弥生時代II期
	長さ 3.13 cm 幅 0.82 cm 厚さ 0.38 cm 重さ 0.8 g	備考					
0100647	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり				不明	弥生時代？
	長さ 2.79 cm 幅 2.82 cm 厚さ 1.67 cm 重さ 6.3 g	備考					
0100648	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし				不明	弥生時代？
	長さ 2.15 cm 幅 1.29 cm 厚さ 0.44 cm 重さ 1.0 g	備考					
0100649	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり				不明	弥生時代？
	長さ 4.55 cm 幅 2.15 cm 厚さ 1.04 cm 重さ 8.0 g	備考					
0100650	石核Bから生産された剥片	現礫面 なし				不明	弥生時代？
	長さ 3.73 cm 幅 1.63 cm 厚さ 0.63 cm 重さ 4.6 g	備考					
0100651	石核Bから生産された剥片	現礫面 あり				不明	弥生時代？
	長さ 3.74 cm 幅 1.00 cm 厚さ 0.56 cm 重さ 2.2 g	備考					
0100652	剥片	現礫面 なし		A	IIID,13J	SM	弥生時代II期
	長さ 2.55 cm 幅 1.80 cm 厚さ 0.49 cm 重さ 1.1 g	備考					
0100653	剥片	現礫面 なし		A	IIID,13J	SM	弥生時代II期
	長さ 4.46 cm 幅 1.13 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 3.3 g	備考					

table. 3-19 打製石器一覧

ID	型式・形態				地区	区画	層位/遺構	時期
0100654	剥片				現標面 なし	A	IIID,12J,NE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 2.69 cm	幅 1.24 cm	厚さ 0.51 cm	重さ 1.5 g	備考			
0100655	剥片				現標面 あり	A	IIID,13K	8M	弥生時代II期
	長さ 3.79 cm	幅 1.54 cm	厚さ 1.15 cm	重さ 5.1 g	備考			
0100656	剥片				現標面 あり	A	IIID,11G	8L	弥生時代II期
	長さ 4.42 cm	幅 1.22 cm	厚さ 0.73 cm	重さ 3.2 g	備考			
0100657	剥片				現標面 あり	A	IIID,12G	8L	弥生時代II期
	長さ 2.60 cm	幅 0.80 cm	厚さ 0.34 cm	重さ 0.8 g	備考			
0100658	石核A				現標面 あり	B7	IIIH,8E	SK44	弥生時代？
	長さ 6.18 cm	幅 3.51 cm	厚さ 2.11 cm	重さ 49.4 g	備考			
0100659	石核A				現標面 あり	B	IIID,9O	8	弥生時代II～IV期
	長さ 9.65 cm	幅 9.28 cm	厚さ 4.64 cm	重さ 394.4 g	備考			
0100660	石核A				現標面 あり	B7	IIID,9O	8	弥生時代II～IV期
	長さ 7.90 cm	幅 7.48 cm	厚さ 2.76 cm	重さ 125.6 g	備考			
0100661	石核A				現標面 あり	B7	IIIE,9C	8	弥生時代II～IV期
	長さ 9.69 cm	幅 8.45 cm	厚さ 3.16 cm	重さ 215.5 g	備考			
0100662	石核A				現標面 あり	B7	不明,9P	SD67	弥生時代？
	長さ 4.25 cm	幅 3.81 cm	厚さ 2.77 cm	重さ 43.4 g	備考			
0100663	石核A				現標面 あり	A	IIID,12J,NE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 5.35 cm	幅 5.05 cm	厚さ 3.19 cm	重さ 93.8 g	備考			
0100664	石核A				現標面 あり	A	IIID,13R,NW	貝層2中部	縄文晩期長原式期～弥生I期
	長さ 4.82 cm	幅 4.75 cm	厚さ 0.62 cm	重さ 47.5 g	備考			
0100665	石核A				現標面 あり	B	IIID,10E	8M	弥生時代II期
	長さ 5.56 cm	幅 5.23 cm	厚さ 1.83 cm	重さ 50.5 g	備考			
0100666	石核A				現標面 あり	B7	IIID,7S	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.36 cm	幅 2.50 cm	厚さ 2.13 cm	重さ 30.4 g	備考			
0100667	石核A				現標面 あり	A	IIID,12G	トレンチ内貝層	縄文晩期船橋式期～弥生II期
	長さ 7.32 cm	幅 5.18 cm	厚さ 1.92 cm	重さ 64.2 g	備考			
0100668	石核A				現標面 あり	A	IIID,14N	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.10 cm	幅 4.57 cm	厚さ 2.80 cm	重さ 151.4 g	備考			
0100669	石核A				現標面 あり	A	IIID,13F	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.09 cm	幅 5.60 cm	厚さ 2.27 cm	重さ 66.0 g	備考			
0100670	石核A				現標面 あり	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.55 cm	幅 3.79 cm	厚さ 1.32 cm	重さ 37.3 g	備考			
0100671	石核A				現標面 あり	B8	IIID,10O	8M	弥生時代II期
	長さ 6.52 cm	幅 7.14 cm	厚さ 2.65 cm	重さ 93.3 g	備考			
0100672	石核A				現標面 あり	B	IIID,10E	8M	弥生時代II期
	長さ 4.89 cm	幅 2.63 cm	厚さ 1.95 cm	重さ 19.2 g	備考			
0100673	石核A				現標面 あり	B	IIID,5F	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.74 cm	幅 3.92 cm	厚さ 1.60 cm	重さ 26.6 g	備考			
0100674	石核A				現標面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.84 cm	幅 3.30 cm	厚さ 0.46 cm	重さ 21.0 g	備考			
0100675	石核A				現標面 あり	A	IIID,14I	トレンチ内貝層	縄文晩期船橋式期～弥生II期
	長さ 6.09 cm	幅 5.11 cm	厚さ 1.21 cm	重さ 29.0 g	備考			
0100676	石核A				現標面 あり	B	IIID,5R	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.79 cm	幅 2.46 cm	厚さ 1.53 cm	重さ 12.8 g	備考			
0100677	石核A				現標面 あり	B7		8	弥生時代II～IV期
	長さ 12.28 cm	幅 5.16 cm	厚さ 2.33 cm	重さ 148.6 g	備考			
0100678	石核A				現標面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 9.49 cm	幅 5.66 cm	厚さ 1.30 cm	重さ 89.7 g	備考			
0100679	石核A				現標面 あり	B	IIID,8Q	8	弥生時代II～IV期
	長さ 6.50 cm	幅 6.22 cm	厚さ 3.03 cm	重さ 121.3 g	備考			
0100680	石核A				現標面 あり	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.08 cm	幅 5.29 cm	厚さ 1.61 cm	重さ 42.8 g	備考			
0100681	石核A				現標面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.78 cm	幅 3.85 cm	厚さ 2.78 cm	重さ 87.0 g	備考			
0100682	石核A				現標面 あり	B	IIID,7M	8M	弥生時代II期
	長さ 4.83 cm	幅 6.71 cm	厚さ 1.42 cm	重さ 41.9 g	備考			
0100683	石核A				現標面 あり	B	IIIE,9C	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.16 cm	幅 3.27 cm	厚さ 1.35 cm	重さ 22.5 g	備考			
0100684	刃部両面調整複刃削器				現標面 なし	B	IIIE,8C	SN47	弥生時代？
	長さ 5.76 cm	幅 3.70 cm	厚さ 0.69 cm	重さ 15.7 g	備考			
0100685	使用痕のある剥片				現標面 なし	B7	IIID,10R	SX17	弥生時代II期
	長さ 3.96 cm	幅 5.02 cm	厚さ 0.54 cm	重さ 10.1 g	備考			
0100686	両面調整複刃削器				現標面 なし	B	IIIE,9B	SX15	弥生時代II～IV期
	長さ 6.94 cm	幅 4.24 cm	厚さ 1.10 cm	重さ 31.1 g	備考			
0100687	両面調整尖頭器破片				現標面 なし	A	IIID,13L	9U	弥生時代II期
	長さ 3.87 cm	幅 2.71 cm	厚さ 1.27 cm	重さ 10.0 g	備考			

table. 3-20　打製石器一覧

ID	型式・形態							地区	区画	層位/遺構	時期
0100688	使用痕のある剥片						現礫面 あり	B7	IIID,8B	SD72	弥生時代II期
	長さ 4.04 cm	幅 3.85 cm	厚さ 0.69 cm	重さ 8.2 g	備考						
0100689	使用痕のある剥片						現礫面 あり	B	IIID,7Y	SD72	弥生時代II期
	長さ 5.04 cm	幅 3.89 cm	厚さ 1.23 cm	重さ 25.3 g	備考						
0100690	使用痕のある剥片						現礫面 あり	B	IIID,10S	SD72	弥生時代II期
	長さ 6.53 cm	幅 5.44 cm	厚さ 0.82 cm	重さ 28.3 g	備考						
0100691	使用痕のある剥片						現礫面 あり	B	IIID,9S	SD72	弥生時代II期
	長さ 6.08 cm	幅 8.95 cm	厚さ 1.18 cm	重さ 101.8 g	備考						
0100692	使用痕のある剥片						現礫面 あり	B	IIID,7T	SD72	弥生時代II期
	長さ 5.66 cm	幅 9.02 cm	厚さ 1.12 cm	重さ 52.0 g	備考						
0100693	使用痕のある剥片						現礫面 なし	B	IIID,7A	SD72	弥生時代II期
	長さ 5.54 cm	幅 5.04 cm	厚さ 0.78 cm	重さ 18.2 g	備考						
0100694	使用痕のある剥片						現礫面 あり	B	IIID,9R	SD72	弥生時代II期
	長さ 6.11 cm	幅 3.41 cm	厚さ 0.80 cm	重さ 15.1 g	備考						
0100695	使用痕のある剥片						現礫面 あり	B	IIID,10R	SD72	弥生時代II期
	長さ 5.37 cm	幅 4.52 cm	厚さ 0.78 cm	重さ 20.8 g	備考						
0100696	使用痕のある剥片						現礫面 なし	B	IIID,10S	SD72	弥生時代II期
	長さ 4.40 cm	幅 3.73 cm	厚さ 0.64 cm	重さ 6.6 g	備考						
0100697	使用痕のある剥片						現礫面 あり	B	IIID,9R	SD72	弥生時代II期
	長さ 5.15 cm	幅 2.37 cm	厚さ 0.52 cm	重さ 7.8 g	備考						
0100698	使用痕のある剥片						現礫面 あり	B	IIIE,9S	SD72	弥生時代II期
	長さ 2.55 cm	幅 1.93 cm	厚さ 1.05 cm	重さ 4.8 g	備考						
0100699	細部調整剥片						現礫面 あり	B	IIIE,5E	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.45 cm	幅 5.72 cm	厚さ 1.20 cm	重さ 36.8 g	備考						
0100700	細部調整剥片						現礫面 あり	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.53 cm	幅 5.13 cm	厚さ 1.11 cm	重さ 28.7 g	備考						
0100701	細部調整剥片						現礫面 なし	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.21 cm	幅 2.56 cm	厚さ 0.56 cm	重さ 2.4 g	備考						
0100702	細部調整剥片						現礫面 あり	A	IIID,10F	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.79 cm	幅 7.56 cm	厚さ 0.76 cm	重さ 20.3 g	備考						
0100703	細部調整剥片						現礫面 あり	B	IIIE,7O	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.13 cm	幅 8.31 cm	厚さ 2.18 cm	重さ 39.0 g	備考						
0100704	細部調整剥片						現礫面 あり	B8	IIID,11O	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.73 cm	幅 6.98 cm	厚さ 1.32 cm	重さ 39.4 g	備考						
0100705	細部調整剥片						現礫面 あり	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 8.46 cm	幅 5.21 cm	厚さ 1.30 cm	重さ 44.1 g	備考						
0100706	細部調整剥片						現礫面 あり	B	IIIE,7B	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.67 cm	幅 2.31 cm	厚さ 0.98 cm	重さ 13.2 g	備考						
0100707	細部調整剥片						現礫面 あり	A	IIID,11F	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.75 cm	幅 2.61 cm	厚さ 0.80 cm	重さ 5.7 g	備考						
0100708	細部調整剥片						現礫面 なし	B7	IIID,7T	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.08 cm	幅 2.07 cm	厚さ 0.34 cm	重さ 1.7 g	備考						
0100709	細部調整剥片						現礫面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.91 cm	幅 1.82 cm	厚さ 0.95 cm	重さ 16.1 g	備考						
0100710	細部調整剥片						現礫面 あり	B6		7	弥生時代？
	長さ 3.72 cm	幅 2.44 cm	厚さ 1.21 cm	重さ 8.8 g	備考						
0100711	細部調整剥片						現礫面 なし	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.71 cm	幅 2.80 cm	厚さ 0.49 cm	重さ 3.5 g	備考						
0100712	細部調整剥片						現礫面 なし	A	IIID,11E	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.40 cm	幅 4.70 cm	厚さ 0.38 cm	重さ 7.3 g	備考						
0100713	細部調整剥片						現礫面 あり	B5	IIID,12S	8L	弥生時代II期
	長さ 5.75 cm	幅 4.31 cm	厚さ 1.29 cm	重さ 40.3 g	備考						
0100714	細部調整剥片						現礫面 なし	B	IIID,5S	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.21 cm	幅 2.93 cm	厚さ 0.86 cm	重さ 4.5 g	備考						
0100715	細部調整剥片						現礫面 なし	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.04 cm	幅 2.51 cm	厚さ 0.68 cm	重さ 2.6 g	備考						
0100716	細部調整剥片						現礫面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.38 cm	幅 1.58 cm	厚さ 0.55 cm	重さ 2.0 g	備考						
0100717	細部調整剥片						現礫面 あり	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.17 cm	幅 2.12 cm	厚さ 0.61 cm	重さ 2.4 g	備考						
0100718	細部調整剥片						現礫面 なし	B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 3.59 cm	幅 2.49 cm	厚さ 0.50 cm	重さ 4.9 g	備考						
0100719	細部調整剥片						現礫面 なし	A	IIID,13K	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.11 cm	幅 1.39 cm	厚さ 0.36 cm	重さ 1.5 g	備考						
0100720	細部調整剥片						現礫面 なし	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.65 cm	幅 2.65 cm	厚さ 0.77 cm	重さ 7.5 g	備考						
0100721	細部調整剥片						現礫面 あり	B	IIID,11G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.02 cm	幅 2.92 cm	厚さ 0.60 cm	重さ 7.2 g	備考						

table. 3-21 打製石器一覧

ID	型式・形態					地区	区画	層位/遺構	時期
0100722	縁部調整剥片					現礫面 なし	B5	IIID,12Q	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.82 cm	幅 1.92 cm	厚さ 0.58 cm	重さ 5.2 g	備考					
0100723	縁部調整剥片					現礫面 あり	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.49 cm	幅 2.14 cm	厚さ 0.53 cm	重さ 5.0 g	備考					
0100724	縁部調整剥片					現礫面 あり	A	IIID,12H	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.25 cm	幅 1.88 cm	厚さ 0.48 cm	重さ 5.2 g	備考					
0100725	縁部調整剥片					現礫面 あり	A	IIID,13E	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.50 cm	幅 2.49 cm	厚さ 0.35 cm	重さ 3.1 g	備考					
0100726	縁部調整剥片					現礫面 なし	A	IIID,11F	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.90 cm	幅 2.12 cm	厚さ 0.32 cm	重さ 1.7 g	備考					
0100727	縁部調整剥片					現礫面 なし	B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 3.22 cm	幅 1.63 cm	厚さ 0.25 cm	重さ 1.6 g	備考					
0100728	敲打痕のある石器					現礫面 あり	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.32 cm	幅 4.27 cm	厚さ 3.03 cm	重さ 109.4 g	備考					
0100729	敲打痕のある石器					現礫面 あり	A	IIID,12J	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 7.33 cm	幅 5.90 cm	厚さ 2.95 cm	重さ 136.4 g	備考					
0100730	石鏃の基部破片					現礫面 あり	B7		8U	弥生時代IV期
	長さ 3.30 cm	幅 2.16 cm	厚さ 0.82 cm	重さ 6.8 g	備考 つまみ部分					
0100731	石鏃破片					現礫面 あり	B1	IIID,6E	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.50 cm	幅 2.07 cm	厚さ 1.11 cm	重さ 9.2 g	備考					
0100732	側面縁両面調整尖頭器					現礫面 なし	B7	IIID,10R	SX17	弥生時代II期
	長さ 3.41 cm	幅 3.35 cm	厚さ 0.66 cm	重さ 5.8 g	備考 大型石鏃？					
0100733	剥片					現礫面 あり	B	IIIE,7C	SX15	弥生時代II～IV期
	長さ 3.11 cm	幅 2.23 cm	厚さ 0.80 cm	重さ 5.8 g	備考					
0100734	尖形両面調整尖頭器基部破片					現礫面 なし	A	IIID,18N,NW	貝層2中部	縄文晩期長原式期～弥生I期
	長さ 5.05 cm	幅 4.37 cm	厚さ 1.45 cm	重さ 36.6 g	備考					
0100735	刃部両面調整尖頭削器					現礫面 あり	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.06 cm	幅 2.88 cm	厚さ 1.02 cm	重さ 13.1 g	備考					
0100736	石核A					現礫面 あり	B	IIID,9S	SD72	弥生時代II期
	長さ 7.55 cm	幅 3.91 cm	厚さ 1.48 cm	重さ 41.8 g	備考					
0100737	石核A					現礫面 あり	B	IIID,7T	SD72	弥生時代II期
	長さ 7.93 cm	幅 3.36 cm	厚さ 2.71 cm	重さ 57.6 g	備考					
0100738	刃部片面調整凸刃削器					現礫面 あり	A	IIID,13F	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.51 cm	幅 2.21 cm	厚さ 1.04 cm	重さ 6.2 g	備考					
0100739	刃部片面調整直刃・凸刃削器					現礫面 なし	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.02 cm	幅 1.08 cm	厚さ 0.52 cm	重さ 3.5 g	備考					
0100740	刃部両面調整凸刃削器					現礫面 なし	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.55 cm	幅 2.55 cm	厚さ 0.71 cm	重さ 7.1 g	備考					
0100741	石鏃					現礫面 あり	B1		8U	弥生時代IV期
	長さ 2.85 cm	幅 2.03 cm	厚さ 0.73 cm	重さ 4.8 g	備考 つまみ部分					
0100742	刃部両面調整直刃削器破片					現礫面 あり	A	IIID,13F	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.80 cm	幅 2.73 cm	厚さ 0.95 cm	重さ 10.9 g	備考					
0100743	両面調整尖頭器破片					現礫面 なし	A	IIID,13I	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.34 cm	幅 2.15 cm	厚さ 0.85 cm	重さ 8.8 g	備考					
0100744	両面調整尖頭器破片					現礫面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.86 cm	幅 2.94 cm	厚さ 1.29 cm	重さ 15.2 g	備考					
0100745	両面調整尖頭器破片					現礫面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.50 cm	幅 2.22 cm	厚さ 1.28 cm	重さ 9.1 g	備考					
0100746	両面調整尖頭器破片					現礫面 なし	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.13 cm	幅 2.85 cm	厚さ 1.04 cm	重さ 9.0 g	備考					
0100747	両面調整尖頭器未製品					現礫面 あり	A	IIID,11F	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.21 cm	幅 2.87 cm	厚さ 0.83 cm	重さ 7.8 g	備考					
0100748	両面調整尖頭器未製品					現礫面 なし	A	IIID,13I	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.10 cm	幅 1.98 cm	厚さ 1.22 cm	重さ 5.8 g	備考					
0100749	片面調整尖頭器破片					現礫面 あり	B7	IIID,10P	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.79 cm	幅 3.40 cm	厚さ 1.37 cm	重さ 18.6 g	備考					
0100750	複刃鋸歯縁石器					現礫面 なし	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.44 cm	幅 2.34 cm	厚さ 0.80 cm	重さ 7.7 g	備考					
0100751	使用痕のある剥片					現礫面 なし	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.28 cm	幅 3.01 cm	厚さ 0.34 cm	重さ 4.9 g	備考					
0100752	使用痕のある剥片					現礫面 あり	A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.62 cm	幅 3.31 cm	厚さ 0.95 cm	重さ 13.0 g	備考					
0100753	使用痕のある剥片					現礫面 なし	B5	IIID,10R	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.73 cm	幅 3.62 cm	厚さ 0.33 cm	重さ 6.7 g	備考					
0100754	使用痕のある剥片					現礫面 あり	A	IIID,12H	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.90 cm	幅 2.76 cm	厚さ 0.77 cm	重さ 9.1 g	備考					
0100755	使用痕のある剥片					現礫面 あり	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.74 cm	幅 2.99 cm	厚さ 1.05 cm	重さ 29.0 g	備考					

table. 3-22　打製石器一覧

ID	型式・形態			地区	区画	層位/遺構	時期
0100756	使用痕のある剥片	現礫面 あり		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.02 cm 幅 1.77 cm 厚さ 0.52 cm 重さ 3.2 g 備考						
0100757	使用痕のある剥片	現礫面 なし		B	IIID,9L	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.01 cm 幅 2.67 cm 厚さ 0.65 cm 重さ 8.7 g 備考						
0100758	使用痕のある剥片	現礫面 なし		A	IIID,13I	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.59 cm 幅 2.90 cm 厚さ 0.76 cm 重さ 6.6 g 備考						
0100759	刃部両面調整直刃削器破片	現礫面 あり		B7		南壁側溝内	弥生時代？
	長さ 9.12 cm 幅 4.60 cm 厚さ 0.92 cm 重さ 40.5 g 備考						
0100760	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり		B7		8	弥生時代II～IV期
	長さ 6.18 cm 幅 7.44 cm 厚さ 1.77 cm 重さ 76.2 g 備考						
0100761	剥片	現礫面 あり		B	IIIE,6B	SX18	弥生時代II～IV期
	長さ 3.10 cm 幅 2.63 cm 厚さ 0.32 cm 重さ 2.8 g 備考						
0100762	えぐりのある両面調整板刃削器	現礫面 あり		B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 7.56 cm 幅 3.25 cm 厚さ 0.85 cm 重さ 26.7 g 備考						
0100763	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 4.52 cm 幅 3.79 cm 厚さ 0.90 cm 重さ 17.4 g 備考						
0100764	石鏃	現礫面 あり		A	IIID,13H	トレンチ内貝層	縄文晩期前橋式期～弥生II期
	長さ 5.89 cm 幅 3.64 cm 厚さ 1.60 cm 重さ 25.3 g 備考						
0100765	石鏃	現礫面 あり		B	IIIE,7B	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.10 cm 幅 1.59 cm 厚さ 0.67 cm 重さ 2.2 g 備考						
0100766	使用痕のある剥片	現礫面 あり		B	IIID,7S	SD67	弥生時代？
	長さ 5.46 cm 幅 2.50 cm 厚さ 1.02 cm 重さ 13.0 g 備考						
0100767	削器破片	現礫面 あり		B	IIIE,10C	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.60 cm 幅 3.16 cm 厚さ 0.94 cm 重さ 14.2 g 備考						
0100768	えぐりのある石器	現礫面 あり		B	IIIF,9C	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.90 cm 幅 3.74 cm 厚さ 1.51 cm 重さ 25.4 g 備考						
0100769	えぐりのある石器	現礫面 あり		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.19 cm 幅 4.16 cm 厚さ 1.11 cm 重さ 18.6 g 備考						
0100770	えぐりのある石器	現礫面 あり		A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.70 cm 幅 3.17 cm 厚さ 0.77 cm 重さ 18.9 g 備考						
0100771	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり		B6		9U	弥生時代II期
	長さ 4.67 cm 幅 3.03 cm 厚さ 0.93 cm 重さ 17.0 g 備考						
0100772	使用痕のある剥片	現礫面 あり		B7		8	弥生時代II～IV期
	長さ 5.35 cm 幅 3.17 cm 厚さ 1.06 cm 重さ 12.1 g 備考						
0100773	使用痕のある剥片	現礫面 なし		B	IIIE,6C	8	弥生時代II～IV期
	長さ 5.38 cm 幅 2.78 cm 厚さ 0.95 cm 重さ 12.5 g 備考						
0100774	使用痕のある剥片	現礫面 あり		B7	IIID,6S	8	弥生時代II～IV期
	長さ 3.93 cm 幅 3.62 cm 厚さ 1.40 cm 重さ 17.3 g 備考						
0100775	使用痕のある剥片	現礫面 あり		A	IIID,12I,SW	貝層2中部	縄文晩期長原式期～弥生I期
	長さ 3.58 cm 幅 2.41 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 4.2 g 備考						
0100776	使用痕のある剥片	現礫面 なし		B7		8	弥生時代II～IV期
	長さ 3.50 cm 幅 1.40 cm 厚さ 0.38 cm 重さ 1.5 g 備考						
0100777	使用痕のある剥片	現礫面 あり		B7		8	弥生時代II～IV期
	長さ 6.59 cm 幅 3.11 cm 厚さ 0.84 cm 重さ 14.7 g 備考						
0100778	使用痕のある剥片	現礫面 なし		A	IIID	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.93 cm 幅 3.33 cm 厚さ 0.67 cm 重さ 11.9 g 備考						
0100779	使用痕のある剥片	現礫面 なし		B1	IIID,5F	8M	弥生時代II期
	長さ 7.09 cm 幅 4.12 cm 厚さ 0.65 cm 重さ 19.2 g 備考						
0100780	使用痕のある剥片	現礫面 なし		A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.76 cm 幅 3.74 cm 厚さ 1.26 cm 重さ 34.8 g 備考						
0100781	使用痕のある剥片	現礫面 あり		A	IIID,13I,SE	貝層-2下部	縄文晩期前橋式期～長原式期
	長さ 7.34 cm 幅 2.96 cm 厚さ 0.58 cm 重さ 11.5 g 備考						
0100782	使用痕のある剥片	現礫面 なし		A	IIID,13I	トレンチ内貝層	縄文晩期前橋式期～弥生II期
	長さ 4.42 cm 幅 3.75 cm 厚さ 0.71 cm 重さ 13.4 g 備考						
0100783	使用痕のある剥片	現礫面 あり		B	IIIE,8D	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.61 cm 幅 3.82 cm 厚さ 0.51 cm 重さ 7.6 g 備考						
0100784	使用痕のある剥片	現礫面 なし		A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.56 cm 幅 2.75 cm 厚さ 0.65 cm 重さ 9.0 g 備考						
0100785	不完全両面調整尖頭器	現礫面 あり		B7	IIIE,9A	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ 8.46 cm 幅 6.03 cm 厚さ 1.81 cm 重さ 79.3 g 備考						
0100786	刃部両面調整尖頭削器	現礫面 あり		A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.76 cm 幅 2.06 cm 厚さ 1.04 cm 重さ 7.6 g 備考 石鏃？						
0100787	支形両面調整尖頭器破片	現礫面 あり		B3	IIIE,4E	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.87 cm 幅 3.29 cm 厚さ 1.28 cm 重さ 16.3 g 備考						
0100788	使用痕のある剥片	現礫面 あり		不明	不明	SD69	弥生時代II期
	長さ 9.78 cm 幅 5.93 cm 厚さ 1.33 cm 重さ 64.6 g 備考						
0100789	使用痕のある剥片	現礫面 あり		B7	IIID,9Q	SD69	弥生時代II期
	長さ 11.46 cm 幅 6.30 cm 厚さ 2.45 cm 重さ 129.1 g 備考						

table. 3-23 打製石器一覧

ID	型式・形態				地区	区画	層位/遺構	時期
0100790	使用痕のある剥片	現礫面 あり			B	IIID,7S	SU60	弥生時代？
	長さ 6.36 cm	幅 7.64 cm	厚さ 2.55 cm	重さ 84.7 g	備考			
0100791	使用痕のある剥片	現礫面 あり			B	IIIE,6B	SX18	弥生時代II～IV期
	長さ 2.09 cm	幅 4.13 cm	厚さ 0.99 cm	重さ 7.7 g	備考			
0100792	使用痕のある剥片	現礫面 あり			B1	IIID,8I	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ 4.27 cm	幅 2.23 cm	厚さ 1.02 cm	重さ 8.0 g	備考			
0100793	削器破片	現礫面 なし			A	IIID,11G	8U	弥生時代IV期
	長さ 7.64 cm	幅 2.17 cm	厚さ 1.55 cm	重さ 39.7 g	備考			
0100794	削器破片	現礫面 なし			A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.99 cm	幅 2.27 cm	厚さ 0.45 cm	重さ 5.2 g	備考			
0100795	削器破片	現礫面 あり			A	IIID,11J	8M	弥生時代II期
	長さ 4.13 cm	幅 2.33 cm	厚さ 0.69 cm	重さ 6.6 g	備考			
0100796	削器破片	現礫面 あり			B5		8M	弥生時代II期
	長さ 8.53 cm	幅 3.10 cm	厚さ 1.13 cm	重さ 29.6 g	備考			
0100797	削器破片	現礫面 なし			A	IIID,13F	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.15 cm	幅 4.51 cm	厚さ 1.22 cm	重さ 43.2 g	備考			
0100798	細部調整剥片	現礫面 なし			B7	IIIE,5B	8	弥生時代II～IV期
	長さ 5.18 cm	幅 2.83 cm	厚さ 0.84 cm	重さ 11.8 g	備考			
0100799	細部調整剥片	現礫面 あり			B	IIIE,6B	8	弥生時代II～IV期
	長さ 2.90 cm	幅 2.59 cm	厚さ 0.85 cm	重さ 6.3 g	備考			
0100800	細部調整剥片	現礫面 あり			B	IIID,8Q	8	弥生時代II～IV期
	長さ 4.05 cm	幅 2.88 cm	厚さ 0.79 cm	重さ 10.9 g	備考			
0100801	細部調整剥片	現礫面 あり			B	IIIE,6B	8	弥生時代II～IV期
	長さ 2.25 cm	幅 1.54 cm	厚さ 0.78 cm	重さ 3.1 g	備考			
0100802	細部調整剥片	現礫面 なし			不明	不明	SX1,8	弥生時代II～IV期
	長さ 3.27 cm	幅 2.10 cm	厚さ 0.55 cm	重さ 4.4 g	備考			
0100803	細部調整剥片	現礫面 なし			B	IIIE,6B	SD62	弥生時代？
	長さ 3.50 cm	幅 2.56 cm	厚さ 0.57 cm	重さ 6.4 g	備考			
0100804	細部調整剥片	現礫面 なし			B7		不明	弥生時代？
	長さ 3.90 cm	幅 3.78 cm	厚さ 1.00 cm	重さ 16.6 g	備考 縦剥状			
0100805	細部調整剥片	現礫面 なし			A	IIID,12I	8	弥生時代II～IV期
	長さ 3.78 cm	幅 2.10 cm	厚さ 0.72 cm	重さ 5.3 g	備考 横形剥片			
0100806	細部調整剥片	現礫面 なし			A	IIID,13A	トレンチ内貝層	縄文晩期前葉式期～弥生II期
	長さ 1.90 cm	幅 1.00 cm	厚さ 0.28 cm	重さ 0.7 g	備考 石鏃？			
0100807	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり			B	IIID,7O	SD69	弥生時代II期
	長さ 7.36 cm	幅 7.72 cm	厚さ 1.11 cm	重さ 94.1 g	備考			
0100808	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり			B	IIID,7O	SD69	弥生時代II期
	長さ 5.36 cm	幅 4.32 cm	厚さ 1.40 cm	重さ 29.3 g	備考			
0100809	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり			B	IIID,7P	SD69	弥生時代II期
	長さ 3.55 cm	幅 3.85 cm	厚さ 0.69 cm	重さ 10.1 g	備考			
0100810	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり			B	IIID,8S	SD92	弥生時代？
	長さ 5.67 cm	幅 3.40 cm	厚さ 1.00 cm	重さ 18.3 g	備考			
0100811	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり			A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.86 cm	幅 2.93 cm	厚さ 1.36 cm	重さ 21.6 g	備考			
0100812	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり			B	IIID,9R	8U	弥生時代IV期
	長さ 8.40 cm	幅 5.51 cm	厚さ 2.52 cm	重さ 96.2 g	備考			
0100813	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり			B	IIIE,6O	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.19 cm	幅 4.75 cm	厚さ 1.34 cm	重さ 33.3 g	備考			
0100814	刃部片面調整縦面縁石器	現礫面 あり			B7		8U	弥生時代IV期
	長さ 3.86 cm	幅 6.67 cm	厚さ 1.08 cm	重さ 30.4 g	備考			
0100815	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり			B	IIID,9Q	8	弥生時代II～IV期
	長さ 8.11 cm	幅 3.25 cm	厚さ 0.64 cm	重さ 15.0 g	備考			
0100816	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし			B	IIID,8Q	SD69	弥生時代II期
	長さ 10.87 cm	幅 7.44 cm	厚さ 2.37 cm	重さ 125.3 g	備考			
0100817	刃部片面調整凸刃削器	現礫面 あり			A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.03 cm	幅 6.50 cm	厚さ 1.53 cm	重さ 70.6 g	備考			
0100818	敲打痕のある石器	現礫面 あり			B	IIIE,10A	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.70 cm	幅 8.12 cm	厚さ 2.46 cm	重さ 123.2 g	備考			
0100819	敲打痕のある石器破片	現礫面 あり			A	IIID,10D	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.90 cm	幅 4.77 cm	厚さ 1.78 cm	重さ 40.8 g	備考			
0100820	敲打痕のある石器破片	現礫面 あり			A	IIID,11J	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 4.80 cm	幅 4.64 cm	厚さ 1.88 cm	重さ 41.4 g	備考			
0100821	細部調整剥片	現礫面 あり			B	IIID,9S	SD92	弥生時代？
	長さ 2.70 cm	幅 3.38 cm	厚さ 1.45 cm	重さ 5.1 g	備考			
0100822	細部調整剥片	現礫面 なし			A	IIID,11E	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.85 cm	幅 1.85 cm	厚さ 0.72 cm	重さ 3.1 g	備考			
0100823	細部調整剥片	現礫面 あり			A	IIID,12G	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.60 cm	幅 5.04 cm	厚さ 0.72 cm	重さ 11.0 g	備考			

table. 3-24　打製石器一覧

ID	型式・形態					地区	区画	層位/遺構	時期
0100824	縁部調整剥片					現礫面 あり	A	IIID,12H,NE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 3.02 cm	幅 4.80 cm	厚さ 0.89 cm	重さ 14.3 g	備考 使用痕あり				
0100825	縁部調整剥片					現礫面 あり	A	IIID,12J,NE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 3.50 cm	幅 1.94 cm	厚さ 0.49 cm	重さ 4.0 g	備考 石核B類から生産された剥片素材とする				
0100826	縁部調整剥片					現礫面 なし	不明	不明	不明	弥生時代?
	長さ 3.33 cm	幅 1.97 cm	厚さ 0.61 cm	重さ 3.5 g	備考 石核B類から生産された剥片素材とする				
0100827	縁部調整剥片					現礫面 あり	B	IIID,13T	8L	弥生時代II期
	長さ 4.67 cm	幅 2.59 cm	厚さ 0.41 cm	重さ 7.0 g	備考 両側縁・複刃石鏃未製品か?				
0100828	刃部両面調整複刃削器					現礫面 あり	A	IIID,11E	8M	弥生時代II期
	長さ 5.29 cm	幅 3.04 cm	厚さ 1.06 cm	重さ 14.8 g	備考				
0100829	刃部両面調整複刃削器					現礫面 なし	A	IIID,11F	8U	弥生時代IV期
	長さ 4.33 cm	幅 2.94 cm	厚さ 0.73 cm	重さ 5.9 g	備考				
0100830	刃部片面調整複刃削器					現礫面 なし	A	IIID,11H	トレンチ内貝層	縄文晩期的模式期～弥生II期
	長さ 2.65 cm	幅 2.36 cm	厚さ 0.48 cm	重さ 3.6 g	備考 石鏃未製品?				
0100831	刃部両面調整複刃削器					現礫面 なし	B	IIIE,9S	SD72	弥生時代II期
	長さ 3.08 cm	幅 3.38 cm	厚さ 0.70 cm	重さ 8.9 g	備考				
0100832	石鏃					現礫面 なし	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 1.47 cm	幅 4.96 cm	厚さ 0.67 cm	重さ 4.6 g	備考				
0100833	石鏃					現礫面 なし	A	IIID	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.90 cm	幅 0.95 cm	厚さ 0.60 cm	重さ 2.7 g	備考				
0100834	石鏃					現礫面 あり	A	IIID,13H	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.10 cm	幅 3.12 cm	厚さ 1.16 cm	重さ 8.4 g	備考				
0100835	石鏃					現礫面 あり	B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 4.71 cm	幅 1.74 cm	厚さ 0.93 cm	重さ 6.2 g	備考				
0100836	石鏃					現礫面 なし	B7	IIID,7D	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.16 cm	幅 2.06 cm	厚さ 0.79 cm	重さ 5.4 g	備考				
0100837	石鏃					現礫面 あり	A	IIID,14J	9U-1	弥生時代II期
	長さ 1.38 cm	幅 2.66 cm	厚さ 0.60 cm	重さ 2.3 g	備考				
0100838	石鏃					現礫面 あり	A	IIID,11I,NW	貝層-1下部	縄文晩期的模式期～長原式期
	長さ 3.32 cm	幅 1.14 cm	厚さ 0.74 cm	重さ 2.3 g	備考				
0100839	石鏃					現礫面 あり	B	IIID,8R	8	弥生時代II～IV期
	長さ 1.35 cm	幅 1.86 cm	厚さ 0.78 cm	重さ 2.7 g	備考				
0100840	石鏃					現礫面 あり	B7	IIIE,6E	8	弥生時代II～IV期
	長さ 1.56 cm	幅 3.00 cm	厚さ 0.95 cm	重さ 3.3 g	備考				
0100841	石鏃					現礫面 なし	A	IIID,11F	8L	弥生時代II期
	長さ 3.15 cm	幅 1.41 cm	厚さ 0.58 cm	重さ 2.3 g	備考				
0100842	石鏃					現礫面 あり	A	IIID,12S,SE	9	縄文晩期的模式期～弥生II期
	長さ 3.79 cm	幅 1.87 cm	厚さ 0.71 cm	重さ 3.0 g	備考				
0100843	石鏃					現礫面 なし	A	IIID,12I	8M	弥生時代II期
	長さ 2.60 cm	幅 2.23 cm	厚さ 0.74 cm	重さ 5.8 g	備考				
0100844	石鏃					現礫面 あり	B	IIID,8S	SD72	弥生時代II期
	長さ 3.48 cm	幅 5.36 cm	厚さ 1.36 cm	重さ 26.5 g	備考				
0100845	石鏃					現礫面 あり	B5	IIIE,6T	SD72	弥生時代II期
	長さ 4.85 cm	幅 1.69 cm	厚さ 0.99 cm	重さ 10.3 g	備考				
0100846	石鏃					現礫面 なし	B7	IIIE,7A	SN15	弥生時代?
	長さ 3.51 cm	幅 1.51 cm	厚さ 0.43 cm	重さ 2.1 g	備考				
0100847	石核A					現礫面 あり	A	IIID,12J,NE	8	弥生時代II～IV期
	長さ 4.06 cm	幅 4.56 cm	厚さ 1.62 cm	重さ 31.7 g	備考				
0100848	石鏃破片					現礫面 なし	A	IIID,11I,NW	8L	弥生時代II期
	長さ 1.78 cm	幅 2.10 cm	厚さ 0.45 cm	重さ 2.0 g	備考				
0100849	石鏃破片					現礫面 なし	A	IIID,10E	8L	弥生時代II期
	長さ 2.39 cm	幅 1.58 cm	厚さ 0.32 cm	重さ 1.5 g	備考				
0100850	石鏃未製品					現礫面 なし	A	IIID,12H	8M	弥生時代II期
	長さ 2.06 cm	幅 2.84 cm	厚さ 0.53 cm	重さ 3.3 g	備考 石核B類からの剥片を素材とする				
0100851	刃部両面調整凸刃削器					現礫面 あり	B5	IIID,12S	8L'9	弥生時代II期
	長さ 8.11 cm	幅 3.86 cm	厚さ 1.31 cm	重さ 34.7 g	備考				
0100852	刃部両面調整凸刃削器					現礫面 なし	A	IIID,12G	8L	弥生時代II期
	長さ 3.20 cm	幅 2.10 cm	厚さ 0.41 cm	重さ 3.5 g	備考				
0100853	刃部両面調整凸刃削器					現礫面 なし	B6		8U	弥生時代IV期
	長さ 4.26 cm	幅 4.43 cm	厚さ 1.01 cm	重さ 28.4 g	備考				
0100854	刃部片面調整凹刃削器					現礫面 あり	B1	IIID,8G	8M	弥生時代II期
	長さ 7.20 cm	幅 4.71 cm	厚さ 1.33 cm	重さ 60.1 g	備考				
0100855	刃部両面調整尖頭削器					現礫面 あり	A	IIID,12J	8M	弥生時代II期
	長さ 6.30 cm	幅 3.79 cm	厚さ 1.52 cm	重さ 30.1 g	備考				
0100856	刃部両面調整凸刃削器					現礫面 あり	B7	IIID,6P	8	弥生時代II～IV期
	長さ 6.10 cm	幅 4.71 cm	厚さ 1.15 cm	重さ 47.1 g	備考				
0100857	刃部片面調整直刃削器					現礫面 あり	B7	IIID,8E	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ 6.52 cm	幅 5.10 cm	厚さ 0.83 cm	重さ 22.0 g	備考				

table. 3-25 打製石器一覧

ID	型式・形態		地区	区画	層位/遺構	時期
0100858	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり	A	IIID,13J	SM	弥生時代II期
	長さ 3.00 cm 幅 1.83 cm 厚さ 0.64 cm 重さ 4.2 g 備考 使用痕あり					
0100859	刃部両面調整直刃削器	現礫面 なし	不明	不明	不明	弥生時代？
	長さ 3.34 cm 幅 2.74 cm 厚さ 0.80 cm 重さ 7.3 g 備考 使用痕あり					
0100860	両面調整尖頭器	現礫面 なし	A	IIID,13G	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.83 cm 幅 3.00 cm 厚さ 1.22 cm 重さ 16.7 g 備考					
0100861	両面調整尖頭器未製品	現礫面 あり	B	IIIE,7C	SD71	弥生時代II期
	長さ 5.00 cm 幅 8.66 cm 厚さ 2.03 cm 重さ 104.6 g 備考					
0100862	両面調整尖頭器（石錐未製品？）	現礫面 あり	A	IIID,12F	8U	弥生時代IV期
	長さ 2.59 cm 幅 1.55 cm 厚さ 0.68 cm 重さ 5.7 g 備考					
0100863	小型楕形両面調整尖頭器	現礫面 なし	不明	不明	不明	弥生時代？
	長さ 3.29 cm 幅 5.30 cm 厚さ 0.93 cm 重さ 20.0 g 備考 使用痕、擦痕あり					
0100864	両面調整尖頭削器	現礫面 あり	B	IIIE,7B	SN15	弥生時代？
	長さ 6.93 cm 幅 3.94 cm 厚さ 1.23 cm 重さ 35.0 g 備考					
0100865	両面調整尖頭器破片	現礫面 なし	A	IIID,7E	8U	弥生時代IV期
	長さ 5.70 cm 幅 4.15 cm 厚さ 1.60 cm 重さ 39.1 g 備考					
0100866	両面調整尖頭器破片	現礫面 なし	A	IIID,11F	8U	弥生時代IV期
	長さ 3.93 cm 幅 2.44 cm 厚さ 1.03 cm 重さ 13.6 g 備考					
0100867	両面調整尖頭器破片	現礫面 あり	B	IIID,7R	8	弥生時代II～IV期
	長さ 3.88 cm 幅 3.38 cm 厚さ 1.18 cm 重さ 14.1 g 備考					
0100868	両面調整複刃削器	現礫面 あり	A	IIID,7J	SM	弥生時代II期
	長さ 4.63 cm 幅 2.61 cm 厚さ 1.28 cm 重さ 15.0 g 備考 両側縁に敲打痕あり					
0100869	えぐりのある石器	現礫面 なし	A	IIID,12J	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 5.79 cm 幅 6.22 cm 厚さ 1.55 cm 重さ 50.0 g 備考					
0100870	えぐりのある石器	現礫面 なし	A	IIID,12H	SM	弥生時代II期
	長さ 2.00 cm 幅 4.40 cm 厚さ 0.72 cm 重さ 4.1 g 備考 石鏃破片？					
0100871	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり	B	IIID,8O	8	弥生時代II～IV期
	長さ 4.97 cm 幅 4.57 cm 厚さ 1.77 cm 重さ 39.5 g 備考					
0100872	刃部片面調整直刃削器	現礫面 なし	B	IIID,6Q	SD66	弥生時代II～IV期
	長さ 4.18 cm 幅 3.84 cm 厚さ 0.78 cm 重さ 17.5 g 備考					
0100873	刃部片面調整直刃削器	現礫面 あり	B	IIID,9S	SD72	弥生時代II期
	長さ 5.88 cm 幅 2.74 cm 厚さ 0.80 cm 重さ 12.7 g 備考					
0100874	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 なし	B	IIIE,7C	SX15	弥生時代II～IV期
	長さ 4.37 cm 幅 3.69 cm 厚さ 0.75 cm 重さ 14.4 g 備考					
0100875	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	B	IIID,10S	SD72	弥生時代II期
	長さ 6.38 cm 幅 2.79 cm 厚さ 1.23 cm 重さ 24.6 g 備考					
0100876	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	B	IIID,9S	SD72	弥生時代II期
	長さ 3.26 cm 幅 5.10 cm 厚さ 1.47 cm 重さ 18.2 g 備考					
0100877	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	B	IIID,10P	8	弥生時代II～IV期
	長さ 2.49 cm 幅 2.74 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 5.2 g 備考					
0100878	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	B	IIID,7Q	8U	弥生時代IV期
	長さ 6.28 cm 幅 2.93 cm 厚さ 0.78 cm 重さ 16.7 g 備考					
0100879	刃部両面調整複刃（尖頭）削器	現礫面 なし	B	IIIE,5S	SD71	弥生時代II期
	長さ 7.40 cm 幅 4.15 cm 厚さ 1.13 cm 重さ 41.1 g 備考					
0100880	刃部両面調整凸刃削器	現礫面 あり	A	IIID,14K	SM	弥生時代II期
	長さ 4.01 cm 幅 2.37 cm 厚さ 0.92 cm 重さ 11.1 g 備考					
0100881	片面調整凸刃削器	現礫面 あり	A	IIID,12G	トレンチ内貝層	縄文晩期的横式期～弥生II期
	長さ 4.54 cm 幅 3.49 cm 厚さ 0.99 cm 重さ 17.8 g 備考					
0100882	片面調整直刃削器	現礫面 なし	A	IIID,12I	トレンチ内貝層	縄文晩期的横式期～弥生II期
	長さ 3.46 cm 幅 3.01 cm 厚さ 1.16 cm 重さ 11.3 g 備考					
0100883	削器破片	現礫面 なし	A	IIID,10P	SL	弥生時代II期
	長さ 2.85 cm 幅 3.66 cm 厚さ 0.55 cm 重さ 6.0 g 備考 直刃・刃部片面調整					
0100884	削器破片	現礫面 なし	B	IIID,13R	SL	弥生時代II期
	長さ 4.23 cm 幅 1.44 cm 厚さ 0.46 cm 重さ 2.8 g 備考 直刃・刃部片面調整					
0100885	片面調整尖頭器	現礫面 なし	B	IIID,13N	SM	弥生時代II期
	長さ 7.16 cm 幅 2.54 cm 厚さ 1.13 cm 重さ 19.5 g 備考					
0100886	剥離縁石器	現礫面 あり	A	IIID,12J	SM	弥生時代II期
	長さ 5.60 cm 幅 3.86 cm 厚さ 1.14 cm 重さ 32.8 g 備考					
0100887	剥離縁石器破片	現礫面 なし	B	IIIE,6D	SK50	弥生時代？
	長さ 2.90 cm 幅 1.50 cm 厚さ 0.43 cm 重さ 1.1 g 備考					
0100888	縁部調整剥片	現礫面 あり	B	IIIE,10B	SX19	弥生時代？
	長さ 5.84 cm 幅 2.39 cm 厚さ 1.12 cm 重さ 16.5 g 備考					
0100889	縁部調整剥片	現礫面 なし	A	IIID,11F	SL	弥生時代II期
	長さ 6.04 cm 幅 2.35 cm 厚さ 1.07 cm 重さ 14.5 g 備考 凸刃削器？					
0100890	縁部調整剥片	現礫面 あり	B	IIIE,7B	SX15	弥生時代II～IV期
	長さ 6.40 cm 幅 3.82 cm 厚さ 0.71 cm 重さ 22.2 g 備考					
0100891	使用痕のある剥片	現礫面 なし	A	IIID,12J,SE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 3.28 cm 幅 1.38 cm 厚さ 0.64 cm 重さ 2.7 g 備考					

table. 3-26 打製石器一覧

ID	型式・形態			地区	区画	層位/遺構	時期
0100892	刃部片面調整石器	現礫面 あり		A	IIID,11F	SL	弥生時代II期
	長さ 3.18 cm 幅 2.17 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 4.1 g		備考 石鏃未製品？				
0100893	刃部両面調整尖頭削器	現礫面 あり		B1	IIID,7E	SM	弥生時代II期
	長さ 6.63 cm 幅 2.11 cm 厚さ 1.02 cm 重さ 11.7 g		備考				
0100894	石小刀形両面調整縦刃尖頭削器	現礫面 あり		A	IIID,12J	SM	弥生時代II期
	長さ 4.04 cm 幅 2.38 cm 厚さ 1.01 cm 重さ 10.2 g		備考				
0100895	石小刀形両面調整縦刃尖頭削器破片	現礫面 なし		A	IIID,12J	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 2.84 cm 幅 2.00 cm 厚さ 1.00 cm 重さ 5.3 g		備考 基部				
0100896	打製石剣の基部破片	現礫面 あり		A	IIID,12J,SE	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 2.59 cm 幅 1.52 cm 厚さ 1.60 cm 重さ 2.7 g		備考				
0100897	削器破片	現礫面 なし		A	IIID,12J,NW	貝層-2最下部	縄文晩期的横式期
	長さ 4.43 cm 幅 2.06 cm 厚さ 0.77 cm 重さ 8.3 g		備考				
0100898	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,13M,NW	貝層2上部	弥生時代II期
	長さ 3.29 cm 幅 4.44 cm 厚さ 1.23 cm 重さ 16.9 g		備考 使用痕あり、弱いえぐりあり				
0100901	刃部両面調整尖頭削器	現礫面 あり		A	IIID,11E	SU	弥生時代IV期
	長さ 4.85 cm 幅 2.56 cm 厚さ 0.95 cm 重さ 12.6 g		備考 使用痕あり				
0100902	刃部両面調整直刃削器	現礫面 あり		A	IIID,11I	SM	弥生時代II期
	長さ 6.00 cm 幅 3.90 cm 厚さ 1.05 cm 重さ 27.2 g		備考				

※備考欄の"n"は破片の個体数を表す。

table. 3-27 打製石器一覧

IV-2. 磨製石器・礫器

石包丁

弥生時代中期初頭～末頃にかけての層準およびそれらに並行する遺構から80点出土した。このうち完形ないし完形に近いものは10点だけで、大多数は部分的に欠損している。紐穴はすべて回転穿孔によって施されている。器表面に敲打痕をもつものが多数に認められる。形態別の個数は、直線刃半月形態32点、内湾刃半月形態４点、直線刃形態２点、内湾刃形態２点、外湾刃形態２点、内湾刃鎌形形態１点、直線刃長方形態１点、外湾刃半月形態１点、外湾刃杏仁様形態１点、未製品５点、不明29点である。

統計的な処理は行っていないが、0150011・0150079・0150091は長さ（器高）が突出して大きいため大型石包丁として、0150027は小型（ミニチュア）石包丁として分類されよう。また、0150042・0150079・0150106・0150109・0150153のように粗割りだけを終え、研磨が施されていない未製品も含まれる。0150113は度重なる使用と刃部の研磨の繰り返しによって紐穴が移動させられ、計４ヶ所に穿孔が施されたものである。

石斧

形態によって太型蛤刃石斧（0150047・0150060・0150076・0150081・0150123・0150125）、柱状片刃石斧（0150002・0150003・0150030・0150083・0150102）、扁平片刃石斧（0150019・0150034・0150048・0150127）、片刃石斧（0150144）に分類される。これらはすべて弥生時代中期に並行する。また、縄文時代晩期末に並行する磨製石斧の破片と思われるものが１点出土した。

太型蛤刃石斧には完形品がない。基部が残っている0150047・0150123・0150081の基端には打撃を受けた痕跡が認められる。

柱状片刃石斧のうち0150102・0150030は小型品で、鑿として用いられていたものだろう。0150003は基部背面に抉りをもち、腹面の抉りに対して真裏側の部分に打撃痕が認められる。0150083は太型蛤刃石斧から転用されたものである。

扁平片刃石斧には基端から刃部にかけて広がる台形状のもの（0150127）と、正方形状のもの（0150019・0150034・015048）に分類される。0150127は器軸に対して垂直ではなく、やや斜行する。0150034・0150048は小型品であり、一部欠損している。

環状石製品（0150022）

8U層から出土した。形態的には環状石斧と酷似する。縁辺部は鋭利な刃が磨き出されておらず平坦で、厚みは直径に対して薄いため斧としての機能は満たさない。用途不明。

石戈（0150092）

8M層から出土した。剥離痕終息部の詳細な観察から、器表面を研磨する以前の剥離痕と研磨後の剥離痕が認められる。基部よりの側縁に施されている抉りは、柄と器体を固定するために

巻きつけられた紐を引っ掛けるためのものであろう。この抉りは器表面研磨以前に施されたもので、製作当初より戈を作ることが目的であったと考えられる。基部や抉り部対縁付近の剥離痕も器表面研磨以前のものである。

いっぽう、先端の両縁辺には器表面研磨後の剥離痕が多数認められるが、先端部が欠損したため、器長を短くして再び戈を製作したと思われる。

石剣（0150017）

8U層から出土した。両縁辺の刃は丁寧に磨き出されており、稜が非常に明瞭である。

管玉（0150046）

8U層から出土した。一部欠損している。割れ口より穿孔部分の縦断面を詳細に観察すると、両端部より穿孔を施していることがわかる。

独鈷石（0150096）

弥生時代中期初頭に並行する貝層-2上部より出土した。中央部に２本の節帯をもち、やや湾曲した形態を呈する。両端部は欠損している。節帯は丁寧に磨き出されており、明瞭な稜線をもつ。独鈷石は本来、東海・北陸地方を西限にして東日本の縄文時代中期～後期の遺跡から出土する。大阪近隣では奈良県榛原町高井遺跡（榛原町教育委員会1988）・滋賀県長浜市塚町遺跡（長浜市教育委員会1994）で出土例がある。また、奈良県田原本町唐古遺跡では、中世の土坑から出土した例がある（田原本町教育委員会1986）。本遺跡出土例や唐古遺跡出土例はともに縄文時代からの伝世品とは考えられず、なぜ弥生時代中期や中世の遺物・遺構帯から出土したのかまったくわからない。

（別所秀高）

【文献】

田原本町教育委員会（1986）田原本町埋蔵文化財調査概要４「昭和60年度唐古・鍵遺跡第22・24・25次発掘調査概報」

榛原町教育委員会（1988）「遺跡でみるむかし・むかしの榛原」

長浜市教育委員会（1994）「地福寺遺跡・塚町遺跡－長浜市平方・地福寺土地区画整理事業に伴う発掘調査－」長浜市埋蔵文化財調査概要２

IV-3. 宮ノ下遺跡出土石器の石種とその採取地

奥田　尚（八尾市立曙川南小学校）

1. はじめに

石器を肉眼で観察し、石種を同定した。石種は流紋岩、安山岩、玄武岩、ひん岩、流紋岩質溶結凝灰岩、玄武岩質溶結凝灰岩、玄武岩質凝灰岩、砂岩、泥岩、頁岩、ホルンフェルス、泥質片岩、玄武岩質凝灰岩質片岩等である。これら石材の特徴を述べると共に採取地についてもふれる。石材の採取地としては、遺跡から近距離で同質の石材が採取できる地とする。遺跡が位置する付近はかっての大和川や石川の流域にあたり和泉砂岩や花崗岩、二上山系の火山岩等が川原で採取できたと推定される。しかし、片岩や緑色の玄武岩の礫は採取できなく、他地から運びこまれたものであるといえる。

2. 石器の石種とその採取地

石器の石種の特徴を述べるとともに、その採石地についてもふれる。

A）流紋岩：試料番号0150053・0150127　色は灰白色で流理がある。斑晶鉱物は細粒の石英、長石である。石英は無色透明、粒径が0.1～0.2mm、量が僅かである。長石は無色透明、粒径が0.1～0.2mm、量が僅かである。石基はガラス質で硬い。

石英と長石が細粒で、流理がある灰白色の流紋岩は岩相的に大和三山の畝傍山や耳成山、二上山雌岳に分布する流紋岩の岩相の一部に酷似する。

B）安山岩：安山岩は黒色ガラス質の輝石安山岩Aと輝石安山岩Bとがある。

輝石安山岩A：試料番号0150010・0150023・0150024・0150031・0150036・0150065・0150072・0150073・0150092　黒色ガラス質で、柱状の長石の斑晶が流理方向に並ぶ。長石は無色透明、柱状で、粒径が0.2～0.5mm、量が多い。輝石は青銅色透明、柱状で、粒径が、0.2～0.5mm、量がごくごく僅かである。石基はガラス質である。

黒色ガラス質で青銅色の輝石を含むことから、サヌカイトに属する安山岩である。二上山付近の原川累層や大阪層群の地層中に礫として含まれることもあり、春日山火山岩や石まくり火山岩の岩相の一部に酷似する。採石地をいずれとも限定できない。

輝石安山岩B：試料番号0150021　色は表面が灰色で内部は暗灰色である。長石と輝石の斑晶がある、ややガラス質の自然石である。長石、輝石の斑晶が流理方向に並ぶ。長石は無色透明、柱状、粒径が0.3～0.7mm、量が僅かである。輝石は褐色透明、柱状、粒径が0.2～1mm、量がごく僅かである。石基はガラス質である。

岩相的に亀ノ瀬付近に分布するドロコロ火山岩の岩相に酷似する。この岩石は現在大和川下流の築留付近の川原でも見られることから、当時、遺跡付近の川原の礫を採取している可能性は高い。

C）玄武岩：玄武岩は含まれる鉱物の種類、斑晶の大きさと量によりA・B・C・Dに区分される。

玄武岩A：試料番号0150047・0150076　色は緑色で、白色の斑晶が目立つ。斑晶鉱物は長石、輝石、かんらん石である。長石は灰白色・無色透明、短柱状、柱状で、粒径が0.5～1.5mm、量が多い。輝石は暗褐色透明、粒径が0.3～1mm、量が僅かである。かんらん石は淡黄色透明、粒径が0.5～1mm、量が中である。石基はガラス質である。

玄武岩B：試料番号0150132　色は灰緑色、楕円形や球状の孔が多い。孔径が0.5～5mmである。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色・灰色透明、柱状で、粒径が0.1～0.3mm、量が多い。輝石は黒色透明、柱状、粒径が0.1～0.3mm、量が多い。石基はガラス質である。

玄武岩C：試料番号0150125・0150133　色は暗緑色、灰緑色である。球状や楕円状の孔が散在するものもある。孔径が0.5～5mmである。斑晶鉱物は長石、輝石である。長石は無色透明、白色をなし、柱状、短柱状で、粒径が0.2～1mm、量が多い。稀に、3mmに及ぶものもある。輝石は黒色透明、粒状、柱状で、粒径が0.2～1mm、量が中である。石基はガラス質である。

玄武岩D：試料番号0150123　色は灰緑色である。玄武岩質溶岩である。白色の火山ガラス、火山ガラス球が多い。火山ガラスは粒径が0.1～0.5mm、バブル状のものが多く、パミス状のものは僅かである。火山ガラス球は青灰色透明、球状、粒径が0.3～0.5mm、量が中である。斑晶鉱物は長石、輝石である。長石は灰緑色、柱状で、0.2～0.5mm、量がごく僅かである。輝石は濃緑色、柱状、粒径が0.3～0.7mm、量がごく僅かである。石基はガラス質である。

玄武岩A・B・C・Dは岩相的に秩父帯や丹波帯の地層に分布する玄武岩に酷似する。三波川帯の地層にも玄武岩が見られるが、変成や変形を受けており、石器に使用されている石材と異なる。北摂や丹波の河川か紀の川の川原石を採石したのであろう。

D）ひん岩：ひん岩は含まれる鉱物の種類等によりA・Bに区分される。

ひん岩A：試料番号0150049・0150124・0150134　色は灰色である。石材の真ん中部分の斑晶鉱物粒は荒く、端になるにつれて細かくなる。捕獲岩として花崗岩、斑晶鉱物として石英、長石、輝石が含まれる。花崗岩は灰色、粒形が角、粒径が0.5～2mm、量がごく僅かである。石英は無色透明、粒径が1～5mm、量が僅かである。長石は灰白色、無色透明、短柱状である。灰白色の長石は粒径が1～5mm、量が僅かである。無色透明の長石は粒径が0.3～0.5mm、量が多い。輝石は褐色透明、緑色透明、柱状で、粒径が0.1～0.7mm、量が僅かである。石基はややガラス質で硬い。

ひん岩B：試料番号0150060　色は灰緑色で、斑晶鉱物として長石、角閃石が含まれる。長石は無色透明、短柱状、粒径が0.2～0.4mm、量が多い。角閃石は黒色、柱状で、粒径が0.3～0.4mm、量が中である。石基はガラス質である。

ひん岩は岩脈の石であり、生駒山地や北摂の山地でもみられる。場所は限定できない。

E）流紋岩質溶結凝灰岩：試料番号0150046　色は濃緑色で透明である。濃緑色と緑色の縞状をなす部分が流理方向に並び、縞模様をなす。粒径が0.1mm以下の斑晶（長石？）が流理方向に並

ぶ。基質はガラス質である。

緑色でガラス質の溶結凝灰岩は山陰から北陸等にかけて分布する緑色凝灰岩（グリーンタフ）の一部に見られる。出雲の玉造、豊岡市の南部、丹後の峰山付近、小浜市付近、福井市付近、小松市南東、金沢市東部、神奈川県丹沢付近等のごく限られた地域に分布する。近距離では北陸か山陰が推定される。

F）玄武岩質溶結凝灰岩：玄武岩質溶結凝灰岩に属する岩石は玄武岩質火山礫凝灰岩質溶結凝灰岩のみである。

玄武岩質火山礫凝灰岩質溶結凝灰岩：試料番号0150083　色は濃緑色で、火山ガラスが溶けて繋がっている。礫は灰色の玄武岩？質岩で、色が灰色、粒形が角、粒径が１～５mm、量が中、石基がガラス質である。斑晶鉱物は輝石とかんらん石である。稀に粒径４mmに及ぶ黒色の輝石がみられ、核にかんらん石が含まれる。輝石は黒色、短柱状で、粒径が0.3～0.7mm、量が中である。かんらん石は黄色透明、粒径が0.3～0.7mm、量が僅かである。モザイク状の割れ目がある。基質はガラス質である。

G）玄武岩質凝灰岩：玄武岩質凝灰岩は含まれる礫と鉱物の種類とその量により玄武岩質火山礫凝灰岩、玄武岩質凝灰岩A・B・C・D・Eに区分される。

玄武岩質火山礫凝灰岩：試料番号0150096　色は暗緑色である。角礫は玄武岩質？で、黒色、暗灰緑色を呈し、粒径が0.5～５mm、量が多い。石基がガラス質である。斑晶鉱物は長石、輝石である。長石は灰白色、粒径が0.3～１mm、量が中である。輝石は黒色、粒径が0.3～0.5mm、量が中である。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩A：試料番号0150083　色は濃緑色で、緑色の不規則なガラス質のレンズが並ぶ。レンズの厚さは１～10mmで、量が多い。火山ガラスはバブル状のものが潰されて偏平になり一定の方向に伸びている。バブルの中にかんらん石や輝石が含まれる。かんらん石は淡黄色透明、粒状で、粒径が0.2～0.3mm、量が僅かである。輝石は黒色透明、粒状で、粒径が0.2～１mm、量が多い。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩B：試料番号0150019・0150081　色は灰緑色で、火山ガラスが非常に多い。火山ガラスは灰緑色透明、パブルウォル状である。斑晶鉱物の輝石は黒色透明、短柱状、粒状で、粒径が0.2～0.3mm、量が中である。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩C：試料番号0150025・0150041・0150050・0150058・0150077・0150112　色は暗緑灰色で、暗緑色透明のガラス質のレンズが見られる。レンズの厚みは1～５mmである。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状で、粒径が0.3～0.5mm、量が僅かである。輝石は黒色透明、粒状で、粒径が0.2～0.3mm、量がごく僅かである。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩D：試料番号0150001・0150009・0150014・0150017・0150020・0150022・0150039・0150051・0150054・0150062・0150074・0150075・0150079・0150085・0150108・0150118・0150136　色は緑色で、濃緑色の繊維状のガラス質部が一定の方向に並ぶ。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状で、粒径が0.2～１mm、量が多い。輝石は黒色透明、

柱状、粒状で、粒径が0.2～1mm、量が中である。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩E：試料番号0150089　色は灰緑色である。斑晶鉱物は長石である。長石は無色透明、短柱状、粒径が0.2～0.5mm、量が僅かである。基質はガラス質である。玄武岩質凝灰岩は緑色を呈しており、変形を受けていないことから、丹波帯や秩父帯の地層に分布する玄武岩質凝灰岩の岩相の一部に酷似する。採取場所は限定できない。

H）砂岩：砂岩は含まれる砂粒種の構成によりA・B・C・D・Eに区分される。砂岩A・B・C・Dは花崗岩質であり、砂岩Eは細粒で石英質である。

砂岩A：試料番号0150037・0150097・0150122・0150135・0150139・0150141　色は灰色で、中粒砂からなる。構成砂粒は花崗岩、チャート、石英、長石、黒色の粒である。花崗岩は灰白色、粒形が角、粒径が0.2～0.5mm、量が僅かである。石英と長石が噛み合っている。チャートは暗灰色、粒形が亜角、粒径が0.2～0.3mm、量がごく僅かである。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.2～0.3mm、量が多い。長石は灰白色透明、粒形が角、粒径が0.2～0.3mm、量が多い。黒色の粒は粒形が角、粒径が0.2～0.3mm、量がごく僅かである。

砂岩B：試料番号0150128・0150131　色は暗灰色で、中粒砂からなる。構成砂粒は花崗岩、泥岩、石英、長石、角閃石である。花崗岩は灰白色、粒形が角、粒径が0.3～0.5mm、量が僅かである。泥岩は黒色、粒形が亜円、粒径が0.3～0.5mm、量がごく僅かである。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.2～0.4mm、量が多い。長石は灰白色、粒形が角、粒径が0.2～0.5mm、量が中である。角閃石は黒色、粒形が角、粒径が0.3～0.4mm、量がごくごく僅かである。

砂岩C：試料番号0150140　色は暗灰色で、粗粒砂からなる。構成砂粒は花崗岩、石英、長石、黒雲母である。花崗岩は灰白色、粒形が角、粒径が2～5mm、量が僅かである。石英は無色透明、粒形が角、粒径が2～3mm、量が中である。長石は灰白色、灰白色透明で、粒径が2～3mm、量が中である。黒雲母は黒色、金色で、粒径が0.1～0.3mm、量が僅かである。

砂岩D：試料番号0150008・0150029　色は暗灰色で、中粒砂からなる。構成砂粒は花崗岩、石英、長石、黒雲母、角閃石である。花崗岩は灰白色、粒形が角、粒径が0.5～0.7mm、量がごく僅かである。石英と長石、石英と長石と黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.2～0.4mm、量が多い。長石は灰白色、粒形が角、粒径が0.2～0.4mm、量が中である。黒雲母は黒色、金色で、粒径が0.2～0.4mm、量がごく僅かである。角閃石は黒色、粒形が角、粒径が0.2～0.4mm、量がごく僅かである。

砂岩E：試料番号0150034　色は灰色で、表面に亀甲状の模様がある。細粒砂からなる。構成粒は0.1mm以下で、無色透明の石英が多い。

砂岩A～Eは花崗岩質で、チャートや泥岩片を含むことから岩相的に和泉山脈に分布する和泉層群の砂岩の岩相の一部に酷似する。出土遺物は自然石の一部が円礫であることから河川や海岸の礫が推定される。和泉層群の砂岩は石川や泉南方面の海岸に円礫がみられる。遺跡付近でも石川の流れであるため、和泉砂岩は採取できる。砂岩Eは灰色、緻密な砂岩であり、やや緑色を帯びていることから丹波付近に産する砂岩の岩相の一部に類似する。

I）泥岩：試料番号0150061・0150093　色は青灰褐色、黒色で、基質はややガラス質である。石英や黒色の粒がみられる。石英は無色透明、粒形が球状で、粒径が0.2～0.3mm、量がごく僅かである。黒色粒状の物質は球状をなし、粒径が0.1～0.2mm、量が僅かである。

淀川よりも北に位置する丹波帯の泥岩の岩相の一部に酷似するものがある。

J）頁岩：試料番号0150030・0150048・0150064・0150086・0150102　色は黒色で、スレート劈開が顕著なものもある。0.1mm以下の細粒の石英が僅かにみられる。

丹波帯の泥岩の岩相の一部に類似するものがみられる。

K）ホルンフェルス：試料番号0150055・0150063・0150100・0150103　色は灰色、黒色を呈し、片理がある。灰白色の斑晶をなす紅柱石がある。粒径が0.3～0.7mm、量がごくごく僅かである。基質はやや粒状化した泥岩である。

紅柱石を含む泥質ホルンフェルスは丹波帯の熱変成した地域にみられる。近くでは、京都府笠置から和束にかけての付近、亀岡付近等があげられる。河川礫を採取したとすれば淀川の川原でも見られる。

L）泥質片岩：泥質片岩は含まれる鉱物によりA・B・Cに区分される。

泥質片岩A：試料番号0150002・0150007・0150013・0150026・0150032・0150043・0150044・0150057・0150088・0150104・0150105・0150109・0150110・0150111・0150115・0150116・0150117・0150137　色は暗灰色、灰緑色で片理が顕著である。絹雲母が発達している。実体鏡下で、球状をなす長石の点紋が散在する。長石は無色透明、球状で、粒径が0.1～0.2mm、量が多い。基質はやや粒状化しており、ガラス質である。

点紋ができ始めた付近の岩石である。紀の川流域では吉野郡大淀町から下流域に点紋ができ始めた岩石がみられる。

泥質片岩B：試料番号0150035・0150056　色は暗灰色で、弱い片理がある。絹雲母や石墨が僅かに見られる。

変成が弱い片岩である。紀の川流域に見られる石である。

泥質片岩C：試料番号0150084・0150106　色は暗灰緑色、灰緑色で、弱い片理がある。絹雲母が発達している。基質はやや粒状化している。

変成が弱い片岩である。紀の川流域に見られる石である。

M）玄武岩質凝灰岩質片岩：玄武岩質凝灰岩質片岩は含まれる鉱物の種類とその粒径や量によりA・B・C・D・E・F・G・Hに区分される。

玄武岩質凝灰岩質片岩A：試料番号0150006・0150012・0150016・0150033・0150068・0150090・0150091・0150098・0150099・0150130　色は灰緑色、暗灰緑色で、弱い片理があり、絹雲母が僅かにみられる。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状、粒径が0.2～0.5mm、量が多い。輝石は黒色透明、柱状で、粒径が0.3～1mm、量が多い。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩質片岩B：試料番号0150005　色は灰緑色で、片理が顕著である。絹雲母が発

達している。暗緑色の糸状、斑点状のガラス質部が散在する。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状、粒径が0.2～0.5mm、量が多い。輝石は黒色・褐色透明、短柱状、粒径が0.1～0.3mm、量が僅かである。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩質片岩C：試料番号0150042・0150145　色は灰緑色で、片理が顕著である。絹雲母が発達している。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状、粒径が0.2～0.5mm、量が中である。輝石は褐色透明、短柱状、粒径が0.2～0.5mm、量が中である。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩質片岩D：試料番号0150040　色は灰緑色で、弱い片理がある。火山ガラス、長石、輝石が含まれる。火山ガラスは無色透明、バブルウォル状で、粒径が0.2～0.3mm、量が僅かである。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状、粒径が0.3～0.5mm、量が僅かである。輝石は褐色透明、柱状で、粒径が0.1～0.2mm、量が僅かである。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩質片岩E：試料番号0150015・0150018・0150019・0150067・0150070・0150071・0150080・0150082・0150095・0150114・0150126・0150146・0150147　色は灰緑色で、弱い片理がある。暗緑色ガラス質の球状の点が僅かに散在する。絹雲母が僅かにみられる。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は灰白色、無色透明、短柱状、柱状で、粒径が0.2～0.8mm、量が多い。輝石は黒色透明、短柱状、粒径が0.2～0.5mm、量が僅かである。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩質片岩F：試料番号0150027・0150059・0150113・0150142　色は灰緑色で、弱い片理がある。絹雲母が発達している。緑色球状のガラス質の斑点が散在する。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状、粒径が0.5～1mm、量が僅かである。輝石は茶褐色透明、柱状で、粒径が0.1～1mm、量が中である。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩質片岩G：試料番号0150045・0150101・0150107・0150120・0150129・0150144　色は灰緑色で、弱い片理がある。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状、粒径が0.2～0.5mm、量が多い。輝石は黒色、粒状、柱状で、粒径が0.1～1mm、量が多い。基質はガラス質である。

玄武岩質凝灰岩質片岩H：試料番号0150003・0150004・0150028・0150052・0150066・0150069・0150087・0150094・0150121・0150138・0150143　色は暗緑色で、弱い片理がある。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、白色透明で、球状、短柱状である。球状の長石は粒径が0.1～0.4mm、量が中である。短柱状の長石は粒径が0.1～0.4mm、量が中である。輝石は黒色透明、短柱状で、粒径が0.2～0.4mm、量が中である。基質はやや粒状化している。

玄武岩質凝灰岩質片岩A～Hは片理があり、点紋がでかけた片岩もあることから三波川変成の片岩である。紀の川流域に見られる玄武岩質凝灰岩質片岩の岩相の一部に酷似する。

3. おわりに

石器に使用されている石材は遺跡近くの河川で採石できるような砂岩、安山岩のようなものから丹波山地から流出する河川や紀の川の川原石を採石したと推定される石材がある。また、流紋岩のように大和三山の耳成山や畝傍山、二上山の雌岳に分布するような流紋岩が使用されている。

流紋岩製の石包丁は唐古遺跡等を中心に出土する弥生時代前期の石包丁の岩相に酷似する。同様の石包丁は四条畷市の更岡山遺跡でも出土している。奈良県御所市鴨都波遺跡から出土した弥生時代中期の石包丁の石材は玄武岩質凝灰岩質片岩が大半であり、玄武岩質凝灰岩はごく僅かであった。石包丁の約3割を占める玄武岩質凝灰岩製の石包丁の石材は丹波方面から運ばれている可能性が強い。また、石斧に使用されている玄武岩についても同様のことが考えられる。

遺跡を中心にして石材の採石地を推定すれば、同じ用途に使用する石材は遺跡に近いところから採取している傾向がある。今回観察できた宮ノ下遺跡は当時、丹波や紀伊への中間地点にあったのではないだろうか。

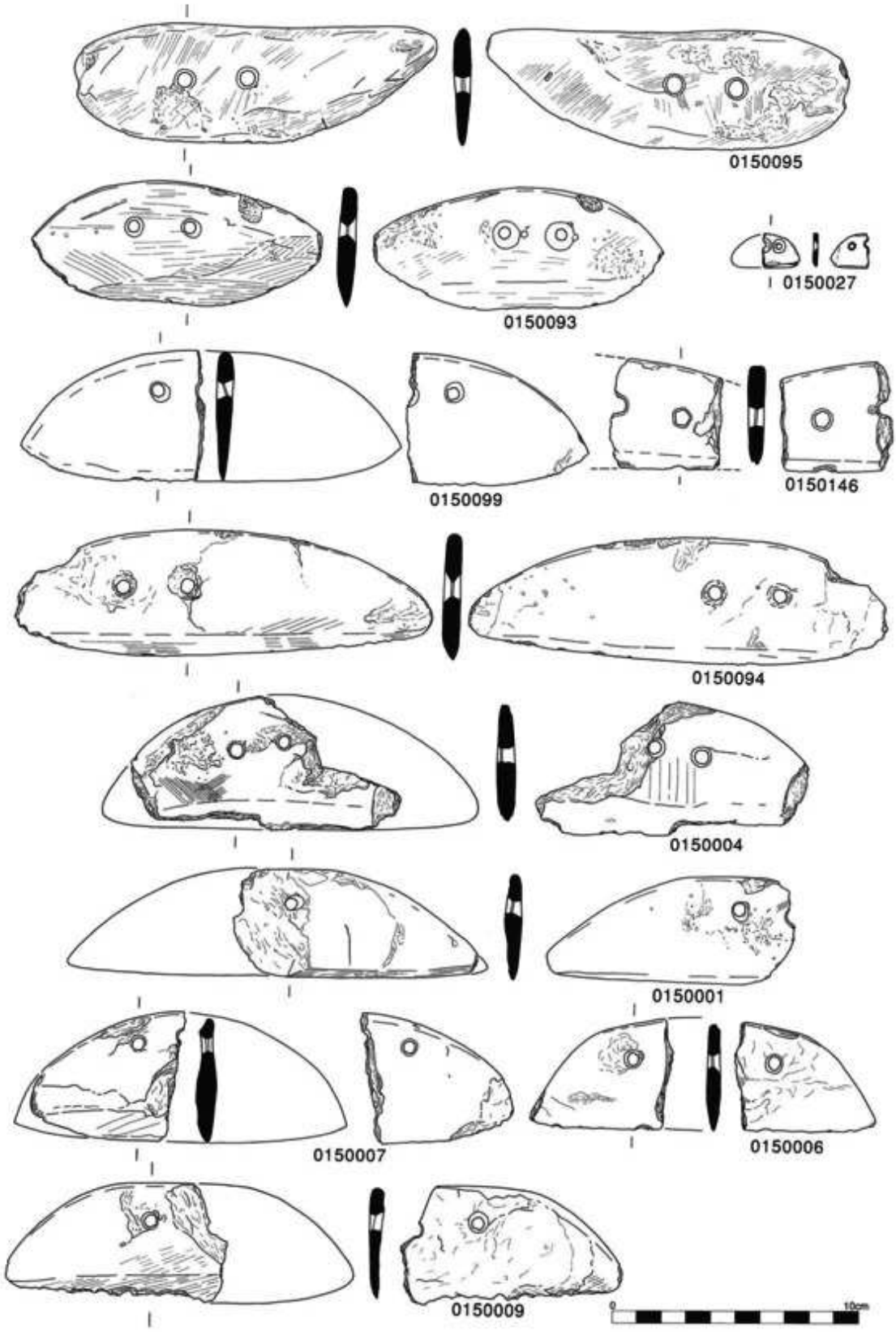


fig. 85　磨製石器実測図

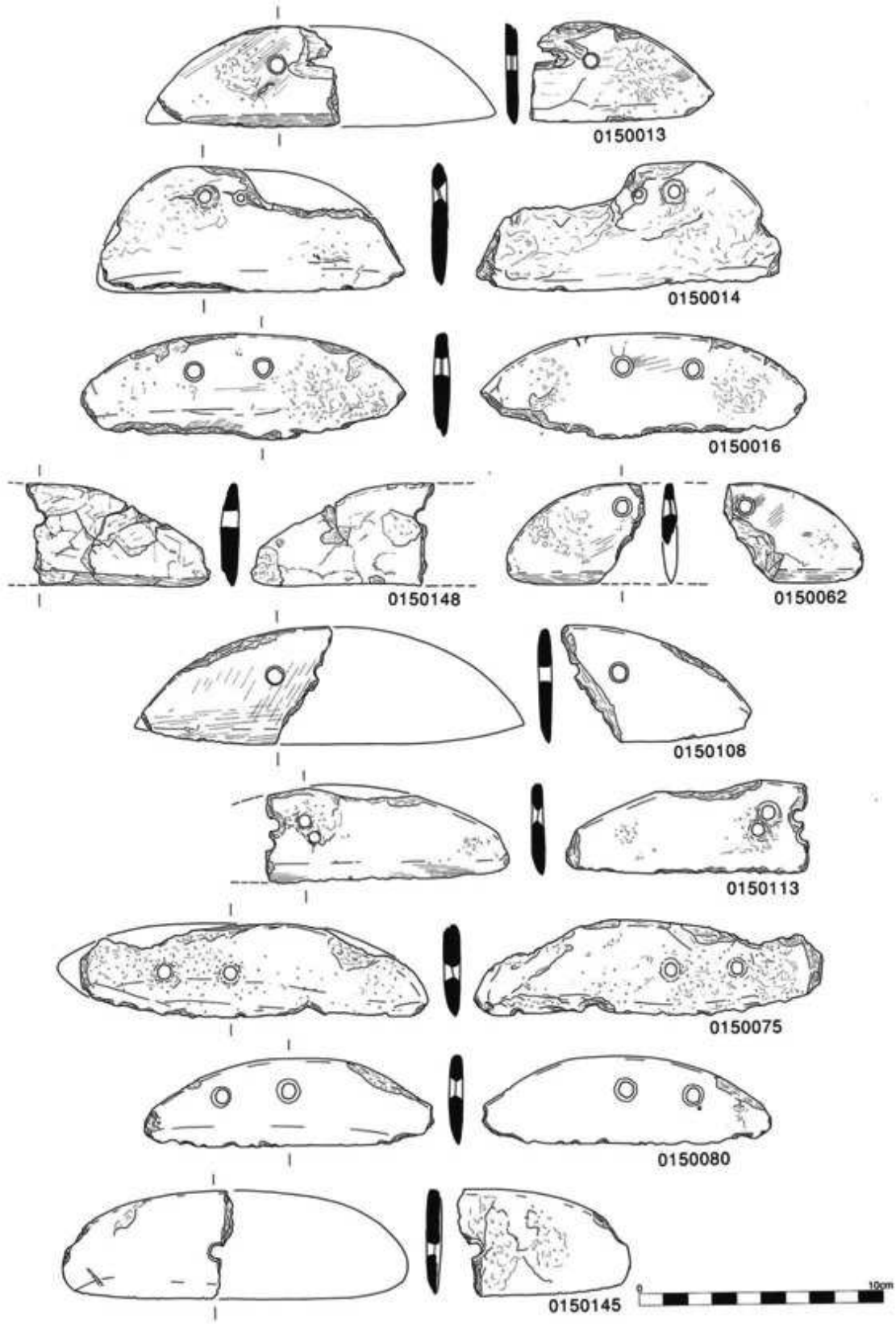


fig. 86　磨製石器実測図

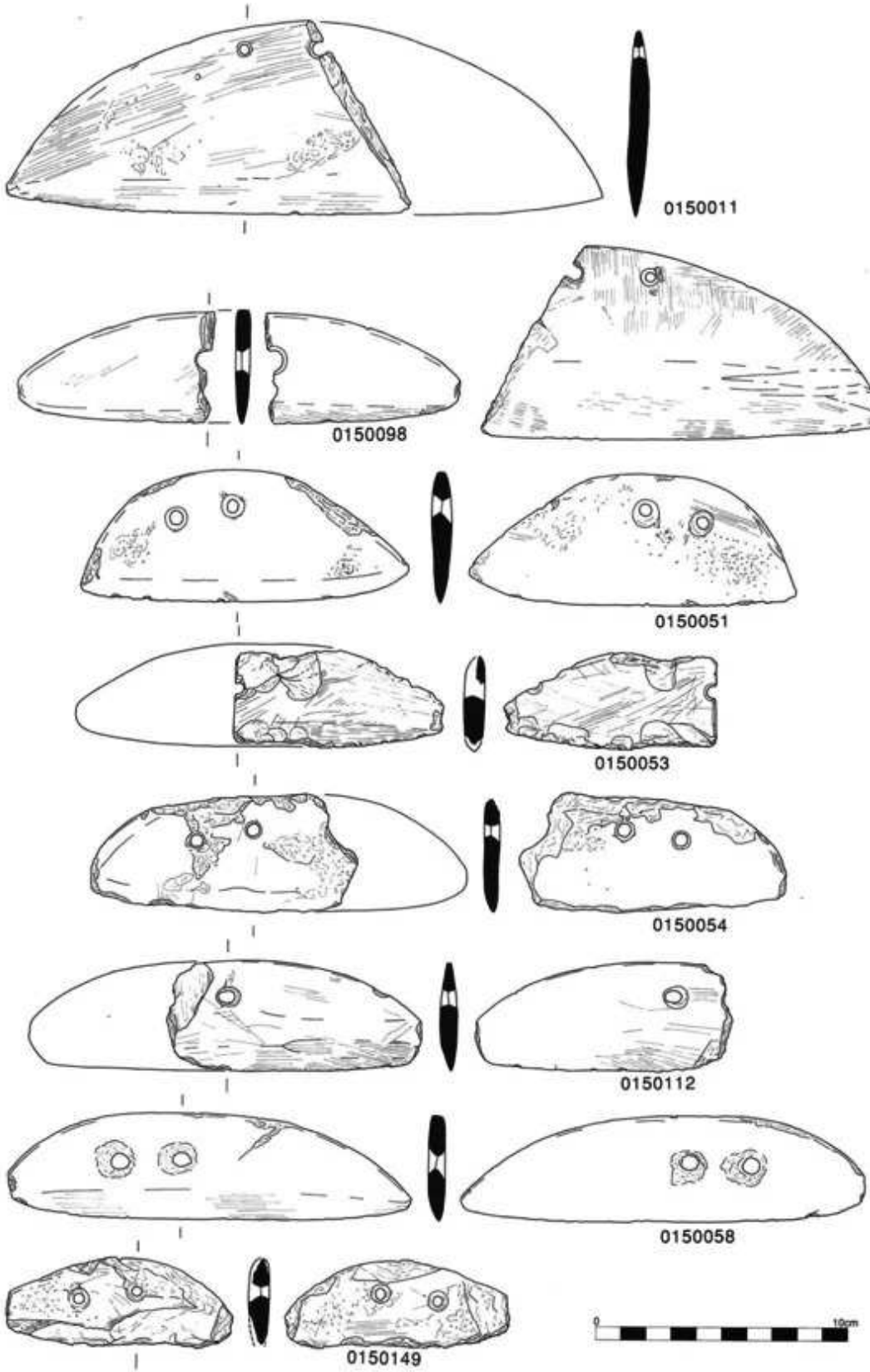


fig. 87　磨製石器実測図

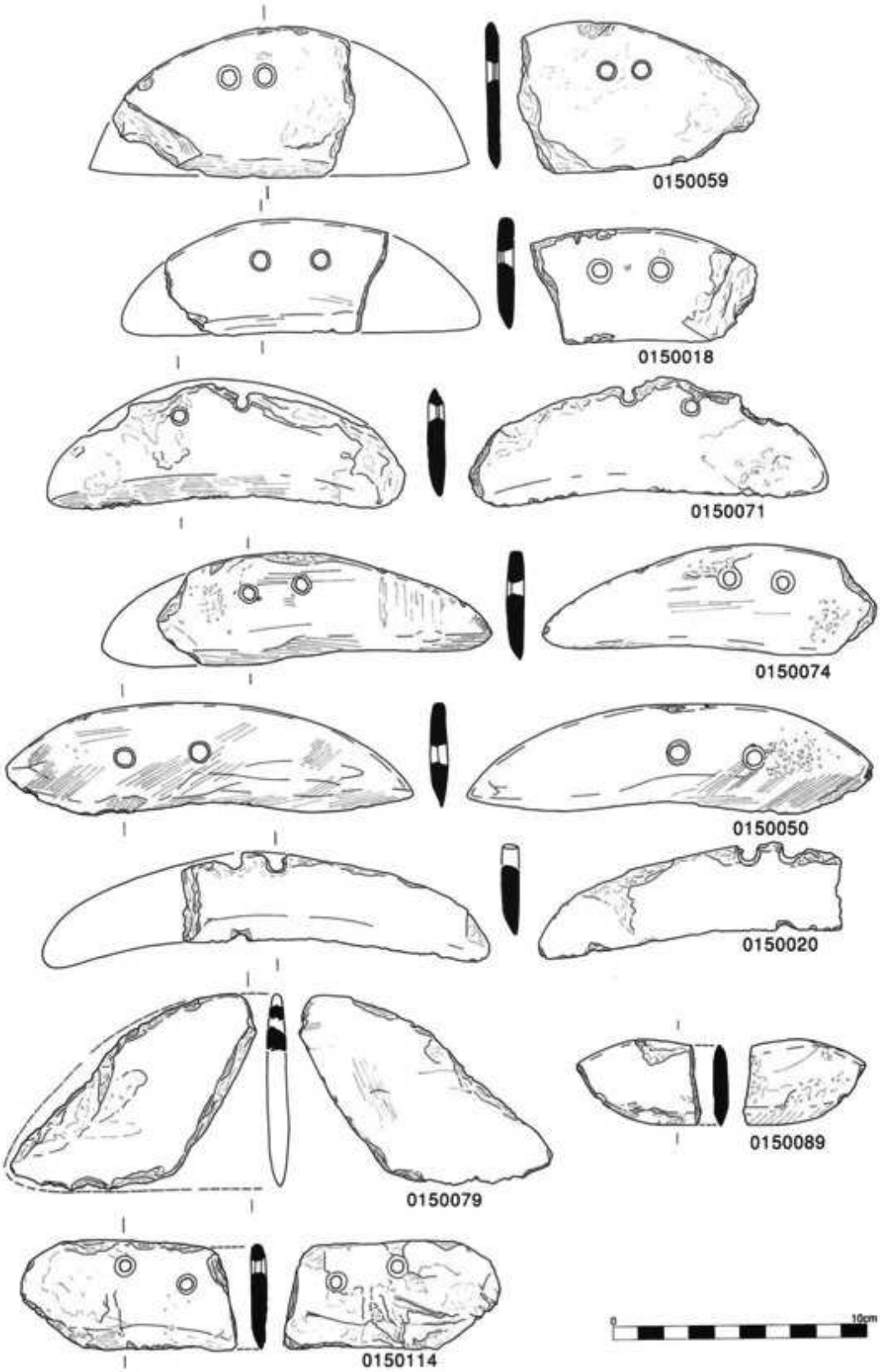


fig. 88　磨製石器実測図

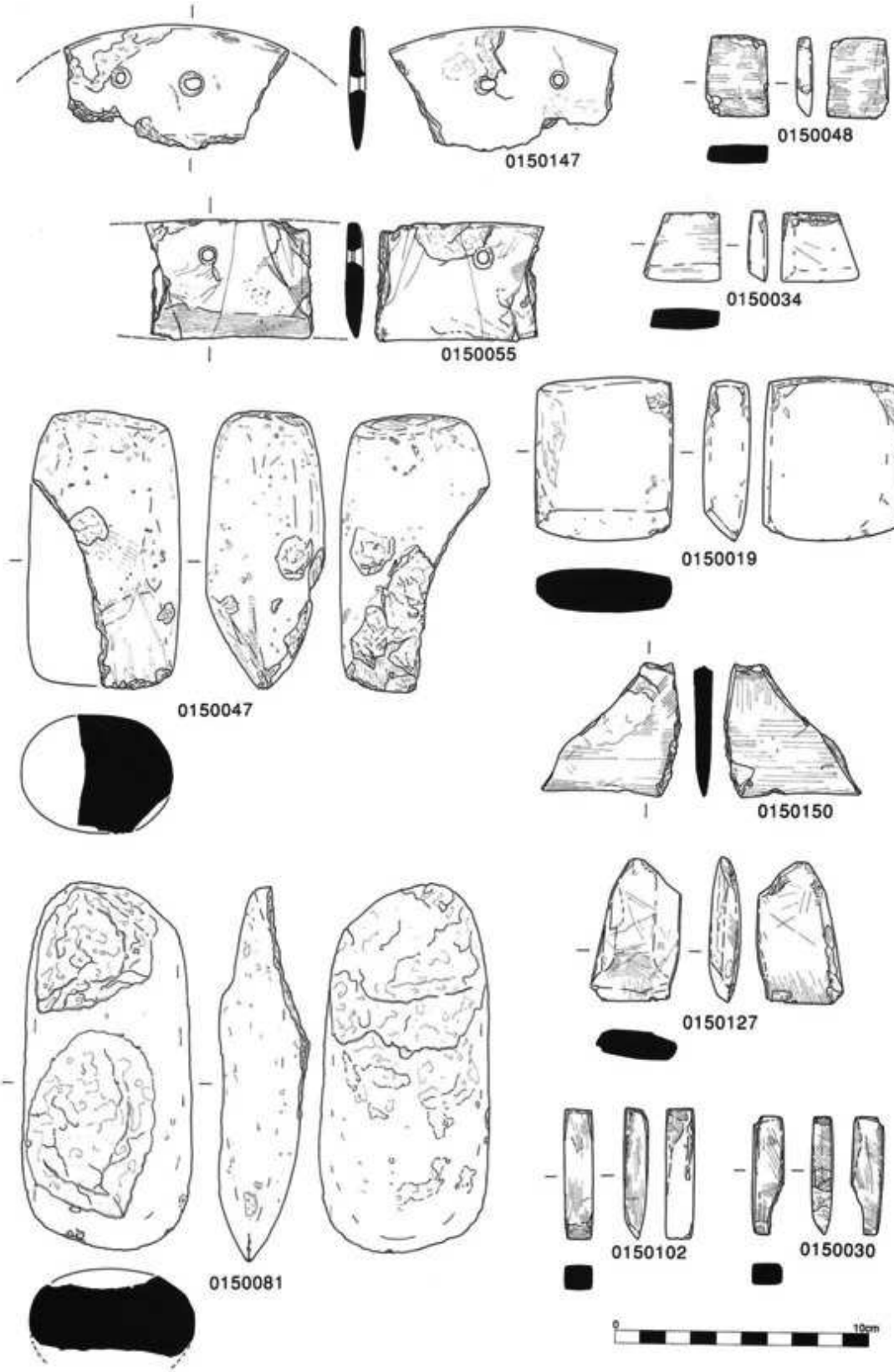


fig. 89　磨製石器実測図

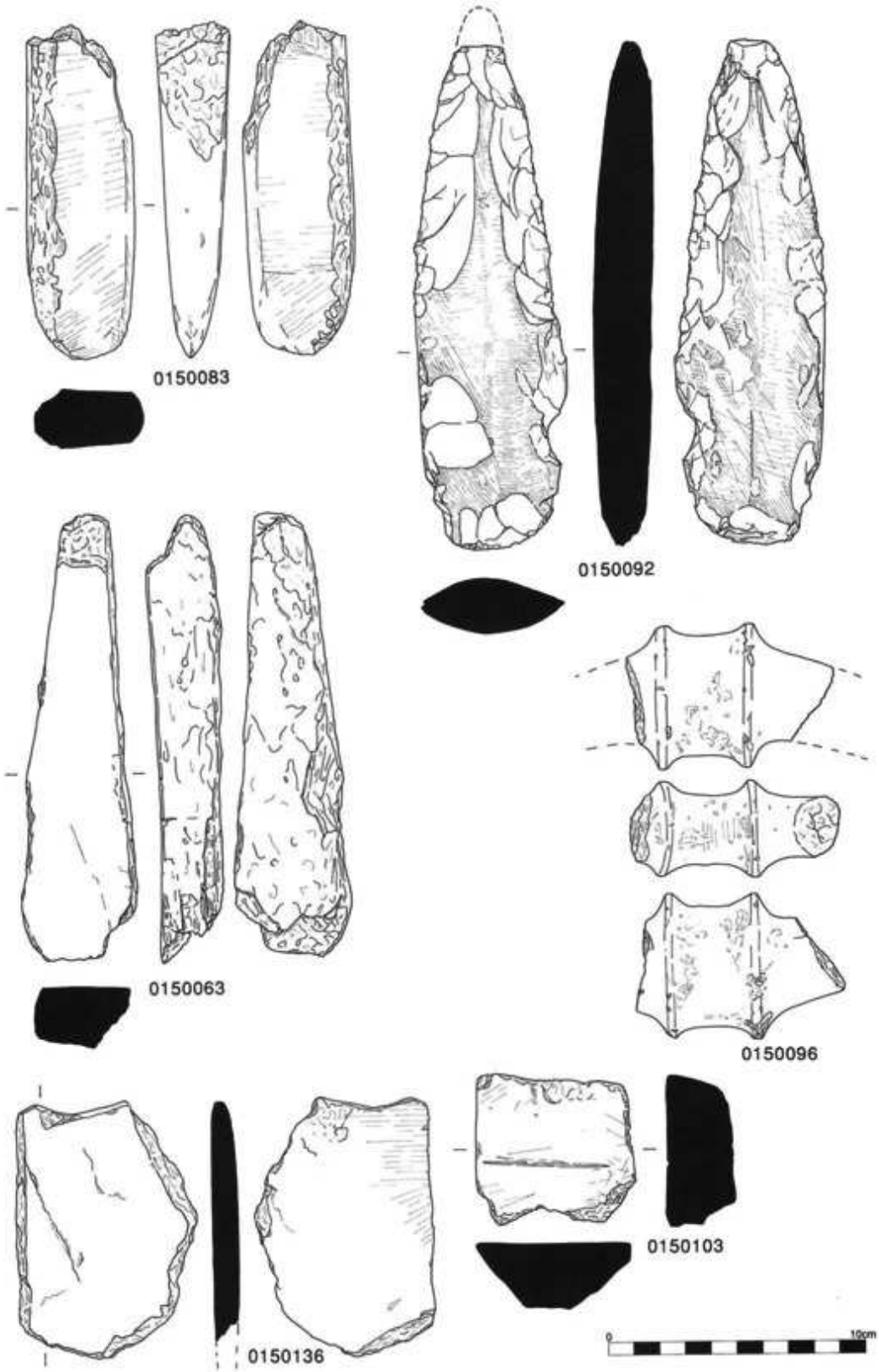


fig. 90　磨製石器実測図

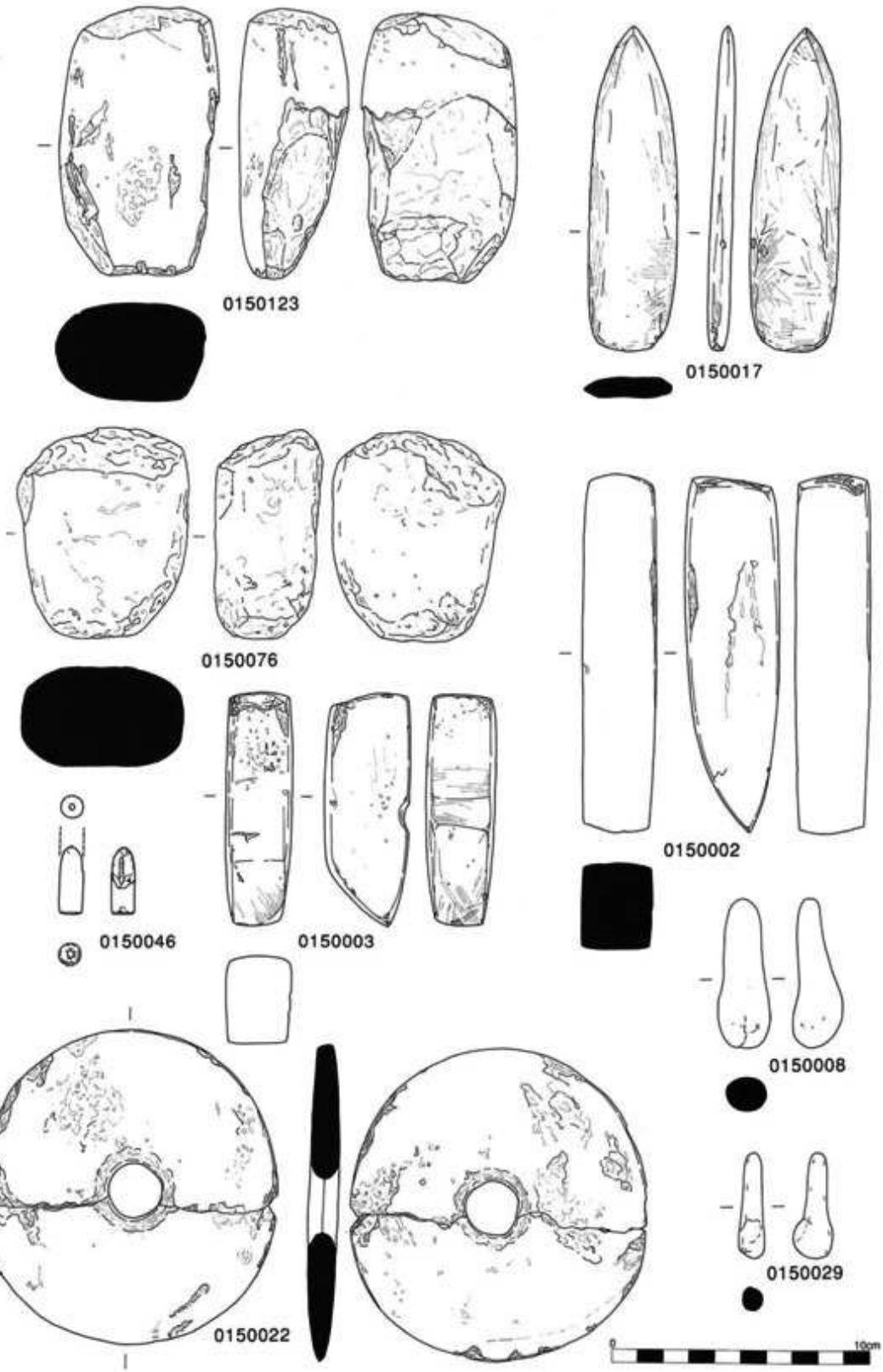


fig. 91　磨製石器実測図

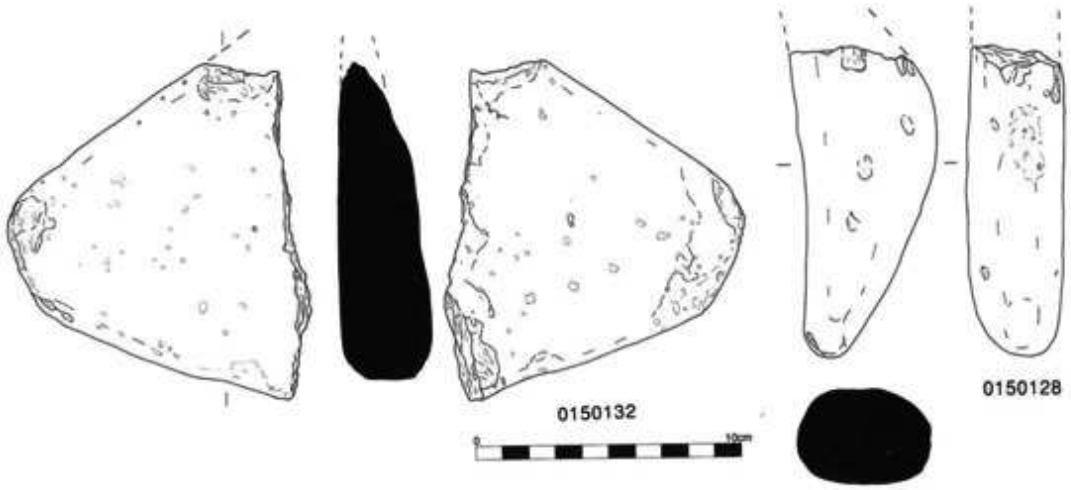


fig. 92　磨製石器実測図

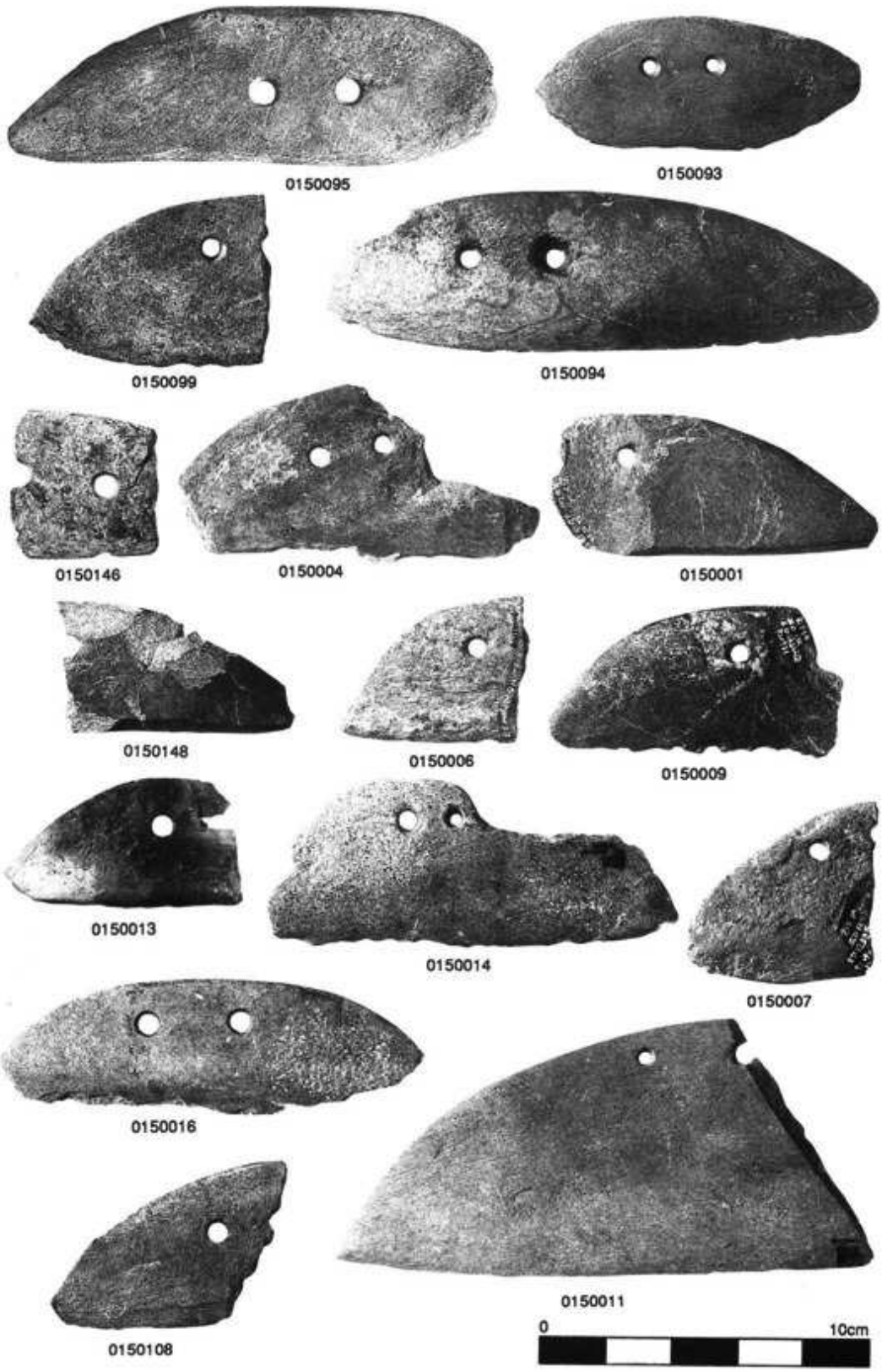


fig. 93　石包丁（外湾刃半月形態・外湾刃杏仁様形態・外湾刃形態・直線刃半月形態）

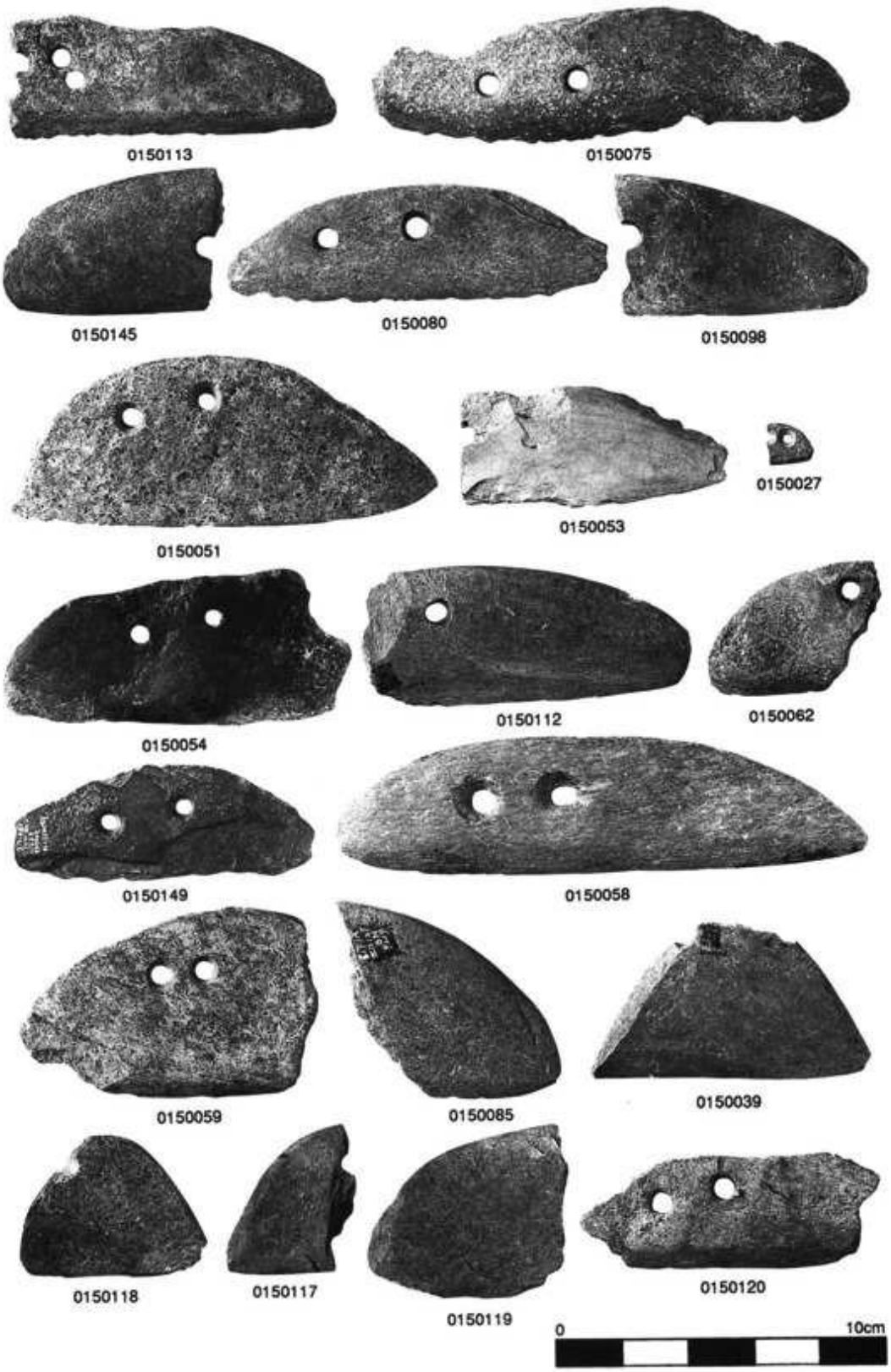


fig. 94　石包丁（直線刃半月形態）

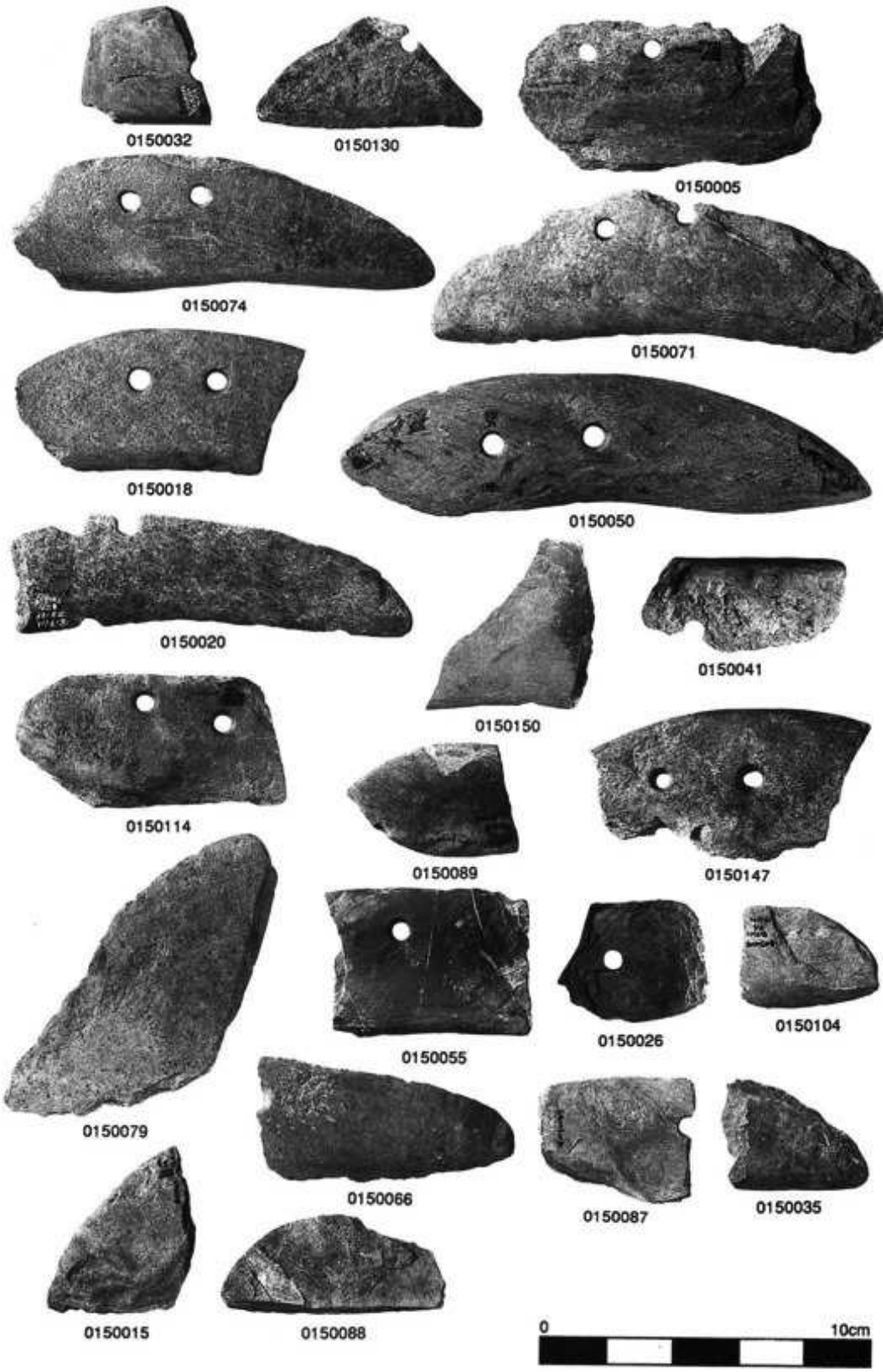


fig. 95　石包丁（直線刃長方形態・直線刃形態・内湾刃半月形態・内湾刃鎌型形態・内湾刃形態・その他）

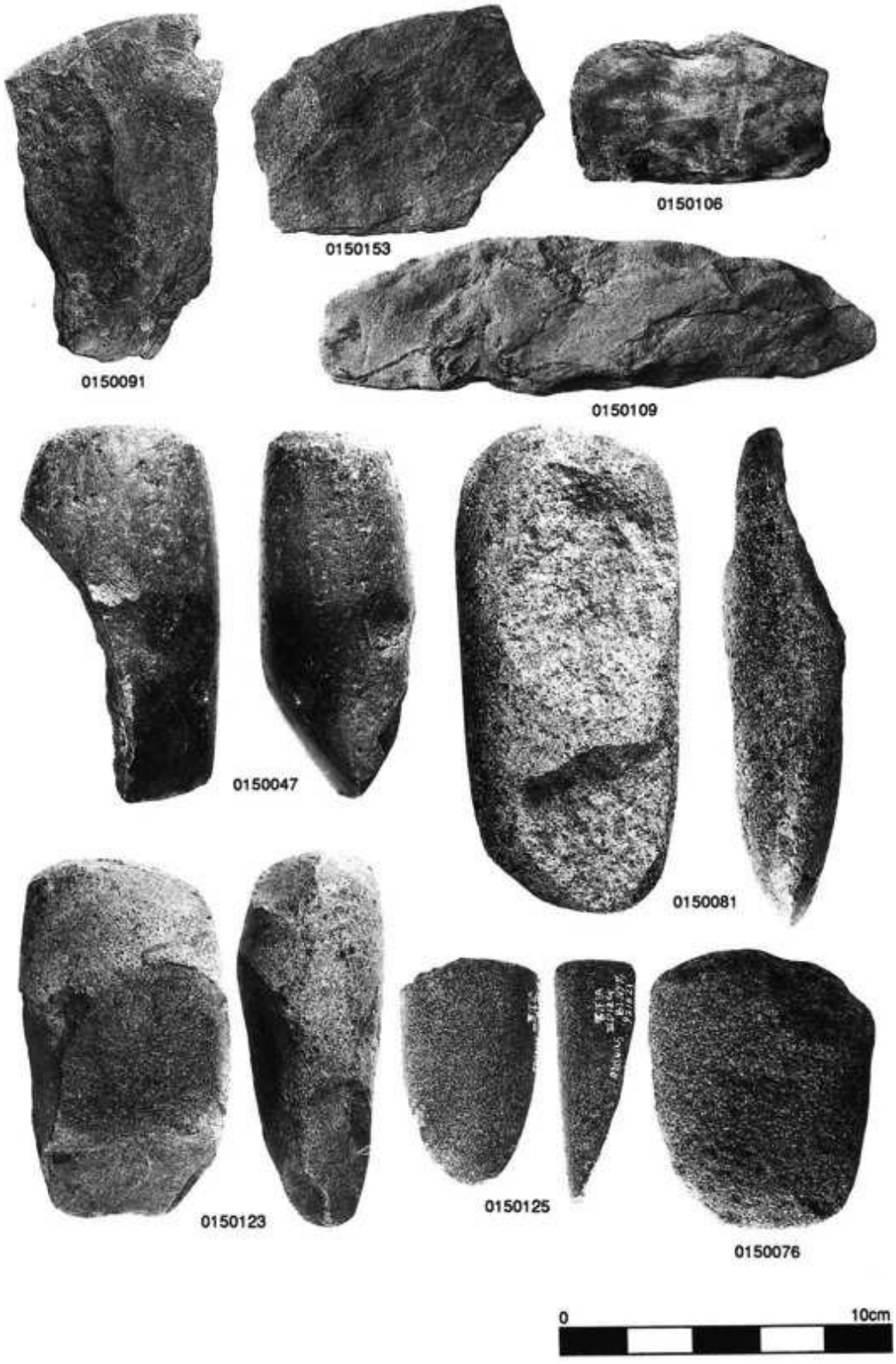


fig. 96　石包丁・太型蛤刃石斧

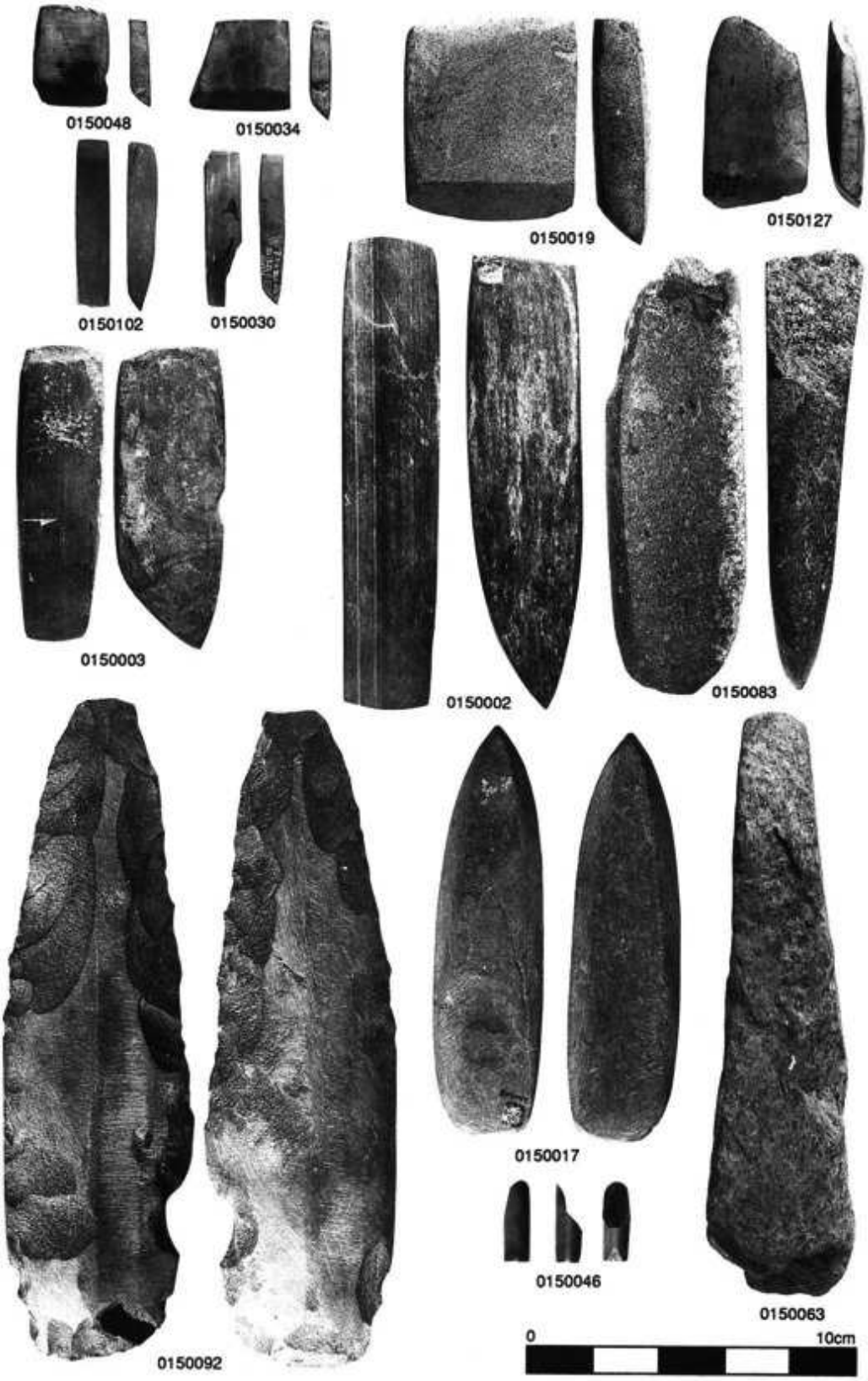


fig. 97　柱状片刃石斧・有扶柱状片刃石斧扁平片刃石斧・柱状両刃石斧・石戈・石剣・管玉・砥石

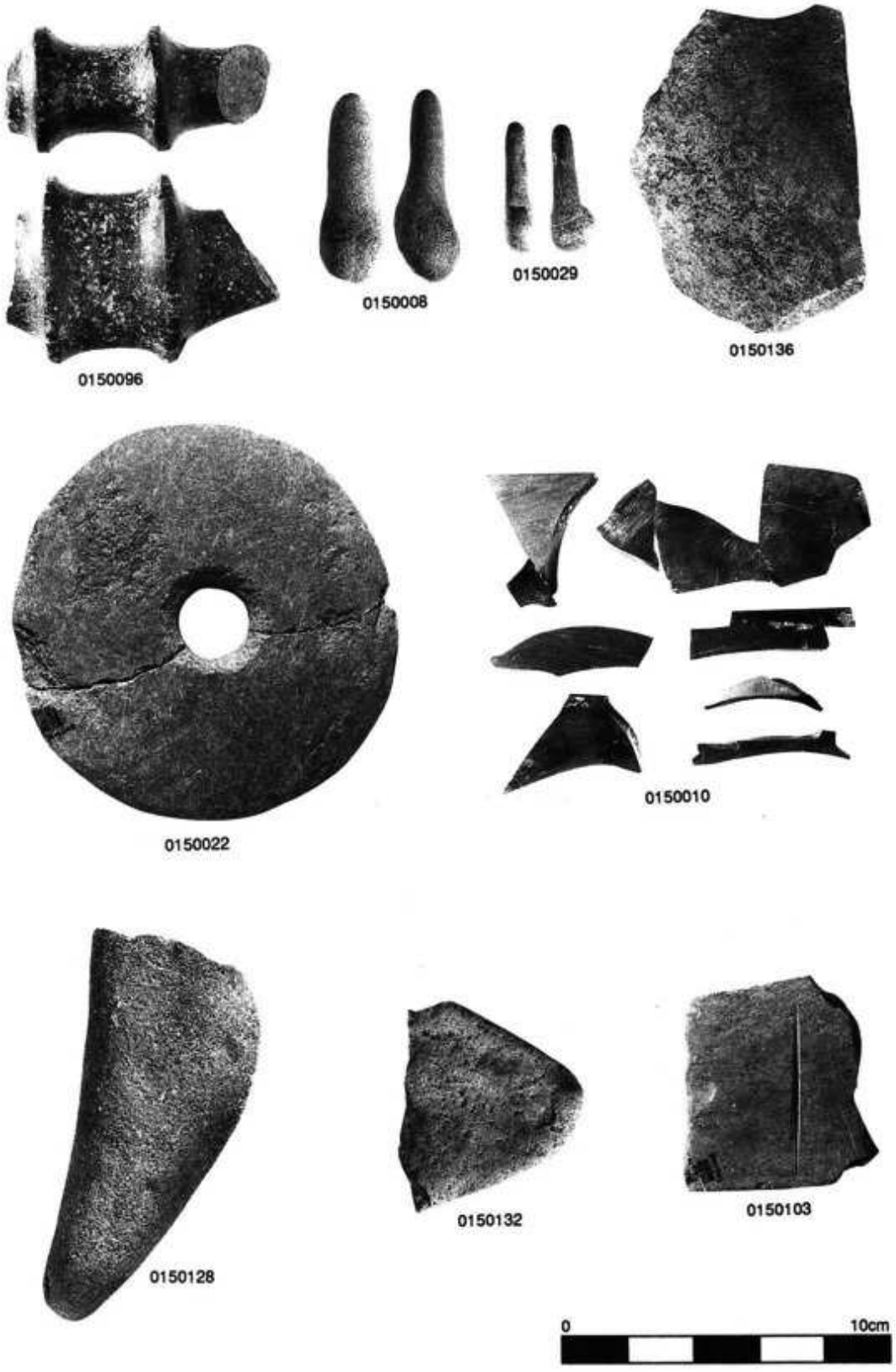


fig. 98　独鈷石・多頭石斧？・砥石・その他

ID	型式・形態	材質	地区	区画	層位/遺構	時期	日付
0150001	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	A	IIID,12F	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.24
	長さ 10.10 cm 幅 * 4.36 cm 厚さ 0.75 cm 重さ 45.7 g 備考						
0150002	柱状片刃石斧	泥質片岩A	B6		8U	弥生IV期～布留式期	92.12.03
	長さ 13.79 cm 幅 3.60 cm 厚さ 2.85 cm 重さ 342.2 g 備考						
0150003	有肩柱状片刃石斧	玄武岩質凝灰岩質片岩H	B6		8U	弥生IV期～布留式期	92.12.03
	長さ 8.96 cm 幅 3.36 cm 厚さ 2.60 cm 重さ 178.6 g 備考						
0150004	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩H	B2	IIID,5N	8U	弥生IV期～布留式期	93.01.19
	長さ * 11.00 cm 幅 * 5.50 cm 厚さ 0.80 cm 重さ 55.2 g 備考						
0150005	石庖丁（直線刃形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩B	B	IIID,9P	8U	弥生IV期～布留式期	93.03.08
	長さ * 9.22 cm 幅 * 4.56 cm 厚さ 0.68 cm 重さ 46.2 g 備考						
0150006	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩A	A	IIID,13D	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.24
	長さ 5.80 cm 幅 * 4.40 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 22.4 g 備考						
0150007	石庖丁（直線刃半月形態）	泥質片岩A	A	IIID,12F	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.24
	長さ 6.20 cm 幅 * 5.20 cm 厚さ 0.80 cm 重さ 32.3 g 備考						
0150008	不明（乳棒？）	砂岩D	A	IIID,10E	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.05
	長さ 5.80 cm 幅 2.18 cm 厚さ 1.84 cm 重さ 24.1 g 備考						
0150009	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	A	IIID,13K	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.21
	長さ * 9.12 cm 幅 * 4.80 cm 厚さ 0.76 cm 重さ 41.0 g 備考						
0150010	不明	輝石安山岩A	A	IIID,12F	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.04
	長さ * cm 幅 * cm 厚さ * cm 重さ 122.9 g 備考						
0150011	石庖丁（直線刃半月形態）		B	IIIE,10A	8U	弥生IV期～布留式期	93.03.15
	長さ * 16.00 cm 幅 * 7.70 cm 厚さ 0.84 cm 重さ 143.6 g 備考						
0150012	不明	玄武岩質凝灰岩質片岩A	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.03
	長さ * 4.67 cm 幅 * 5.82 cm 厚さ 0.68 cm 重さ 28.2 g 備考						
0150013	石庖丁（直線刃半月形態）	泥質片岩A	A	IIID,13J	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.01
	長さ 7.50 cm 幅 * 4.10 cm 厚さ 0.50 cm 重さ 22.7 g 備考						
0150014	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	B	IIIE,10A	8U	弥生IV期～布留式期	93.03.15
	長さ * 12.41 cm 幅 * 5.10 cm 厚さ 0.78 cm 重さ 68.1 g 備考						
0150015	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩E	B3	IIIE,3B	8U	弥生IV期～布留式期	93.01.20
	長さ * 4.39 cm 幅 * 5.10 cm 厚さ 0.533 cm 重さ 15.8 g 備考						
0150016	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩A	A	IIID,11D	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.25
	長さ * 13.20 cm 幅 4.26 cm 厚さ 0.76 cm 重さ 65.4 g 備考						
0150017	石剣	玄武岩質凝灰岩D	B	IIID,10S	8U	弥生IV期～布留式期	93.03.08
	長さ 12.56 cm 幅 3.43 cm 厚さ 0.90 cm 重さ 64.5 g 備考						
0150018	石庖丁（内湾刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩E	A	IIID,13G	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.29
	長さ * 8.70 cm 幅 * 4.40 cm 厚さ 0.75 cm 重さ 50.6 g 備考						
0150019	偏平片刃石斧	玄武岩質凝灰岩B	B6		8U	弥生IV期～布留式期	92.12.02
	長さ 6.39 cm 幅 5.40 cm 厚さ 1.70 cm 重さ 123.3 g 備考						
0150020	石庖丁（内湾刃偏形形態）	玄武岩質凝灰岩D	A	IIID,13F	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.29
	長さ 11.90 cm 幅 * 3.40 cm 厚さ 0.72 cm 重さ 46.5 g 備考						
0150021	不明	輝石安山岩B	B3	IIIE,4B	8U	弥生IV期～布留式期	93.01.21
	長さ 5.45 cm 幅 8.14 cm 厚さ 2.36 cm 重さ 155.5 g 備考						
0150022	不明（磨製石製品）	玄武岩質凝灰岩D	A	IIID,13L	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.25
	長さ 12.10 cm 幅 12.00 cm 厚さ 1.10 cm 重さ 244.4 g 備考						
0150025	不明（石庖丁？）	玄武岩質凝灰岩C	A	IIID,13H	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.01
	長さ 2.35 cm 幅 * 2.20 cm 厚さ 0.53 cm 重さ 2.8 g 備考						
0150026	石庖丁	泥質片岩A	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.25
	長さ * 4.65 cm 幅 * 3.75 cm 厚さ 0.52 cm 重さ 13.3 g 備考						
0150027	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩F	A	IIID,12E	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.11
	長さ 1.50 cm 幅 * 1.35 cm 厚さ 0.20 cm 重さ 0.7 g 備考						
0150028	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩H	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.25
	長さ * 6.30 cm 幅 * 3.51 cm 厚さ 0.74 cm 重さ 23.3 g 備考						
0150029	不明（乳棒？）	砂岩D	A	IIID,12F	8U	弥生IV期～布留式期	92.10.30
	長さ 4.05 cm 幅 1.50 cm 厚さ 0.10 cm 重さ 1.7 g 備考						
0150030	柱状片刃石斧（石製）	頁岩	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.25
	長さ 4.60 cm 幅 1.14 cm 厚さ 0.8 cm 重さ 8.3 g 備考						
0150032	石庖丁（直線刃長方形態）	泥質片岩A	A	IIID,11E	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.19
	長さ * 4.13 cm 幅 * 3.95 cm 厚さ 0.70 cm 重さ 16.8 g 備考						
0150033	不明	玄武岩質凝灰岩質片岩A	A	IIID,13E	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.08
	長さ * 1.84 cm 幅 * 2.57 cm 厚さ * 0.29 cm 重さ 6.7 g 備考						
0150034	偏平片刃石斧	砂岩E	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.31
	長さ 2.98 cm 幅 * 2.99 cm 厚さ 0.73 cm 重さ 11.5 g 備考						
0150035	石庖丁	泥質片岩B	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.25
	長さ * 4.67 cm 幅 * 3.40 cm 厚さ 0.66 cm 重さ 12.3 g 備考						
0150037	不明	砂岩A	A	IIID,13G	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.29
	長さ * 4.82 cm 幅 * 5.25 cm 厚さ 4.61 cm 重さ 159.4 g 備考						
0150039	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	B4	IIIE,12A	8U	弥生IV期～布留式期	93.02.04
	長さ * 8.63 cm 幅 * 4.81 cm 厚さ 0.64 cm 重さ 37.0 g 備考						

table.4-1 磨製石器一覧

ID	型式・形態	材質	地区	区画	層位/遺構	時期	日付
0150040	石鏃丁	玄武岩質凝灰岩質片岩D	B3	IIIE,4C	8U	弥生IV期～布留式期	93.01.18
	長さ 3.67 cm 幅＊ 4.70 cm 厚さ 0.45 cm 重さ 19.2 g	備考					
0150041	石鏃丁（内湾刃形態）	玄武岩質凝灰岩C	B	IIIE,5B	8U	弥生IV期～布留式期	93.03.01
	長さ＊ 6.22 cm 幅＊ 2.94 cm 厚さ 0.72 cm 重さ 15.8 g	備考					
0150042	石鏃丁	玄武岩質凝灰岩質片岩C	B	IIID,5J	8U	弥生IV期～布留式期	93.02.08
	長さ＊ 7.22 cm 幅＊ 4.99 cm 厚さ＊ 1.09 cm 重さ 43.9 g	備考 未製品					
0150043	不明	泥質片岩A	A	IIID,13E	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.08
	長さ 3.92 cm 幅＊ 7.16 cm 厚さ 0.40 cm 重さ 20.5 g	備考					
0150044	石鏃丁	泥質片岩A	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.24
	長さ＊ 6.20 cm 幅＊ 2.88 cm 厚さ 0.67 cm 重さ 10.2 g	備考					
0150045	石鏃丁	玄武岩質凝灰岩質片岩G	A	IIID,13K	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.21
	長さ＊ 3.12 cm 幅＊ 3.11 cm 厚さ 0.40 cm 重さ 4.8 g	備考					
0150046	管玉	流紋岩質溶結凝灰岩	A	IIID,12I	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.03
	長さ＊ 2.50 cm 幅 0.90 cm 厚さ 0.90 cm 重さ 2.3 g	備考					
0150047	太型蛤刃石斧	玄武岩A	A	IIID,13G	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.29
	長さ 10.85 cm 幅＊ 5.75 cm 厚さ 4.73 cm 重さ 369.4 g	備考					
0150048	偏平片刃石斧	頁岩	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.31
	長さ 3.17 cm 幅＊ 2.37 cm 厚さ 0.67 cm 重さ 10.9 g	備考					
0150049	不明	ひん岩A	B7	IIIE,9D	8L	弥生時代II期	93.04.05
	長さ＊ 20.72 cm 幅＊ 6.29 cm 厚さ 4.35 cm 重さ g	備考 #0150134と接合					
0150050	石鏃丁（内湾刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩C	B4	IIIE,12A	8L	弥生時代II期	93.03.09
	長さ＊ 15.95 cm 幅 4.30 cm 厚さ 0.88 cm 重さ 75.8 g	備考					
0150051	石鏃丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	A	IIID,11G	8L	弥生時代II期	92.10.16
	長さ 12.93 cm 幅 5.20 cm 厚さ 0.90 cm 重さ 68.4 g	備考					
0150053	石鏃丁（直線刃半月形態）	流紋岩	B5	IIID,13R	8L	弥生時代II期	93.03.08
	長さ＊ 8.34 cm 幅＊ 3.80 cm 厚さ 0.95 cm 重さ 35.6 g	備考					
0150054	石鏃丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	A	IIID,11F	8L	弥生時代II期	92.10.16
	長さ＊ 10.53 cm 幅＊ 4.73 cm 厚さ 0.58 cm 重さ 47.9 g	備考					
0150055	石鏃丁	ホルンフェルス	B4	IIIE,12B	8L	弥生時代II期	93.03.06
	長さ＊ 6.70 cm 幅＊ 4.65 cm 厚さ 0.73 cm 重さ 39.7 g	備考					
0150056	不明（磨製石斧の破片？）	泥質片岩B	A	IIID,12H,NE	貝層-2下部	縄文晩期前幡式期～長原式	92.11.25
	長さ 4.40 cm 幅＊ 8.03 cm 厚さ 1.46 cm 重さ 58.6 g	備考					
0150057	石鏃丁	泥質片岩A	A	IIID,12H	9U	弥生時代II期	92.10.29
	長さ＊ 6.35 cm 幅＊ 4.06 cm 厚さ 1.23 cm 重さ 30.7 g	備考					
0150058	石鏃丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩C	A	IIID,13J	トレンチ内貝層	縄文晩期前幡式期～弥生II	92.10.02
	長さ 16.00 cm 幅 4.20 cm 厚さ 0.72 cm 重さ 82.0 g	備考					
0150059	石鏃丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩F	B3		不明	不明	93.01.13
	長さ 9.48 cm 幅＊ 5.95 cm 厚さ 0.57 cm 重さ 51.4 g	備考					
0150060	太型蛤刃石斧	ひん岩B	B		不明	不明	92.09.28
	長さ＊ 3.80 cm 幅＊ 4.01 cm 厚さ＊ 1.15 cm 重さ 13.8 g	備考 剥離片					
0150061	不明	泥岩			不明	不明	92.09.30
	長さ＊ 4.00 cm 幅＊ 5.78 cm 厚さ 0.70 cm 重さ 18.4 g	備考					
0150062	石鏃丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D			不明	不明	不明	
	長さ 5.60 cm 幅＊ 4.10 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 18.4 g	備考					
0150063	紡石	ホルンフェルス	B		不明	不明	不明	
	長さ 16.90 cm 幅 4.38 cm 厚さ 2.75 cm 重さ 265.5 g	備考					
0150066	石鏃丁	玄武岩質凝灰岩質片岩H	B5	IIID,11R	8M	弥生時代II期	93.02.19
	長さ＊ 8.19 cm 幅＊ 3.92 cm 厚さ＊ 0.66 cm 重さ 30.1 g	備考					
0150067	不明	玄武岩質凝灰岩質片岩E	A	IIID,11F	8M	弥生時代II期	92.09.25
	長さ＊ 3.70 cm 幅＊ 4.50 cm 厚さ 0.52 cm 重さ 12.6 g	備考					
0150068	石鏃丁	玄武岩質凝灰岩質片岩A	A	IIID,12J	8M	弥生時代II期	92.09.16
	長さ＊ 4.54 cm 幅＊ 3.67 cm 厚さ 0.65 cm 重さ 13.7 g	備考					
0150069	石鏃丁	玄武岩質凝灰岩質片岩H	A	IIID,12J	8M	弥生時代II期	92.09.18
	長さ＊ 3.97 cm 幅＊ 2.73 cm 厚さ 0.29 cm 重さ 4.6 g	備考					
0150070	石鏃丁	玄武岩質凝灰岩質片岩E	B	IIID,14N	8M-2	弥生時代II期	93.06.03
	長さ＊ 6.70 cm 幅＊ 6.36 cm 厚さ 0.50 cm 重さ 25.8 g	備考					
0150071	石鏃丁（内湾刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩E	A	IIID,10D	8M-1	弥生時代II期	93.01.06
	長さ＊ 14.05 cm 幅 4.80 cm 厚さ 0.72 cm 重さ 72.7 g	備考					
0150074	石鏃丁（内湾刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	A	IIID,11L	8M	弥生時代II期	92.09.11
	長さ 13.00 cm 幅＊ 4.20 cm 厚さ 0.76 cm 重さ 60.5 g	備考					
0150075	石鏃丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	A	IIID,12H	8M	弥生時代II期	92.09.17
	長さ＊ 14.10 cm 幅＊ 3.80 cm 厚さ 0.66 cm 重さ 55.7 g	備考					
0150076	太型蛤刃石斧	玄武岩A	B	IIID,8J	8M-2	弥生時代II期	93.04.02
	長さ 8.20 cm 幅 6.65 cm 厚さ 4.18 cm 重さ 397.5 g	備考					
0150077	不明	玄武岩質凝灰岩C	B	IIIE,7D	8M	弥生時代II期	93.03.16
	長さ＊ 5.79 cm 幅＊ 8.58 cm 厚さ 0.90 cm 重さ 63.1 g	備考					
0150079	石鏃丁	玄武岩質凝灰岩D	B8	IIID,11O	SD-87	弥生時代	93.05.13
	長さ＊ 9.70 cm 幅＊ 7.60 cm 厚さ 0.87 cm 重さ 64.8 g	備考 未製品					

table.4-2 磨製石器一覧

ID	型式・形態	材質	地区	区画	層位/遺構	時期	日付
0150080	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩E	B5	IIID,12Q	8M	弥生時代II期	93.02.23
	長さ 11.72 cm 幅 3.55 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 39.9 g	備考					
0150081	太型蛤刃石斧	玄武岩質凝灰岩B	B5	IIID,12T	8M	弥生時代II期	93.02.22
	長さ 14.59 cm 幅 6.71 cm 厚さ 3.65 cm 重さ 468.1 g	備考					
0150082	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩E	A	IIID,11J	8M	弥生時代II期	92.09.16
	長さ 7.70 cm 幅＊ 6.37 cm 厚さ 0.84 cm 重さ 54.5 g	備考					
0150083	柱状両刃石斧	玄武岩質凝灰岩A	A	IIID,11I	8M	弥生時代II期	92.09.18
	長さ 13.00 cm 幅 4.20 cm 厚さ 2.90 cm 重さ 265.0 g	備考 太型蛤刃石斧からの転用					
0150084	不明	泥質片岩C	A	IIID,12J	8M	弥生時代II期	92.09.22
	長さ＊ 5.67 cm 幅＊ 5.73 cm 厚さ 0.93 cm 重さ 32.4 g	備考					
0150085	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	A	IIID,12J	8M	弥生時代II期	92.09.16
	長さ＊ 6.90 cm 幅＊ 6.10 cm 厚さ 0.80 cm 重さ 42.5 g	備考					
0150086	不明	頁岩	A	IIID,12J	8M	弥生時代II期	92.09.18
	長さ＊ 8.48 cm 幅＊ 5.90 cm 厚さ 0.77 cm 重さ 49.5 g	備考					
0150087	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩H	B1	IIID,8E	8M	弥生時代II期	92.10.19
	長さ＊ 4.94 cm 幅＊ 3.92 cm 厚さ 0.53 cm 重さ 12.5 g	備考					
0150088	石庖丁	泥質片岩A	B1	IIID,8E	8M	弥生時代II期	92.10.19
	長さ＊ 6.92 cm 幅＊ 3.10 cm 厚さ 0.50 cm 重さ 11.6 g	備考					
0150089	不明	玄武岩質凝灰岩E	B2	IIID	8M-2	弥生時代II期	93.02.16
	長さ＊ 3.30 cm 幅＊ 4.80 cm 厚さ 0.63 cm 重さ 16.7 g	備考 石庖丁からの転用					
0150090	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩A	B	IIIE,11A	8M	弥生時代II期	93.02.25
	長さ＊ 5.10 cm 幅＊ 5.70 cm 厚さ 0.74 cm 重さ 25.1 g	備考					
0150091	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩A	A	IIID,12G	8M	弥生時代II期	92.09.17
	長さ＊ 6.66 cm 幅＊ 10.19 cm 厚さ 0.72 cm 重さ 79.3 g	備考					
0150092	石戈	輝石安山岩A	A	IIID,11G	8M	弥生時代II期	92.09.17
	長さ 19.70 cm 幅 5.69 cm 厚さ 2.29 cm 重さ 293.3 g	備考					
0150093	石庖丁（外湾刃含仁様形態）	泥岩	A	IIID,12I,SE	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.26
	長さ 11.80 cm 幅 5.00 cm 厚さ 0.78 cm 重さ 62.3 g	備考					
0150094	石庖丁（外湾刃形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩H	A	IIID,11H,NW	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.19
	長さ 16.90 cm 幅 5.04 cm 厚さ 0.76 cm 重さ 91.1 g	備考					
0150095	石庖丁（外湾刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩E	A	IIID,12I,NW	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.21
	長さ 14.70 cm 幅 4.75 cm 厚さ 0.83 cm 重さ 92.7 g	備考					
0150096	敲磨石	玄武岩質火山礫凝灰岩	A	IIID,12K,NE	貝層-2上部	弥生時代II期	92.11.17
	長さ 5.63 cm 幅＊ 8.01 cm 厚さ 3.72 cm 重さ 207.4 g	備考					
0150097	不明	砂岩A	A	IIID,12K,NE	貝層-2上部	弥生時代II期	92.11.17
	長さ 6.30 cm 幅 6.15 cm 厚さ 8.20 cm 重さ 608.1 g	備考 スス付着					
0150098	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩A	A	IIID,11I,NW	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.22
	長さ 7.73 cm 幅＊ 4.40 cm 厚さ 0.65 cm 重さ 34.6 g	備考					
0150099	石庖丁（外湾刃形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩A	A	IIID,12K,NW	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.22
	長さ 7.43 cm 幅＊ 5.30 cm 厚さ 0.63 cm 重さ 67.2 g	備考					
0150100	不明	ホルンフェルス	A	IIID,11H,SW	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.21
	長さ 5.55 cm 幅＊ 4.66 cm 厚さ 0.64 cm 重さ 25.1 g	備考					
0150101	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩G	A	IIID,13K, SE	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.17
	長さ＊ 3.55 cm 幅＊ 3.00 cm 厚さ 0.40 cm 重さ 5.7 g	備考					
0150102	柱状片刃石斧（石製）	頁岩	A	IIID,11H, NW	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.20
	長さ 5.07 cm 幅 1.08 cm 厚さ 0.99 cm 重さ 11.9 g	備考					
0150103	砥石	ホルンフェルス	B	IIID,10O	8	弥生IV期～布留式期	93.04.13
	長さ 5.90 cm 幅 6.20 cm 厚さ 2.75 cm 重さ 115.9 g	備考					
0150104	石庖丁	泥質片岩A	B6		8	弥生IV期～布留式期	93.03.04
	長さ 4.38 cm 幅＊ 3.24 cm 厚さ 0.53 cm 重さ 11.9 g	備考					
0150105	石庖丁	泥質片岩A	B7		8	弥生IV期～布留式期	92.12.11
	長さ＊ 10.35 cm 幅＊ 5.20 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 56.9 g	備考					
0150106	石庖丁	泥質片岩C	B	IIIE,9B	SK-51	弥生時代II～IV期	93.03.12
	長さ＊ 8.07 cm 幅＊ 4.63 cm 厚さ 0.53 cm 重さ 35.8 g	備考 未製品					
0150107	不明（石庖丁の破片？）	玄武岩質凝灰岩質片岩G	A		SX-1	14C	92.08.26
	長さ＊ 3.52 cm 幅＊ 2.45 cm 厚さ 0.74 cm 重さ 7.2 g	備考					
0150108	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	B	IIIE,5F	SK-55	弥生時代	93.03.17
	長さ＊ 7.80 cm 幅＊ 4.80 cm 厚さ 0.58 cm 重さ 28.4 g	備考					
0150109	石庖丁	泥質片岩A	B	IIID,4S	SX-14	弥生時代II期	93.01.30
	長さ 16.60 cm 幅 4.80 cm 厚さ 1.30 cm 重さ 156.9 g	備考 未製品					
0150111	不明	泥質片岩A	B7	IIID,9Q	SX-17	弥生時代II期	93.03.09
	長さ＊ 1.90 cm 幅＊ 2.60 cm 厚さ＊ 0.30 cm 重さ 1.5 g	備考					
0150112	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩C	B7	IIID,7Q	8	弥生IV期～布留式期	93.03.10
	長さ 10.10 cm 幅＊ 4.30 cm 厚さ 0.73 cm 重さ 47.2 g	備考					
0150113	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩F	B7	IIIE,8C	SK-49	弥生時代II～IV期	93.03.12
	長さ＊ 9.90 cm 幅＊ 3.70 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 37.3 g	備考 穿孔４つあり					
0150114	石庖丁（不明）	玄武岩質凝灰岩質片岩E	B7	IIID,10S	SD-47	中世	93.02.26
	長さ 8.48 cm 幅 4.17 cm 厚さ 0.77 cm 重さ 43.6 g	備考					

table.4-3 磨製石器一覧

ID	型式・形態	材質	地区	区画	層位/遺構	時期	日付
0150115	石庖丁	泥質片岩A	B7	IIID,9Q	SX-17	弥生時代II期	93.03.09
	長さ＊ 5.40 cm 幅＊ 3.50 cm 厚さ 0.37 cm 重さ 5.2 g	備考					
0150116	石庖丁	泥質片岩A	B7	IIID,9Q	SX-17	弥生時代II期	93.03.09
	長さ＊ 2.58 cm 幅＊ 1.95 cm 厚さ 0.33 cm 重さ 2.1 g	備考					
0150117	石庖丁（直線刃半月形態）	泥質片岩A	B	IIIE,5F	SK-55	弥生時代	93.03.17
	長さ＊ 4.07 cm 幅＊ 4.50 cm 厚さ 0.63 cm 重さ 13.5 g	備考					
0150118	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩D	B	IIIE,5C	SD-71	弥生時代II期	93.03.15
	長さ 5.80 cm 幅＊ 4.36 cm 厚さ 0.63 cm 重さ 23.8 g	備考					
0150119	石庖丁（直線刃半月形態）		B	IIID,10O	SK-67	弥生時代	93.05.14
	長さ 6.80 cm 幅＊ 5.05 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 31.4 g	備考					
0150120	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩G	B	IIID,10P	SK-58	弥生時代II～IV期	93.03.19
	長さ 9.44 cm 幅＊ 3.60 cm 厚さ 0.65 cm 重さ 35.7 g	備考					
0150121	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩H	B7	IIID,9U	SD-55	14～15C	93.02.26
	長さ＊ 4.00 cm 幅＊ 4.52 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 15.5 g	備考					
0150122	不明	砂岩A	B5	IIID,13U	SX-3下部	14C後半	93.01.28
	長さ 8.90 cm 幅 7.34 cm 厚さ 7.40 cm 重さ 720.0 g	備考					
0150123	太型蛤刃石斧	玄武岩D	B	IIID,8S	SD-72	弥生時代II期	93.03.31
	長さ 14.30 cm 幅 5.96 cm 厚さ 4.20 cm 重さ 441.0 g	備考					
0150124	不明	ひん岩A	B	IIID,7T	SD-72	弥生時代II期	93.03.30
	長さ 18.00 cm 幅 9.30 cm 厚さ 7.30 cm 重さ1373.0 g	備考					
0150125	太型蛤刃石斧の破片	玄武岩C	A	IIID,12G	攪	弥生時代II期	92.10.21
	長さ＊ 6.59 cm 幅＊ 4.20 cm 厚さ＊ 1.85 cm 重さ 66.5 g	備考					
0150126	不明	玄武岩質凝灰岩質片岩E	A	IIID,12G	攪	弥生時代II期	92.10.21
	長さ＊ 5.88 cm 幅＊ 5.57 cm 厚さ＊ 0.66 cm 重さ 23.5 g	備考					
0150127	偏平片刃石斧	蛇紋岩	B	IIID,9R	8U	弥生IV期～布留式期	93.03.08
	長さ 5.73 cm 幅 3.13 cm 厚さ 1.18 cm 重さ 32.9 g	備考					
0150128	不明	砂岩B	B	IIID,9S	SD-72	弥生時代II期	93.03.31
	長さ 11.60 cm 幅 5.25 cm 厚さ 3.59 cm 重さ 303.8 g	備考					
0150129	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩G	B6		8U	弥生IV期～布留式期	92.12.02
	長さ＊ 7.45 cm 幅＊ 3.59 cm 厚さ 0.38 cm 重さ 22.5 g	備考					
0150130	石庖丁（直線刃形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩A	B6		8U	弥生IV期～布留式期	92.12.03
	長さ＊ 7.10 cm 幅＊ 3.47 cm 厚さ 0.59 cm 重さ 18.0 g	備考					
0150131	不明	砂岩B	B	IIIE,7D	SD-71	弥生時代II期	93.03.22
	長さ 9.30 cm 幅 9.93 cm 厚さ 2.76 cm 重さ 414.1 g	備考					
0150132	不明	玄武岩B	B	IIID,9S	SD-72	弥生時代II期	93.03.31
	長さ 12.40 cm 幅 10.60 cm 厚さ 1.80 cm 重さ 615.6 g	備考					
0150133	不明	玄武岩C	B1	IIID,8E	8U	弥生IV期～布留式期	92.10.17
	長さ 12.90 cm 幅 5.20 cm 厚さ 1.80 cm 重さ 136.1 g	備考					
0150135	不明	砂岩A	A	IIID,11F	攪	弥生時代II期	92.10.20
	長さ 7.09 cm 幅 7.52 cm 厚さ 7.80 cm 重さ 545.8 g	備考					
0150136	多頭石斧？	玄武岩質凝灰岩D	B5	IIID,12R	8U	弥生IV期～布留式期	93.02.05
	長さ 10.00 cm 幅 6.90 cm 厚さ 1.00 cm 重さ 113.9 g	備考					
0150137	不明	泥質片岩A	A	IIID,13E	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.29
	長さ＊ 6.40 cm 幅＊ 5.48 cm 厚さ 0.31 cm 重さ 16.1 g	備考					
0150138	不明	玄武岩質凝灰岩質片岩H	B	IIID,6O	8M-2	弥生時代II期	93.04.09
	長さ 4.20 cm 幅 5.15 cm 厚さ 0.43 cm 重さ 14.7 g	備考					
0150139	不明	砂岩A	B	IIIE,9B	SK-51	弥生時代II～IV期	93.03.22
	長さ 5.57 cm 幅 15.30 cm 厚さ 5.40 cm 重さ 750.8 g	備考					
0150140	不明	砂岩C	A	IIID,11F	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.22
	長さ＊ 2.95 cm 幅 3.90 cm 厚さ 3.00 cm 重さ 32.9 g	備考					
0150141	不明	砂岩A	B	T2-1	攪	弥生時代II期	92.07.14
	長さ 5.39 cm 幅 9.70 cm 厚さ 7.43 cm 重さ 666.5 g	備考					
0150142	不明	玄武岩質凝灰岩質片岩F	B5	IIID,13T	攪	弥生時代II期	93.03.06
	長さ＊ 4.46 cm 幅＊ 6.62 cm 厚さ＊ 0.34 cm 重さ 13.8 g	備考					
0150143	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩H		不明	不明	不明	
	長さ＊ 4.77 cm 幅＊ 4.18 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 17.2 g	備考					
0150144	片刃石斧	玄武岩質凝灰岩質片岩G	A	IIID,13E	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.08
	長さ 3.56 cm 幅 0.96 cm 厚さ 0.38 cm 重さ 1.6 g	備考					
0150145	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩C	A	IIID,12L	8M	弥生時代II期	92.09.18
	長さ 7.11 cm 幅 4.34 cm 厚さ 0.73 cm 重さ 32.5 g	備考					
0150146	石庖丁（直線刃半月形態）	玄武岩質凝灰岩質片岩E	A	IIID,12I,NE	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.17
	長さ 4.43 cm 幅＊ 4.43 cm 厚さ 0.67 cm 重さ 23.2 g	備考					
0150147	石庖丁	玄武岩質凝灰岩質片岩E	A	IIID,13K	8M	弥生時代II期	92.09.22
	長さ＊ 8.75 cm 幅＊ 4.85 cm 厚さ 0.67 cm 重さ 43.2 g	備考					
0150148	石庖丁（直線刃半月形態）		B	IIID,10E	8U	弥生IV期～布留式期	93.05.07
	長さ 7.50 cm 幅＊ 4.13 cm 厚さ 0.75 cm 重さ 27.4 g	備考					
0150149	石庖丁（直線刃半月形態）		A	IIID,11I,NW	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.19
	長さ 8.95 cm 幅 3.43 cm 厚さ 0.92 cm 重さ 35.0 g	備考					

table.4-4 磨製石器一覧

ID	型式・形態	材質	地区	区画	層位/遺構	時期	日付
0150150	石鏃丁（内湾刃形態）		A	IIID,12J	RM	弥生時代II期	92.09.16
	長さ＊ 5.25 cm 幅＊ 5.70 cm 厚さ 0.71 cm 重さ 22.7 g	備考					
0150151	不明		A	IIID,12F	RU	弥生IV期～布留式期	92.09.19
	長さ＊ 1.88 cm 幅＊ 1.97 cm 厚さ 0.23 cm 重さ 1.1 g	備考					
0150152	石鏃丁		A	IIID,13G	RU	弥生IV期～布留式期	92.08.29
	長さ＊ 2.92 cm 幅＊ 3.88 cm 厚さ 0.60 cm 重さ 9.4 g	備考					
0150153	石鏃丁		B5	IIID,12R	RM	弥生時代II期	93.02.15
	長さ＊ 9.20 cm 幅＊ 6.60 cm 厚さ 1.02 cm 重さ 75.8 g	備考 未製品					

table.4-5 磨製石器一覧

V. 骨角器

刺突具

刺突具のうち大半はシカの中手骨および中足骨を加工して作ったもので、漁撈・狩猟に用いたヤス状の刺突具である。器体はまっすぐで、一端もしくは両端を尖らせており、器体が湾曲するものや逆刺をもつものはない。器長の長短や断面形状には多様性がある。8U層（弥生IV期～布留式期）からの出土遺物が含まれるが、古墳時代までにはすでにヤスが鉄器化していることから、おそらく8U層から出土した刺突具は弥生時代中期末に並行するものだろう。比較的器長が短い040005・0400031・0400045は、基部が削り出されており、鏃として用いられた可能性がある。0400019は両端が欠損しているものの、器径が短くなるように加工されており、縫い針として用いられたのかもしれない。東大阪市鬼虎川遺跡で出土例がある（東大阪市立郷土博物館1983）。0400023は先端部は鋭利であるが、断面形が扁平で、箆として用いられた可能性がある。0400052はエイの尾棘を加工した刺突具である。両端が欠損しているが、基部には削り出された痕跡がある[1]。用途は不明。愛知県貝殻山遺跡（愛知県教育委員会1972）、神奈川県間口遺跡（神沢勇一1973）で出土例がある。

垂飾

イノシシの犬歯に1孔の穿孔をもつもの（0400002・0400028・0400038・0400040・0400047）と、貝殻に1孔以上の穿孔をもつもの（0400027・0400041・0400049・0400050）を垂飾として分類した。前者には犬歯の中央部に穿孔を施したものと、端部に施したものとがある。後者には本調査で検出した貝塚からはあまり出土しなかった種類の貝が用いられている。

腕輪

0400007・0400008両者ともにイノシシの犬歯を用いたもの。両端に穿孔をもつ。一対で出土したため、もともと紐で結ばれ、腕輪として用いられていたことがわかる(fig.99)。

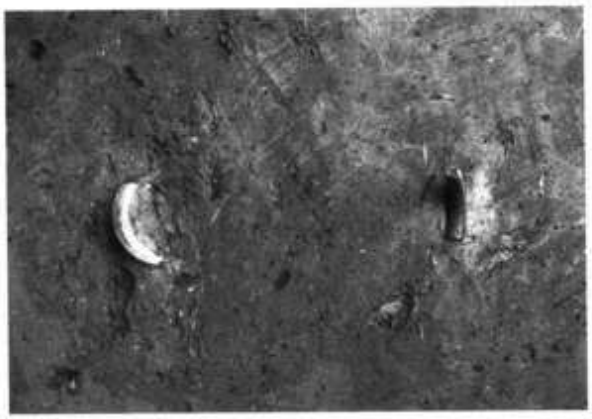


fig.98　腕輪出土状況

その他

0400012は哺乳類の犬歯を加工したものと思われる。犬歯のエナメル質部分を杏仁形に加工し、その両縁辺に刻み目を作り出している。用途は不明。

刺突具のうち多くは貝塚の形成が終了した弥生時代中期初頭以降の層準から出土したもので、貝塚内から出土した動物を捕獲する目的で用いたものではない。本遺跡より約5km北西方、上町台地東縁に立地する森の宮遺跡の貝塚からは、刺突具や釣り針など動物の捕獲、とくに魚類

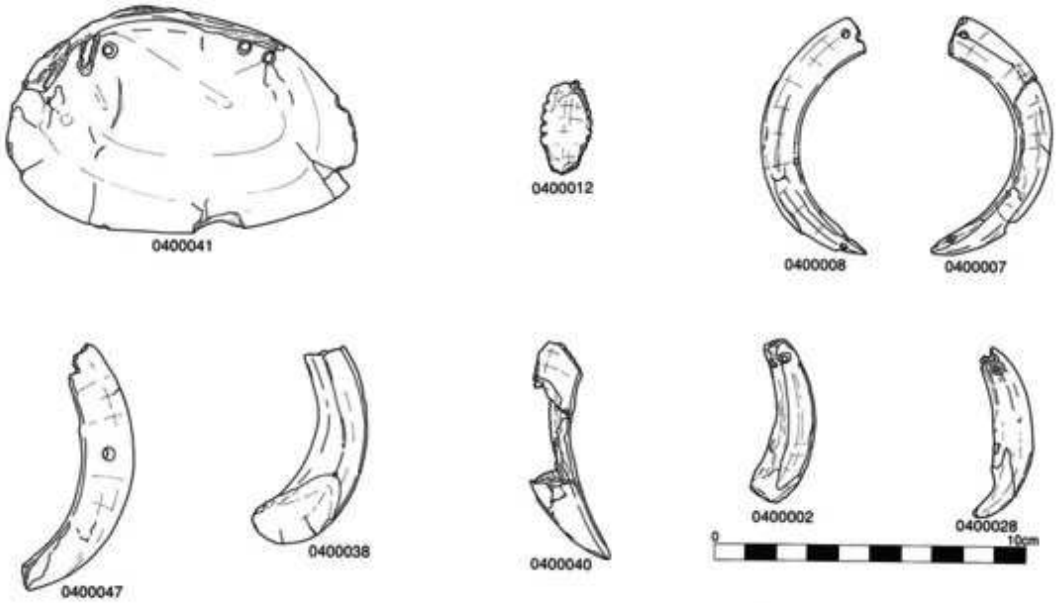


fig.100　骨角器実測図

の捕獲に使う骨角器が多数検出されたが（松尾信裕1978）、宮ノ下遺跡の貝塚からは両端が欠損した刺突具が4点出土しただけで、釣り針は1点も出土しなかった。

（別所秀高）

【注釈】

1)魚類遺体整理中に、（財）大阪市文化財協会の久保和士氏によって検出されたものである。この時点ではすでに骨角製品についての原稿作成を終えていたため、写真掲載を割愛した。後日詳細を報告する。

【文献】

愛知県教育委員会（1972）「貝殻山貝塚調査報告」

神沢勇一（1973）間口洞窟遺跡，「神奈川県立博物館発掘調査報告書」第7・8号

東大阪市立郷土博物館（1983）「鬼虎川遺跡出土遺物にみる弥生人のくらし」

松尾信裕（1978）骨角器および装身具，「森の宮遺跡第3・4次発掘調査報告書」．難波宮址顕彰会，P95-97

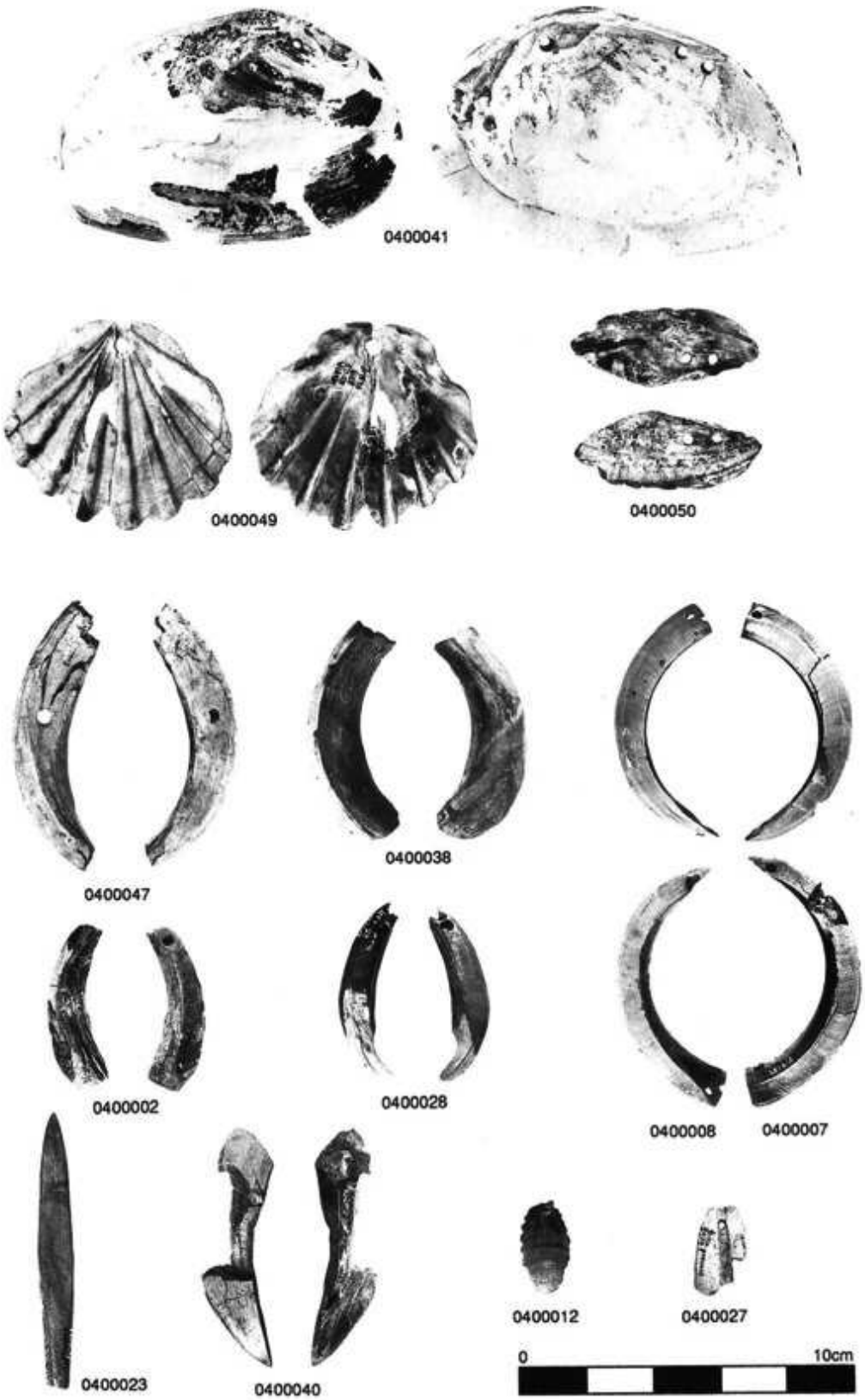

0400041
0400049
0400050
0400047
0400038
0400002
0400028
0400008
0400007
0400012
0400027
0400023
0400040
0
10cm

fig.101 骨角器

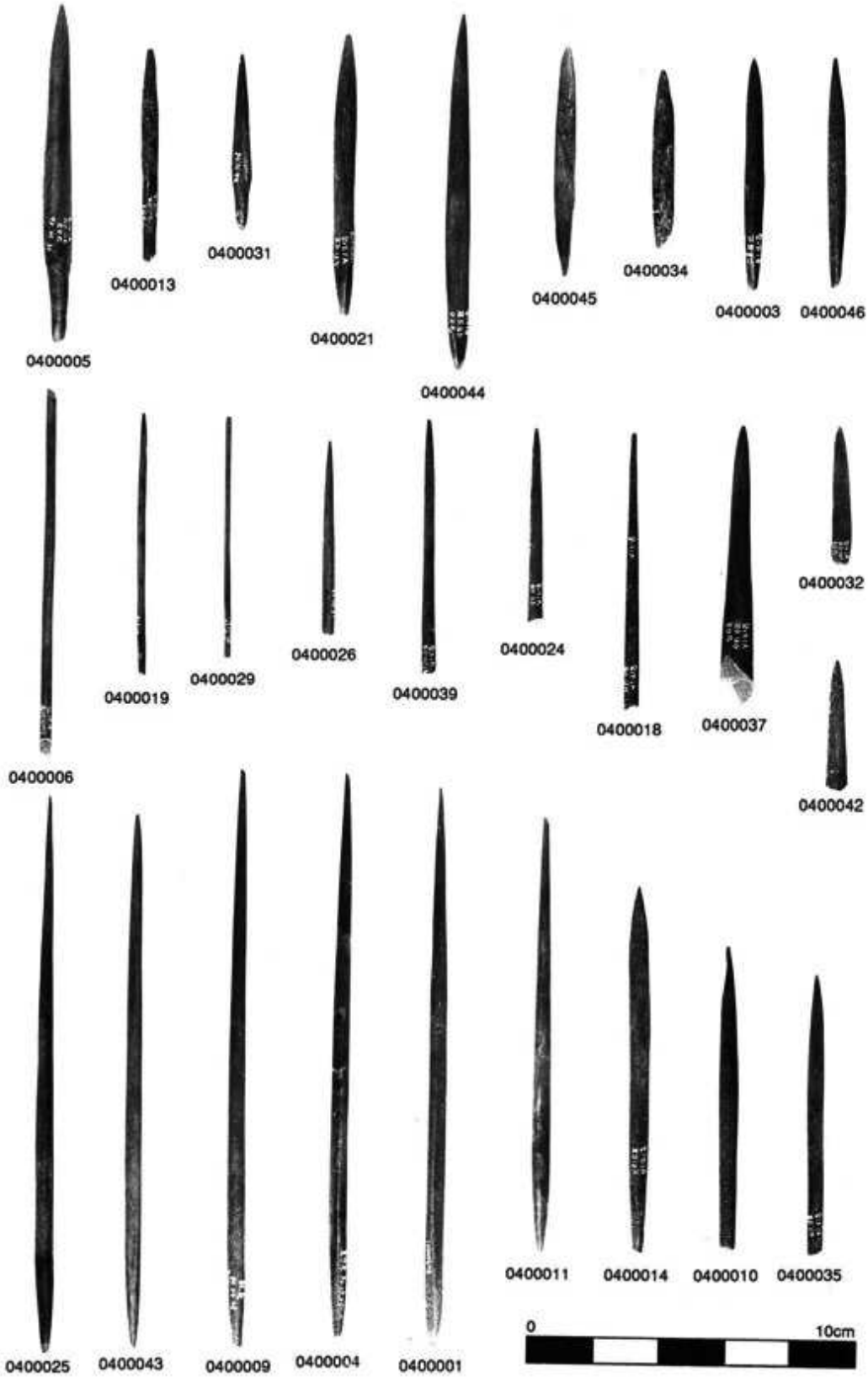

0400005
0400013
0400031
0400021
0400044
0400045
0400034
0400003
0400046
0400006
0400019
0400029
0400026
0400039
0400024
0400018
0400037
0400032
0400042
0400025
0400043
0400009
0400004
0400001
0400011
0400014
0400010
0400035
0
10cm

fig.102 骨角器

ID	用途・形態	使用動物	部位	地区	区画	層位/遺構	時期	日付
0400001	刺突具	シカ	中足骨	A	IIID,10R	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.05
	長さ 17.02 cm 幅 0.635 cm 厚さ 0.48 cm 備考							
0400002	垂飾	イノシシ・メス	犬歯	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.31
	長さ 5.17 cm 幅 1.34 cm 厚さ 0.88 cm 備考 穿孔1ケ所							
0400003	刺突具	シカ	中足骨	B	IIIE,8D	9U	弥生時代II期	93.04.06
	長さ 7.41 cm 幅 0.65 cm 厚さ 0.55 cm 備考							
0400004	刺突具	シカ	中足骨	B8	IIID,10F	8U	弥生IV期～布留式期	93.05.07
	長さ 17.25 cm 幅 0.66 cm 厚さ 0.59 cm 備考							
0400005	刺突具	不明	不明	B	IIID,11E	8U	弥生IV期～布留式期	93.04.30
	長さ 10.49 cm 幅 0.98 cm 厚さ 0.73 cm 備考							
0400006	刺突具	不明	不明	A	IIID,11F	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.18
	長さ＊ 11.54 cm 幅 0.43 cm 厚さ 0.44 cm 備考							
0400007	腕輪	イノシシ・オス	犬歯	B5	IIID,13Q	8L	弥生時代II期	93.03.09
	長さ 8.0 cm 幅 1.61 cm 厚さ 0.87 cm 備考 穿孔2ケ所							
0400008	腕輪	イノシシ・オス	犬歯	B5	IIID,13Q	8L	弥生時代II期	93.03.09
	長さ 7.9 cm 幅 1.64 cm 厚さ 0.87 cm 備考 穿孔3ケ所							
0400009	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	B5	IIID,12S	8L	弥生時代II期	93.03.08
	長さ 17.59 cm 幅 0.61 cm 厚さ 0.55 cm 備考							
0400010	刺突具	不明	不明	A	IIID,11G	8M	弥生時代II期	92.09.25
	長さ＊ 9.53 cm 幅 0.62 cm 厚さ 0.6 cm 備考							
0400011	刺突具	シカ	中足骨	A	IIID,13L	8M	弥生時代II期	92.09.22
	長さ 13.51 cm 幅 0.63 cm 厚さ 0.5 cm 備考							
0400012	不明	不明	不明	B7	IIIE,8E	8L	弥生時代II期	93.04.09
	長さ 2.94 cm 幅 1.6 cm 厚さ 2.35 cm 備考 縁辺に刻み目							
0400013	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,11E	8U	弥生IV期～布留式期	92.12.21
	長さ＊ 6.76 cm 幅 0.61 cm 厚さ 0.44 cm 備考							
0400014	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,12F	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.24
	長さ 11.43 cm 幅 0.66 cm 厚さ 0.45 cm 備考							
0400015	不明	不明	不明	B5	IIID,14R	8L	弥生時代II期	93.02.04
	長さ 17.96 cm 幅 0.62 cm 厚さ 0.36 cm 備考							
0400017	刺突具	不明	不明	A	IIID,7E	8U	弥生IV期～布留式期	92.11.04
	長さ＊ 11.88 cm 幅 0.76 cm 厚さ 0.56 cm 備考							
0400018	刺突具	不明	不明	A	IIID,12M	8M	弥生時代II期	92.09.17
	長さ＊ 8.41 cm 幅 0.54 cm 厚さ 0.46 cm 備考							
0400019	刺突具	不明	不明	A	IIID,12H,SW	貝層-2下部	縄文晩期前横式期～長原式期	92.11.26
	長さ＊ 8.24 cm 幅 0.35 cm 厚さ 0.26 cm 備考							
0400020	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.24
	長さ 5.79 cm 幅 0.74 cm 厚さ 0.45 cm 備考							
0400021	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.25
	長さ 8.97 cm 幅 0.72 cm 厚さ 0.55 cm 備考							
0400022	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,11E	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.19
	長さ＊ 6.62 cm 幅 0.74 cm 厚さ 0.48 cm 備考							
0400023	刺突具	不明	不明	B1	IIID,9D	8U	弥生IV期～布留式期	92.11.13
	長さ 8.43 cm 幅 1.15 cm 厚さ 0.69 cm 備考							
0400024	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,11F	8M	弥生時代II期	92.09.22
	長さ＊ 6.26 cm 幅 0.51 cm 厚さ 0.4 cm 備考							
0400025	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,11F	8M	弥生時代II期	92.09.22
	長さ 16.97 cm 幅 0.63 cm 厚さ 0.42 cm 備考							
0400026	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,13K	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.21
	長さ＊ 6.02 cm 幅 0.47 cm 厚さ 0.41 cm 備考							
0400027	垂飾	イタヤガイ	殻	A	IIID,11G	貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期	92.10.06
	長さ＊ 2.67 cm 幅＊ 1.57 cm 厚さ 0.37 cm 備考 穿孔1ケ所							
0400028	垂飾	イノシシ・メス	犬歯	A	IIID,11I,SW	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.20
	長さ 5.36 cm 幅 1.84 cm 厚さ 0.83 cm 備考 穿孔2ケ所							
0400029	刺突具	不明	不明	A	IIID,12J	貝層	縄文晩期前横式期～弥生II期	92.10.01
	長さ＊ 7.36 cm 幅 0.23 cm 厚さ 0.23 cm 備考							
0400030	刺突具	不明	不明	A	IIID,12I,NW	貝層-2下部	縄文晩期前横式期～長原式期	92.11.26
	長さ＊ 5.33 cm 幅 0.75 cm 厚さ 0.5 cm 備考							
0400031	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,13H	8U	弥生IV期～布留式期	92.11.06
	長さ 5.58 cm 幅 0.695 cm 厚さ 0.41 cm 備考							
0400032	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,14H	8U	弥生IV期～布留式期	93.01.12
	長さ＊ 4.4 cm 幅 0.7 cm 厚さ 0.44 cm 備考							
0400034	刺突具	不明	不明	A	IIID,13H	8U	弥生IV期～布留式期	92.07.25
	長さ＊ 5.6 cm 幅 0.72 cm 厚さ 0.60 cm 備考							
0400035	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,11F	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.30
	長さ＊ 8.8 cm 幅 0.56 cm 厚さ 0.39 cm 備考							
0400036	刺突具	不明	不明	A	IIID,13I	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.31
	長さ＊ 3.94 cm 幅 0.64 cm 厚さ 0.485 cm 備考							

table.5-1 骨角器一覧

ID	用途・形態	使用動物	部位	地区	区画	層位/遺構	時期	日付
0400037	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,12G	8U	弥生IV期～布留式期	
	長さ 8.85 cm 幅 1.06 cm 厚さ 0.60 cm 備考							
0400038	垂飾	イノシシ・オス	犬歯	A	IIID,11J	8L	弥生時代II期	92.10.13
	長さ 6.62 cm 幅 2.19 cm 厚さ 1.77 cm 備考 穿孔2ケ所							
0400039	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,12I,SE	貝層-2上部	縄文晩期前橿式期～弥生II期	92.10.21
	長さ＊ 7.76 cm 幅 0.48 cm 厚さ 0.38 cm 備考							
0400040	垂飾	イノシシ・オス	犬歯	A	IIID,13G	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.29
	長さ＊ 7.25 cm 幅 1.61 cm 厚さ 1.11 cm 備考 穿孔1ケ所							
0400041	垂飾	イケチョウガイ	殻	A	IIID,11I,NW	貝層-2上部	弥生時代II期	92.10.22
	長さ 7.16 cm 幅 11.07 cm 厚さ 2.02 cm 備考 穿孔4ケ所							
0400042	刺突具	不明	不明	A	不明	不明	不明	
	長さ＊ 4.17 cm 幅 0.73 cm 厚さ 0.41 cm 備考							
0400043	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,13J	8M	弥生時代II期	92.09.22
	長さ 16.28 cm 幅 0.52 cm 厚さ 0.41 cm 備考							
0400044	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	B	IIIE,8D	9U	弥生時代II期	93.04.06
	長さ 11.05 cm 幅 0.81 cm 厚さ 0.67 cm 備考							
0400045	刺突具	不明	不明	A	IIID,11D	8M	弥生時代II期	92.09.17
	長さ 7.21 cm 幅 0.73 cm 厚さ 0.64 cm 備考							
0400046	刺突具	不明	不明	不明	不明	不明	不明	
	長さ 7.32 cm 幅 0.64 cm 厚さ 0.495 cm 備考							
0400047	垂飾	イノシシ・オス	犬歯	A	IIID,12H	8M	弥生時代II期	92.09.17
	長さ＊ 8.06 cm 幅 1.83 cm 厚さ 0.83 cm 備考 穿孔1ケ所							
0400048	刺突具	不明	不明	B4	IIIE,12A	8M	弥生時代II期	93.02.05
	長さ＊ 11.69 cm 幅 0.61 cm 厚さ 0.55 cm 備考							
0400049	垂飾	イタヤガイ	殻	A	不明	不明	不明	
	長さ 2.34 cm 幅 5.77 cm 厚さ 0.4 cm 備考 穿孔2ケ所							
0400050	垂飾	イタヤガイ	殻	A	不明	不明	不明	
	長さ 6.13 cm 幅 6.72 cm 厚さ 0.52 cm 備考 穿孔1ケ所							
0400051	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	撹	8M	弥生時代II期	92.10.17
	長さ 7.64 cm 幅 0.9 cm 厚さ 0.45 cm 備考							
0400052	刺突具	ユイ	尾鰭	A	IIID,11H	貝層-2	縄文晩期前橿式期～弥生II期	92.10.02
	長さ 5.5 cm 幅 0.97 cm 厚さ 0.24 cm 備考							
0400053	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,13I	8U	弥生IV期～布留式期	92.08.31
	長さ＊ 11.42 cm 幅 0.77 cm 厚さ 0.47 cm 備考							
0400054	刺突具	シカ	中手骨もしくは中足骨	A	IIID,11E	8U	弥生IV期～布留式期	92.09.18
	長さ 6.96 cm 幅 0.73 cm 厚さ 0.44 cm 備考							

table.5-2 骨角器一覧